苫小牧市

高丘８遺跡（1）

－苫小牧中央インター線（仮称）道路改良工事埋蔵文化財調査報告書－

令和元年度

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター

苫小牧市

高丘８遺跡（1）

－苫小牧中央インター線（仮称）道路改良工事埋蔵文化財調査報告書－

令和元年度

公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター

1 A地区 調査状況 NE→

2 B地区 調査状況(Tピット群) NE→

口絵2

1 盛土遺構M-1(B地区) N→

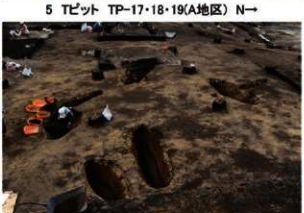
2 盛土遺構M-1遺物出土状況(B地区) E→

3 盛土遺構M-2(B地区) SW→

4 土坑 P-11(B地区) W→

5 Tピット TP-17・18・19(A地区) N→

6 Tピット TP-17(A地区) 断面上部 SW→



7 Tピット 調査状況(B地区) N→

8 焼土 F-1(A地区) S→

1 遺物集中C-3 石器集中(B地区) SW→

2 遺物集中C-6 石斧集中(B地区) SW→

3 溝状遺構D-1(A地区) SE→

4 P14区 土器一括出土状況(A地区) NW→

5 ⅢB層 S7区 柱穴状小ピット(A地区) W→

6 ⅢB層 CB-1 炭化物出土状況(B地区) S→

7 基本土層(A地区) N→

口絵4

1　特徴的な出土遺物

例　言

1　本書は苫小牧中央インター線（仮称）道路改良工事に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成30年度に実施した苫小牧市高丘８遺跡の埋蔵文化財調査報告書である。

2　調査及び報告書の作成は第１調査部第３調査課が担当した。

3　本書の作成にあたっては、遺構調査を皆川洋一、藤井浩、鈴木宏行、山中文雄が分担し、遺物整理を藤井が担当した。執筆は第Ⅳ、Ⅴ章の遺構の記載を各担当者（文末に記載）が行い、その他についての執筆と全体の編集は藤井が行った。

4　写真の撮影にあたっては、現地調査時は各担当調査員が行い、出土遺物の撮影及び写真図版の編集は第一調査部第一調査課　菊池慈人が行った。

5　各種分析・鑑定は下記に委託した。

放射性炭素年代（AMS測定）	（株）加速器分析研究所
動物遺存体同定	（株）パレオ・ラボ
炭化材の樹種同定	（株）古環境研究所
黒曜石製遺物の原材産地分析	（株）パリノ・サーヴェイ

6　調査報告終了後の出土資料は、苫小牧市教育委員会に移管される。

7　調査にあたっては下記の諸機関および人々のご協力をいただいた（順不同、敬称略）

文化庁、北海道教育委員会、北海道教育庁文化財・博物館課
北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部、同苫小牧出張所
東日本高速道路株式会社北海道支社、同苫小牧管理事務所
苫小牧市教育委員会、苫小牧市美術博物館、苫小牧市都市建設部緑地公園課
苫小牧市環境衛生部環境生活課
千歳市教育委員会、恵庭市教育委員会、恵庭市郷土資料館
北広島市教育委員会、北広島市エコミュージアムセンター
（以下、順不同）
岩波連、赤石慎三（苫小牧市教育委員会）
成田明義、佐田尚央、佐藤大介（苫小牧市都市建設部）
長町章弘、鈴木将太（恵庭市郷土資料館）
畠誠、平澤肇、若澤路子、古田くるみ、勝本麻里子（北広島市教育委員会）

記号等の説明

1　表記・記号・略号など

報告書名　公益財団法人北海道埋蔵文化財センター発掘調査報告書　：北埋調報・北埋
財団法人北海道埋蔵文化財センター発掘調査報告書　：北埋調報・北埋

遺構種別　盛土遺構：M、土坑：P、Tピット（trap pit）落とし穴：TP
柱穴状小ピット：SP、遺物集中：C、掘り上げ土：DU、炭化物集中：CB
※遺構名については上記種別略号毎に確認順に番号を付した。

層名及び火山灰名称　遺物包含層：包含層
樽前a降下軽石層：Ta-a　樽前b降下軽石層：Ta-b　有珠b降下軽石層：Us-b
樽前c降下軽石層：Ta-c　樽前d降下軽石・スコリア層：Ta-d
恵庭a降下軽石層：En-a　支笏火砕流堆積物・支笏軽石流堆積物：Spfl
第Ⅰ黒色土層：ⅠB層・ⅠB　第Ⅱ黒色土層：ⅡB層・ⅡB
第Ⅲ黒色土層：ⅢB層・ⅢB

時期名称　旧石器時代：旧石器　縄文時代草創期：縄文草創期・縄文（草）
縄文時代早期：縄文早期・縄文(早)　縄文時代前期：縄文前期・縄文(前)
縄文時代中期：縄文中期・縄文(中)　縄文時代後期：縄文後期・縄文(後)
縄文時代晩期：縄文晩期・縄文(晩)

土器分類名称　Ⅱ群a類(縄文前期前半)：Ⅱa類　Ⅱ群a-2類(静内中野式土器相当)：Ⅱa-2類
Ⅲ群b類(縄文中期後半)：Ⅲb類
グリッド名及び遺構名　グリッド　P10　遺構名　P-10（ex.土坑P-10）

2　遺構図・遺物実測図等表現

遺物凡例(シンボルマーク)　○：土器・土製品　△：石器(剥片石器)・石製品　□：礫または礫石器
石器実測図　たたき痕の範囲　V ―― V　すり痕の範囲　1 ―― 1　自然面はドットで表現
縮尺　遺構　1：40、遺構図一部拡大　出土状況図　1：20　復元土器　1：3
土器拓影　1：3　剥片石器　1：2　礫石器　1：3　その他大型の石器、礫　1：4
方位　真北：グリッド垂直方向に対して東偏17.8°
方位：記号、表記のないものは図の上を北とする。

標高　遺構平面図内及び土層断面図内に数字で標記した。単位m

3　慣例的表現など

遺構の規模・大きさ　確認面の長軸長×短軸長、底面の長軸長×短軸長、最大深（厚）
※単位はm、また欠失、不足がある場合（　）を使用

石器などの大きさ、計測値　最大長　×　最大幅　×　最大厚
※単位はcm、また欠損、不足がある場合（　）を使用

土色（標準土色帳に則った表現）　：色名　色相Hue　明度／彩度
例　：暗赤褐　10YR　3/1

目　　次

口絵
例言
記号等の説明
目次
挿図目次
表目次
写真図版目次

第Ⅰ章　調査の概要 …… 1
　1　調査要項 …… 1
　2　調査体制 …… 1
　3　調査に至る経緯 …… 1
　4　調査結果の概要 …… 4
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 5
　1　遺跡の位置 …… 5
　2　周辺の地形概要 …… 5
　3　周辺の遺跡分布と特徴 …… 5
　4　高丘地区の遺跡と立地 …… 10
第Ⅲ章　発掘調査及び整理の方法 …… 11
　1　発掘区の設定 …… 11
　2　発掘調査の方法 …… 11
　3　整理作業の方法 …… 13
　4　分類等の基準 …… 14
第Ⅳ章　A地区の遺構と遺物 …… 18
　1　概要 …… 18
　2　遺構 …… 18
　3　遺物 …… 72
第Ⅴ章　B地区の遺構と遺物 …… 79
　1　概要 …… 79
　2　遺構 …… 82
　3　遺物 …… 125
第Ⅵ章　分析の成果 …… 160
　1　試料採取と分析内容 …… 160
　2　高丘８遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）　㈱加速器分析研究所 …… 160
　3　苫小牧市高丘８遺跡における炭化樹種同定報告　㈱古環境研究所 …… 169
　4　高丘８遺跡の出土骨　㈱パリノ・サーヴェイ …… 172
　5　高丘８遺跡出土黒曜石製石器の産地推定　竹原弘展（パレオ・ラボ） …… 174

第Ⅶ章　まとめ ……177
1　調査成果概要 ……177
2　遺構について ……177
3　遺物について ……180
4　分析結果について ……183
註釈及び引用参考文献 ……184
(一覧表) ……186
写真図版 ……195
報告書抄録

挿図目次

図Ⅰ-1　遺跡の位置 …… 2
図Ⅰ-2　試掘調査と出土遺物 …… 3
図Ⅱ-1　周辺の遺跡分布と地形 …… 6
図Ⅲ-1　発掘区の設定 …… 12
図Ⅲ-2　基本土層 …… 15
図Ⅳ-1　A地区遺構位置図 …… 19
図Ⅳ-2　土層断面図(1) …… 20
図Ⅳ-3　土層断面図(2) …… 21
図Ⅳ-4　土層断面図(3) …… 22
図Ⅳ-5　土坑・Tピット(1)
P-1・2　TP-1 …… 24
図Ⅳ-6　Tピット(2)　TP-2・3 …… 26
図Ⅳ-7　Tピット(3)　TP-4・5 …… 28
図Ⅳ-8　Tピット(4)　TP-6・7 …… 29
図Ⅳ-9　Tピット(5)　TP-8・9 …… 31
図Ⅳ-10　Tピット(6)　TP-10・11 …… 33
図Ⅳ-11　Tピット(7)　TP-12・13・14 …… 35
図Ⅳ-12　Tピット(8)　TP-15・16・20 …… 37
図Ⅳ-13　Tピット(9)　TP-17 …… 38
図Ⅳ-14　Tピット(10)　TP-18・24・27 …… 40
図Ⅳ-15　Tピット(11)　TP-19・21 …… 41
図Ⅳ-16　Tピット(12)　TP-22・23 …… 43
図Ⅳ-17　Tピット(13)　TP-25 …… 45
図Ⅳ-18　Tピット(14)　TP-26 …… 47
図Ⅳ-19　Tピット(15)　TP-28
TP-25・26・28周辺掘り上げ土 …… 48
図Ⅳ-20　Tピット(16)・焼土(1)　TP-29　F-1
…… 50
図Ⅳ-21　焼土(2)・炭化物集中(1)　F-2・3・
4・5・6・7　CB-7 …… 52
図Ⅳ-22　溝状遺構・掘り上げ土(1)　D-1　DU-1
…… 54
図Ⅳ-23　掘り上げ土(2)　DU-2・3 …… 56
図Ⅳ-24　掘り上げ土(3)　DU-4・5・6 …… 57
図Ⅳ-25　掘り上げ土(4)　DU-7・8・9・10・11
…… 60
図Ⅳ-26　炭化物集中(2)・CB-1・2・3・4・
5・6・8　P14区一括土器出土状況…… 63
図Ⅳ-27　ⅢB層調査　土層断面図 …… 65
図Ⅳ-28　ⅢB層調査　柱穴状小ピット(1)
SP-1～17 …… 66
図Ⅳ-29　ⅢB層調査　柱穴状小ピット(2)
SP-18～32・47 …… 67
図Ⅳ-30　ⅢB層調査　柱穴状小ピット(3)
SP-33～46 …… 69
図Ⅳ-31　ⅢB層調査　柱穴状小ピット(4)
SP-48～71 …… 70
図Ⅳ-32　ⅢB層調査　柱穴状小ピット(5)
SP-72～93 …… 71
図Ⅳ-33　土器(1) …… 74
図Ⅳ-34　土器(2)石器(1) …… 75
図Ⅳ-35　石器(2) …… 76
図Ⅴ-1　B地区遺構位置図 …… 80
図Ⅴ-2　土層断面図 …… 81
図Ⅴ-3　盛土遺構(1)　M-1範囲及び遺物出土分布図
…… 83

図Ⅴ-4　盛土遺構（2）　M-1土層断面図 …… 84
図Ⅴ-5　盛土遺構（3）　M-2 …… 86
図Ⅴ-6　土坑（1）　P-1・2・3・4 …… 88
図Ⅴ-7　土坑（2）　P-5・6・7 …… 91
図Ⅴ-8　土坑（3）　P-8・9・10 …… 92
図Ⅴ-9　土坑（4）　P-11・12・13 …… 94
図Ⅴ-10　Tピット（1）　TP-1・2 …… 97
図Ⅴ-11　Tピット（2）　TP-3・4 …… 98
図Ⅴ-12　Tピット（3）　TP-5・8・9 ……101
図Ⅴ-13　Tピット（4）　TP-6・7 ……102
図Ⅴ-14　Tピット（5）　TP-10・11 ……104
図Ⅴ-15　Tピット（6）　TP-12・13 ……106
図Ⅴ-16　Tピット（7）　TP-14・15 ……109
図Ⅴ-17　Tピット（8）　TP-16・17 ……110
図Ⅴ-18　Tピット（9）　TP-18・19・20 ……111
図Ⅴ-19　Tピット（10）・焼土・遺物集中（1）・掘り上げ土（1）　TP-21　F-1　C-1　DU-6 ……114
図Ⅴ-20　遺物集中（2）　C-2・3・4・5・6 …116
図Ⅴ-21　掘り上げ土（1）　DU-1・2・3 ……119
図Ⅴ-22　掘り上げ土（2）・炭化物集中　DU-4・5　CB-1・2 ……120
図Ⅴ-23　ⅢB層調査　土層断面及び柱穴状小ピット（1）　SP-1・2・3・4・5 ……122
図Ⅴ-24　ⅢB層調査　柱穴状小ピット（2）・炭化物集中　SP-6・7　CB-1 ……124
図Ⅴ-25　土器（1）　遺構（1）……127
図Ⅴ-26　土器（2）　遺構（2）　包含層（1）……128
図Ⅴ-27　土器（3）　包含層（2）……129
図Ⅴ-28　土器（4）　包含層（3）……130
図Ⅴ-29　石器（1）　遺構（1）……134
図Ⅴ-30　石器（2）　遺構（2）……135
図Ⅴ-31　石器（3）　遺構（3）……136
図Ⅴ-32　石器（4）　遺構（4）……137
図Ⅴ-33　石器（5）　遺構（5）……138
図Ⅴ-34　石器（6）　遺構（6）……139
図Ⅴ-35　石器（7）　遺構（7）……140
図Ⅴ-36　石器（8）　遺構（8）　包含層（1）……141
図Ⅴ-37　石器（9）　包含層（2）……142
図Ⅴ-38　石器(10)　包含層（3）……143
図Ⅴ-39　石器(11)　包含層（4）……144
図Ⅴ-40　石器(12)　包含層（5）……145
図Ⅴ-41　石器(13)　包含層（6）……146
図Ⅴ-42　石器(14)　包含層（7）……147
図Ⅴ-43　石器(15)　包含層（8）……148
図Ⅵ-1　分析試料採取地点と成果一覧 ……162
Ⅵ章2　図1　暦年較正年代グラフ ……166
図2　暦年較正年代グラフ（マルチプロット図） ……168
Ⅵ章5　図1　黒曜石産地分布図（東日本） ……174
図2　黒曜石産地推定判別図（1）……176
図3　黒曜石産地推定判別図（2）……176
図4　黒曜石産地推定判別図（3）……176
図Ⅶ-1　Tピット集成図 ……179
図Ⅶ-2　静内中野式土器出土遺跡分布図 ……182

表　目　次

表Ⅰ-1　出土遺構・遺物点数一覧 ……4
表Ⅱ-1　周辺遺跡一覧 ……7
表Ⅱ-2　「高丘」地区の遺跡一覧 ……9
表Ⅳ-1　掲載土器一覧（A地区） ……77
表Ⅳ-2　掲載石器一覧（A地区） ……78
表Ⅴ-1　掲載土器一覧（B地区） ……149
表Ⅴ-2　掲載石器一覧（B地区） ……152
表Ⅵ-1　分析試料及び成果一覧 ……161
Ⅵ章2　表1　放射性炭素年代測定結果(δ13C補正値) ……164
表2　放射性炭素年代測定結果（δ13C未補正値、暦年較正用14C年代、較正年代） ……165
Ⅵ章3　表1　樹種同定結果 ……170
Ⅵ章4　表1　骨同定結果 ……173
Ⅵ章5　表1　分析対象 ……174
表2　東日本黒曜石産地の判別群 ……175
表3　測定値および産地推定結果 ……175

表Ⅶ-1　遺構一覧（A・B地区）　……186
表Ⅶ-2　遺構出土遺物一覧（A・B地区）　……190
表Ⅶ-3　グリッド別包含層出土遺物一覧……191

図版目次

口絵1
1　A地区　調査状況　NE→
2　B地区　調査状況（Tピット群）　NE→
口絵2
1　盛土遺構 M-1（B地区）　N→
2　盛土遺構 M-1遺物出土状況（B地区）　E→
3　盛土遺構 M-2（B地区）　SW→
4　土坑　P-11（B地区）　W→
5　Tピット　TP-17・18・19（A地区）　N→
6　Tピット　TP-17（A地区）　断面上部　SW→
7　Tピット調査状況（B地区）　N→
8　焼土　F-1（A地区）　S→
口絵3
1　遺物集中　C-3　石器集中（B地区）　SW→
2　遺物集中　C-6　石斧集中（B地区）　SW→
3　溝状遺構　D-1（A地区）　SE→
4　P14区土器一括出土状況（A地区）　NW→
5　ⅢB層　S7区　柱穴状小ピット（A地区）　W→
6　ⅢB層　CB-1　炭化物出土状況（B地区）　S→
7　基本土層（A地区）　N→
口絵4
1　特徴的な出土遺物
Ⅵ章3　図版　高丘8遺跡の炭化材 ……171
Ⅵ章4　図版　出土骨 ……173
図版1　A地区　調査区全景
1　前半期調査範囲（ⅡB層上面）　NW→
2　後半期調査範囲（ⅡB層調査）　NE→
図版2　A地区　基本土層
1　基本土層（N9）　N→
2　基本土層（調査区外露頭）　W→
3　8ライン（K・L・M）　土層断面　SW→
4　Oライン（1～3）　土層断面　NE→
図版3　A地区　土坑・Tピット（1）
1　P-1土層断面　W→
2　P-1　E→
3　P-2　土層断面　SE→
4　P-2　NW→
5　TP-1　土層断面　SW→
6　TP-1　SW→
7　TP-2　土層断面　SW→
8　TP-2　W→
図版4　A地区　Tピット（2）
1　TP-2　SP-1　土層断面　E→
2　TP-2　SP-2　土層断面　SW→
3　TP-2　SP-3　土層断面　NE→
4　TP-3　土層断面　W→
5　TP-3・11　W→
6　TP-11　SP-1・2　土層断面　NW→
7　TP-11　SP-3・4　土層断面　NW→
8　TP-3　SP-5　土層断面　SE→
9　TP-4　土層断面　SE→
10　TP-4　SE→
11　TP-5　土層断面　S→
12　TP-5　N→
図版5　A地区　Tピット（3）
1　TP-6　土層断面　S→
2　TP-6　S→
3　TP-7　土層断面　SW→
4　TP-7　SW→
5　TP-8　土層断面　NW→
6　TP-8　NW→
7　TP-9　土層断面　N→
8　TP-10　土層断面　E→
図版6　A地区　Tピット（4）
1　TP-9　NE→
2　TP-10　E→
3　TP-10　SP-1（左）・2（右）　土層断面　S→

4　TP-12　土層断面　S→
5　TP-12　NE→
6　TP-13　土層断面　S→
7　TP-13　S→

図版７　A地区　Tピット(５)
1　TP-14　土層断面　S→
2　TP-14　S→
3　TP-15　土層断面　SP-１　土層断面　N→
4　TP-15　N→
5　TP-16　NE→
6　TP-17　土層断面（上面）　SE→
7　TP-17　土層断面　SE→
8　TP-17　NW→

図版８　A地区　Tピット(６)
1　TP-17・18・19　N→
2　TP-18　土層断面　SW→
3　TP-18　SE→
4　TP-19　土層断面　NW→
5　TP-19　SW→

図版９　A地区　Tピット(７)
1　TP-20　土層断面　E→
2　TP-20　E→
3　TP-21　土層断面　SE→
4　TP-21　SE→
5　TP-22　土層断面　S→
6　TP-22　N→
7　TP-23　土層断面　E→

図版10　A地区　Tピット(８)
1　TP-23　W→
2　TP-24　土層断面　S→
3　TP-24　N→
4　TP-25　覆土上層断面　NW→
5　TP-25　土層断面　S→
6　TP-25　S→
7　TP-26　土層断面　SW→
8　TP-26　SW→

図版11　A地区　Tピット(９)
1　TP-26　覆土上面遺物出土状況　S→
2　TP-26　SP-１～４（右から１・２・３・４）
　土層断面　NW→
3　TP-27　土層断面　S→
4　TP-27　SE→
5　TP-28　土層断面　SW→
6　TP-26・28　SW→
7　TP-29　土層断面　N→
8　TP-29　S→

図版12　A地区　Tピット(10)・焼土
1　TP-29　P-１　土層断面　N→
2　TP-29　P-２　土層断面　S→
3　F-１　S→
4　F-２　E→
5　F-５　W→
6　F-３　W→
7　F-４　W→
8　F-６　S→
9　F-７　S→

図版13　A地区　溝状遺構・掘上げ土(１)
1　D-１（南側部分）　SE→
2　D-１　調査区内確認　SE→
3　D-１（北側部分）　N→
4　D-１　土層断面　N→
5　DU-１　W→
6　DU-１　土層断面　S→

図版14　A地区　掘上げ土(２)
1　DU-２　W→
2　DU-２　土層断面１　W→
3　DU-２　土層断面２　E→
4　DU-２　土層断面３　E→
5　DU-３　SE→
6　DU-３　土層断面　W→
7　DU-４　S→
8　DU-４(1)　S→

図版15　A地区　掘上げ土(３)
1　DU-４(1)　土層断面　S→
2　DU-４(2)　SW→
3　DU-４(2)　土層断面　S→
4　DU-４　炭化材・石斧出土状況　SE→
5　DU-５　NE→
6　DU-５　土層断面　E→
7　DU-６　土層断面　N→

8　DU-6　土層断面詳細　N→

図版16　A地区　掘上げ土(4)

1　DU-7　S→

2　DU-11　S→

3　DU-8　S→

4　DU-8　土層断面　E→

5　DU-9　W→

6　DU-9　土層断面　S→

7　DU-10　SW→

8　DU-10　土層断面　W→

図版17　A地区　炭化物集中

1　CB-1　SE→

2　CB-2　S→

3　CB-3　S→

4　CB-5・6　S→

5　CB-7　N→

6　CB-7　炭化材2　W→

7　CB-8　N→

図版18　A地区　ⅢB層調査(1)

1　U7区　東壁　土層断面　W→

2　U7区　柱穴状小ピット確認　N→

3　U7区　SP-1　土層断面　W→

4　U7区　SP-4　土層断面　W→

5　S7区　東壁　土層断面　W→

6　S7区　柱穴状小ピット　確認　W→

7　S7区　柱穴状小ピット　土層断面　W→

8　S7区　SP-12・13　W→

図版19　A地区　ⅢB層調査(2)

1　M7区　柱穴状小ピット　確認　S→

2　M7区　SP-19　土層断面　W→

3　M7区　SP-22　土層断面　W→

4　M7区　SP-28　土層断面　W→

5　O7区　柱穴状小ピット　確認　W→

6　O7区　SP-33・34　土層断面　W→

7　O7区　SP-36　土層断面　W→

8　O7区　SP-38・39　土層断面　W→

図版20　A地区　ⅢB層調査(3)

1　I7区　東壁　W→

2　I7区　柱穴状小ピット　確認　W→

3　I7区　SP-41　土層断面　W→

4　I7区　SP-44　土層断面　W→

5　G7区　東壁　W→

6　G7区　SP-47　確認　N→

7　R20区　柱穴状小ピット　確認　N→

8　R20区　SP-53　W→

図版21　A地区　ⅢB層調査(4)

1　R20区　SP-59　W→

2　R20区　SP-70　W→

3　S22区　北壁　S→

4　S22区　柱穴状小ピット　確認　S→

5　S22区　SP-72　W→

6　S22区　SP-73　W→

7　S22区　SP-76　W→

8　S22区　SP-91　W→

図版22　B地区　調査区全景

1　ⅡB層上面精査状況（中央～東部分）　NW→

2　最終面精査状況（中央～西部分）　NE→

図版23　B地区　土層断面

1　北側追加調査範囲（ⅡB層上面）　SE→

2　北側追加調査範囲（西側部分）　S→

3　北側追加調査範囲（西側斜面）　SE→

4　39ライン　土層断面　W→

5　39ライン　土層断面　NW→

6　39ライン　土層断面　E→

7　Oライン　土層断面　E→

図版24　B地区　盛土遺構　M-1(1)

1　M-1　確認調査範囲　N→

2　M-1　遺物出土状況　N→

図版25　B地区　盛土遺構　M-1(2)

1　M-1　土層断面（南北方向）　NW→

2　M-1　土層断面（東西方向　東側）　NW→

3　M-1　土層断面（東西方向　西側）　NW→

図版26　B地区　盛土遺構　M-1(3)

1　M-1　土層断面（中央部）　NW→

2　M-1　土層断面（東西方向 サブトレンチ）NW→

3　M-1　土層断面（南北方向 42ライン）　E→

4　遺物出土状況（中部）　E→

5　遺物出土状況（中～下部）　NE→

6　遺物出土状況（下部）　E→

7　遺物出土状況（上層）　E→
8　M-1　土器出土状況（上層）　NE→
図版27　B地区　盛土遺構　M-2
1　M-2　全景　SW→
2　M-2　遺物出土状況（上層）　SW→
3　M-2　一括遺物出土状況（上層）　SE→
4　M-2　土層断面　S→
図版28　B地区　土坑（1）
1　P-1　土層断面　E→
2　P-1　SW→
3　P-2　土層断面　N→
4　P-2　N→
5　P-3　土層断面　N→
6　P-3　N→
7　P-4　土層断面　W→
8　P-4　W→
図版29　B地区　土坑（2）
1　P-5　土層断面　W→
2　P-5　W→
3　P-6　土層断面　W→
4　P-6　W→
5　P-7　土層断面　W→
6　P-7　W→
7　P-8　土層断面　W→
8　P-8　W→
図版30　B地区　土坑（3）
1　P-9　土層断面　SW→
2　P-9　E→
3　P-10　土層断面　N→
4　P-10　N→
5　P-10　覆土上面遺物出土状況　SW→
6　P-10　覆土中遺物出土状況　NE→
7　P-11　土層断面　S→
8　P-11　W→
図版31　土坑（4）・Tピット（1）
1　P-12　土層断面　E→
2　P-12　E→
3　P-13　N→
4　P-13（拡大）　N→
5　TP-1　土層断面　SE→
6　TP-1　NW→
図版32　B地区　Tピット（2）
1　TP-2　土層断面　SW→
2　TP-2　S→
3　TP-2　SP-1　土層断面　S→
4　TP-2　SP-2　土層断面　S→
5　TP-2　SP-3　土層断面　S→
6　TP-3　土層断面　SE→
7　TP-3　NW→
図版33　B地区　Tピット（3）
1　TP-4　土層断面　SE→
2　TP-4　NW→
3　TP-5　土層断面　W→
4　TP-5　W→
図版34　B地区　Tピット（4）
1　TP-6　土層断面　N→
2　TP-6　N→
3　TP-7　土層断面　SW→
4　TP-7　SW→
5　TP-9　土層断面　N→
6　TP-9　N→
図版35　B地区　Tピット（5）
1　TP-8　土層断面　N→
2　TP-8　N→
3　TP-10　土層断面　N→
4　TP-10　N→
図版36　B地区　Tピット（6）
1　TP-11　土層断面　S→
2　TP-11　S→
3　TP-12　土層断面　N→
4　TP-12　N→
5　TP-13　土層断面　W→
6　TP-13　W→
図版37　B地区　Tピット（7）
1　TP-13　SP-1　土層断面　SW→
2　TP-13　SP-2　土層断面　NE→
3　TP-13　SP-3　土層断面　NE→
4　TP-14　土層断面　W→
5　TP-14　W→
6　TP-15　土層断面　W→

7　TP-15　W→

8　TP-16　土層断面　W→

9　TP-16　W→

図版38　B地区　Tピット（8）

1　TP-16　SP-1土層断面　S→

2　TP-17　土層断面　W→

3　TP-17　W→

4　TP-18　土層断面　S→

5　TP-18　SE→

図版39　B地区　Tピット（9）

1　TP-19　土層断面　N→

2　TP-19　N→

3　TP-20　S→

4　TP-21　土層断面　S→

5　TP-21　S→

図版40　B地区　焼土・遺物集中

1　F-1　S→

2　F-1　土層断面　W→

3　C-1（奥側）・2（手前）　出土状況　N→

4　C-3　SW→

5　C-4　SE→

6　C-5　NE→

7　C-6　SW→

図版41　掘り上げ土・炭化物集中

1　DU-1　NW→

2　DU-2　S→

3　DU-3　S→

4　DU-4・5　SW→

5　DU-6　N→

6　CB-1　S→

7　CB-2　E→

図版42　B地区　ⅢB層調査（1）

1　j38区　東壁　土層断面　W→

2　j38区　SP-1　土層断面　W→

3　f38区　東壁　土層断面　W→

4　g38区　SP-2　土層断面　N→

5　d38区　東壁　土層断面　W→

6　d38区　SP-3　W→

7　h44区　SP-4　土層断面　N→

8　h38区　SP-5　土層断面　SE→

図版43　B地区　ⅢB層調査（2）

1　h37区　SP-6　土層断面　SW→

2　h37区　SP-7　土層断面　SW→

3　CB-1　炭化物出土状況　S→

4　CB-1　集中部　炭化物出土状況　SE→

5　CB-1　炭化物出土状況（拡大）　SE→

図版44　A地区　土器　遺構・包含層

図版45　A地区　石器　包含層

図版46　B地区　土器（1）　遺構（1）

図版47　B地区　土器（2）　遺構（2）　包含層（1）

図版48　B地区　土器（3）　包含層（2）

図版49　B地区　石器（1）　遺構（1）

図版50　B地区　石器（2）　遺構（2）

図版51　B地区　石器（3）　遺構（3）

図版52　B地区　石器（4）　包含層（1）

図版53　B地区　石器（5）　包含層（2）

図版54　B地区　石器（6）　包含層（3）

第Ⅰ章　調査の概要

1　調査要項

事 業 名：苫小牧中央インター線（仮称）道路改良工事埋蔵文化財調査
委 託 者：北海道胆振総合振興局
所 在 地：苫小牧市字高丘41-1, 41-18
調査面積：6, 417㎡ ［A地区：4, 272㎡、B地区：2, 145㎡］
調査期間：平成30年６月５日～11月20日
遺 跡 名：苫小牧市高丘８遺跡（J-02-286）

2　調査体制

公益財団法人北海道埋蔵文化財センター

（平成30年度）
理 事 長　　越田賢一郎
副理事長　　中田　　仁
専務理事　　山田　寿雄（事務局長兼務）
常務理事　　長沼　　孝（第１調査部長兼務）
第１調査部第３調査課（平成30年度　発掘）
課　　長　　皆川　洋一（発掘担当者）
主　　査　　藤井　　浩（発掘担当者）
主　　査　　鈴木　宏行（発掘担当者）
主　　査　　山中　文雄（発掘担当者）

（令和元年度　６月21日より）
理 事 長　　長沼　　孝
専務理事　　山田　寿雄（事務局長兼務）
常務理事　　鈴木　　信（第１調査部長兼務）
（令和元年度）
第１調査部第３調査課（整理）
課　　長　　皆川　洋一
主　　査　　藤井　　浩（編集担当）
主　　査　　鈴木　宏行

3　調査に至る経緯

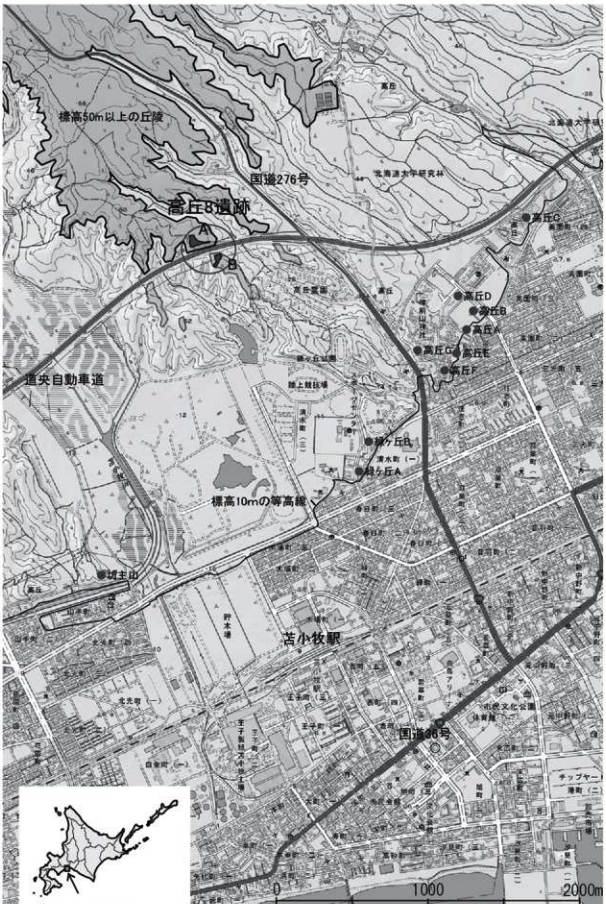
本調査は苫小牧中央インター線（仮称）道路改良工事に伴って行われたものである。苫小牧中央インター線（仮称）は道央自動車道に新設されるインターチェンジへのアクセス道路として苫小牧東ICと苫小牧西ICとのほぼ中間に設置される。

道路は国道276号線（苫小牧市高丘）との交点から道央道本線との連結部に至る道々1179号で、平成26（2014）年に路線認定、平成28（2016）年に連結許可、測量調査、用地買収を終え、平成29（2017）年に着工、令和２年度に開通予定である。

整備主体は北海道で、着工より胆振総合振興局室蘭開発建設部の担当である。平成30（2018）年度から道路本線西側エリアの連結道路部分については東日本高速道路株式会社が工事を担当している。これにより、後に設定されるA地区は道、B地区が(株)東日本高速道路の管轄になった。

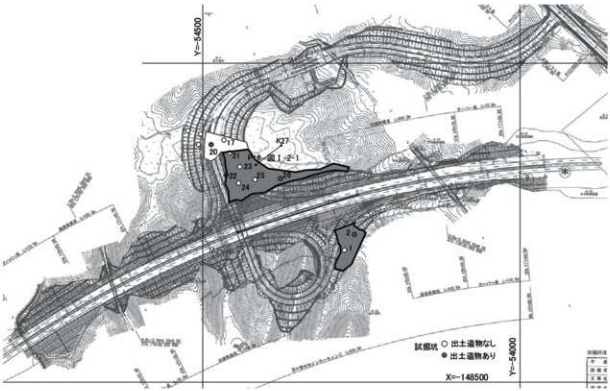
工事に伴う試掘調査は平成29（2017）年11月に行われ、本線北側にあたるA・C-１ランプ区域（現・A地区）に12か所、南側にあたるDランプ区域（現B地区）に２か所の試掘坑で調査された。その結果A・C-１ランプのNo. 20、22、26、DランプのNo. ２の試掘坑から遺物の出土があった。（図Ⅰ-２）

これによりA・C-１ランプ南半及びDランプ区域については発掘を要し、A・C-１ランプの北半については工事立会を要することとなった。

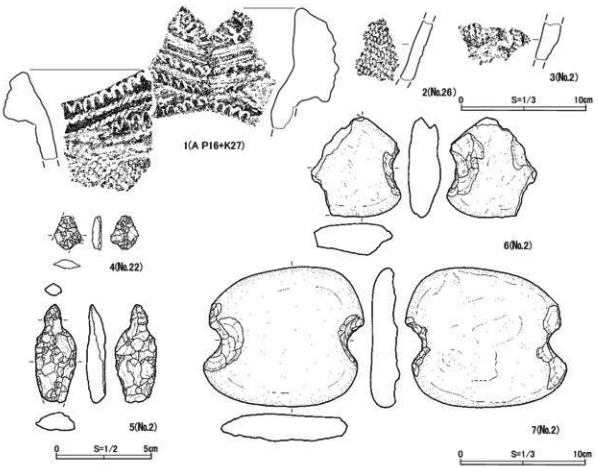


図Ⅰ-1　遺跡の位置

※この地図は国土地理院電子地形図25000を用いて作成したものである



試掘調査の位置



図Ⅰ-2　試掘調査と出土遺物

4　調査結果の概要

本調査では自動車道本線をはさんで北をA地区、南をB地区とした。A,B間は約100m離れているが、同じ丘陵の尾根筋上にあり、連続した一つの遺跡である。

出土した遺構は盛土遺構２か所、土坑15基、Tピット50基、焼土８か所、溝状遺構１条、遺物集中７か所、掘り上げ土17か所、炭化物集中10か所である。

遺構の時期は主に縄文時代前期前半と中期後半である。A地区はTピットのような縄文中期後半の遺構が多く、B地区には盛土遺構や土坑群のような縄文前期前半の遺構群とTピットに見られる中期後半の遺構群がある。また、一部でⅢB層の確認調査を行った。黄褐色ローム層上で、柱穴状小ピット100か所と炭化物集中１か所を確認した。

遺物は総点数29,171点でA地区が2,725点、B地区が26,446点であった。

種別では土器が4,000点、石器が21,104点、礫が4,067点で石器が最も多い。

土器には縄文前期前半、中期後半、後期末がある。点数が最も多いのは後期末の1,722点で、次が前期前半の1,244点、中期後半が1,020点である。前期前半はその殆どがB地区出土で、中期後半はA地区・B地区での両方に見られる。後期末はA地区出土の一括個体の破片数が大半を占める。

石器は石鏃、石槍、石錐、つまみ付きナイフ（石匙）、スクレイパー、石斧、たたき石、すり石、石錘、Rフレイク、Uフレイク、扁平打製石器、剥片が出土した。最も多い剥片が20,372点を数え、石鏃、石槍、つまみ付きナイフ、石斧、石錘が比較的多く出土している。

	盛土遺構	土坑	Tピット	焼土	溝状遺構	遺物集中	掘り上げ土	炭化物集中	ⅡB層遺構 計	柱穴状小ピット	炭化物集中	ⅢB層遺構 計	総計
略号	M	P	TP	F	D	C	DU	CB		SP	CB		
A		2	29	7	1	1	11	8	59	93		93	152
B	2	13	21	1		6	6	2	51	7	1	8	59
計	2	15	50	8	1	7	17	10	110	100	1	101	211
	（か所）	（基）	（基）	（か所）	（条）	（か所）	（か所）	（か所）		（か所）	（か所）		

			土器	石器	礫	総合計
A	遺構		1	529	2	532
	包含層		1,848	149	196	2,193
		A計	1,849	678	198	2,725
B	遺構		618	19,060	1,052	20,730
	包含層		1,533	1,366	2,817	5,716
		B計	2,151	20,426	3,869	26,446
総合計			4,000	21,104	4,067	29,171

		土器			焼成粘土塊	合計
		Ⅱa-2	Ⅲb	Ⅳc		
A	遺構		1			1
	包含層	10	110	1,722	6	1,848
	A計	10	111	1,722	6	1,849
B	遺構	562	54		2	618
	包含層	672	855		6	1,533
	B計	1,234	909		8	2,151
合計		1,244	1,020	1,722	14	4,000

			石鏃	石槍	石錐	つまみ付きナイフ	楕状石器	スクレイパー	Rフレイク	Uフレイク	剥片	原石	石核
A	遺構										529		
	包含層		55	3	3	5		2	2	2	59		
		A計	55	3	3	5		2	2	2	588		
B	遺構		53	4	18	24	1	12	6	10	18,871	1	
	包含層		108	14	29	84		24	13	29	913		1
		B計	161	18	47	108	1	36	19	39	19,784	1	1
合計			216	21	50	113	1	38	21	41	20,372	1	1

			石斧	たたき石	すり石	石錘	扁平打製石器	砥石	台石石皿	加工痕のある礫	石製品	合計
A	遺構											529
	包含層		10	3		1		3	1			149
		A計	10	3		1		3	1			678
B	遺構		25	12	2	10		5	5	1		19,060
	包含層		61	25	12	35	1	10	6		1	1,366
		B計	86	37	14	45	1	15	11	1	1	20,426
合計			96	40	14	46	1	18	12	1	1	21,104

表Ⅰ-1　出土遺構・遺物点数一覧

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置（図Ⅰ-1）

遺跡のある苫小牧市は道央部の南側に位置し、太平洋に面した胆振管内にある。東西39.9km、南北23.6km、面積は561km²、北に千歳市、東に厚真町・安平町、西に白老町と隣接している。

遺跡は市内中央部の高丘地区にある。高丘地区は苫小牧駅に程近い、市街地北部に位置する。付近は住宅街をはじめ、スケートリンクなどを備える緑ヶ丘公園や高丘森林公園などがあり、その範囲は南の市街地域から北の丘陵地域にまで及んでいる。道央自動車道はこの丘陵地域にあたる高丘森林公園内を東西に貫くように延び、この自動車道を跨ぐ位置に遺跡がある。

遺跡の地番・座標等は下記の通りである。また北西に位置する樽前山からの距離は17km、現海岸線までの距離は4.3kmである。

地区	地番	地区中心の座標 平面直角座標系　12系	地区中心の緯度経度	地区中心の現標高
A地区	高丘41-1	X=-148181.752　Y=-54431.472 （基準杭　P10）	N42°39′54.21″　E141°35′28.27″	49.51m
B地区	高丘41-18	X=-148278.814　Y=-54274.695 （基準杭　h40）	N42°39′49.98″　E141°35′34.74″	47.08m

2　周辺の地形概要（図Ⅱ-1）

苫小牧市は道央部を南北に貫く石狩低地帯の南縁にあたり、太平洋に面した勇払低地と、これを取り巻く火砕流台地からなる。火砕流台地は、市内北西にある樽前山や支笏湖の噴火に由来する更新世段丘で、市内中央から西側の千歳台地と市内東側、安平町・厚真町との境にかけて広がる勇払北部台地とに分かれる。

千歳台地は、その東端が美々川流域の低地帯「美々川低地」、西は支笏湖に至る広大な台地である。台地は美沢川・ペンケナイ川などの支流を集めた美々川や勇払川・苫小牧川・錦多峰川など南東または南流する河川群によって開析され、いくつもの尾根筋状、舌状の台地が形成されている。遺跡はこの尾根筋状の台地に立地する。

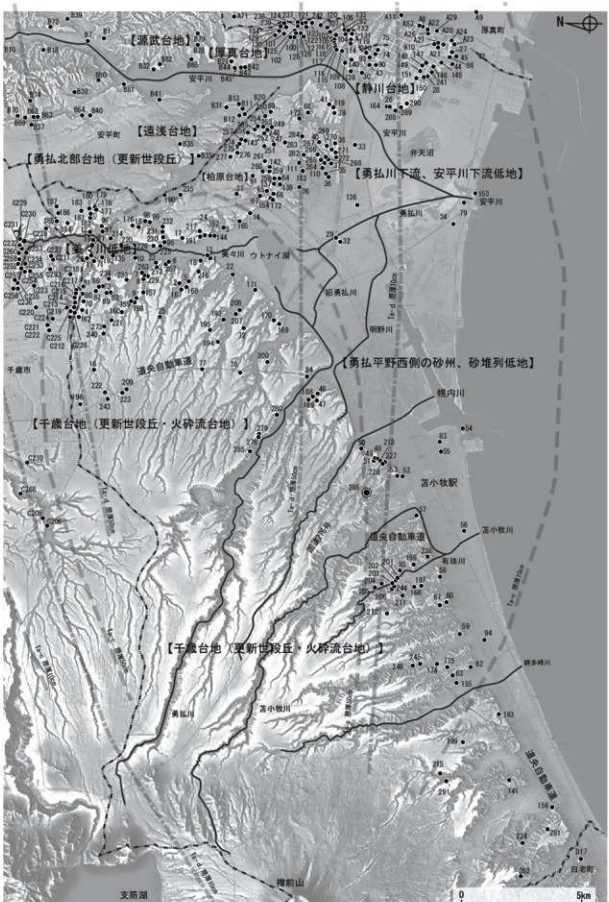
また、市内東側の勇払北部台地は、美々川低地から東にあたり、安平川・遠浅川・勇払川（下流）によって開析され、小規模な台地群が形成されている。市内には柏原台地・静川台地、厚真町側の厚真台地、安平町側の遠浅台地・源武台地があり、北の馬追丘陵へと続く。

これらの台地に囲まれ、太平洋に面して緩やかな弧状の海岸線をなすのが勇払低地である。標高10m以下で成因過程により、東の勇払川・安平川下流低地と、西の「勇払平野西側の砂洲・砂堆列低地」とに分けられ、勇払低地の大半は6,000～7,000年前の縄文海進時には、海面下にあることが知られている。その後に東側は低湿原化し、ウトナイ湖や弁天沼などが海跡湖として残り、その一方で西側は砂洲が形成され、砂堆列が幾重にも発達したことが明らかになっている。

3　周辺の遺跡分布と特徴

市内には現時点で290か所の埋蔵文化財包蔵地が登録されている。隣接する千歳市は295、安平町が81、厚真町が141、白老町が45である。市内の遺跡分布には、勇払低地に面した台地の縁辺部に集中する傾向が見られる。

千歳台地では美々川低地周辺から勇払平野西側の低地周辺の縁辺部にかけて多くの遺跡が分布し、



図Ⅱ-1　周辺の遺跡分布と地形

※地形図はカシミール3D　スーパー地形セットにより作成したものである。
※苫小牧市外の遺跡番号については、厚真町(J-13-)がA、安平町(J-11-)がB、千歳市(A-03-)がC、白老町(J-10-)がDを冠した。
※Ta-c、Ta-dの等厚線は1992町田洋編に拠る。

登載番号	遺跡名	所在地	報告
J-02- 1	タブコブ	植苗	84
J-02- 2	パンケナイ1	美沢	
J-02- 3	ウエンナイ5	植苗	
J-02- 4	美沢18	美沢	
J-02- 5	金森	美沢	
J-02- 6	旧植苗小中学校裏	美沢	
J-02- 7	植村A	美沢	
J-02- 8	植村B	美沢	
J-02- 9	平田	美沢	
J-02- 10	大曲	美沢	
J-02- 11	北炭山林1	美沢	
J-02- 12	大鳥	美沢	
J-02- 13	植苗橋下	植苗	
J-02- 14	斉藤	植苗	
J-02- 15	猿子	美沢	
J-02- 16	美沢19	美沢	
J-02- 17	久米井	植苗美沢	
J-02- 18	大槻	植苗	
J-02- 19	美々橋	美沢	
J-02- 20	美々坂	美沢	
J-02- 21	御前水	美沢	
J-02- 22	ウトナイ	植苗	
J-02- 23	岡田	美沢	
J-02- 24	植苗貝塚	植苗	76
J-02- 25	三井	植苗	
J-02- 26	亀谷	静川	
J-02- 27	柳舘	静川	
J-02- 28	綱木	静川	
J-02- 29	沼ノ端	沼ノ端	
J-02- 30	ニナル力	静川	98
J-02- 31	植苗10	植苗	
J-02- 32	沼ノ端丸木舟	沼ノ端	
J-02- 33	柏原丸木舟	柏原	
J-02- 34	勇払	勇払	
J-02- 35	柏原1	柏原	
J-02- 36	柏原2	柏原	
J-02- 37	柏原3	柏原	
J-02- 38	柏原4	柏原	89.14
J-02- 39	柏原5	柏原	97
J-02- 40	柏原6	柏原	
J-02- 41	柏原7	柏原	
J-02- 42	静川1	静川	
J-02- 43	静川2	静川	
J-02- 44	静川3	静川学芸大	
J-02- 45	静川4	静川	
J-02- 46	明野1	高丘	
J-02- 47	明野2	高丘	
J-02- 48	高丘A	高丘	68
J-02- 49	高丘B	高丘	
J-02- 50	高丘C	高丘	
J-02- 51	高丘D	高丘	
J-02- 52	緑ヶ丘A	高丘	
J-02- 53	緑ヶ丘B	高丘	
J-02- 54	中野	真砂町	
J-02- 55	苫工校庭	末広町	
J-02- 56	西町	大成町	
J-02- 57	坊主山	高丘	
J-02- 58	有珠川1	糸井	
J-02- 59	糸井A	糸井	
J-02- 60	糸井B	糸井	
J-02- 61	泉の沢	糸井	
J-02- 62	苫高専校	錦岡	
J-02- 63	大沢	錦岡	
J-02- 64	柏原8	柏原	14

登載番号	遺跡名	所在地	報告
J-02- 65	柏原9	柏原	
J-02- 66	柏原10	柏原	
J-02- 67	柏原11	柏原	
J-02- 68	柏原12	柏原	
J-02- 69	柏原13	柏原	
J-02- 70	美沢1	美沢	※1
J-02- 71	美々缶詰所	美沢	75
J-02- 72	植苗9	植苗	
J-02- 73	美沢4	美沢	セ80
J-02- 74	静川5	静川	94
J-02- 75	静川6	静川	94
J-02- 76	柏原14	柏原	
J-02- 77	植苗1	植苗	
J-02- 78	植苗2	植苗	
J-02- 79	勇払会所跡	勇払	
J-02- 80	美沢2	美沢	※2
J-02- 81	美沢3	美沢	※3
J-02- 82	美沢5	美沢	セ80.86
J-02- 83	元中野	元中野町	
J-02- 84	植苗3	植苗	
J-02- 85	有珠川2	高丘	
J-02- 86	静川7	静川	
J-02- 87	美沢6	美沢	
J-02- 88	美沢7	美沢	
J-02- 89	美沢8	美沢	
J-02- 90	静川8	静川	79.90
J-02- 91	柏原15	柏原	
J-02- 92	静川10	静川 共和	
J-02- 93	静川9	静川	91
J-02- 94	ときわ町	ときわ町	
J-02- 95	咲間	美沢	
J-02- 96	藤川	美沢	
J-02- 97	中津山	美沢	
J-02- 98	谷口1	美沢	
J-02- 99	谷口2	美沢	
J-02- 100	静川11	静川	
J-02- 101	静川12	静川	
J-02- 102	静川13	静川	
J-02- 103	静川14	静川	
J-02- 104	静川15	静川	
J-02- 105	静川	静川	
J-02- 106	静川17	静川	
J-02- 107	静川18	静川	
J-02- 108	静川19	静川	95
J-02- 109	静川20	静川	80.92
J-02- 110	柏原16	柏原	80.95
J-02- 111	柏原17	柏原	
J-02- 112	柏原18	柏原	95
J-02- 113	柏原19	柏原	80.95
J-02- 114	静川21	静川	80.92
J-02- 115	静川22	静川	
J-02- 116	静川23	静川	
J-02- 117	静川24	静川	
J-02- 118	静川25	静川	
J-02- 119	静川26	静川	95
J-02- 120	高安	静川	
J-02- 121	奥井西1	静川	
J-02- 122	奥井西2	静川	
J-02- 123	奥井西3	静川	
J-02- 124	山岸	静川	
J-02- 125	佐伯	静川	
J-02- 126	安藤沼1	静川	
J-02- 127	安藤沼2	静川	
J-02- 128	安藤沼3	静川	

登載番号	遺跡名	所在地	報告
J-02- 129	吉田	静川	
J-02- 130	長橋	静川	
J-02- 131	亀ヶ森1	静川	
J-02- 132	亀ヶ森2	静川	
J-02- 133	亀ヶ森3	静川	
J-02- 134	矢幅	静川	
J-02- 135	北炭山林2	美沢	
J-02- 136	旧安平川丸木舟	柏原	
J-02- 137	柏原20	柏原	
J-02- 138	柏原21	柏原	
J-02- 139	静川27	静川	
J-02- 140	静川28	静川	
J-02- 141	鐵大沼公園	樽前	
J-02- 142	柏原22	柏原	
J-02- 143	柏原23	柏原	
J-02- 144	ウエンナイ1	植苗	
J-02- 145	静川29	静川	
J-02- 146	静川30	静川	
J-02- 147	静川31	静川	
J-02- 148	静川32	静川	
J-02- 149	静川33	静川	
J-02- 150	静川34	静川	
J-02- 151	静川35	静川	
J-02- 152	ウエンナイ2	植苗	85
J-02- 153	弁天貝塚	弁天	87.88.89
J-02- 154	柏原24	柏原	86
J-02- 155	錦岡1	錦岡	
J-02- 156	樽前	樽前	
J-02- 157	美沢9	美沢	
J-02- 158	美沢10	美沢	97 ※4
J-02- 159	美沢11	美沢	93 ※4
J-02- 160	美沢12	美沢	
J-02- 161	静川36	静川	
J-02- 162	美沢13	美沢	
J-02- 163	錦岡2	錦岡	
J-02- 164	静川37	静川	90.92
J-02- 165	植苗4	植苗	
J-02- 166	豊木川	糸井	
J-02- 167	植苗5	植苗	
J-02- 168	植苗6	植苗	
J-02- 169	トキサタマップ1	植苗	
J-02- 170	トキサタマップ2	植苗	
J-02- 171	ウトナイ2	植苗	
J-02- 172	柏原25	柏原	
J-02- 173	柏原26	柏原	
J-02- 174	錦岡3	錦岡	
J-02- 175	錦岡4	錦岡	
J-02- 176	清水谷	美沢	
J-02- 177	御前水2	美沢	
J-02- 178	御前水3	美沢	
J-02- 179	御前水4	美沢	
J-02- 180	御前水5	美沢	
J-02- 181	御前水6	美沢	
J-02- 182	御前水7	美沢	
J-02- 183	御前水8	美沢	
J-02- 184	御前水9	美沢	
J-02- 185	御前水10	美沢	
J-02- 186	御前水11	美沢	
J-02- 187	御前水12	美沢	
J-02- 188	明野3	高丘	
J-02- 189	明野4	高丘	
J-02- 190	植苗北1	美沢	
J-02- 191	ウエンナイ3	植苗	
J-02- 192	北炭山林3	美沢	

表Ⅱ-1　周辺遺跡一覧

登載番号	遺跡名	所在地	報告
J-02- 193	オタルマップ1	植苗	
J-02- 194	オタルマップ2	植苗	
J-02- 195	オタルマップ3	植苗	
J-02- 196	美沢20	美沢	
J-02- 197	豊木川2	糸井	
J-02- 198	有珠川3	高丘	
J-02- 199	錦岡5	錦岡	
J-02- 200	植苗7	植苗	
J-02- 201	有珠川4	高丘	
J-02- 202	有珠川5	高丘	08
J-02- 203	有珠川6	高丘	
J-02- 204	有珠川7	高丘	
J-02- 205	有珠川8	高丘	
J-02- 206	有珠川9	糸井	
J-02- 207	オタルマップ4	植苗	
J-02- 208	オタルマップ5	植苗	
J-02- 209	植苗8	植苗	
J-02- 210	静川38	静川	
J-02- 211	豊木川3	糸井	
J-02- 212	豊木川4	糸井	
J-02- 213	ペンケナイ1	美沢	
J-02- 214	大島2	美沢	
J-02- 215	覚生1	錦岡	
J-02- 216	ポンチライウシ	植苗	
J-02- 217	ウェンナイ4	植苗	
J-02- 218	高丘E	高丘	90
J-02- 219	柏原27	柏原	91.95.97
J-02- 220	美沢東	美沢	
J-02- 221	美沢14	美沢	
J-02- 222	美沢21	美沢	
J-02- 223	美沢22	美沢	
J-02- 224	樽前2	樽前	
J-02- 225	美沢東2	美沢	
J-02- 226	美沢東3	美沢	
J-02- 227	高丘F	高丘	
J-02- 228	高丘G	高丘	
J-02- 229	ペンケナイ2	美沢	
J-02- 230	美沢東4	美沢	98
J-02- 231	美沢東5	美沢	98
J-02- 232	美沢東6	美沢	98
J-02- 233	美沢15	美沢	セ95
J-02- 234	美沢16	美沢	セ96.11
J-02- 235	植苗北2	植苗	
J-02- 236	坊主山2	高丘	
J-02- 237	山岸2	静川	
J-02- 238	吉田3	静川	
J-02- 239	吉田2	静川	
J-02- 240	美沢17	美沢	
J-02- 241	静川39	静川	
J-02- 242	静川40	静川	
J-02- 243	美沢23	美沢	
J-02- 244	有珠川10	糸井	
J-02- 245	小糸魚川1	糸井	
J-02- 246	小糸魚川2	糸井先	
J-02- 247	柏原28	柏原	14
J-02- 248	柏原29	柏原	14
J-02- 249	柏原30	柏原	14
J-02- 250	柏原31	柏原	14
J-02- 251	柏原32	柏原	14
J-02- 252	柏原33	柏原	14
J-02- 253	柏原34	柏原	14
J-02- 254	柏原35	柏原	14
J-02- 255	柏原36	柏原	14
J-02- 256	柏原37	柏原	14

登載番号	遺跡名	所在地	報告
J-02- 257	柏原38	柏原	14
J-02- 258	柏原39	柏原	14
J-02- 259	柏原40	柏原	14
J-02- 260	柏原41	柏原	14
J-02- 261	柏原42	柏原	14
J-02- 262	樽前3	樽前	
J-02- 263	ペンケナイ3	美沢	
J-02- 264	柏原43	柏原	14
J-02- 265	柏原44	柏原	14
J-02- 266	柏原45	柏原	14
J-02- 267	柏原46	柏原	14
J-02- 268	柏原47	柏原	14
J-02- 269	柏原48	柏原	14
J-02- 270	柏原49	柏原	14
J-02- 271	柏原50	柏原	14
J-02- 272	柏原51	柏原	14
J-02- 273	美沢24	美沢	
J-02- 274	柏原52	柏原	
J-02- 275	柏原53	柏原	
J-02- 276	柏原54	柏原	
J-02- 277	柏原55	柏原	
J-02- 278	勇振1	植苗	
J-02- 279	勇振2	植苗	
J-02- 280	勇振3	植苗	
J-02- 281	樽前4	樽前	
J-02- 282	柏原56	柏原	
J-02- 283	柏原57	柏原	
J-02- 284	柏原58	柏原	
J-02- 285	勇振4	植苗	
J-02- 286	**高丘8**	**高丘**	**19**
J-02- 287	美沢25	美沢	
J-02- 288	静川41	静川	
J-02- 289	静川42	静川	
J-02- 290	静川43	静川	
J-02- 291	覚生2	錦岡	
J-13- 8	共和	共和	87
J-13- 9	浜厚真	浜厚真	
J-13- 10	厚真10	共和	
J-13- 11	厚真11	共和	
J-13- 20	厚真1	共和	
J-13- 21	厚真2	厚真町字共和静川	
J-13- 22	厚真3	共和	90
J-13- 23	厚真4	共和	
J-13- 24	厚真5	共和	
J-13- 26	厚真7	共和	87
J-13- 27	厚真8	共和	
J-13- 29	厚真12	共和	90
J-13- 53	厚真13	共和	92
J-13- 71	豊川1	豊川	
A-03- 205	ママチ5	泉沢	
A-03- 206	ママチ6	泉沢	
A-03- 210	泉沢	泉沢	
A-03- 211	美々貝塚	美々	
A-03- 212	美々2	美々	
A-03- 213	美々3	美々	
A-03- 214	美々4	美々3区付近	
A-03- 215	美々5	美々3区付近	
A-03- 216	美々6	美々	
A-03- 217	美々7	美々	
A-03- 218	美々8	美々	
A-03- 219	美々9	美々	
A-03- 220	美々10	美々	
A-03- 221	美々11	美々	

登載番号	遺跡名	所在地	報告
A-03- 222	美々12	美々	
A-03- 223	美々13	美々	
A-03- 224	美々14	美々	
A-03- 225	美々15	美々	
A-03- 226	美々16	美々	
A-03- 227	美々貝塚北	美々	
A-03- 228	パンケビビ1	美々	
A-03- 229	パンケビビ2	美々	
A-03- 230	パンケビビ3	美々	
A-03- 231	パンケビビ4	美々	
A-03- 232	パンケビビ5	美々	
A-03- 233	パンケビビ6	美々	
A-03- 234	パンケビビ7	美々	
A-03- 235	パンケビビ8	美々	
A-03- 236	パンケビビ9	美々	
A-03- 252	パンケビビ10	美々	
A-03- 253	パンケビビ11	美々	
A-03- 254	パンケビビ12	美々	
A-03- 255	パンケビビ13	美々	
A-03- 256	パンケビビ14	美々	
A-03- 257	パンケビビ15	美々	
A-03- 258	パンケビビ16	美々	
A-03- 260	パンケビビ17	美々	
A-03- 268	ママチ7	泉沢	
A-03- 293	美々17	美々	
J-10- 17	社台1	社台	
J-11- 1	大町1	早来大町	
J-11- 4	富岡3	早来富岡	
J-11- 7	大町2	早来大町	
J-11- 10	安平4	安平	
J-11- 11	遠浅3	早来遠浅	
J-11- 12	遠浅1	早来遠浅	
J-11- 13	遠浅2	早来遠浅	
J-11- 18	東早来	東早来	
J-11- 20	遠浅4	早来遠浅	
J-11- 21	源武	早来源武	
J-11- 31	遠浅5	早来遠浅	
J-11- 32	新栄1	早来新栄	
J-11- 33	遠浅6	早来遠浅	
J-11- 35	遠浅7	早来遠浅	
J-11- 37	富岡1	早来富岡	
J-11- 38	富岡2	早来富岡	
J-11- 39	ニッタッポロ1	早来北進	
J-11- 41	新栄2	早来新栄	
J-11- 42	源武12	早来源武	
J-11- 43	源武13	早来源武	
J-11- 44	源武14	早来源武	
J-11- 45	源武チャシ跡	早来源武	
J-11- 62	富岡4	早来富岡	
J-11- 63	富岡5	早来富岡	
J-11- 64	富岡6	早来富岡	
J-11- 65	源武15	早来源武	
J-11- 69	富岡7	早来富岡	
J-11- 72	東早来3	東早来	
J-11- 78	源武16	早来源武	
J-11- 79	源武17	早来源武	
J-11- 80	北町1	早来北町	
J-11- 81	北町2	早来北町	
J-11- 82	新栄3	早来新栄	
J-11- 82	フモンケ	早来富岡	
J-11- 83	富岡湯ノ沢	早来富岡	

※報告欄については市内のみ、西暦下二桁で報告年度を示した。報告書は項目末に記載
※セは(公財)北海道埋蔵文化財センターの略

表Ⅱ-1 周辺遺跡一覧

登載番号	遺跡名	所在地	標高	立地	現海岸線からの距離	主な時期	調査成果等
J-02- 48	高丘A遺跡	高丘6-47	標高9m	頓内川右岸の台地末端	3.1km	アイヌ	昭和39年、造成のために運んだ土砂中にアイヌ文化期の刀子、銅などが発見
J-02- 49	高丘B遺跡	高丘6-47	標高12m	同上	3.6km	縄文(前)(中)(後)(晩)続縄文(前半)、擦文	昭和42年、発掘調査により焼土2基、静内中野式をはじめ縄文前期から続縄、擦文までの遺物が出土
J-02- 50	高丘C遺跡	高丘6-1	標高10m	同上	4.1km	縄文、擦文、アイヌ	昭和39年、大場利夫博士を招いた調査で擦文の住居跡の一部を検出
J-02- 51	高丘D遺跡	高丘6-1	標高10m	同上	3.8km	縄文(中)	表面採取
J-02- 218	高丘E遺跡	高丘6-51.8-1-3	標高10m	同上	3.5km	縄文(前)(中)	平成2年、発掘調査により縄文中期の土坑1基、焼土2基が出土
J-02- 227	高丘F遺跡	高丘8-2	標高30m	同上	3.2km	縄文	表採:石器などの石器
J-02- 228	高丘G遺跡	高丘10-1	標高30m	同上	3.3km	縄文	表採:たたき石などの石器
J-02- 286	**高丘6遺跡**	**高丘41-1・18**	**標高50m**	**台地上**	**4.3km**	**縄文(前)(中)(後)**	**本調査及び平成30年調査**
J-02- 52	緑ヶ丘A遺跡	高丘41-1	標高20～30m	苫小牧川左岸の台地末端	2.9km	続縄文(前半)、アイヌ	昭和41年、大場利夫博士を招いた調査で続縄文、アイヌ文化期の土坑墓9基、恵山式をはじめ続縄、アイヌ文化期の遺物出土
J-02- 53	緑ヶ丘B遺跡	高丘41-1	標高30～35m	同上	2.7km	縄文(中)(後)(晩)	表採:土器、石鏃・掻器・すり石・石皿、石棒
J-02- 57	坊主山遺跡	高丘55-1	標高20m	苫小牧川右岸の台地末端	2.3km	縄文(後)(晩)	表採:石鏃、石斧、たたき石
J-02- 236	坊主山2遺跡	高丘55-1	標高20m	同上	2.2km	縄文(前)	石鏃、礫
J-02- 85	有珠川2遺跡	高丘56-159・160・161・190・218・220・221・229	標高13～22m	有珠川左岸の台地上	3.6km	縄文(早)(中)(後)	昭和53年、道教委の調査で縄文早、中期の住居跡、T.ピット、土坑、焼土を検出、縄文早中後期の遺物出土、Ⅲ B層の調査で土坑を検出、縄文早期前半の遺物出土
J-02- 198	有珠川3遺跡	高丘55-1	標高15～20m	有珠川左岸の南にのびる樹枝状台地の西斜面	2.9km	縄文(前)	静内中野式土器片　礫
J-02- 201	有珠川4遺跡	高丘56-1	標高20m	有珠川左岸、南西に張り出した丘陵先端	3.8km	縄文	つまみ付きナイフ
J-02- 202	有珠川5遺跡	高丘56-1	標高20m	有珠川左岸の西に張り出した台地先端部	4km	縄文(早)(中)	平成19年調査　報告書縄文早期　中期遺構遺物出土
J-02- 203	有珠川6遺跡	高丘56-1.63-3・4	標高18m	有珠川左岸、独立した丘陵	4km	縄文(中)(晩)	土器・石片
J-02- 204	有珠川7遺跡	高丘56-1	標高20m	有珠川左岸の台地上西縁	4.5km	縄文(中)、縄文(晩)	土器、石器、剥片、礫
J-02- 205	有珠川8遺跡	高丘56-1	標高25～30m	有珠川左岸の南北に伸びる台地の西側先端部	4.8km	縄文(早)(中)(晩)	試掘　土器、石器、剥片、礫
J-02- 46	明野1遺跡	高丘98-1・7-9	標高15～20m	勇払川右岸の台地末端	5.6km	縄文(前)	表採:縄文前期土器
J-02- 47	明野2遺跡	高丘98-5	標高30m	同上	5.9km	縄文(中)	表採:縄文中期土器、石鏃、石核、たたき石
J-02- 188	明野3遺跡	高丘140	標高17m	同上	6.1km	縄文(前)(中)(晩)	表採:縄文前、中、晩期土器、石器、剥片、礫
J-02- 189	明野4遺跡	高丘140	標高29m	同上	6.3km	不明	表採:剥片

※時期や調査成果等は道教委ホームページ「北の遺跡案内」に基づく

表Ⅱ-2 「高丘」地区の遺跡一覧

表Ⅱ-1　註
※1
道教委 1977　美沢川流域の遺跡群Ⅰ
道教委 1978　美沢川流域の遺跡群Ⅱ
道教委 1979　美沢川流域の遺跡群Ⅲ
道埋文 1980　美沢川流域の遺跡群Ⅳ　北埋3
※2
道教委 1978　美沢川流域の遺跡群Ⅱ
※3
道教委 1977　美沢川流域の遺跡群Ⅰ
道埋文 1980　美沢川流域の遺跡群Ⅳ　北埋3
道埋文 1988　美沢川流域の遺跡群XⅡ　北埋 58
道埋文 1989　美沢川流域の遺跡群XⅢ　北埋 62
道埋文 1990　美沢川流域の遺跡群XⅣ　北埋 69
道埋文 1993　美沢川流域の遺跡群XⅦ　北埋 89
※4
道埋文 1986　ペンケナイ川流域の遺跡群Ⅰ　北埋 35
道埋文 1987　ペンケナイ川流域の遺跡群Ⅱ　北埋 44

特に美々川低地周辺には千歳市にまたがる美沢川流域の遺跡群など大規模な遺跡群が知られている。

また勇払北部台地を構成する台地群では、柏原台地・厚真台地・静川台地の縁辺に遺跡が集中している。苫小牧東部工業地帯の建設に伴い、昭和51年から59年にかけて数多くの調査が行われ、中には縄文中期の環濠を有する静川遺跡（国指定史跡）なども含まれている。

また、市内及び周辺には縄文海進の痕跡を示す縄文前期の遺跡が数多く分布するのも特徴である。厚真台地の静川22、美々川低地に面した美沢４、遠浅台地上の植苗貝塚、静川台地上の柳館貝塚などがあり、中でも美々川低地奥に位置する美々貝塚の存在は、現在の海岸線から約17km内陸にまで当時の海岸線が及んでいたことを物語る。

４　高丘地区の遺跡と立地

（１）高丘地区の地形概要（図Ⅰ-１）

高丘地区周辺は市内北西の樽前山を背にして、標高20～50mの台地が尾根筋状に細長く南東方向にのびている。台地と低地との接線は比高数mの崖線または緩やかな傾斜になっている。さらに北西から南東に流れる河川や沢に、北東から南西に流れる小さな沢が流れ込み、台地を複雑な樹枝状に刻み込んでいる。高丘地区は、北は勇払川右岸から幌内川・苫小牧川をはさんで、南の有珠川左岸までの範囲のほぼ台地上にあたる。

（２）高丘地区の遺跡（表Ⅱ-２）

高丘地区（字高丘）には23か所の埋蔵文化財包蔵地が知られ、高丘の名を冠した高丘A～Gの７遺跡は国道276号の東側、幌内川右岸の台地末端部上に集中して立地する。標高は10～25mで、周辺は住宅街などの造成により地形改変が進んでいる。

緑ヶ丘A（52）、B（53）遺跡は国道276号の西側で、苫小牧川左岸の広大な湿地に面した台地末端に立地する。坊主山遺跡（57）、坊主山２遺跡（236）は苫小牧川右岸の台地末端に立地し、坊主山２遺跡は有珠川左岸にもあたる。有珠川２～８遺跡は有珠川左岸の台地上西縁に立地する。有珠川２遺跡（85）は昭和53年に発掘調査がなされた（下記（３））。明野１～４遺跡（46・47・188・189）は勇払川右岸の台地末端に集中する。この対岸にあたる植苗３遺跡（84）は昭和53年に発掘調査がなされた（下記（３））。

（３）道央道建設に伴う発掘調査（図Ⅱ-１）

道央道建設に伴って行われた苫小牧市内の調査は本調査を含めた５か所で、昭和50年の植苗１遺跡（77）・植苗２遺跡（78）、昭和53年の有珠川２遺跡・植苗３遺跡である。

植苗１遺跡は遺物の出土がなく、大小100余のピットを検出した。植苗２遺跡も遺物の出土がなく、土坑５基を検出した（北海道1975）。　有珠川２遺跡はⅠB層で土坑10基、ⅡB層で住居跡３軒、Tピット９基、土坑13基、焼土25か所を検出した。遺物は縄文早・中・後期のものが出土した。ⅢB層では土坑３基を検出し、縄文早期前半の土器・石器が出土した。植苗３遺跡（84）は住居跡２軒、土坑３基、焼土10か所を検出し、縄文中期の遺物が出土した。

（４）遺跡周辺の現況

遺跡は高丘森林公園内にある。森林公園は樽前山の裾野にあたる216.60haの丘陵地である。植生は広葉樹天然林に、二次林、針葉樹人工林が加わる。動物は、エゾシカが調査区を横切るほど多く見られた。越冬のために日本海側から雪の少ない太平洋側に移動するため、その経路にあたる苫小牧には特に多く見られる。明治期の美々缶詰所遺跡（71）（開拓使美々鹿肉缶詰製造所跡）の調査や、市内の静川22遺跡や弁天貝塚などで骨が多く出土している。

第Ⅲ章　発掘調査及び整理の方法

1　発掘区の設定

（1）調査区の位置と範囲（図Ⅲ-1）

調査区の範囲は試掘調査の結果に基づき、平成28年度苫小牧中央インター線（仮称）地道債（交安）工事実施設計平面図（北海道胆振総合振興局　室蘭建設管理部作成）に示されたものである。さらに現地確認・協議などを重ね、特に層厚２m以上に及ぶ火山灰の法面の扱いなどを考慮した結果、現在の範囲である6,471㎡に至った。

範囲は２か所あり、高速道路本線北側のA-1、Cランプ建設範囲内をA地区（4,272㎡）、本線南側のBランプ建設範囲内をB地区（2,145㎡）とした。平面直角座標でA地区はX＝－148134～－148222、Y＝－54331～－54473, B地区はX＝－148250～－148337、Y＝－54250～－54305の範囲にある。A地区とB地区間は最短で95mを測る。

（2）発掘区の設定と測量成果

発掘区（グリッド）はA・B両地区を含めた範囲で設定し、道央自動車道の道路中心線を基準として用いた。STA173を基点に、STA175を方向とした直線を横軸の基線とした。縦軸は横軸と直交し、基点STA173を通る直線を基線とした。発掘区は４mの正方形を基本とした。その呼称は縦軸が、基点STA173が０で東に向かって数えるとし、A地区が０～33、B地区が29～46となった。横軸は各地区の範囲にあわせて設定した。A地区はアルファベットの大文字を用いて北からC～V、B地区は小文字を用いて北からb～uとなった。各発掘区については「C８」のようにアルファベット、数字の順に組み合わせた名称とした。

座標			
	STA173（基点）	X=-148266.2989	Y=-54446.5646
（世界測地系　12系）	STA175（方向）	X=-148205.7383	Y=-54256.0751

現地では測量を行い、A地区では既設の４級基準点２か所を用いて、B地区では４級基準点を２か所新設して行った。水準測量は両地区毎に１か所仮BMを設置した。これに基づき各発掘区については20m毎に水準を伴う基準杭と、４m毎に方眼杭を各区の北西角に打設した。

A地区4級基準点	30-13	X=-148147.524	Y=-54423.562
	30-14	X=-148105.914	Y=-54434.002
B地区4級基準点（新設）	TB1	X=-148273.639	Y=-54252.047
（世界測地系　12系）	TB2	X=-148306.842	Y=-54266.751

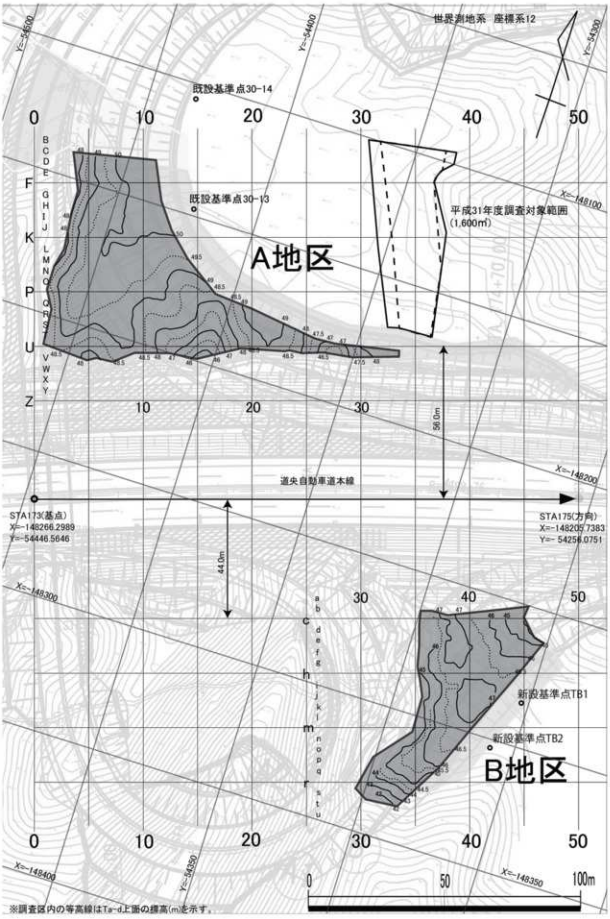
2　発掘調査の方法

（1）調査経過

発掘調査は調査員３名、運転技能作業員５名、発掘作業員41名の体制で６月３日から開始し、A地区から先に着手した。

A地区では、先に表土除去を終えた北西部分を調査した。７月上旬に作業を終え、引き続きB地区の調査に着手、８月末にはA地区北側において道教委による遺構確認調査があり、Tピット４基を確認した（TP-12～15）。

B地区では９月中旬からⅢB層の調査を行い、９月末に作業を終えた。調査中の９月４日には台風21号、９月６日には北海道胆振東部地震があり、作業の一時中止を余儀なくされた。進入路への倒木


世界測地系 座標系12
既設基準点30-14
既設基準点30-13
A地区
平成31年度調査対象範囲
(1,600㎡)
道央自動車道本線
STA173(基点)
X=-148266.2989
Y=-54446.5646
STA175(方向)
X=-148205.7383
Y=-54254.0751
38.0m
44.0m
新設基準点TB1
新設基準点TB2
B地区
X=-148100
X=-148200
X=-148300
X=-148400
X=-148350
Y=-54400
Y=-54350
0
50
100m
※調査区内の等高線はTP-d上面の標高(m)を示す。

図Ⅲ-1　発掘区の設定

や調査区の法面が一部崩れるなどの影響もあった。

９月末からA地区の残りの南東部分に着手し、重機による表土除去と並行して作業を行った。途中、10月末にB地区北側の拡張部分（鹿柵撤去範囲）で調査を行った。A地区での作業は11月中旬にⅢB層の調査を開始し、11月20日に全ての作業を終えた。

（２）遺物包含層調査

包含層調査はTa-c下の腐植質黒色土層（第Ⅱ黒色土層：ⅡB層）を対象とし、一部樽前d火山灰下の第Ⅲ黒色土層（ⅢB層）を対象とした。

【重機による作業】

表土及びTa-bからTa-cまでの火山灰除去を重機を用いて行った。途中ⅠB層の上面・中間・底面では遺構、遺物の確認を行った。調査対象のⅡB層上面に至るまで３m以上の深さとなり、法面には安全上充分な傾斜が必要となった。

【人力による作業】

ⅡB層上面以下は人力作業となった。最初にTa-cの除去とⅡB層上面の精査をスコップ・ジョレンを用いて行った。完了後に基準杭・方眼杭の打設、地形測量、写真撮影を行った。

掘削はグリッド毎に１回の深さ約５cmを基本にした。土質や遺物の出土状況に応じてスコップ・ジョレン・移植ごてを用いて行った。遺物は各回に出土状況を確認したうえで取り上げを行い、土器・石器・礫に分けて袋詰めをした。また、袋書きには掘り下げの回数を記載した。

ⅢB層の調査は、Ta-dをスコップ・ジョレン、ⅢB層は移植ごてにより黄褐色ローム層まで掘り下げた。部分的に黄褐色ローム層をスコップ・ジョレンにて30cm掘り下げたところもある。

（３）遺構調査

遺構はⅡB層下部からTa-d1の上面で精査し、検出作業を行った。ⅢB層の調査では黄褐色ローム層上面で検出作業を行った。遺構の範囲確認後、移植ごてを用いてトレンチまたは半截などにより掘削を行った。覆土の土層断面を図・写真などで記録した後、底面・壁面等を検出し全体を掘り上げた。掘り上げ後には平面図・エレベーションの作成及び写真撮影を行った。

遺構内の出土遺物については出土状況を確認し、遺物出土状況図を作成し、一点ずつ取り上げたものもある。これ以外は覆土の層位毎に取り上げた。

また現地では、焼土や炭化物集中などの遺構について遺存状態により土壌サンプルを採取したところがある。その殆どについてフローテーション作業を行い、炭化木片などの炭化物・土器・石器片・獣骨片などの微細遺物を回収した。内容についての詳細はⅥ章に記載した。

（４）調査完了と地形測量

調査はTa-d1層上面を最終面として完了し、A・B両地区全体で地形測量を行った。またⅢB層の調査では黄褐色ローム層まで掘り下げ、その上面で単点測量を行った。

３　整理作業の方法

（１）現地調査の記録整理（図面・写真）

現地調査において作成された記録類には実測図と写真がある。

実測図には、平面図や土層断面図を含む遺構図、遺物についての出土状況図、基本土層や調査区全体にわたる土層断面図、ⅡB層上面や最終面についての地形測量図がある。これらは全て「原図」として整理し、パソコン上でTIFF形式のデータ化を行った。このデータを基にAdobe IllustratorCCを用いて素図の作成からトレース、報告書印刷の版下作成までを行った。

現地での写真撮影はデジタルカメラを主に、一部ブローニーサイズのカメラを用いて行った。機材はデジタル一眼レフカメラNIKON D5500を主にMamiya社製のRZ67PROⅡを補助的に用いた。また高所撮影のために、デジタルカメラSony Cyber-shotRX0と高所撮影用のポールBi-Rod6C-7500setを組み合わせて用いた。

（２）出土遺物の整理

【一次整理】

取り上げた遺物については現地で水洗、乾燥後に袋詰めを行い、点数などを記載した取り上げ台帳を作成した。現地調査終了時に当センターの整理作業所に移動し、一次分類及び注記作業を行った。

注記は下記の要領で行った。

遺構出土遺物	遺跡名＋地区名			遺構名		層位		遺物番号
	タカ８	A	・	P-1	・	フク土	・	1
包含層出土遺物	遺跡名＋地区名			グリッド		層位		遺物番号
	タカ８	B	・	h20	・	ⅡB２	・	10

【二次整理】

土器、石器、礫、自然遺物にわけて作業を進めた。

土器は注記後に接合作業を行った。この内全体の器形がわかるものや、特徴的な模様などを伴うものを抽出し、接着・補強または復元作業を行った。

復元土器については実測図を作成し、トレース後にスキャナーでパソコンに取り込み、TIFF形式のデータ化を行った。また抽出した破片資料については拓本を採り、断面実測とあわせて資料化を行った。拓本は実測図同様にTIFF形式のデータ化を行い、Adobe IllustratorCCで断面図と組み合わせた挿図版下を作成した。

石器については注記後、器種毎に分類し、特徴を代表するものを抽出して実測図を作成した。トレース後にTIFF形式のデータ化を行い、挿図版下を作成した。また、礫については注記後、石材別に分類し、特に扁平円礫・礫片を抽出した。その後接合作業も行った。

掲載遺物の撮影はHasselblad H3DⅡを使用し、撮影した3FR RAWデータはPhocusでTIFFに変換した。写真図版はAdobe PhotoshopCCで加工し、１ページごとにPSD形式で作成して入稿した。

（３）記録類・遺物の収納保管

現地作成の原図類は図面番号を付して整理し、一覧表とともに図面ケースに保管した。TIFF形式などのデータ類はポータブルハードディスクに保存した。写真はすべてデジタルデータで、撮影時（TIFF、RAW）のSDカードを残し、TIFF、RAW、JPEGデータをポータブルハードディスクに保存した。

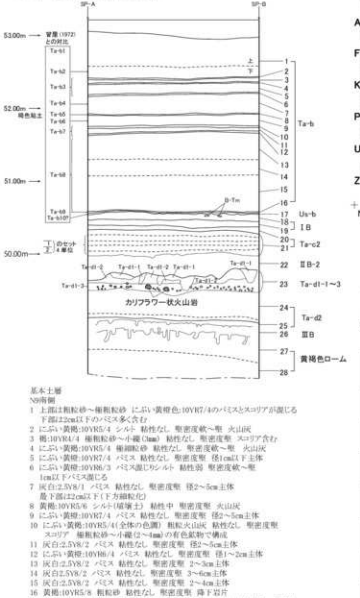
遺物は報告書掲載遺物と、その他の遺物に分けて収納した。掲載遺物は、個別に掲載図番号・掲載図を付してプラスチックコンテナ（59×35×15cmサンボックス製36-２B）に収納した。その他の遺物については報告書名・遺構，包含層の別・分類内容などを明記し同コンテナに収納した。コンテナの側面には遺跡名・地区名・報告書名・分類名・収納番号を記したラベルを貼り、収納台帳を作成した。

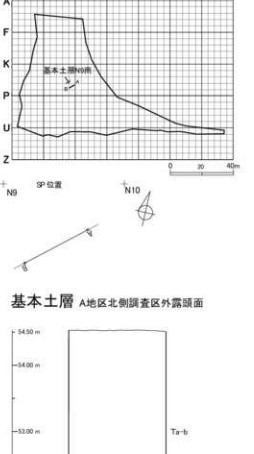
これらの記録類の一部、遺物は報告書刊行後に苫小牧市に移送し、苫小牧市教育委員会の所有・保管となる。また写真、図面の記録類などについては北海道立埋蔵文化財センターの所有・保管となる。

４　分類等の基準

（１）基本土層（図Ⅲ-２）

土層の区分については、市内周辺遺跡に係る従来の区分に現地での観察を比較した結果を整理し





基本土層
N9南側
1 上部は粗粒砂～極粗粒砂 にぶい黄橙色(10YR7/4)のパミスとスコリアが混じる
下部は2cm以下のパミス多く含む
2 にぶい黄橙(10YR5/4 シルト 粘性なし. 堅密度軟～堅 火山灰
3 褐(10YR4/4 極粗粒砂～小礫(3mm) 粘性なし. 堅密度堅 スコリア含む
4 にぶい黄橙(10YR5/4 極細粒砂 粘性なし. 堅密度軟～堅 火山灰
5 にぶい黄橙(10YR7/4 パミス 粘性なし. 堅密度堅 径1cm以下主体
6 にぶい黄橙(10YR6/3 パミス混じりシルト 粘性弱 堅密度軟～堅
1mm以下パミス混じる
7 灰白(2.5YR8/1 パミス 粘性なし. 堅密度堅 径2～5cm主体
基下部は2cm以下(下方細粒化)
8 黄橙(10YR5/8 シルト(凝縮土) 粘性中 堅密度堅 火山灰
9 にぶい黄橙(10YR7/4 パミス 粘性なし. 堅密度堅 径2～5cm主体
10 にぶい黄橙(10YR5/4(全体の色調) 粗粒火山灰 粘性なし. 堅密度堅
スコリア 極粗粒砂～小礫(2～4mm)の有色鉱物で構成
11 灰白(2.5YR8/2 パミス 粘性なし. 堅密度堅 径2～5cm主体
12 にぶい黄橙(10YR6/4 パミス 粘性なし. 堅密度堅 径1～2cm主体
13 灰白(2.5YR8/2 パミス 粘性なし. 堅密度堅 2～3cm主体
14 灰白(2.5YR8/2 パミス 粘性なし. 堅密度堅 3～6cm主体
15 灰白(2.5YR8/2 パミス 粘性なし. 堅密度堅 2～4cm主体
16 黄橙(10YR5/8 粗粒砂 粘性なし. 堅密度堅 降下岩片
17 オリーブ黒(5Y3/2 極細粒砂 粘性中 堅密度軟～堅 Us-b(層厚1cm程度)
18 黒(10YR1.7/1 凝縮土 粘性やや強 堅密度軟～堅 Ⅱ B層
19 黒褐(10YR2/2 凝縮土 粘性やや強 堅密度軟～堅 Ⅱ B層下部
Ta-c1が混じった腐植土
20 褐(10YR4/4 粗粒砂 粘性弱 堅密度堅 Ta-c2? 粗粒火山灰
21-2 黄褐(10YR5/6 パミス 粘性弱 堅密度堅 極粗粒砂 有色鉱物含む
21-1 黄褐(10YR5/6 パミス 粘性弱 堅密度堅 1～2cm主体
22 黒(10YR1.7/1 凝縮土(シルト) 粘性やや強 堅密度軟～堅 Ⅱ B層
2～5mmの黄褐色粘土粒子含む
23 Ta-d1-2 褐(10YR4/3 砂礫土 粘性弱 堅密度堅 2～10mmのパミスに
火山ガラス(ガラス質)が見てとれる
23 Ta-d1-1,黒褐(10YR2/2 凝縮土 粘性中 堅密度軟～堅
Ⅱ B(Ta-d1-2含mm程度)のTa-d1-2??を含む 火山灰土(層移動)
24 赤褐(2.5YR4/8 降下軽石 粘性強 堅密度堅 径1～3cm 上部は2～3cm主体
下部(点線以下)は1cm主体Ta-d2
25 赤褐(2.5YR4/8 降下軽石 粘性弱 堅密度堅 Ta-d2 赤褐色パミス(1～5mm)に
粗粒砂サイズの炭粉含む
26 黒(10YR2/1 凝縮土 粘性やや強 堅密度軟～堅 下部は根根あり(生きた木根あり)
27 黄褐(10YR5/6 凝土 粘性中 堅密度軟～堅 径1mmの岩片10%含む 黄褐色ローム
28 黄褐(10YR5/6 凝土 粘性中 堅密度堅 径2～4cm/Hle-a2%含む 黄褐色ローム

基本土層 A地区北側調査区外露頭面
1 オリーブ褐(2.5Y4/4 砂礫土 粘性弱 堅
2 にぶい黄褐(10YR4/3 粗礫土 粘性弱 1cm大の炭化物1%含む
3 明黄褐(10YR6/6 砂礫土 粘性弱 堅 遷元された土
4 褐(10YR4/4 砂礫土 粘性弱 堅 10cm大のパミス少量含む
5 褐(10YR4/6 砂礫土 粘性弱 堅 テフラ?
6 褐(10YR4/6 砂礫土 粘性弱 堅 1～3cmのパミス40%含む

図Ⅲ-2　基本土層

た。土層断面図の作成はA地区N９区の南側断面とA地区北側調査区外の露頭面で行った。

【現地表土】　調査区内ではすでに見られなかったが、周辺の公園内にはわずかな腐植土の堆積が見られた。森林土壌のため、腐植土の発達に乏しいと考えられる。

【樽前a降下軽石層】」(Ta-a)　1739年に噴火した樽前山の火山噴出物層で、調査区内では確認されなかった。南西3.5kmに位置する有珠川５遺跡の調査では層厚10cmで確認されている(苫小牧市2008)。

【樽前b降下軽石層】(Ta-b)　1667年に噴火した樽前山の火山噴出物層で、本調査区内で最も厚い、層厚約2.5mの堆積である。現地観察では16層に細分することができた。

【有珠b降下軽石層】(Us-b)　1663年噴出の有珠山起源の火山灰で、層厚１cmの堆積を確認した。

【第Ⅰ黒色土層】(ⅠB層)　約2000年前から1667年までに発達した黒色土層で、層厚約15cmである。下部のTa-cを含んだ堆積と細分することができた。

【樽前c降下軽石層】」(Ta-c)　約2000年前に降下した樽前山の火山噴出物層で、層厚は約30cmである。上層の降下軽石層（Ta-c1)、下層の岩片主体の層（Ta-c2）とに分けられた。

【第Ⅱ黒色土層】(ⅡB)　約8000～2000年前、縄文時代早期～晩期の遺物包含層。今回の調査対象で、層厚は25～40cmである。

【樽前d降下軽石・スコリア層】(Ta-d)　約8000年前降下の樽前火山噴出物層で、上層のTa-d1（パミス・岩片主体）と下層のTa-d2（パミス・明赤褐色スコリア主体）に分けられるが、さらに現地観察ではTa-d1が３層、Ta-d2が２層に細分された。層厚はTa-d1が10～20cm、Ta-d2が約40cmである。

【第Ⅲ黒色土層】(ⅢB)　約8000年前まで発達した黒色土で、縄文時代早期の遺物包含層とされる。今回A・B両地区で一部調査を行った。層厚は約10cmである。

【黄褐色ローム層】　ローム質土層で、恵庭a降下軽石（En-a）を含む。市内美沢地区ではこの下に恵庭a降下軽石層が続くため、ロームはこれに由来すると考えられている。A地区北側の露頭では約1.5mの厚い堆積になった。なおローム層中出土の炭化物について年代測定を行ったところ30,800±140yrとの結果を得た（表Ⅵ-１）。

【支笏火砕流堆積物】」(Spf1)　およそ3.1～3.4万年前に支笏カルデラ噴出のテフラを構成する。現地観察では黄褐色ローム層下に位置し、上層が黄褐色、下層が淡桃色で10cm大の木屑状の軽石を含む。

（２）土層の観察・分類

土層の分類(分層)にあたっては、色調・土性・粘性・堅密度・含有物について観察し、記録した。

【土色】　農林水産省監修　標準土色帖に基づき、色相、明度／彩度の順に例、7.5YR4/2（灰褐）のように表現した。

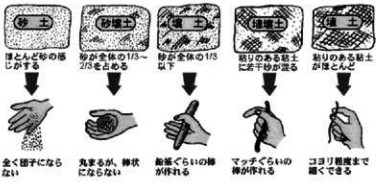
【土性】　土壌中の砂・シルト・粘土の割合で土の特性を示す。

埴土（C）　粘土に富む土

壌土（L）　粘土・シルト・砂が混ざった土（ローム）

砂土（S）　砂に富む土

【面積割合・粒状構造】　土壌内の含有物の占める割合と、大きさについての目安として標準土色帖のチャート図１：面積割合と、図２：粒状構造　を用いて表現した。



土性の分類モデル　※1

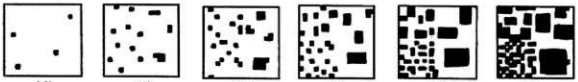


図1　面積割合　CHARTS FOR ESTIMATING PROPORTIONS OF MOTTLES AND COARSE FRAGMENTS

面積割合と粒状構造　※2

※縮尺不同

（3）遺構

遺構の種類と名称については次のような分類を行った。

【盛土遺構】(M)　ⅡB層中に多数の遺物を含む、掘り上げ土状の二次堆積物の範囲を盛土遺構とした。また斜面堆積の可能性があるが、多数の遺物を含む範囲もこれに含めた。

【土坑】(P)　覆土が自然堆積のもの、人為的に埋積されたものも含めて、Tピットまたは柱穴状のものを除く全てを一括した。

【Tピット】(TP)　溝状、小判形などの形状から落し穴として用いられたと考えられる土坑（Ⅶ章で細分を行った）

【焼土】(F)　その場で火を焚いた跡、または焼土を持ち込んだ跡。不明瞭なものが多い

【遺物集中】(C)　土器、石器、礫のそれぞれが集中して出土した範囲。

【溝状遺構】(D)　性格不明の溝状の掘り込み

【掘り上げ土】(DU)　伴う遺構が複数、または特定できなかった掘り上げ土・再堆積土。

【炭化材・炭化物集中】(CB)　焼土を伴わない、炭化物粒の集中や炭化材・炭化木片の分布、人為的でない可能性のものも含まれる。ⅢB層調査で検出された炭化物集中もこれに含めた。

【柱穴状小ピット】(SP)　ⅢB層調査で検出された径10cm前後の小ピット。

（4）遺物

【土器】　当センターの分類基準に基づき、時期別にⅠ群（縄文早期）、Ⅱ群（前期）、Ⅲ群（中期）、Ⅳ群（後期）、Ⅴ群（晩期）、Ⅵ群（続縄文）、Ⅶ群（擦文）とした。

今回遺物が出土したⅡ群、Ⅲ群、Ⅳ群についてはⅡ群a（前半）・b（後半）類、Ⅲ群a（前半）・b（後半）類、Ⅳ群a（前葉）・b（中葉）・c（後葉）類 を用いた。

既知の土器群、型式名称については、Ⅱ群a-2類（縄文前期前半）に相当する「静内中野式」、Ⅲ群b類（縄文中期後半）に相当する「天神山式」、「柏木川式」、「北筒式」を用いたところがある。

部位については基本的に口縁部・胴部・底部に分類し、口唇のない口縁部や、底面のない底部などを口縁付近・底部付近とし、集計時には口縁・底部に含めた。

【石器】　器種別に剥片石器と礫石器とに大別した。

剥片石器は石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ（石匙）・スクレイパー・U,Rフレイク・石核・剝片・原石、礫石器は石斧・石斧原石・たたき石・すり石・扁平打製石器・石錘・砥石・台石石皿に分類した。

さらに、その残存状態から、完形・一部欠損・部分欠損・部分片に分類した。

【礫】　加工痕や被熱の有無、円礫・角礫・扁平礫などの形状、完形か破片かの残存状態で分類した。

また、石器、礫については石材別に分類した。火成岩の黒曜岩（石）・安山岩・玄武岩、堆積岩の砂岩・泥岩・緑色泥岩・頁岩・珪質頁岩・チャート、変成岩の片岩・片麻岩・珪岩などを肉眼観察により分類した。

第Ⅳ章　A地区の遺構と遺物

1　概要

（1）地形（図Ⅳ-1～4　図版1・2）

調査区は「L」字状で南北に長く幅の広い縦軸と、東に向かって長く細くなる横軸からなる。縦軸の殆どは丘陵尾根の中心が広く張り出した平坦面で、西側谷部にかけて一部急斜面となる。横軸には尾根を開析し、南に流れる沢地形が3か所入り込むため、北側に比べると起伏に富む地形になる。

（2）遺構（図Ⅳ-1・2～26　図版3～17　表Ⅶ-1）

遺構は土坑2基、Tピット29基、焼土7か所、溝状遺構1条、遺物集中1か所、掘り上げ土11か所、炭化材・炭化物集中8か所である。分布は沢や谷部周辺などの斜面部に多く、丘陵上部の平坦面には少ない。

土坑は小規模なもので、調査区北西と中央南側の斜面部で検出された。Tピットは調査区全体に分布するが、北西側と中央南側の斜面部付近に集中する傾向がある。また調査区外北西側の遺構確認調査範囲で4基検出された。焼土は全て調査区南側で検出された。中でも西端に広範囲なまとまりが見られる。溝状遺構は調査区北西の1か所のみで調査区外、遺構確認調査範囲まで延びている。遺物集中は小規模な黒曜石の剥片集中で、調査区西端の壁際で確認された。掘り上げ土は調査区中央部の平坦面から中央南部の沢地形にかけて集中する。Tピットに伴うものと思われたが、複数の遺構に伴うかまたは特定できないものを対象とした。炭化材・炭化物集中は、広範囲に分布するが、調査区南西端と南東端に集中が見られた。

遺構の時期はTピット群やこれに伴う掘り上げ土が代表するように縄文時代中期後半が主と考えられる。焼土や炭化物集中などは年代測定の結果により、縄文時代後～晩期の可能性がある。

（3）遺物（図Ⅳ-33～35　図版44・45　表Ⅳ-1・2）

遺物は総点数2,725点で、土器が1,849点、石器が678点、礫が198点である。

土器は縄文後期末の1,722点が最も多いが、一個体と見られるものが1,721点あり、111点出土の縄文中期後半の土器が主な時期として考えられる。

石器は遺物集中から出土した黒曜石剥片529点が最も多く、剥片が588点で最多である。他に石器・石槍・つまみ付きナイフ・スクレイパー・Rフレイク・Uフレイク・石斧・たたき石・石錘・砥石・台石石皿が出土した。石鏃が55点、石斧10点など比較的多く出土したことが本地区の特徴である。

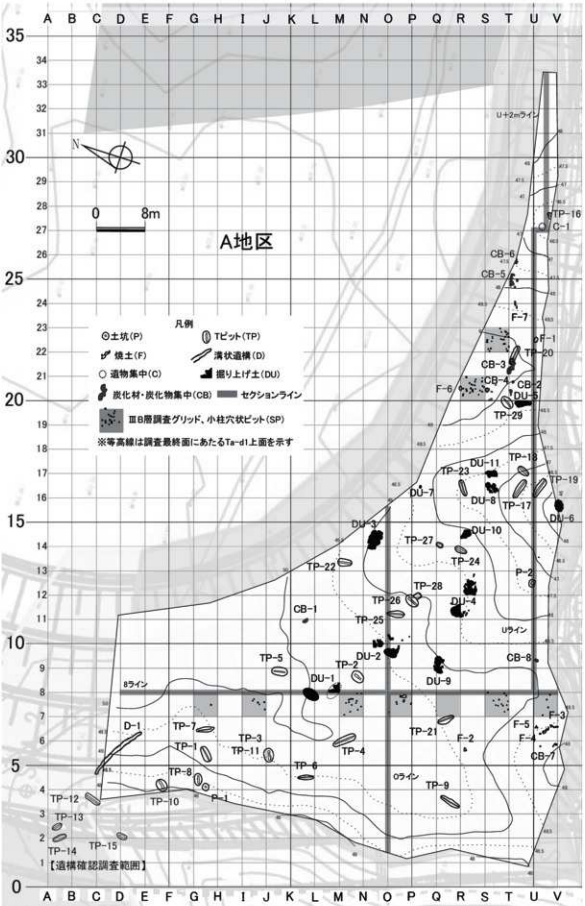
礫は安山岩、片麻岩、砂岩、チャート、泥岩などがある。完形礫は68点でそのうちの18点が円礫、6点が扁平円礫である。円礫の石材はチャートが多く、扁平円礫は片麻岩が殆どである。礫片は130点のうち、円礫が23点、扁平円礫が22点である。円礫の石材は砂岩、片麻岩など様々で、扁平円礫には片麻岩が多い。

（4）ⅢB層の調査（図Ⅳ-27～32　図版18～21　表Ⅶ-1）

ⅡB層の調査後に、尾根筋上の頂部にあたるグリッド8ライン、Sラインに沿ってG7、I7、M7、O7、Q7、S7、U7、R20、S22の9グリッド分144㎡において、ⅢB層を対象にした確認調査を行った。黄褐色ローム層上面で各グリッドあわせて93か所の柱穴状小ピットを確認した。

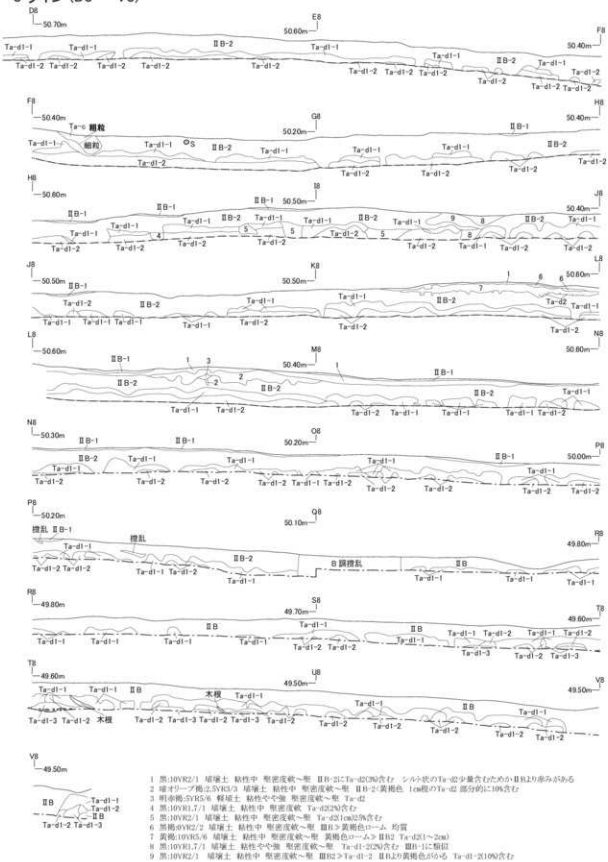
2　遺構

（1）土坑（P）



図Ⅳ-1　A地区遺構位置図

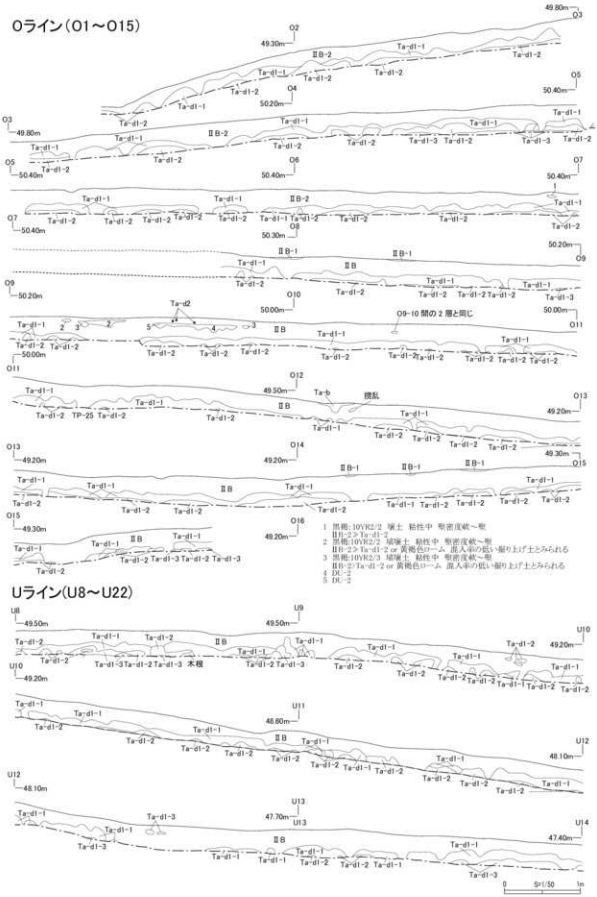
8ライン(D8 ～ V8)



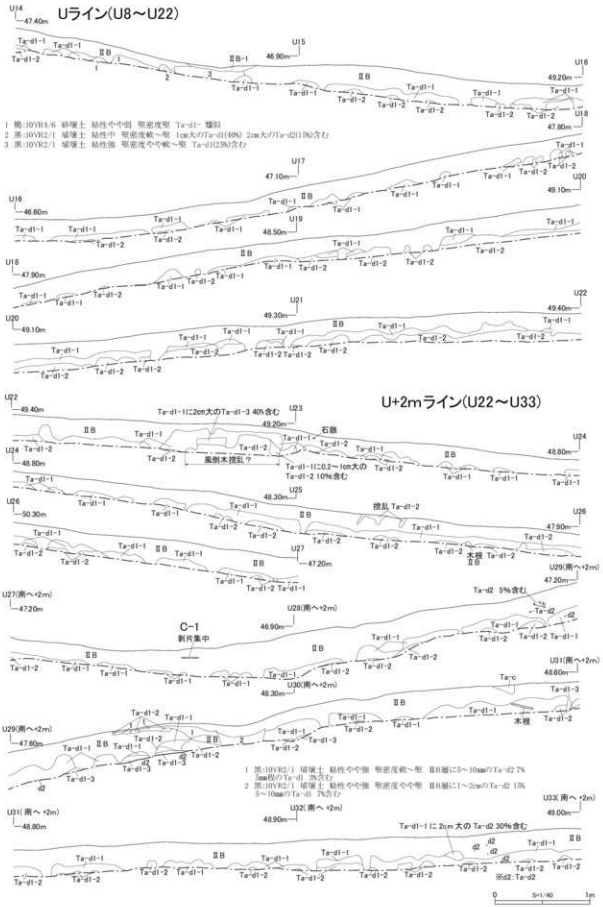
1 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度軟～堅 Ⅱ B-2に Ta-dl2%含む シルト状のTa-dl少量含むため・Ⅱ B上より赤みがある
2 緑オリーブ褐:5YR3/3 堆積土 粘性中 堅密度軟～堅 Ⅱ B>黄褐色 1cm程のTa-dl 部分的に10%含む
3 明赤褐:5YR5/6 軽堆土 粘性やや強 堅密度軟～堅 Ta-dl
4 黒:10YR1.7/1 堆積土 粘性中 堅密度軟 Ta-dl2%含む
5 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-dl 1cm以5%含む
6 黒褐:5YR2/2 堆積土 粘性中 堅密度軟～堅 Ⅱ B>黄褐色ローム 均質
7 黄褐:10YR5/6 堆積土 粘性中 堅密度軟～堅 黄褐色ローム> Ⅱ B2 Ta-dl2(1～2cm)
8 黒:10YR1.7/1 堆積土 粘性やや強 堅密度軟～堅 Ta-dl-2(2%)含む Ⅱ B1-1に類似
9 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度軟～堅 Ⅱ B2>Ta-dl-2 Ⅱ B上の黄褐色がらら Ta-dl-2(10%)含む

0 5M/50 1m

図Ⅳ-2 土層断面図(1)


Oライン(O1～O15)
Uライン(U8～U22)
1 黒褐:10YR2/2 層土 粘性中 堅密度軟～堅
ⅡB-2 Ta-dl-2
2 黒褐:10YR2/2 埴層土 粘性中 堅密度軟～堅
ⅡB-2 Ta-dl-2 or 黄褐色ローム 混入率の低い掘り上げ土とみられる
3 黒褐:10YR2/3 層土 粘性中 堅密度軟～堅
ⅡB-2 Ta-dl-2 or 黄褐色ローム 混入率の低い掘り上げ土とみられる
4 DL-2
5 DL-2
0 S=1/50 1m

図Ⅳ-3　土層断面図(2)


Uライン(U8～U22)
U+2mライン(U22～U33)
C-1
剥片集中
石器
風倒木撹乱？
撹乱 Ta-d-2
木根
Ta-d-1に2cmのTa-d-3 40%含む
Ta-d-1に0.2～1cm大の Ta-d-2 10%含む
Ta-d-1に2cm大の Ta-d-2 30%含む
Ta-d2 5%含む
1 黒:10YR1/6 砂壌土 粘性やや弱 堅密度粗 Ta-d1～ 撹拌
2 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性中 堅密度軟～粗 1cm大のTa-d1(60%) 2cm大のTa-d2(1%)含む
3 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性強 堅密度やや軟～粗 Ta-d1(2%)含む
1 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性やや強 堅密度軟～粗 Ⅱ層に5～10mmのTa-d2 7%
5mm程のTa-d1 3%含む
2 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性やや強 堅密度やや粗 Ⅱ層に1～2cmのTa-d2 15%
5～10mmのTa-d1 7%含む
黒:Ta-d2
S=1/40
1m

図Ⅳ-4　土層断面図(3)

P－1（図Ⅳ-5　図版3-1・2）

位置：G3・4区　調査区北西部に位置し、標高48.5mの急斜面上に立地する。北東にTP-8と近接し、東4mにTP-1、北6mにTP-10がある。

規模：確認面 1.20×1.10 底面 0.30×0.28 最大深さ0.48m　**平面形態**：円形

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1からTa-d2上において円形の褐灰色土の広がりを確認した。【調査】 南側半分を掘り下げて土層断面を確認し、土坑として調査した。【堆積】 覆土は褐灰色土が主体で、底部には壁からの崩落土の堆積があった。【壁・底面】Ta-d1から黄褐色ロームまで掘り込まれている。底面は小さな丸底で、壁は斜面下部以外は緩やかな立ち上がりである。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：時期を特定できる遺物の出土はなかったが、ⅡB層を掘り込んだ土坑であることから縄文時代と考えられる。　（藤井・山中）

P－2（図Ⅳ-5　図版3-3・4）

位置：T12、U12区　調査区中央南部、標高47.3mの東に傾斜する緩斜面上に位置する。

規模：確認面1.26×0.99 底面0.69×0.43 最大深さ0.23m　**平面形態**：楕円形

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1層上面で楕円形の黒色土の広がりを確認した。【調査】半截して調査を行った。【堆積】上部はⅡB層と同様の黒色土（覆土1）が堆積し、下部にはTa-d1が混じる。【壁・底面】坑底は皿状で、壁は斜めに立ち上がる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：覆土の堆積からⅡB層中から掘り込まれたとみられ、縄文時代早～晩期と考えられる。

（鈴木）

（2）Tピット（TP）

TP－1（図Ⅳ-5　図版3-5・6）

位置：G5区 調査区北西部に位置し、標高49～49.5mの緩斜面上に立地する。

西にTP-8、東にTP-7と近接し、西4mにTP-1がある。

規模：確認面2.71×1.27 底面2.60×0.18 最大深さ1.23m　**平面形態**：長楕円形

特徴：【確認】Ta-d1層中で楕円形をした黒褐色土の広がりを確認した。【調査】楕円形の西側をトレンチで掘り下げて、細い溝状であること、覆土の堆積と壁の形状からTピットと判断して調査した。【堆積】覆土の堆積は大きく上中下の3つに分けられた。上層はⅡB層主体の落ち込み堆積、中層はTa-d2、ⅢB、黄褐色ロームの崩落土の堆積で最も厚い。下層は混入の少なく、軟らかく均質な黒色土の堆積である。【壁・底面】Ta-d1から黄褐色ロームまでを掘り込んでいる。短軸上の壁面は、細い底面から緩やかに広がる「V」字形に近い。長軸上は西端が底面に近いオーバーハング、東端は直立に近い。底面は水平で丸底である。

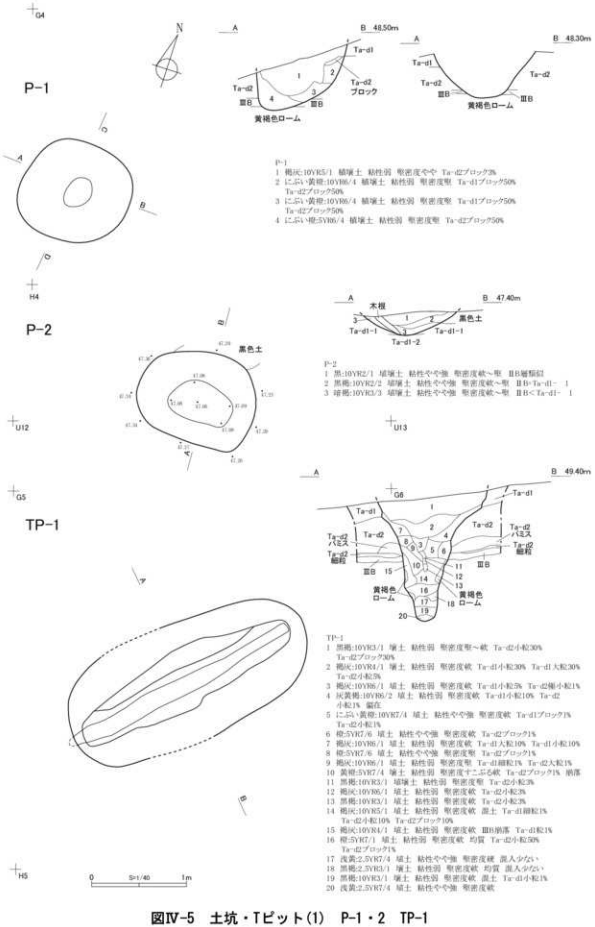
遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構、遺物、近辺の調査事例から縄文時代中期後半の頃と思われる。　（藤井）

TP－2（図Ⅳ-6　図版3-7・8、4-1・2・3）

位置：M8区　調査区西部中央の標高49.7mの平坦面に位置する。長軸は東西方向で、ほぼ単独で分布する。

規模：確認面2.18×1.60 底面1.47×0.29 最大深さ1.20m　**平面形態**：楕円形



図Ⅳ-5　土坑・Tピット(1)　P-1・2　TP-1

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1上面で楕円形の黒色土の広がりを確認した。【調査】短軸方向に半截して掘り下げたところ、壁と坑底を確認し、土層および遺構の形状からTピットと判断した。【壁・底面】短軸断面は坑口が大きく広がる「Y」字状で、上部のTa-d1・2部分は大きく斜めに立ち上がり、ⅢB層と黄褐色ローム層は溝状に60cmほど掘り込まれている。【堆積】下部の溝部はⅡB層とTa-d2が互層となり、上部はⅡB層を中心に上半部にはTa-d1が顕著に混じる。前者は崩落土、後者は自然堆積と掘り上げ土とみられ、下部が側面の崩落によって埋没した後、上部はⅡB層が自然堆積または流入し、その後、Ta-d1主体の掘り上げ土により埋没したものと考えられる。

付属遺構：坑底のほぼ中央の中軸線上には約10cmの間隔をおいて直径4cm、深さ6～10cmの杭穴が3か所検出された（SP-1・2・3）。北側に隣接したL8区にはⅡB層中に掘り上げ土とみられるTa-d2および黄褐色ロームが検出されている（DU-1）。また、8ライン断面などからK7・8、L7、M8・9区にも広がっていたことが確認できた。黄褐色ロームを主体とするものはK7・8区を中心に、Ta-d2・黄褐色ロームの混じった土はL7・8区を中心に分布している。周辺にはTP-2以外にTP-4・5が分布しており、いずれかの掘り上げ土の可能性が高い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。（鈴木）

TP-3（図Ⅳ-6　図版4-4・5・8）

位置：I5、J5区　調査区北側の標高49.5mの斜面上部に立地する。TP-11と重複し、南西5mにTP-6がある。

規模：確認面 2.28×（1.56）底面1.68×（0.27）最大深さ1.11m　**平面形態**：楕円形

特徴：【確認】周辺をTa-d1層まで掘り下げたところ、楕円形をした黒褐色土の範囲を確認した。

【調査】攪乱がなく残りのよい東側半分を残して掘り下げたところ、黄褐色ロームを溝状に掘り込んだ底面と壁の立ち上がりを検出し、その形状からTピットと判断した。【堆積】大きく上、中、下の三層に分けることができた。上層は皿状に黒褐色土の堆積。中層は皿状にTa-d2と黄褐色ロームとの混土と、その下に厚く黒褐色土の堆積からなる。下層はTa-d2主体の混土と均質な灰褐色土との互層からなる。

【壁・底面】短軸上の壁面は下部が短く直立し、上部が広がる「V」字状に近い形、長軸上は下部が直立し、中央部から外に広がる形である。底面はやや太い溝状で概ね平坦である。西側に向かって緩やかに高くなる。底面には更に深い掘り込みが確認され、重複するTピット（TP-11）があると判断した。

付属遺構：底面の中央部に深さ20cmの杭状の穴を1か所確認した。TP-11底面との境近くにあたり、TP-11に伴なう可能性もある。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構、遺物、近辺の調査事例などから縄文時代中期後半と考えられる。（山中、藤井）

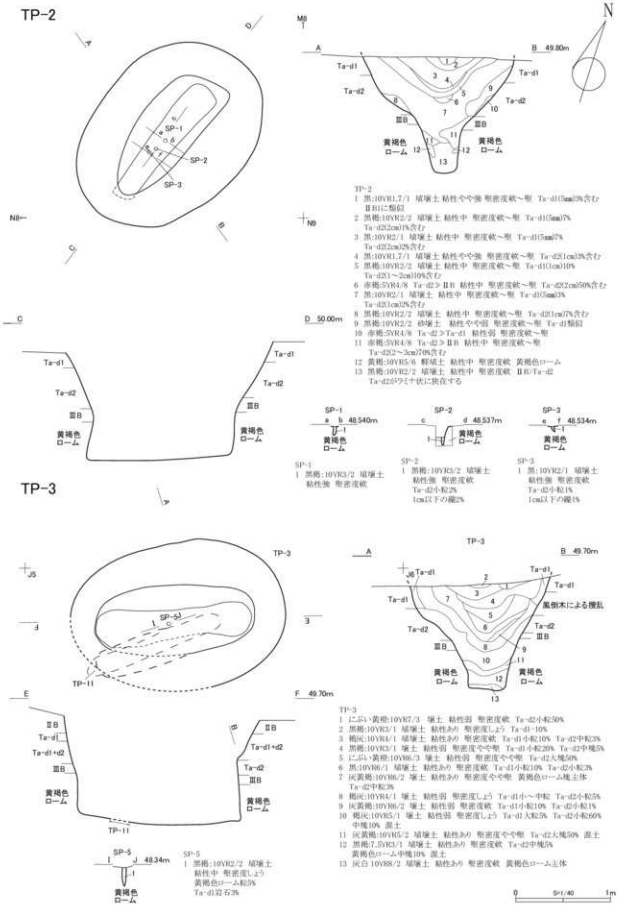
TP-4（図Ⅳ-7　図版4-9・10）

位置：L6、M6区　調査区西側の平坦面に位置し、確認面の標高は約50mを測る。長軸方向は北西-南東である。

規模：確認面4.02×1.18 底面3.6×0.24 最大深さ1.02m　**平面形態**：長楕円形（溝状）

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1の上面で長楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。

【調査】黒色土の南側を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが



TP-2

1 黒:10YR1.7/1 堆積土 粘性やや強 堅密度軟～堅 Ta-d1(5mm)3%含む
Ⅱ B ローム粒に類似
2 黒褐:10YR2/2 堆積土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1(5mm)7%
Ta-d2(2cm)1%含む
3 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1(5mm)7%
Ta-d2(2cm)2%含む
4 黒:10YR1.7/1 堆積土 粘性やや強 堅密度軟～堅 Ta-d2(1cm)3%含む
5 黒褐:10YR2/2 堆積土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1(1cm)10%
Ta-d2(1～2cm)10%含む
6 赤褐:5YR4/8 Ta-d2≫Ⅱ B 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d2(2cm)50%含む
7 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1(5mm)3%
Ta-d2(1cm)2%含む
8 黒褐:10YR2/2 堆積土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d2(1cm)7%含む
9 黒褐:10YR2/2 砂質土 粘性やや弱 堅密度軟～堅 Ta-d1類似
10 赤橙:5YR4/8 Ta-d2>Ta-d1 粘性弱 堅密度軟～堅
11 赤褐:5YR4/8 Ta-d2≫Ⅱ B 粘性中 堅密度軟～堅
Ta-d2(2～3cm)7%含む
12 黄褐:10YR5/6 軟質土 粘性中 堅密度軟 黄褐色ローム
13 黒褐:10YR2/2 堆積土 粘性中 堅密度軟 Ⅱ B/Ta-d2
Ta-d2がラミナ状に挟在する

SP-1
1 黒褐:10YR3/2 堆積土
粘性強 堅密度軟

SP-2
1 黒褐:10YR3/2 堆積土
粘性強 堅密度軟
Ta-d2が私25
1cm以下の礫2%

SP-3
1 黒:10YR2/1 堆積土
粘性強 堅密度軟
Ta-d2が私1%
1cm以下の礫1%

TP-3

1 にぶい黄褐:10YR7/3 堆土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d2小私50%
2 黒褐:10YR3/1 堆積土 粘性あり 堅密度しょう Ta-d1～10%
3 褐灰:10YR4/1 堆積土 粘性あり 堅密度軟 Ta-d1小私10% Ta-d2中私3%
4 黒褐:10YR3/1 堆土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d1小私20% Ta-d2中私5%
5 にぶい黄褐:10YR6/3 堆土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d2大私5%
6 黒:10YR6/1 堆積土 粘性あり 堅密度軟 Ta-d1小私10% Ta-d2小私3%
7 灰黄褐:10YR6/2 堆土 粘性あり 堅密度やや堅 黄褐色ローム地主体
Ta-d2中私3%
8 褐灰:10YR4/1 堆土 粘性弱 堅密度しょう Ta-d1小～中私 Ta-d2小私5%
9 灰黄褐:10YR6/2 堆土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小私10% Ta-d2小私1%
10 褐灰:10YR5/1 堆土 粘性弱 堅密度しょう Ta-d1大私5% Ta-d2小私60%
中地10% 混土
11 灰黄褐:10YR5/2 堆積土 粘性あり 堅密度やや堅 Ta-d2大私50% 混土
12 黒褐:7.5YR3/1 堆積土 粘性あり 堅密度軟 Ta-d2中私5%
黄褐色ローム中地10% 混土
13 灰白 10YR8/2 堆積土 粘性あり 堅密度軟 黄褐色ローム主体

SP-5
1 黒褐:10YR2/2 堆積土
粘性中 堅密度しょう
黄褐色ローム粒3%
Ta-d1辺石2%

0 S=1/40 1m

図Ⅳ-6 Ｔピット (2) TP-2・3

検出されたのでTピットと判断した。長軸長は上端で約4m、確認面からの深さは約1mで、細長く浅い【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。1層はⅡB層、2・5層はTa-d1、4・6層はTa-d2を主体とし、3・7・8層はTa-d1、Ta-d2、黒色土が混在する。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩落により外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は長軸両端から中央に向かってやや低くなり、縦断面は弧状を呈する。長軸南端はオーバーハングする。

遺物出土状況：出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。（山中）

TP-5（図Ⅳ-7　図版4-11・12）

位置：J8・9区　調査区西側の平坦面に位置し、確認面の標高は約50mを測る。長軸方向は北西-南東である。

規模：確認面2.63×1.43 底面1.93×0.19 最大深さ1.58m　**平面形態**：楕円形（溝状）

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1の上面で楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の南側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。1層はⅡB層、2層はTa-d1、4層はTa-d2を主体とし、5～11層には、黒色土、Ta-d2、黄褐色ロームが交互に堆積する。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩落により外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は平坦である。

遺物出土状況：出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。（山中）

TP-6（図Ⅳ-8　図版5-1・2）

位置：K4区　調査区西側の平坦面に位置し、確認面の標高は約49mを測る。長軸は北-南を向き、等高線に平行する。

規模：確認面2.60×0.72 底面2.60×0.20 最大深さ1.03m　**平面形態**：長楕円形（溝状）

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1の上面で楕円形を呈する黒褐色土の広がりを確認した。

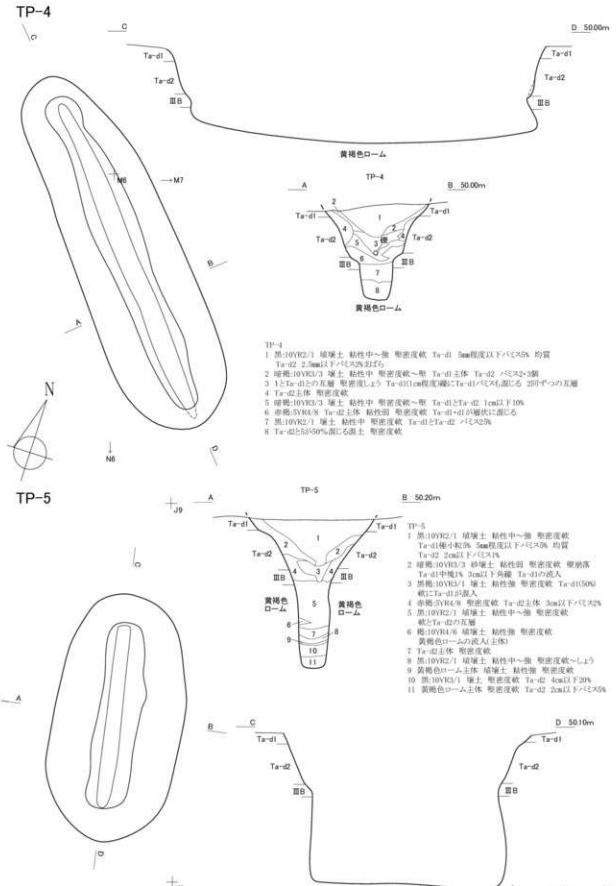
【調査】黒褐色土の南側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積で、1層はⅡB層を主体とする。2～7層はTa-d1が多く、8～13層はTa-d1、Ta-d2を主体とする。底面に堆積する14層はTa-d2の混じる褐灰色土である。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩落により外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は長軸両端から中央に向かってやや低くなり、縦断面は弧状を呈する。

遺物出土状況：出土していない。

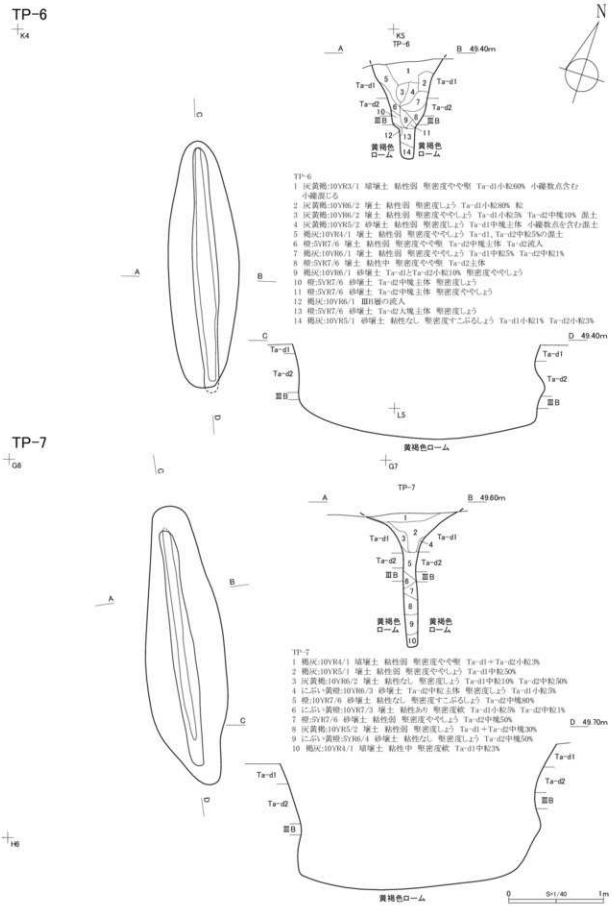
時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。（山中）

TP-7（図Ⅳ-8　図版5-3・4）

位置：G6区　調査区北側の平坦面に位置し、確認面の標高は約49mを測る。長軸方向は北西-南東で



図Ⅳ-7 Tピット(3) TP-4・5



図Ⅳ-8　Ｔピット (4)　TP-6・7

ある。

規模：確認面2.96×0.83 底面2.24×0.09 最大深さ1.43m　**平面形態**：長楕円形（溝状）

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d１の上面で長楕円形を呈する褐灰色土の広がりを確認した。

【調査】褐灰色土の南側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。１・２層はⅡB層、３・４・６・８層はTa-d1、５・７・９層はTa-d2を主体とする。底面に堆積する10層はTa-d2の混じる褐灰色土である。【壁・底面】壁の中下部は直立するが、上部は崩落により外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は長軸両端から中央に向かってやや低くなり、縦断面は弧状を呈する。北西端がややオーバーハングする。

遺物出土状況：出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。（山中・藤井）

TP－８（図Ⅳ-９　図版５-５・６）

位置：Ｇ４区　調査区北西側の斜面に位置し、確認面の標高は約48mを測る。長軸は東-西を向き、等高線に直交ぎみである。

規模：確認面1.98×1.22 底面1.48×0.26 最大深さ1.36m　**平面形態**：楕円形（溝状）

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1の上面で楕円形を呈する黒褐色土の広がりを確認した。

【調査】黒褐色土の南側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。１層はⅡB層、２・３層はTa-d1を主体とし、４～８層はTa-d1、Ta-d2、黄褐色ローム、黒色土が混在する。底面に堆積する９層はTa-d2の混じる褐灰色土である。なお、底面付近の地山（黄褐色ロームの下位）には20cm以下の軽石が多く含まれる。【壁・底面】壁の下部は直立するが、上部は崩落により外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は谷側に傾き、前述した軽石が所々に露出する。

遺物出土状況：出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。（山中）

TP－９（図Ⅳ-９　図版５-７・６-１）

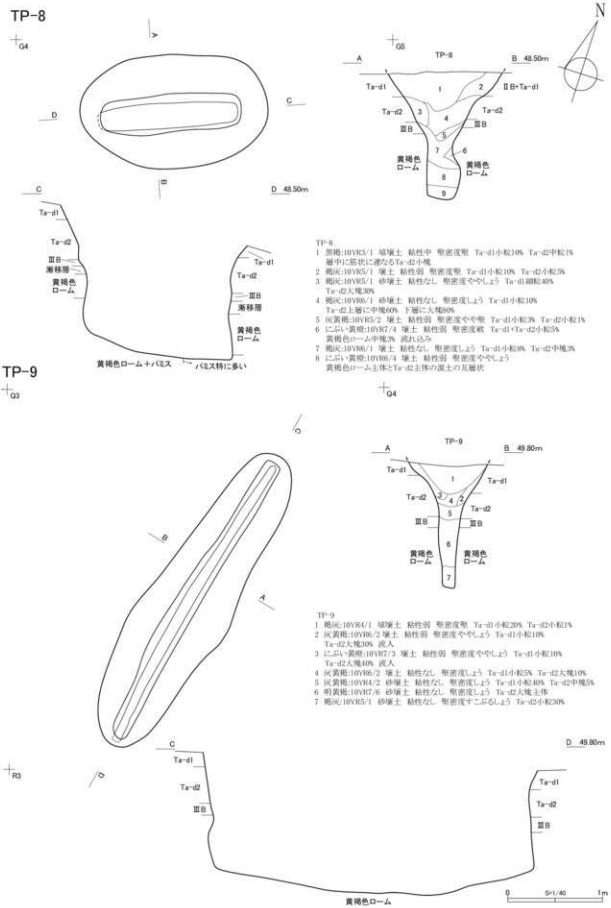
位置：Ｑ３区　調査区の南西側、台地先端付近の平坦面に位置し、確認面の標高は約50mを測る。長軸は南西側へのびる台地に平行し、北東-南西を向く。

規模：確認面3.54×0.98 底面3.36×0.12 最大深さ1.28m　**平面形態**：長楕円形（溝状）

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1の上面で長楕円形を呈する褐灰色土の広がりを確認した。

【調査】褐灰色土の南西側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。１層はⅡB層、２・３層はTa-d1を主体とする。底面に堆積する７層はTa-d1、Ta-d2の混じる灰黄褐色土である。【壁・底面】壁の中下部は直立するが、上部は崩落により外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は長軸両端から中央に向かってやや低くなり、縦断面は弧状を呈する。南西端がわずかにオーバーハングする。

付属遺構：検出されていない。



TP-8
1　黒褐:10YR3/1　埴壌土　粘性中　堅密度堅　Ta-d1小粒10%　Ta-d2中粒1%
　層中に筋状に濃なるTa-d2小塊
2　褐灰:10YR5/1　壌土　粘性弱　堅密度堅　Ta-d1小粒10%　Ta-d2小粒3%
3　褐灰:10YR5/1　砂壌土　粘性なし　堅密度ややしょう　Ta-d1細粒40%
　Ta-d2大塊30%
4　褐灰:10YR6/1　砂壌土　粘性なし　堅密度しょう　Ta-d1小粒10%
　Ta-d2上層に中塊60%　下層に大塊80%
5　灰黄褐:10YR5/2　壌土　粘性弱　堅密度ややで堅　Ta-d1小粒3%　Ta-d2小粒1%
6　にぶい黄褐:10YR7/4　壌土　粘性弱　堅密度硬　Ta-d1+Ta-d2小粒5%
　黄褐色ローム中塊3%　混れ込み
7　褐灰:10YR6/1　壌土　粘性なし　堅密度しょう　Ta-d1小粒30%　Ta-d2中塊3%
8　にぶい黄褐:10YR6/4　壌土　粘性弱　堅密度ややしょう
　黄褐色ローム主体とTa-d2主体の混土の互層状

TP-9
1　褐灰:10YR4/1　埴壌土　粘性弱　堅密度堅　Ta-d1小粒20%　Ta-d2小粒1%
2　灰黄褐:10YR6/2　壌土　粘性弱　堅密度ややしょう　Ta-d1小粒10%
　Ta-d2大塊20%　混入
3　にぶい黄褐:10YR7/3　壌土　粘性弱　堅密度ややしょう　Ta-d1小粒10%
　Ta-d2大塊40%　混入
4　灰黄褐:10YR6/2　壌土　粘性なし　堅密度しょう　Ta-d1小粒5%　Ta-d2大塊10%
5　灰黄褐:10YR4/2　砂壌土　粘性なし　堅密度しょう　Ta-d1小粒40%　Ta-d2中塊5%
6　明黄褐:10YR7/6　砂壌土　粘性なし　堅密度しょう　Ta-d2大塊主体
7　褐灰:10YR5/1　砂壌土　粘性なし　堅密度すこぶるしょう　Ta-d2小粒30%

図Ⅳ-9　Ｔピット (5)　TP-8・9

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半前葉の可能性がある。　（山中）

TP-10（図Ⅳ-10　図版5-8、6-2）

位置：E3・4区　調査区北西側の斜面に位置し、確認面の標高は約48mを測る。長軸は北東-南西を向き、等高線に直交する。

規模：確認面2.08×1.62 底面1.54×0.32　最大深さ1.00m　**平面形態**：楕円形（小判形）

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1の上面で楕円形を呈する褐灰色土等の広がりを確認した。

【調査】広がりの南西側を残して黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、不整長方形状の掘り込みが検出されたので、溝状ではないTピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。1～3層はⅡB層、4層はTa-d2を主体とする。底面に堆積する6層はTa-d2の混じる灰黄褐色土である。【壁・底面】壁は崩落により外傾する。底面は谷側にやや傾き、南西端がオーバーハングする。

付属遺構：底面中央部の長軸上で、杭痕が2か所検出された（SP-1・2）。

遺物出土状況：出土していない。

時期：周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。　（山中）

TP-11（図Ⅳ-10　図版4-5・6・7）

位置：I5、J5区　調査区北側に位置し、標高49.5mの斜面上部に立地する。TP-3と重複し、南西5mにTP-6がある。

規模：確認面（2.20）×（1.60）　底面1.40×0.16 最大深さ1.12m　**平面形態**：楕円形（小判形）

特徴：【確認】TP-3の検出後に底面と南西側の壁面で重複するTピットの覆土を確認した。【調査】溝状にわずかに残る底面を精査した後、南西側を掘り込んだ壁面を検出し、Tピットと判断した。

【堆積】TP-3の土層断面には見られなかったので確認できるものはない。【壁・底面】底面は溝状で平坦である。壁は下部でオーバーハングしている状態が確認できた。

付属遺構：底面長軸上に並んで杭穴状のピットを5か所確認した。SP-1～4は約10cm、SP-6は20cmの深さがある。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構、遺物、近辺の調査事例から、縄文時代中期後半と考えられる。

（山中）

TP-12（図Ⅳ-11　図版6-4・5）

位置：C3区 調査区北側の立会拡張区に位置する。標高47.5m程の緩斜面部に立地し、周囲にはTP-13・14がある。

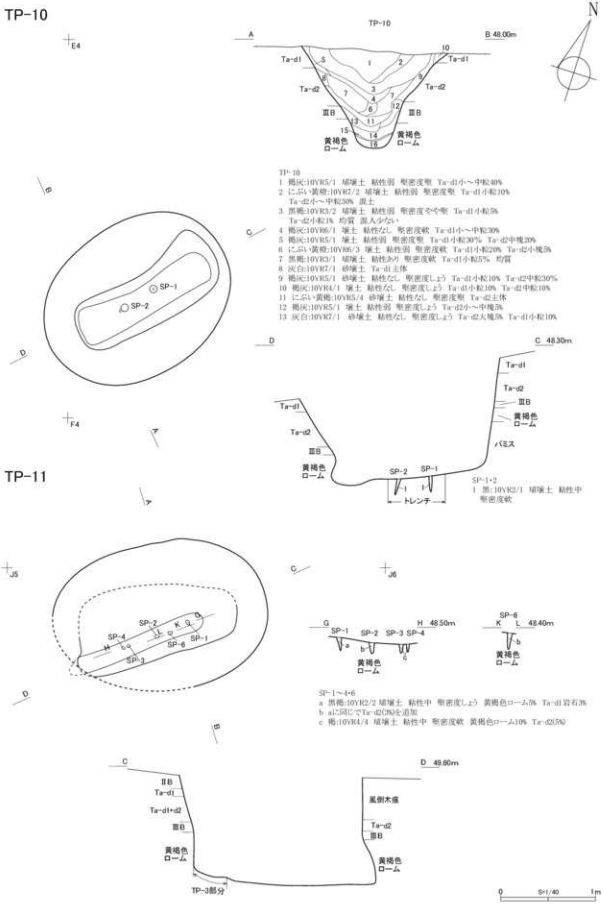
規模：確認面2.80×0.90 底面2.70×0.22 最大深さ1.30m　**平面形態**：長楕円形（溝状）

特徴：【確認】Ta-d2上面で長楕円形のプランを検出した。【調査】SP-A-B間においてトレンチを設け、セクション観察によりTピットと判断し、調査を開始した。【堆積】最深部の覆土7層は周囲の腐植土の流れ込みで、それ以外は壁面からの崩落による。【壁・底面】壁は崩落による凹凸を留めながら緩やかに広がっている。底面はやや丸みを帯びた溝状を呈している。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：調査区の検出状況から縄文時代中期後半と考えられる。　（皆川）

TP-10



TP-10
1 褐灰:10YR5/1 埴壌土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1小～中粒40%
2 にぶい黄橙:10YR7/2 埴壌土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1小粒10%
Ta-d2小～中粒30% 混土
3 黒褐:10YR3/2 埴壌土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d1小粒5%
Ta-d2小粒1% 均質 混入少ない
4 褐灰:10YR6/1 埴土 粘性だし 堅密度軟 Ta-d1小～中粒30%
5 褐灰:10YR5/1 埴土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1小粒30% Ta-d2中塊20%
6 にぶい黄橙:10YR6/3 埴土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒20% Ta-d2小塊5%
7 黒褐:10YR3/1 埴壌土 粘性あり 堅密度軟 Ta-d1小粒5% 均質
8 灰白:10YR7/1 砂埴土 Ta-d1主体
9 褐灰:10YR5/1 砂埴土 粘性だし 堅密度しまり Ta-d1小粒10% Ta-d2中粒30%
10 褐灰:10YR4/1 埴土 粘性だし 堅密度しまり Ta-d1小粒10% Ta-d2中粒10%
11 にぶい黄褐:10YR5/4 砂埴土 粘性なし 堅密度堅 Ta-d2主体
12 褐灰:10YR5/1 埴土 粘性弱 堅密度しまり Ta-d2小～中塊3%
13 灰白:10YR7/1 砂埴土 粘性だし 堅密度しまり Ta-d2大塊3% Ta-d1小粒10%

SP-1・2
1 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性中
堅密度軟

SP-1～4・6
a 黒褐:10YR2/2 埴壌土 粘性中 堅密度しまり 黄褐色ローム5% Ta-d1岩石3%
b a に同じで Ta-d2(3%)を追加
c 褐:10YR4/4 埴壌土 粘性中 堅密度軟 黄褐色ローム10% Ta-d2(5%)

図Ⅳ-10　Ｔピット(6)　TP-10・11

TP-13（図Ⅳ-11　図版６-６・７）

位置：Ａ２区　調査区北側の立会拡張区に位置し、標高48.0m程の緩斜面部に立地する。TP-14と並列しており、周囲にはTP-12がある。

規模：確認面1.60×0.91 底面1.88×0.20 最大深さ1.35m　**平面形態**：楕円形

特徴：【確認】Ta-d２上面で楕円形のプランを検出した。【調査】SP-A-B間においてトレンチを設け、セクション観察によりTピットと判断し、調査を行った。【堆積】最深部の覆土９層は周囲の腐植土の流れ込みで、それ以外は壁面からの崩落による。【壁・底面】壁は上半部において崩落で広がっており、下半部においてはほぼ真直ぐに坑底へと繋がっている。底面は平坦で図の位置にSP-１を検出している。

付属遺構：SP-１は浅い小柱穴状のピットである。杭跡に関わる可能性がある。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：調査区の検出状況から縄文時代中期後半と考えられる。（皆川）

TP-14（図Ⅳ-11　図版７-１・２）

位置：Ａ１区　調査区北側の立会拡張区に位置し、標高48.0m程の緩斜面部に立地する。TP-13と並列しており、周囲にはTP-12がある。

規模：確認面2.30×0.86 底面2.10×0.44 最大深さ1.10m　**平面形態**：楕円形

特徴：【確認】Ta-d2上面で楕円形のプランを検出した。【調査】SP-A-B間においてトレンチを設け、セクション観察によりTピットと判断し、調査を行った。【堆積】最深部の覆土12層は周囲の腐植土の流れ込みで、それ以外は壁面からの崩落による。【壁・底面】壁は上部に向かって緩やかに広がっている。底面は平坦で、やや幅広を呈している。なお、遺構の深さが周囲のTP-12・13と比較して浅い特徴を有す。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：調査区の検出状況から縄文時代中期後半と考えられる。（皆川）

TP-15（図Ⅳ-12　図版７-３・４）

位置：Ｃ１・２、Ｄ１・２区　調査区外北西側、遺構確認調査範囲に位置し、標高45.5～46.0mの斜面上部に立地する。北東８mにTP-12、北10mにTP-13・14がある。いずれも遺構確認調査範囲内にある。

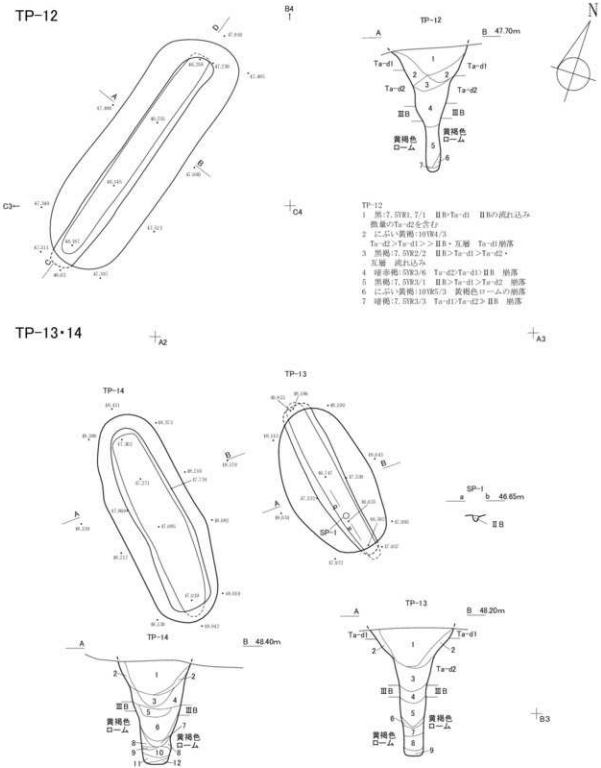
規模：確認面1.74×0.88 底面1.16×0.34 最大深さ0.56m　**平面形態**：楕円形

特徴：【確認】Ta-d1層面で楕円形をした黒褐色土の範囲を確認した。【調査】楕円形の範囲の北側半分を掘り下げて溝状となったこと、覆土の堆積壁の形状からTピットと判断した。【堆積】覆土は上下２層に分類できた。上層は均質な黒褐色腐植質土層、下層はTa-d1とⅡB層との混土の堆積である。【壁・底面】Ta-d1からTa-d2を掘り込んでいる。短軸上の壁面は、やや幅の広い底面から緩やかに立ち上がる「V」字形に近い。長軸方向の立ち上がりも緩やかである。底面は平坦面が広く残る。

付属遺構：柱穴状小ピットが２か所確認されたが、崩落によって１か所のみ記録することができた。SP-１は径も深さも10cmに満たない小規模なもので、Tピットの長軸に沿って２か所並んでいた南側の一つにあたる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の調査事例などから縄文時代中期後半の可能性がある。（藤井）



TP−12
1　黒:7.5YR1.7/1　Ⅱb+Ta-d1　Ⅱbの流れ込み　微量のTa-d2を含む
2　にぶい黄褐:10YR4/3
Ta-d2＞Ta-d1＞＞Ⅱb・互層　Ta-d1崩落
3　黒褐:7.5YR2/2　Ⅱb＞Ta-d1＞Ta-d2・互層　流れ込み
4　暗赤褐:5YR3/6　Ta-d2>Ta-d1>Ⅱb　崩落
5　黒褐:7.5YR3/1　Ⅱb>Ta-d1>Ta-d2　崩落
6　にぶい黄褐:10YR5/3　黄褐色ローム の崩落
7　暗褐:7.5YR3/3　Ta-d1>Ta-d2＞Ⅲb　崩落

TP−14
1　黒:7.5YR1.7/1　Ⅱb+Ta-d1　Ⅱbの流れ込み　微量のTa-d2を含む
2　にぶい黄褐:10YR4/3　Ta-d2＞Ta-d1＞＞Ⅱb・互層　Ta-d1崩落
3　黒褐:7.5YR2/2　Ⅱb＞Ta-d1＞Ta-d2・互層　流れ込み
4　暗赤褐:5YR3/6　Ta-d2>Ta-d1>Ⅱb　崩落
5　暗褐:7.5YR3/3　Ⅱb+Ta-d1+Ta-d2　崩落
6　暗赤褐:5YR3/6　Ta-d2>Ta-d1>Ⅱb　崩落
7　黒褐:7.5YR3/1　Ⅲb
8　にぶい黄褐:10YR5/3　黄褐色ローム
9　黒褐:7.5YR3/1　Ⅲb
10　灰褐:7.5YR4/2　Ta-d1+Ta-d2＞Ⅱb
11　灰褐:5YR4/2　Ⅱb+Ta-d2＞Ta-d1　黄褐色ロームの崩落
12　黒褐:5YR3/1　Ⅱb>Ta-d2　崩落

TP−13
1　黒:7.5YR1.7/1　Ⅱb+Ta-d1　Ⅱbの流れ込み　微量のTa-d2を含む
2　にぶい黄褐:10YR4/3　Ta-d2>Ta-d1＞＞Ⅱb・互層　Ta-d1崩落
3　黒褐:7.5YR2/2　Ⅱb＞Ta-d1＞Ta-d2・互層　流れ込み
4　暗褐:7.5YR3/3　Ⅱb+Ta-d1+Ta-d2　崩落
5　暗赤褐:5YR3/6　Ta-d2>Ta-d1>Ⅱb　崩落
6　黒褐:7.5YR3/1　Ⅲb
7　灰褐:7.5YR4/2　Ta-d1+Ta-d2＞Ⅱb
8　灰褐:5YR4/2　Ⅱb+Ta-d2>Ta-d1　黄褐色ロームの崩落
9　黒褐:5YR3/1　Ⅱb>Ta-d2　崩落

図Ⅳ−11　Tピット(7)　TP−12・13・14

TP-16（図Ⅳ-12　図版７-５）

位置：U27区　調査区南東部の標高46.2mの沢地形の底部に位置する。長軸は南北方向で、沢の流向と一致する。

規模：確認面－×（0.80）　底面－×0.15　最大深さ1.20m　**平面形態**：長楕円形

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1層上面で南側の調査区外に伸びる楕円形の黒色土の広がりを確認した。【調査】調査区側を掘り下げ、壁と坑底を確認し、土層および遺構の形状からTピットと判断した。【壁・底面】短軸の断面は「Y」字状で、上部のTa-d1-1・２部は斜めに立ち上がり、Ta-d1-３から黄褐色ローム層にかけて溝状に100cmほど掘り込まれている。【堆積】覆土は溝部の下部にはⅡB層と壁面の崩落とみられるTa-d2や黄褐色ローム層が互層となり、溝部の上部はTa-d1-２とTa-d2の崩落土が主体である。「V」字状の部分にはⅡB層が厚く、その上にはTa-d2を含む土が少量堆積する。

遺物出土状況：覆土上面から砂岩の円礫が出土した。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。　（鈴木）

TP-17（図Ⅳ-13　図版７-６～８）

位置：T15・16区　調査区南東部の標高46.5mの沢状地形の底部に位置する。長軸は北西-南東方向で、沢に直交する。周辺にはTP-18・19があり、TP-19は規模・方向とも類似する。

規模：確認面3.40×1.07　底面3.27×0.26　最大深さ1.08m　**平面形態**：長楕円形

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ中、掘り上げ土とみられるTa-d2・黄褐色ローム層が検出されていた。Ta-d1層上面まで掘り下げたところ、それらを中心としたドーナツ状の長楕円形の黒色土の広がりを確認した。【調査】掘り上げ土の堆積状況確認のために覆土上部のⅡB層まで長軸方向に半截し、土層を記録した後、短軸方向に半截して掘り下げた。壁と坑底を確認し、土層および遺構の形状からTピットと判断した。【壁・底面】短軸の断面は「Y」字状で、上部のTa-d1部は斜めに立ち上がり、ⅢB層から黄褐色ローム層にかけて溝状に30cmほど掘り込まれている。【堆積】下部の溝部はⅡB層とTa-d1を主体とした土層が互層となり、その上には壁際にTa-d2が崩落し、その間にTa-d1とⅡB層の混じった土が充填する。上部にはⅡB層がやや厚く堆積し、その上部の窪みにはTa-d2と黄褐色ローム層が南東側から順に堆積する。下部が側面の崩落やⅡB層の流入によって埋没した後、上部はⅡB層が自然堆積または流入し、埋まりきる前に、他のTピットの掘り上げ土がTa-d2、黄褐色ローム層の順に置かれたようである。その順番はちょうど掘り上げた順に一致する。両者とも均質で、混じりがほとんど見られないことからTピットを掘る際に土層ごとに掘り上げられたことがうかがえる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

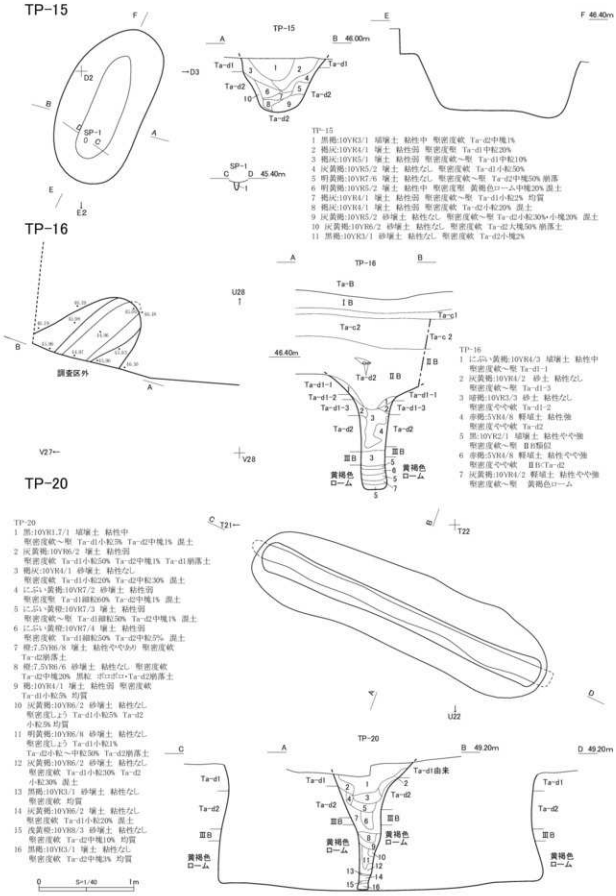
時期：最上部の掘り上げ土を、形状等が類似するTP-19の掘り上げ土とすると、TP-19より古い可能性がある。周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。　（鈴木）

TP-18（図Ⅳ-14　図版８-１～３）

位置：T16・17区　調査区南東部の標高46.8mの沢状地形の底部に位置する。長軸は北東-南西方向で、沢に斜交する。周辺にはTP-17・19があるが、それらとは規模・方向とも異なる。

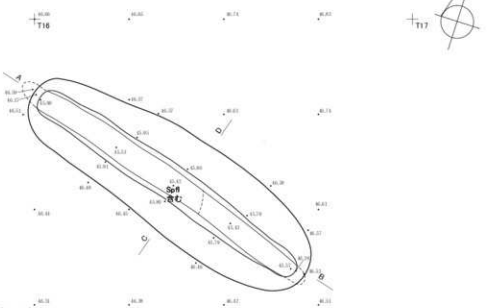
規模：確認面2.03×1.07　底面1.93×0.32　最大深さ1.37m　**平面形態**：長楕円形

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1層上面で楕円形の黒色土の広がりを確認した。【調査】短軸方向に半截して掘り下げた。壁と坑底を確認し、土層および遺構の形状からTピットと判断した。【壁・底面】短軸の断面は「Y」字状で、上部のTa-d1部は斜めに立ち上がり、黄褐色ローム層から

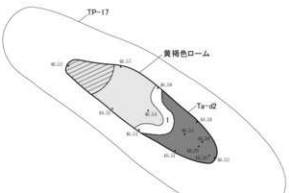


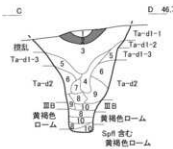
図Ⅳ-12　Tピット(8)　TP-15・16・20

TP-17

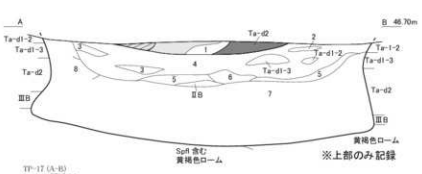


検出面での掘り上げ土分布





TP-17 (C-D)
1 暗褐:10YR3/3 埴壌土 粘性やや強 軟～堅 Ⅱb>黄褐色ローム Ta-d2(1cm大)7%含む
2 Ta-d2 やや堅
3 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性やや強 軟～堅 Ta-d1(2～5mm)1%含む
4 黒褐:10YR2/2 砂壌土 粘性中 やや軟 Ta-d1>Ⅱb
5 暗褐:10YR3/4 砂壌土 粘性弱 やや堅 Ta-d1-3崩落土
6 Ta-d2 やや軟
7 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性やや強 やや軟 Ⅱb>Ta-d1-2>3
9 赤褐～暗褐:5YR4/8～10YR3/3 砂壌土 粘性やや強 やや軟 Ta-d1-3<Ta-d2
10 黒:10YR1.7/1 埴壌土 粘性強 やや軟 Ⅱb崩壊 Ta-d1は混含まない



TP-17 (A-B)
1 C-D 断面の1
2 黒褐:10YR2/2 砂壌土 粘性やや強 軟～堅 Ta-d1-1崩壊
3 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性やや強 軟～堅 Ⅱb<Ta-d1 Ta-d1(1%)含む
4 C-D 断面の3
5 黒褐:10YR2/3 埴壌土 粘性中 軟～堅 Ⅱb>Ta-d1
6 黒褐:10YR2/3 埴壌土 粘性中 軟～堅 4層に類似するがTa-d1-3起源の礫(5cm大)30%含む
7 褐:10YR4/4 砂壌土 粘性やや弱 軟～堅 Ta-d1-2に類似
8 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性中 軟～堅 Ta-d1-1に類似 Ta-d1 20%含む

0 S=1/40 1m

図Ⅳ-13 Tピット (9) TP-17

支笏軽石流堆積物（Spfl）にかけてやや幅広の溝状に60cmほど掘り込まれている。【堆積】下部の溝部はⅡB層、Ta-d1・d2、黄褐色ロームなどが互層となり、その上には壁際にTa-d2が崩落し、その間にTa-d1主体の土層が充填する。上部はⅡB層が厚く堆積し、最上部の窪みにはTa-d1を主体とする土層が堆積する。下部が側面の崩落やⅡB層の流入によって埋没した後、上部はⅡB層が自然堆積または流入し、埋まりきる前に、他のTピットの掘り上げ土とみられるTa-d1が堆積したようである。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。　（鈴木）

TP-19（図Ⅳ-15　図版８-１・４・５）

位置：T16、U16区　調査区南東部の標高46.2mの沢状地形の底部に位置する。長軸は北西－南東方向で、沢に直交する。周辺にはTP-17・18があり、TP-17は規模・方向とも類似する。

規模：確認面3.42×1.06 底面3.50×0.14 最大深さ1.25m　**平面形態**：長楕円形

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1層上面で線状の黒色土の分布を確認した。【調査】短軸方向に半截して掘り下げた。壁と坑底を確認し、土層および遺構の形状からTピットと判断した。

【壁・底面】短軸断面は「Y」字状で、上部のTa-d1部は斜めに立ち上がり、ⅢB層下部から黄褐色ローム層にかけて溝状に50cmほど掘り込まれている。【堆積】下部の溝部はⅡB層、Ta-d1・d2、黄褐色ロームなどが互層になり、その上には壁際にTa-d1・d2が崩落する。上部はTa-d1の混じるⅡB層が厚く堆積する。下部が側面の崩落やⅡB層の流入によって埋没した後、上部はTa-d1の混じるⅡB層が自然堆積または流入する。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。　（鈴木）

TP-20（図Ⅳ-12　図版９-１・２）

位置：T21・22区　調査区東側、標高49.0mの尾根上に立地する。炭化物集中CB-３と重なり、西に６mのところにTP-29がある。

規模：確認面3.32×0.84 底面3.45×0.14 最大深さ1.32m　**平面形態**：長楕円形（溝状）

特徴：【確認】CB-３調査後に周辺を黄褐色ローム層まで掘り下げたところ、溝状の黒褐色土範囲を確認した。【調査】範囲の西半分を掘り下げて、黄褐色ローム中に細い溝状の底面と壁の立ち上がりを確認し、Tピットと判断した。【堆積】上部は黒褐色土主体のV字状の堆積、中部はTa-d2主体の崩落土の堆積が厚く、下部は黒褐色土主体でTa-d2や黄褐色ロームとの混土と均質な土との互層からなる。【壁・底面】短軸上の壁面は下部が底面から直立し、上部が広がる「Y」字状に近い。長軸上は底面付近がわずかにオーバーハングする。底面は平坦に近い。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構・遺物、近辺の調査事例などから縄文時代中期後半と考えられる。　（藤井）

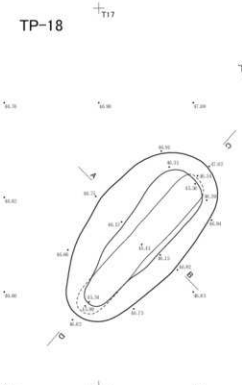
TP-21（図Ⅳ-15　図版９-３・４）

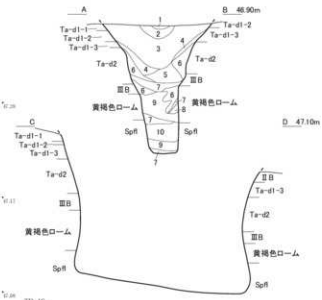
位置：Q６・７区　調査区南西部の標高49.5mの平坦面に位置する。長軸は北西-南東方向で、ほぼ単独で所在する。

規模：確認面2.81×0.98 底面2.79×0.17 最大深さ1.21m　**平面形態**：長楕円形

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ後、Ta-d1層上面で楕円形の黒色土の広がりを確認した。【調査】短軸

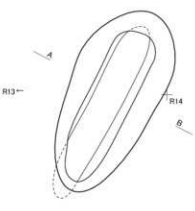
TP-18

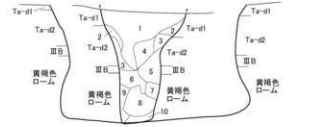




TP-18
1 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性やや強 堅密度軟～堅 Ⅱ層混 Ta-d1(2～3mm)10%含む
2 黒:10YR2/3 砂壌土 粘性弱 堅密度やや堅 Ⅱ層<Ta-d1-2
3 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性やや強 堅密度軟～堅 Ⅱ層混 Ta-d1(2～10mm)10%含む
4 褐:10YR4/4 砂土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d1-3土体だが繊少ない
5 黒褐:10YR2/2 砂壌土 粘性中 堅密度やや堅 Ⅱ層<Ta-d1(2cm大)の繊多い
6 赤褐:5YR4/8 軽埴土 粘性強 堅密度やや軟 Ta-d2の崩れた土
7 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性やや強 堅密度やや軟 Ta-d1含まない
8 黄褐:10YR5/6 軽埴土 粘性中 堅密度やや軟 黄褐色ローム粒(2 崩落土
9 褐～赤褐:10YR4/4～5YR4/8 砂壌土～軽埴土 粘性やや強 堅密度やや軟 Ta-d2<Ta-d1>Ⅱb
10 黄褐～黒:10YR5/6～10YR2/1 軽埴土～埴壌土 粘性やや強 堅密度やや軟 黄褐色ローム>Ⅱb

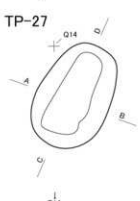
TP-24

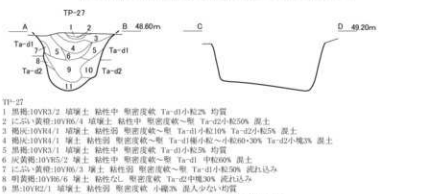




TP-24
1 黒褐:10YR3/1 埴壌土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒5% Ta-d2小塊3% 混土
2 にぶい黄褐:10YR2/4 埴土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒10% Ta-d2小粒2%混土 流れ込み
3 灰黄褐:10YR6/2 埴土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1小粒1% Ta-d2小塊3% 混土
4 黒褐:10YR3/1 埴土 粘性なし 堅密度軟 Ta-d2小塊3% 繊散在 混土
5 褐灰:10YR6/1 埴土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1極小粒5% Ta-d2中粒～塊30% 混土
6 褐灰:10YR5/1 砂壌土 粘性なし 堅密度軟 Ta-d1小粒～中粒80% Ta-d2中粒10% ホコホコ 混土
7 褐灰:10YR4/1 砂壌土 粘性なし 堅密度軟 黄褐色ローム大塊50% 均質
8 褐灰:10YR4/1 埴土 粘性なし 堅密度堅 Ta-d2小塊60% 黄褐色ローム大塊2% 混土
9 褐灰:10YR4/1 埴壌土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2中粒50% 均質
10 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性弱 堅密度軟 黄褐色ローム小粒1% 均質 フカフカ

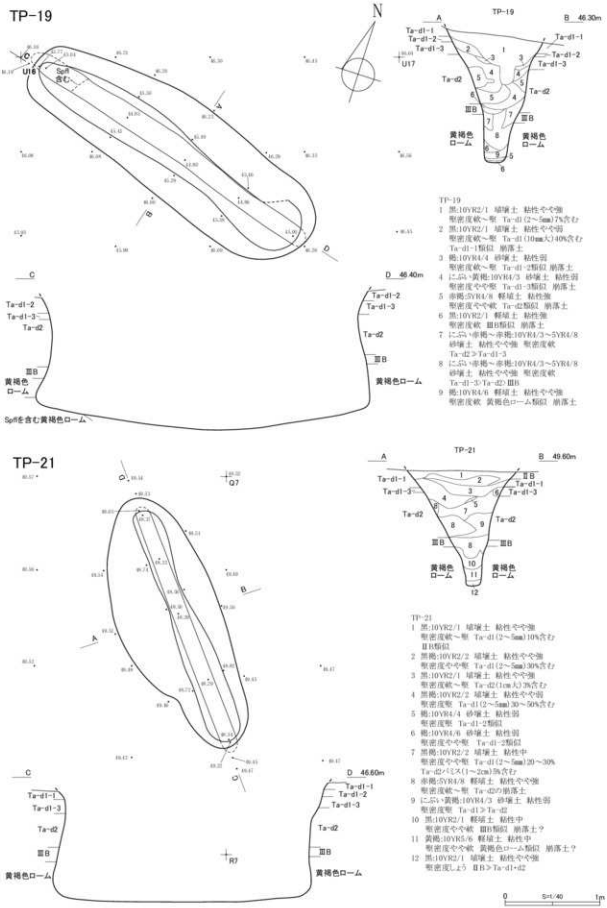
TP-27





TP-27
1 黒褐:10YR3/2 埴壌土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒2% 均質
2 にぶい黄褐:10YR6/4 埴壌土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d2小粒50% 混土
3 褐灰:10YR4/1 埴壌土 粘性弱 堅密度軟～堅 Ta-d1小粒10% Ta-d2小粒5% 混土
4 褐灰:10YR4/1 埴土 粘性弱 堅密度軟～堅 Ta-d1極小粒～小粒60-30% Ta-d2小塊3% 混土
5 黒褐:10YR3/1 埴壌土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒2% 均質
6 灰黄褐:10YR5/2 埴土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1 中粒60% 混土
7 にぶい黄褐:10YR6/3 埴土 粘性弱 堅密度軟～堅 Ta-d1小粒50% 流れ込み
8 明黄褐:10YR6/6 埴土 粘性なし 堅密度軟 Ta-d2中塊30% 流れ込み
9 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性弱 堅密度軟 小繊2% 混入少ない均質
10 灰黄褐:10YR6/2 埴土 粘性なし 堅密度堅 Ta-d1小粒～中粒60% 流れ込み
11 褐灰:10YR6/1 砂壌土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d2土体 若干の脆りやすさ

図Ⅳ-14 Tピット (10) TP-18・24・27



図Ⅳ-15　Tピット(11)　TP-19・21

方向に半截して掘り下げた。壁と坑底を確認し、土層および遺構の形状からTピットと判断した。【壁・底面】短軸断面は「V」字状で、中央部は黄褐色ローム層上部より上側は斜めに立ち上がり、その下部のみ20cmほど掘りこまれる。検出面の形状は中央部が張り出すが、南端は直線的であり、張り出し部はTa-d2から黄褐色ロームの上部にかけて崩落しており、本来は「Y」字状に構築されていたと推定される。【堆積】下部は黄褐色ローム・ⅢB・Ta-d2が自然堆積と同一順・ほぼ同一層厚で堆積し、上部はTa-d1の混じる黒色土が堆積している。下部は側面が堆積状態を保ったまま崩落し、比較的短期間に埋まったと考えられる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。（鈴木）

TP-22（図Ⅳ-16　図版９-５・６）

位置：L13、M13区　調査区中央やや北寄りに位置し、標高49.5mの緩斜面上部に立地する。近接する遺構はなく、南西６mにTP-25、南東８mにDU-３がある。

規模：確認面2.35×1.22 底面2.14×0.24 最大深さ1.54m　**平面形態**：楕円形（底面は溝状）

特徴：【確認】Ta-d1上部まで掘り下げたところで楕円形の黒色土範囲を確認した。【調査】範囲の南半分を掘り下げ、黄褐色ローム層中に底面とその立ち上がりの壁を検出した。形状からTピットと判断した。【堆積】上中下の３層に大別できた。上部はⅡB層黒褐色土主体の"U"字状堆積。中部はTa-d1、d2主体の壁崩落土堆積。下部は黄褐色ロームの崩落土と、黒褐色土主体でTa-d2とロームとの混土との互層堆積からなる。【壁・底面】短軸上の壁断面は、底面から緩やかに広がる「V」字状に近い。長軸上は北側が直立し、南側は底面付近でややオーバーハングする。底面は溝状で狭く平坦である。

付属遺構：検出されなかった

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺出土の遺構、遺物、近辺の調査事例から縄文時代中期後半と考えられる。(藤井)

TP-23（図Ⅳ-16　図版９-７、10-１）

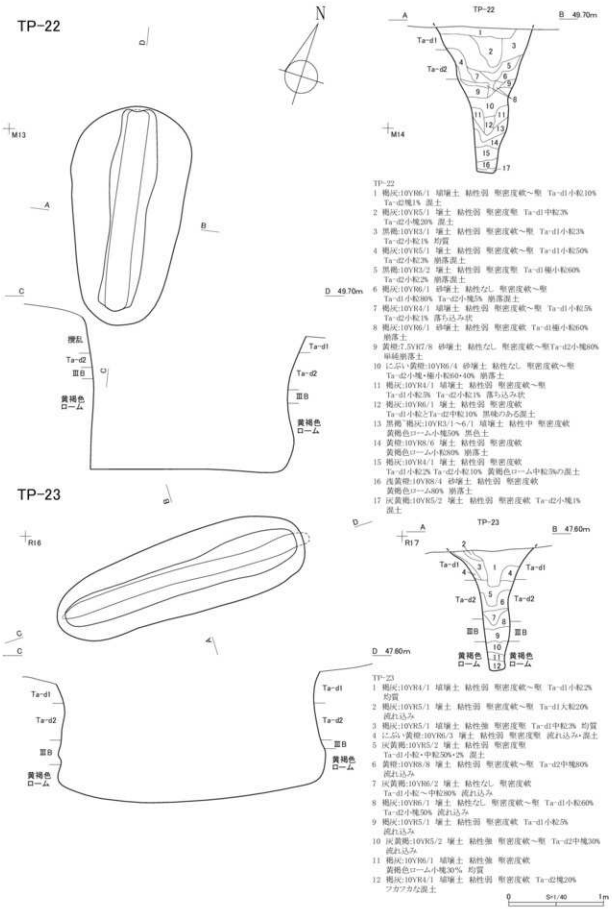
位置：Q16、R16区　調査区南側中央部に位置し、標高47.5m、沢状地形の奥部斜面上に立地する。沢下流の南４mにDU-９・12、南８mにTP-17・18・19のまとまりがある。

規模：確認面2.74×0.85 底面2.75×0.16 最大深さ1.26m　**平面形態**：長楕円形　長軸は等高線に平行

特徴：【確認】Ta-d1層中で楕円形をした褐灰色土の広がりを確認した。【調査】楕円形の中央にベルトを残して両側を掘り下げ、細い溝状であること、覆土の堆積と壁の形状などからTピットと判断して調査した。【堆積】覆土は上中下の３層に大別できた。上層はⅡB層主体の褐灰色土と壁際の流入土からなり、中層はTa-d2を主体とする壁の崩落土、下層は黄褐色ロームとTa-d2を含む均質な軟らかい土の堆積になる。【壁・底面】Ta-d1から黄褐色ロームまでを掘り込んでいる。短軸上の壁面は、細い溝の底面から下半が垂直な立ち上がりで上半が広がる「Y」字形である。長軸上は両端ともにオーバーハングする。底面は細く、中央がやや深く、たわんだ形になる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺出土の遺構、遺物、近辺の調査事例から縄文時代中期後半と考えられる。(藤井)



図Ⅳ-16　Ｔピット (12)　TP-22・23

TP-24（図Ⅳ-14　図版10-２・３）

位置：Q13・14、R13区　調査区南側中央部に位置し、標高48～48.5mの緩斜面上に立地する。北にTP-27、東にDU-11に近接し、西５mにDU-５がある。

規模：確認面2.06×1.00 底面1.78×0.32 最大深さ1.18m　**平面形態**：楕円形（底面は長楕円形）、長軸は等高線に平行

特徴：【確認】Ta-d1層中で楕円形をした黒褐色土の広がりを確認した。【調査】楕円形の南半分を掘り下げて、溝状であること、覆土の堆積、壁の形状からTピットと判断して調査した。【堆積】覆土は上中下層に大別できた。上層はⅡB層主体の黒褐色土と壁際の流入土からなる。下層は層厚が薄いか、フカフカな黒色土の堆積が見られた。【壁・底面】Ta-d1から黄褐色ロームまでを掘り込んでいる。短軸上の壁面は下半分が直立気味で、上半分が広がる「Y」字形に近い。長軸上は底面付近だけが広がるオーバーハングとなる。底面はやや幅広で平坦である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺出土の遺構、遺物、近辺の調査事例から縄文時代中期後半と考えられる。　（藤井）

TP-25（図Ⅳ-17　図版10-５・６）

位置：N11、O11区　調査区ほぼ中央部の標高49.2mの平坦面に位置する。長軸は南北方向で、南東５mには小判形のTP-26と浅いTP-28がある。

規模：確認面2.79×1.09 底面3.09×0.21　最大深さ1.19m　**平面形態**：長楕円形

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ中に、O11区で土坑の掘り上げ土とみられるTa-d2・黄褐色ロームを検出した。その下位にTピットがあることを想定し、ベルトを残してTa-d1上面まで下げたところ、黄褐色ロームを中心としたドーナツ状の長楕円形の黒色土の広がりを確認した。【調査】掘り上げ土の堆積状況の確認のために覆土上部のⅡB層まで長軸方向に半截し、土層の記録を取った後、短軸方向に半截して掘り下げた。壁と坑底を確認し、土層および遺構の形状からTピットと判断した。

【壁・底面】短軸断面は「Y」字状で、Ta-d1部は斜めに立ち上がり、Ta-d2から黄褐色ロームにかけて溝状に70cmほど掘り込まれる。検出面の形状は中央部が張り出すが、北端は直線的であり、張り出し部はTa-d1・d2が大きく崩落しており、本来は直線的に掘り上げられていたと推定される。

【堆積】覆土は下部の溝部にはTa-d1・d2の崩落土で埋められ、その上にはTa-d1混じりのⅡBが堆積し、その上の窪みには南側に偏ってTa-d2と黄褐色ロームの混じった土が堆積する。下部が側面の崩落によって埋没した後、上部はⅡB層が自然堆積または流入し、上部の窪みには他のTピットから掘り上げられたTa-d２・黄褐色ローム・ⅡB層の混じった土で埋められている。その後、北側の窪みにはⅡB層が堆積している。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

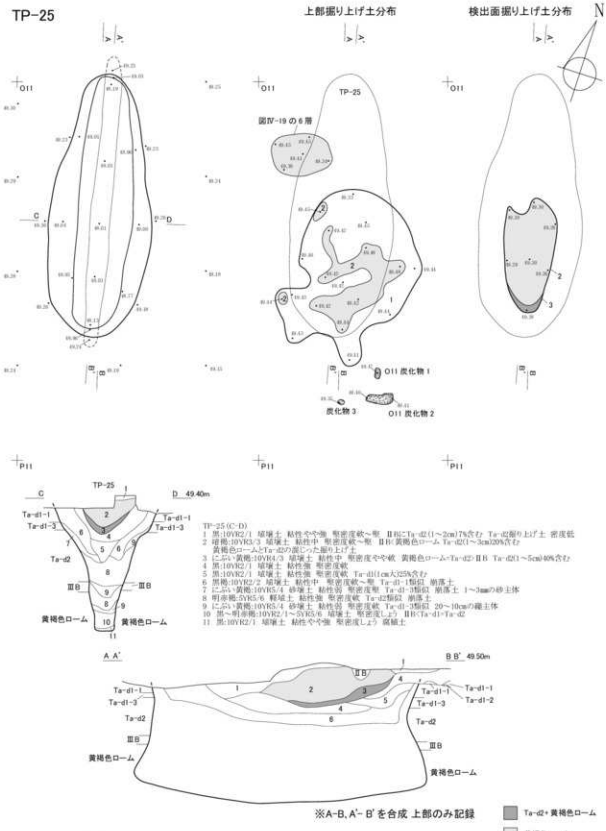
時期：覆土上部の掘り上げ土はTP-26の可能性が高く、それより古い。周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。　（鈴木）

TP-26（図Ⅳ-18・19　図版10-７・８、11-１・２）

位置：O11・12、P11区　調査区ほぼ中央部の標高49.1mの平坦面に位置する。長軸は北東-南西方向で、南東側のTP-28と切り合い、北西５mにはTP-26がある。

規模：確認面2.37×1.53 底面1.91×0.26 最大深さ1.32m　**平面形態**：楕円形（小判形）

特徴：【確認】ⅡB層掘り下げ中に、P11・12区で土坑の掘り上げ土とみられるTa-d2・黄褐色ローム



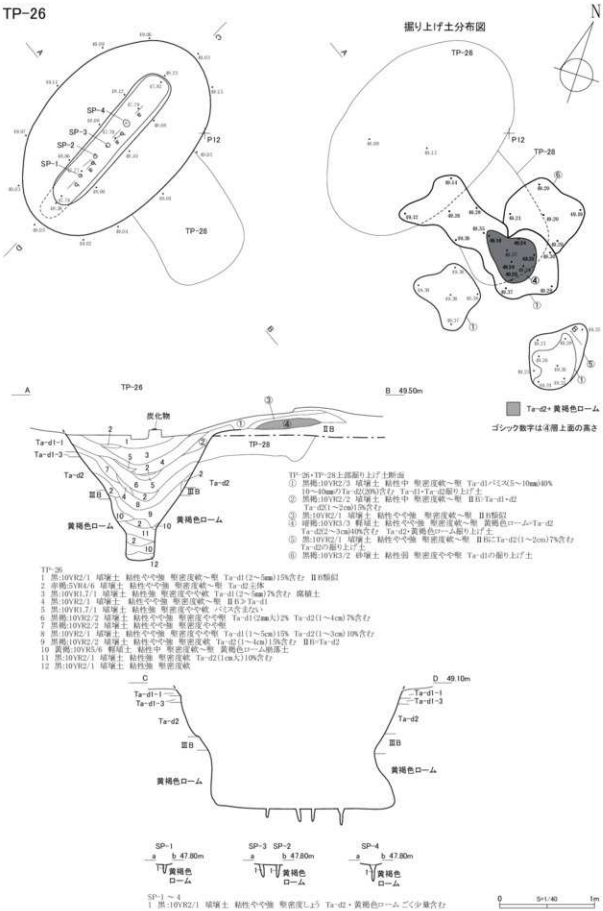
図Ⅳ-17　Ｔピット (13)　TP-25

を検出し、周辺をTa-d1上面まで掘り下げたところ、その北西側に黒色土の広がりを確認した。
【調査】掘り上げ土と土坑覆土の堆積状況の確認のために土坑から掘り上げ土にかけて土坑中央短軸方向に半截し、掘り下げた。壁と坑底を確認し、土層および遺構の形状からTピットと判断した。
【壁・底面】短軸断面は坑口が大きく広がる「Y」字状で、黄褐色ローム上部以上は斜めに立ち上がり、その下部は溝状に30cmほど掘り込まれる。【堆積】下部の溝部はTa-d2・黄褐色ロームの崩落土があり、上部はⅡB層主体で、Ta-d1・d2など掘り上げ土の流れ込みがみられる。下部が側面の崩落によって埋没した後、上部はⅡB層が自然堆積または流入する。遺構の南東側にはTa-d1・d2、黄褐色ロームの掘り上げ土が20cmほど、北西側のTP-25上にも同様の掘り上げ土が40cmほど堆積し（図Ⅳ-17）、それぞれTP-26を中心として対称に分布する（図Ⅳ-19）ことからTP-26の掘り上げ土と考えられる。
付属遺構：坑底の中軸線上には12～26cmの間隔をおいて、直径４cm、深さ10～18cmの杭跡が４か所検出された（SP-１～４）。
遺物出土状況：覆土上面から縄文中期後半の口縁部土器片１点が出土した。
時期：当遺構のものとみられる掘り上げ土がTP-25を被覆することからTP-25より新しいと考えられる。また、TP-28を切っていることからTP-28より新しい。周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。
掲載遺物：図Ⅳ-32-１が縄文中期後半の土器口縁部破片である。P15出土のものと接合した。

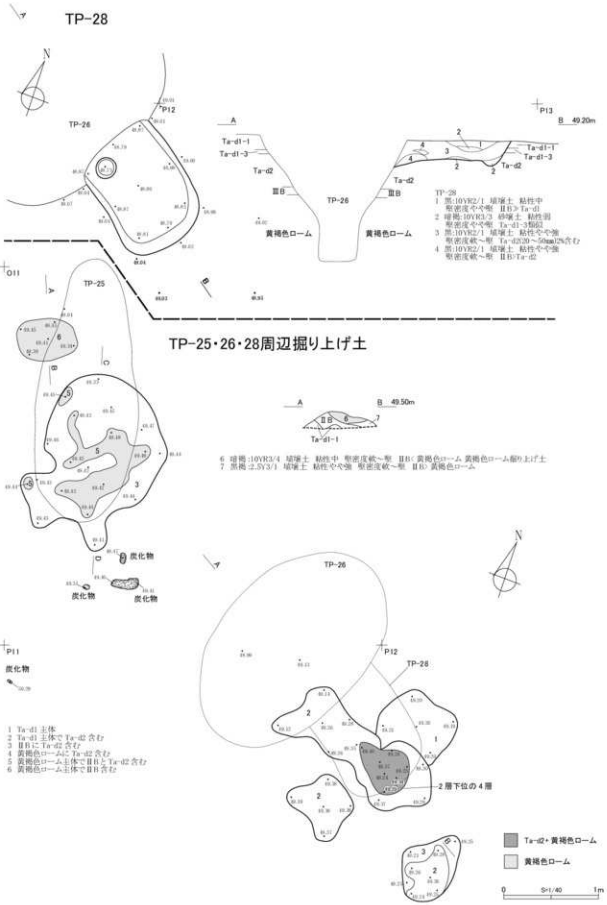
（鈴木）

TP-27（図Ⅳ-14　図版11-３・４）
位置：P14、Q13・14区　調査区南側中央部に位置し、標高48.0～48.5mの緩斜面上に立地する。南にTP-24と近接し、南東５mにDU-11、南西８mにDU-５がある。
規模：確認面1.17×0.78 底面0.92×0.40 最大深さ0.62m　**平面形態**：楕円形（底面も楕円形）※長軸は等高線に平行
特徴：【確認】Ta-d1層中で楕円形をした黒褐色土の広がりを確認した。【調査】楕円形の南半分を掘り下げ、覆土の堆積と壁の形状からTピットと判断して調査した。【堆積】覆土は上下層に大別できた。上層はTa-d1粒子を多く含む混土が主体で皿状に堆積しており、埋め戻した可能性がある。下層はⅡB層主体の黒褐色土で混入の少ない均質な土である。【壁・底面】Ta-d1からd2までを掘り込んでいる短軸、長軸ともに壁の立ち上がりは緩やかである。底面は丸く、構築途中のTピットと考えられる。
遺物出土状況：遺物は出土していない。
時期：周辺の調査事例などから縄文中期後半の可能性がある。　（藤井）

TP-28（図Ⅳ-19　図版11-５・６）
位置：P11・12区　調査区ほぼ中央部の標高49.0mの平坦面に位置する。長軸は北西-南東方向で、北西側のTP-26と切り合い、北西３mにはTP-25がある。
規模：確認面－×0.93 底面－×0.81 最大深さ0.20m　**平面形態**：長楕円形
特徴：【確認】TP-26に隣接する掘り上げ土をTa-d1上面まで掘り下げ後、TP-26に切られる隅丸長方形の黒色土の広がりを確認した。【調査】長軸方向に半截して掘り下げた。壁と坑底を確認した結果、Tピットとしては深さが20cmと浅いもの、その平面形態からTピットまたはその途中のものとして



図Ⅳ-18　Tピット (14)　TP-26



図Ⅳ-19　Ｔピット（15）　TP-28　TP-25・26・28 周辺掘り上げ土

調査を進めた。【壁・底面】坑底は平坦で、壁はやや斜めに立ち上がる。【堆積】覆土はⅡB層主体で、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。　（鈴木）

TP-29（図Ⅳ-20　図版11-７・８、12-１・２）

位置：S19・20、T19・20区　調査区南部東寄りに位置し、標高48.5～49.0mの緩斜面上に立地する。南にDU-６、東にCB-２、北東にCB-４と近接する。

規模：確認面2.34×1.48 底面1.80×0.22 最大深さ1.22m　**平面形態**：楕円形 長軸は等高線に直交する。

特徴：【確認】ⅡB層下層中で楕円形をした黒色土の広がりを確認した。【調査】楕円形の中央にベルトを残して両側を掘り下げ、細い溝状であること、覆土の堆積や壁の形状からTピットと判断して調査した。【堆積】上から３つの層に大別することができた。上層はⅡB層にTa-d1、d2ブロックが混じる混土で、埋め戻しによるものと思われる。中層は上層の直下で、薄く堆積するⅡB層主体の均質な土で自然堆積と思われる。下層は厚く、壁からの崩落土か交互に堆積する互層になる。【壁・底面】ⅡB層漸移層から黄褐色ローム層までを掘り込み、短軸上の壁の立ち上がりは「V」字状で、長軸上は両端ともに底部付近がわずかにオーバーハングする。底面はやや幅広いが丸底である。

付属遺構：底面の長軸上に並んで２か所の柱穴状ピットが確認された。南側のSP-１は浅く、北側のSP-２は15cm程掘り込まれている。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺出土の遺構、遺物、近辺の調査事例から縄文時代中期後半と考えられる。　（藤井）

（３）焼土（F）

F-１（図Ⅳ-20　図版12-３）

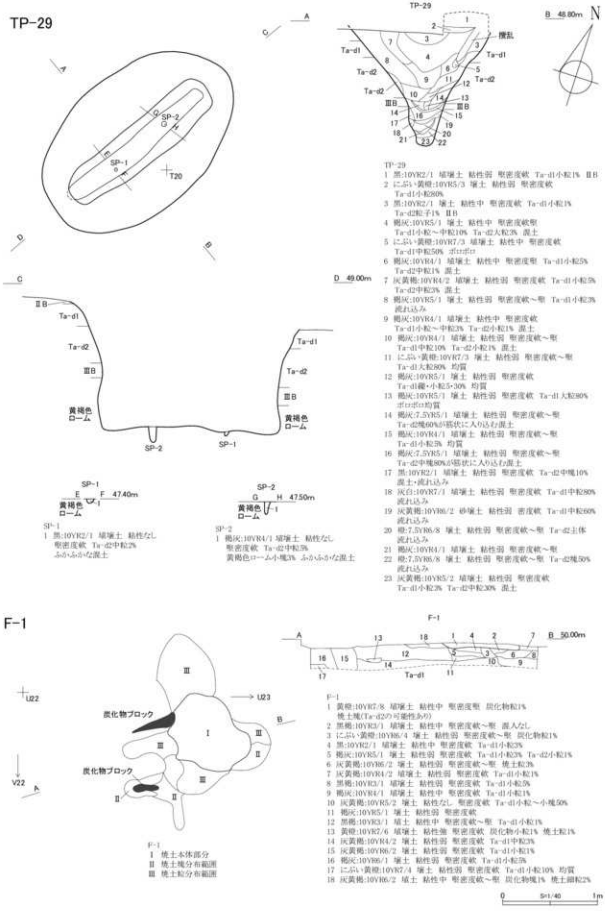
位置：T22、U22区　調査区東部に位置し、標高48.5～49mの斜面上に立地する。北側TP-20、CB-３と近接し、北東６mにF-７がある。

規模：確認面2.08×1.52 最大厚0.10m　**平面形態**：不整円形

特徴：【確認】ⅡB層上面の精査時に、炭化物粒を伴なう赤味を帯びた土の広がりを確認し、焼土と判断した。【調査】焼土の広がりには濃淡があり、中央に小トレンチを入れて断面を確認したところ同様の傾向が見られた。焼土本体（Ⅰ）、焼土ブロック分布（Ⅱ）、焼土粒分布（Ⅲ）の３つに区分することができた。また、焼土範囲内には２か所の炭化物ブロックを確認した。【堆積】Ⅰの堆積は層厚５～６cmと層界も明瞭である。Ⅱの堆積は縦横に広がり、層界も複雑である。Ⅲの堆積は層厚２～３cmと薄い堆積で層界も明瞭である。【分析】焼土内の炭化物、炭化木片からサンプルを抽出し、放射性炭素年代測定と炭化材樹種同定を行った。樹種についてはコナラ属コナラ節であることがわかった（表Ⅵ-１）。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：時期特定可能な遺物はないが、出土した炭化物の年代測定により2720±20yrB.P. 縄文晩期前半であることが明らかになった（表Ⅵ-１）。　（藤井）



図Ⅳ-20　Tピット(16)　焼土(1) TP-29・F-1

F－２（図Ⅳ-21　図版12-４）

位置：R５区　調査区南西側に位置し、標高49～49.5mの緩斜面上部に立地する。北東６mにTP-21、西10mにTP-６がある。

規模：確認面0.36×0.35 最大厚0.04m　**平面形態**：不整三角形

特徴：【確認】ⅡB層２回目の掘り下げで、炭化物粒を伴なう赤味を帯びた土の広がりを確認し、焼土と判断した。【調査】焼土の広がりには濃淡があり、中央にトレンチを入れて断面を確認したところ、本体、焼土ブロック、炭化物と焼土が混じった部分の３つに分類することができた。土層断面には焼土本体のみを記録することができた。【堆積】いずれの堆積も層厚５cm以下と薄いが、層界も明瞭であった。【分析】焼土内の炭化物からサンプルを抽出し、放射性炭素年代測定を行った（表Ⅵ-１）。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：時期の特定が可能な遺物が出土しなかったが、年代測定の結果から2810±30yrB.P.、縄文晩期前葉の可能性がある（表Ⅵ-１）。　（藤井）

F－３・４・５（図Ⅳ-21　図版12-５～７）

位置：U６区　調査区南西端に位置し、標高48～48.5mの緩斜面上に立地する。西にCB-７と近接し、東10mにはCB-８がある。

規模：F-３　確認面1.36×0.37 最大厚0.10m

F-４　確認面1.28×0.47 最大厚0.04m

F-５　確認面0.44×0.35 最大厚0.04m

平面形態：F-３・４は不整長楕円形、F-５は不整三角形

特徴：【確認】ⅡB層１回目の掘り下げで、炭化物粒を伴なう赤味を帯びた土の広がりを、グリッド内で３か所確認し、焼土と判断した。【調査】各焼土の長軸で半截し、断面を確認した。【堆積】いずれも層厚５cm前後の焼土の堆積で、周囲及び上下に炭化物のみの堆積を伴なうものも見られた。層界は明瞭であるが、堆積や分布の状況からその場で焼成されたものと考えられる。【分析】F-３、４、５については焼土内の炭化物からサンプルを抽出し、放射性炭素年代測定を行った。F-３は 2890±30yrB.P.、F-４は 2700±30yrB.P.、F-５は 3230±30yrB.P.である。F-３、４については、焼土内の炭化材について樹種同定を行った。いずれもコナラ属コナラ節のものであった（表Ⅶ-１）。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：時期特定可能な遺物はないが、年代測定によりF-３が縄文晩期前葉、F-４が晩期中葉、F-５が後期後葉との結果が出た。　（藤井）

F－６（図Ⅳ-21　図版12-８）

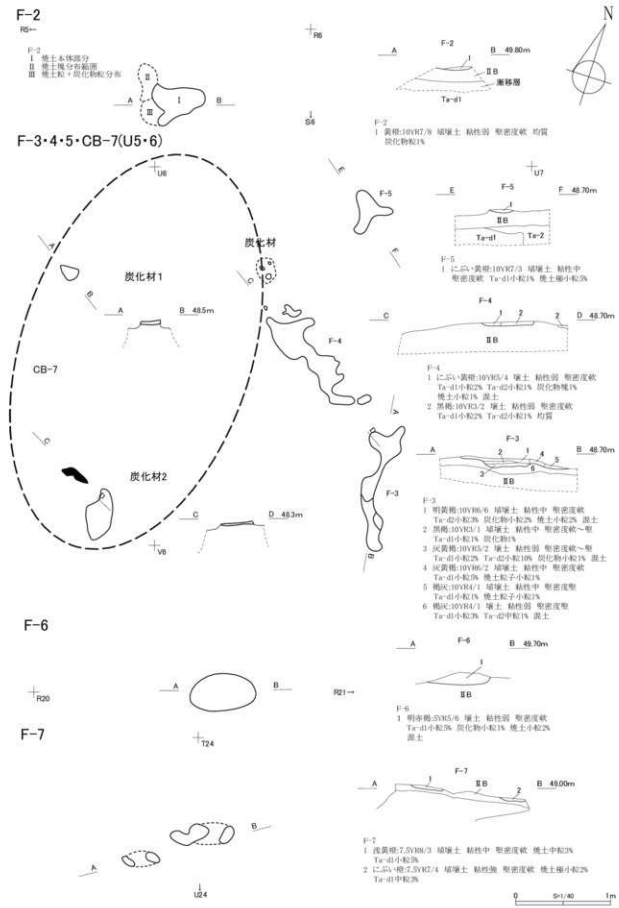
位置：Q20、R20区　調査区南部東側に位置し、標高49mの尾根筋上平坦面に立地する。

規模：確認面0.34×0.20 最大厚0.07m　**平面形態**：楕円形

特徴：【確認】ⅡB層を少し掘り下げたところで、炭化物粒を伴なう赤味を帯びた土の広がりを確認し、焼土と判断した。【調査】焼土の長軸南半分を掘り下げて土層断面を確認した。【堆積】層厚10cm以上の厚みのある堆積で、層界は明瞭であった。外から持ち込まれた可能性がある。【分析】焼土内の炭化物粒からサンプルを抽出し、放射性炭素年代測定を行った。3930±30yrB.P.との結果を得た。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：時期特定可能な遺物はないが、年代測定の結果より縄文後期初頭の時期と考えられる。（藤井）



図Ⅳ-21 焼土(2) 炭化物集中(1) F-2・3・4・5・6・7・CB-7

F-7（図Ⅳ-21　図版12-9）

位置：T23・24区　調査区南東部に位置し、標高48.5mの緩斜面上に立地する。東にCB-5と近接し、東8mにCB-6、南西7mにF-1がある。

規模：確認面1.20×0.17 最大厚0.04m　**平面形態**：不整長楕円形が2つ連なる。

特徴：【確認】ⅡB層1回目の掘り下げで、炭化物粒を伴なう赤黒い土が細長くのびているのを確認し、焼土と判断した。【調査】分布範囲の長軸に沿って、南半分を掘り下げて土層断面を確認した。【堆積】。小さな焼土塊の集まりのような状態で、土層断面にはやや大型の2か所を確認することができた。いずれもⅡB層との層界は明瞭で、外から持ち込まれた可能性が考えられる。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：時期特定可能な遺物はないが、周辺の焼土、層位などから縄文時代後～晩期の可能性がある。

（藤井）

（4）溝状遺構（D）

D-1（図Ⅳ-22　図版13-1～4）

位置：B4、C4・5、D5・6区　調査区北側に位置し、一部調査区外、遺構確認調査範囲内に及ぶ。標高48m～49.5mの緩斜面上に立地する。近接する遺構はなく、北西4mにTP-14がある。

規模：確認面8.20×0.56 底面8.00×0.42 最大深さ0.08m　**平面形態**：高い南東から低い北西に向かって、やや湾曲しつつ同じ幅で延びる。南東端は明瞭で、北東端は不明瞭である。

特徴：【確認】Ta-d1層中に、溝状に褐灰色土が細くのびるのを確認した。当初D5グリッドから確認し、その範囲は隣接するグリッドに及び、5グリッドにまたがる溝になった。【調査】3か所にトレンチを設定し、土層断面を確認した後、全体を一連の溝状遺構と判断して調査した。【堆積】覆土はTa-d1粒を含むⅡB層が主体である。層厚は10cm前後で、全体で同じ深さである。【壁・底面】Ta-d1からTa-d2上面をわずかに掘り込んでつくられ、ほぼ全体が同じ深さである。底面は丸底に近く、平坦面は少ない。壁は緩やかな立ち上がりである。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：層位からは縄文時代と考えられるが、時期の特定できる遺物の出土がなく詳細は不明である。

（藤井）

（5）遺物集中（C）

C-1（図Ⅳ-4）

位置：U27区　調査区南東部に位置し、標高46.5mの谷部斜面上に立地する。東側TP-16に近接する。北西7mにCB-6がある。

規模：確認面0.21×（0.20）　最大厚（0.05）m　**平面形態**：不明

特徴：【確認】調査区壁の精査時にⅡB層中から、黒曜石製剥片がまとまって出土した。【調査】調査区壁側を残して北側を掘り下げた。剥片がⅡB層中に分散していたため、土ごと採取した。

遺物出土状況：黒曜石製剥片529点が出土した。いずれも1cm以下の砕片で総重量が8.8gである。

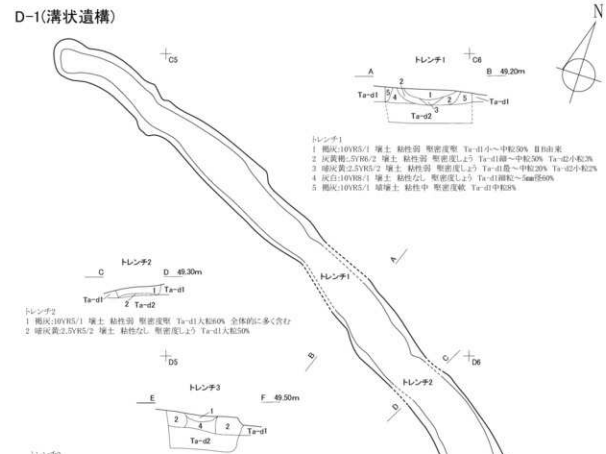
時期：周辺の遺物、層位などから縄文時代中期後半の可能性がある。　（藤井）

（6）掘り上げ土（DU）

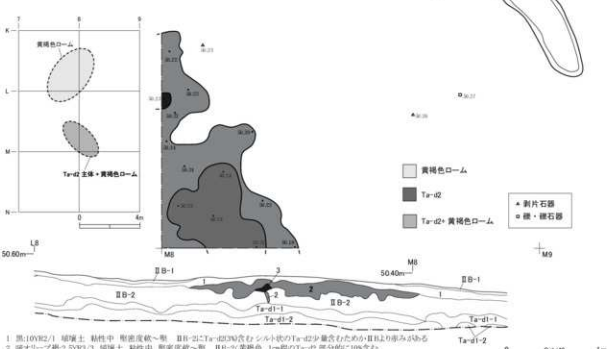
DU-1（図Ⅳ-22　図版13-5・6）

位置：L7・8、M7・8区（①）、K7・8、L7・8区（②）、調査区西部中央の標高50.2m程の平坦面に位置する。

D-1(溝状遺構)



DU-1(掘り上げ土)



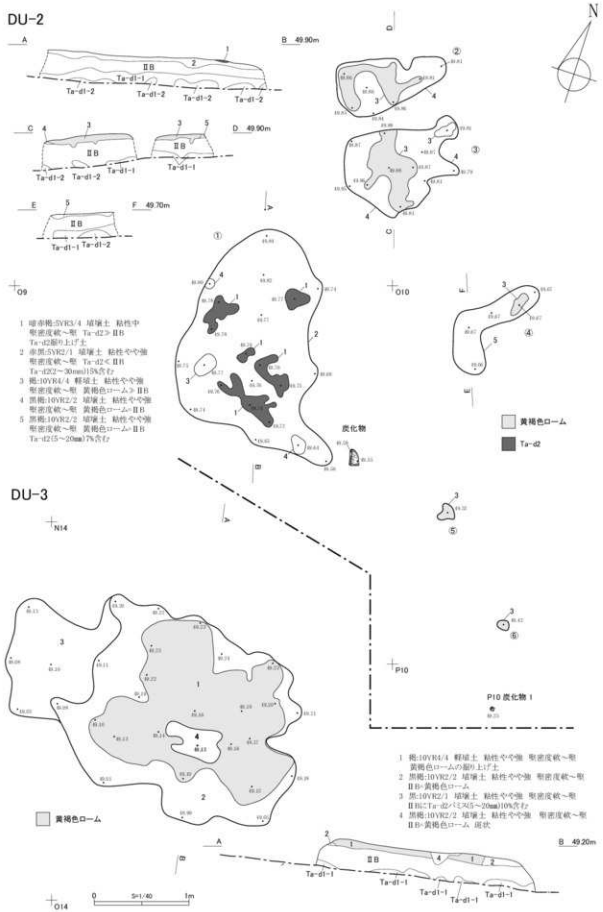
図Ⅳ-22 溝状遺構 掘り上げ土(1) D-1・DU-1

規模：①確認面3.00×1.50 最大厚0.18m　②確認面4.00×2.50
調査・特徴：Ｌ８区のⅡB層掘り下げ中にTa-d2・黄褐色ロームを確認し、その範囲と断面を記録した。厚さは最大18cmで、平均10cm程度。Ta-d2主体で、黄褐色ロームが混じる。断面の観察によると周辺のＬ７、Ｍ７・８区にも広がりが確認でき、その範囲は３×1.5mと推定される①。また、Ｋ７・８区、Ｌ７区北側には厚さ12cm程の黄褐色ロームを主体とした掘り上げ土が８ライン断面などから確認でき、その範囲は４×2.5mと推定される②。両者が同一Ｔピットの掘り上げ土とすれば、Ta-d2と黄褐色ロームを別々に残置した可能性がある。周囲には南東１mにTP-２、西４mにTP-４、北東４mにTP-５が位置し、いずれかの掘り上げ土の可能性があるが、もっとも近いTP-２の可能性が高い。
遺物出土状況：Ｌ８区の掘り上げ土周辺のほぼ同一層準から石鏃が２点出土した。
時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。　（鈴木）

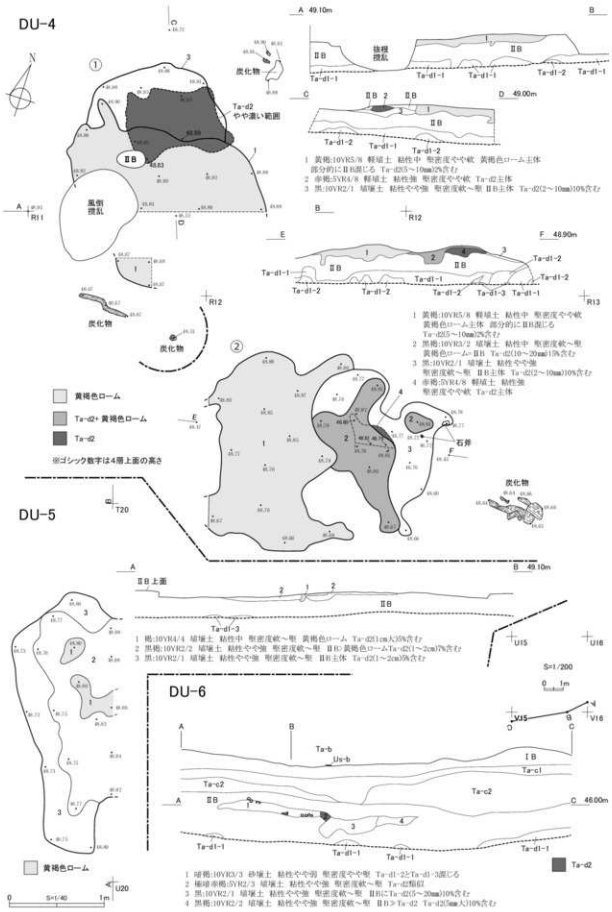
DU-２（図Ⅳ-23　図版14-１～４）
位置：Ｎ９・10、Ｏ９・10区、調査区中央の標高49.6～49.8mの平坦面に位置する。
規模：①確認面2.30×1.50 最大深さ0.08m　②確認面1.20×0.60 最大深さ0.08m　③確認面1.20×0.90　最大深さ0.08m　④確認面1.20×0.20 最大深さ0.04m　⑤確認面0.20×0.16 最大深さ0.04m　⑥確認面0.12×0.08 最大深さ0.04m
特徴：【確認・調査】ⅡB層掘り下げ中にTa-d2、黄褐色ロームを確認し、その範囲と断面を記録した。【範囲・堆積】掘り上げ土は６か所検出され、Ta-d2主体の①、黄褐色ローム主体の②～⑥に分けられる。①は長径2.3mでやや広いが、そのほかは小規模で1.2m以下である。厚さはいずれも10cm以下で、比較的密度も低い。①の南東部からは幅20cm弱の大型炭化材が出土した。周囲には北西６mにTP-２、東４mにTP-25が位置するが、どの掘り上げ土かは不明である。
時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。　（鈴木）

DU-３（図Ⅳ-23　図版14-５・６）
位置：N13・14区、調査区中央の標高49.0～49.2mの緩斜面に位置する。
規模：確認面1.70×1.00 最大深さ0.10m
特徴：【確認・調査】ⅡB層掘り下げ中にTa-d2、黄褐色ロームを確認し、その範囲と断面を記録した。【堆積・範囲】長径3.4m、短径2.0m程、厚さ10cm程である。黄褐色ローム主体で西側の下位には低密度のTa-d2（３層）が分布する。それらの上下は自然堆積と逆で、掘り上げた順に置かれたものと考えられる。周囲には北西５m程にTP-22が位置するが、北東側は調査範囲外であるため、どの掘り上げ土かは不明である。
時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。　（鈴木）

DU-４（図Ⅳ-24　図版14-７・８　15-１～４）
位置：Q11、R11・12区、調査区中央南部の標高49.7～49.9mの平坦面に位置する。
規模：①確認面（2.30）×1.70 最大深さ0.08m　②確認面1.22×1.10 最大深さ0.16m
特徴：【確認・調査】。ⅡB層掘り下げ中にTa-d2、黄褐色ロームを確認し、その範囲と断面を記録した。【堆積・範囲】掘り上げ土は①Q11・R11区と②R12区の２か所あり、①は長径不明、短径1.7m程、厚さ８cmである。黄褐色ローム主体で北側の下位にはTa-d2が分布する。②は2.5×2.1m、厚さ16cmである。西側は黄褐色ローム（１層）、東側はTa-d2主体（３・４層）で、中央部ではTa-d2（４層）



図Ⅳ-23 掘り上げ土(2) DU-2・3



図Ⅳ-24　掘り上げ土(3)　DU-4・5・6

の上に黄褐色ローム（２層）が堆積する。①②ともTa-d2は黄褐色ロームに比べ量が少ない。また、黄褐色ロームの下位にあることが共通し、自然堆積と逆で、掘り上げた順に置かれたものと考えられる。

両者とも周辺に炭化材が出土し、R12区の東側からは長さ60cmの炭化材が出土した。周囲には北側５m程にTP-25・26、北東４mにTP-24、６mにTP-27が位置するが、どの掘り上げ土かは不明である。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。（鈴木）

DU-５（図Ⅳ-24　図版15-５・６）

位置：T19・20区　調査区東部の標高48.7～48.9mの西向きの緩斜面に位置する。

規模：確認面2.80×（1.20）　最大厚0.05m

調査・特徴：ⅡB層掘り下げ中にTa-d2、黄褐色ロームを確認し、その範囲と断面を記録した。長径2.8m、短径不明、厚さ５cmである。黄褐色ローム主体の土（１層）が部分的にあり、ⅡB・Ta-d2・黄褐色ロームの混じった土（２層）がその下位に、さらに下位にTa-d2を少量含む土（３層）が堆積する。それらの上下は自然堆積と反対である。北側にTP-29が隣接し、その掘り上げ土の可能性がある。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。（鈴木）

DU-６（図Ⅳ-24　図版15-７・８）

位置：U15、V15区　調査区中央の標高45.9～46.1mの沢状地形の底部に位置する。

規模：確認面2.10×- 最大厚0.10m

特徴：【確認・調査】ⅡB層掘り下げ後に調査区南壁で確認し、断面のみ記録した。

【堆積・範囲】長径2.1m、短径不明、厚さ10cm程である。中心部にTa-d2を少量含む落ち込み（３層）があり、その東側にはTa-d1主体（１層）・Ta-d2主体（２層）、西側にはTa-d2を含む層（４層）がある。中央の３層がTピットの覆土の可能性があり、調査区内に掘り込みが確認できないため、南側にTピットがある可能性が想定される。

時期：周辺の遺構・遺物などから縄文時代中期後半と考えられる。（鈴木）

DU-７（図Ⅳ-25　図版16-１）

位置：P16区　調査区中央部南東寄りに位置し、標高48mの沢奥にあたる平坦面に立地する。南側６mにTP-23、南西10mにTP-27がある。

規模：確認面0.48×0.28 最大厚0.04m　**平面形態**：楕円形

特徴：【確認】ⅡB層１回目の掘り下げで、ⅡB層とTa-d1、d2の混土の広がりを確認した。【調査】楕円形の広がりの南半分を掘り下げて土層断面を確認し、遺構を伴っていないことから、掘り上げ土として調査した。規模が小さいので調査区外にのびる可能性もある。【堆積】Ta-d1、d2ブロックとⅡB層が混じる混土で層厚５cmと薄い堆積である。

時期：縄文時代にあたるが詳細の特定はできていない。周囲のTピットに伴なうものであれば、縄文中期後半の可能性がある。（藤井）

DU-８（図Ⅳ-25　図版16-３・４）

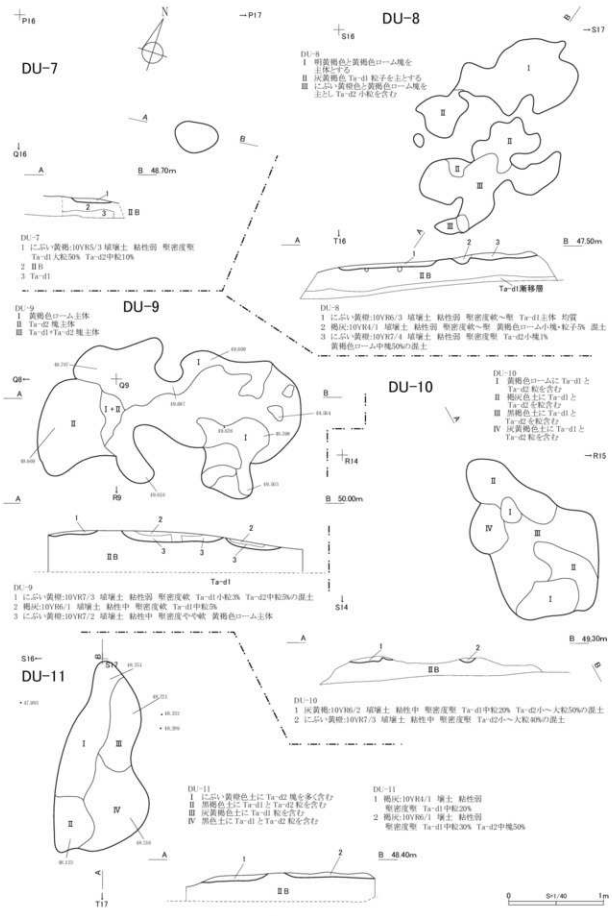
位置：S16区　調査区南部やや東寄りに位置し、標高47～47.5mの沢状地形による斜面途中に立地す

る。東にDU-11と近接し、北４mにTP-23、南４mにTP-17がある。
規模：確認面2.28×1.60 最大厚0.08m　**平面形態**：南北に長い不整楕円形が北、南の２か所にある。
特徴：【確認】ⅡB層を少し掘り下げたところで、黄褐色ロームTa-d1、d2とⅡB層との混土の広がりを確認した。【調査】楕円形の長軸に沿って南西側を掘り下げ、土層断面の堆積と遺構を伴っていないことを確認し、掘り上げ土として調査した。【堆積】混土の内容によって３種の堆積に分けることができた。黄褐色ローム主体（Ⅰ）、Ta-d1が多いもの（Ⅱ）、黄褐色ロームブロックにTa-d2を含むもの（Ⅲ）の３種で、いずれも層厚は５cmと浅い。
時期：縄文時代のものであるが、詳細を特定できていない。周辺のTピットに伴なうものであれば、縄文中期後半の可能性がある。（藤井）

DU-９（図Ⅳ-25　図版16-５・６）
位置：P８・９、Q８・９区　調査区南側西寄りに位置し、標高49mの尾根上平坦面に立地する。近接する遺構はなく、８m西にTP-21、７m北にDU-２、10m東にDU-４がある。掘り上げ土が集中する範囲である。
規模：確認面2.81×1.52 最大厚0.12m　**平面形態**：東西に長い不整楕円形
特徴：【確認】ⅡB層１回目の掘り下げで、黄褐色ローム、Ta-d1、Ta-d2とⅡB層との混土の広がりを確認した。【調査】楕円形の長軸の南半分を掘り下げて土層断面を確認し、遺構を伴っていないことで掘り上げ土と判断して調査した。【堆積】混土の内容によって三種に分けた。黄褐色ローム主体（Ⅰ）、Ta-d2主体（Ⅱ）、Ta-d1とd2主体（Ⅲ）の三種で、いずれも５～10cmの層厚で堆積する。
時期：縄文時代のものであるが、詳細を特定できていない。周辺のTピットに伴なうものであれば、縄文中期後半の可能性がある。（藤井）

DU-10（図Ⅳ-25　図版16-７・８）
位置：R14区　調査区南側のやや東寄りに位置し、標高48mの緩斜面上に立地する。西側TP-24に近接し、北４mにTP-27、東６mにTP-23がある。
規模：確認面2.00×1.20 最大厚0.08m　**平面形態**：南北に長い楕円形
特徴：【確認】ⅡB層２回目の掘り下げで、Ta-d1、d2とⅡB層との混土の広がりを確認した。【調査】楕円形の長軸に沿って南東半分を掘り下げて、土層断面堆積と、遺構を伴なっていないことを確認して掘り上げ土として調査した。【堆積】混土の内容によって四種の覆土に分けた。黄褐色ロームにTa-d1、d2が含まれるもの（Ⅰ）、灰褐色土にTa-d1、d2を含むもの（Ⅱ）、黒褐色土にTa-d1、d2を含むもの（Ⅲ）、灰黄褐色土にTa-d1、d2を含むもの（Ⅳ）、でいずれも５cm以下の層厚で薄い。
時期：縄文時代にあたるが詳細の特定はできていない。周辺のTピットに伴なうものであれば、縄文中期後半の可能性がある。（藤井）

DU-11（図Ⅳ-25　図版16-２）
位置：S16・17区　調査区南側やや東寄りに位置し、標高47.5mの沢状地形の斜面部に立地する。西にDU-８と近接し、北４mにTP-23、沢下流にあたる南６mにTP-17・18がある。
規模：確認面2.06×1.02 最大厚0.05m　**平面形態**：南北に長い楕円形
特徴：【確認】ⅡB層を３回目に掘り下げたところで、Ta-d1とTa-d2粒とⅡB層との混土の広がりを確認した。【調査】楕円形の長軸に沿って東半分を掘り下げ、土層断面と、遺構を伴なっていないこ



図Ⅳ-25 掘り上げ土(4) DU-7・8・9・10・11

とを確認し、掘り上げ土として調査した。【堆積】混土の内容により四種の覆土に分けた。いずれも層厚５cm程の薄い堆積である。

時期：縄文時代にあたるが詳細の特定はできていない。周辺のTピットに伴なうものであれば、縄文中期後半の可能性がある。　（藤井）

（７）炭化材・炭化物集中（CB）

CB－１（図Ⅳ-26　図版17-１）

位置：K10区　調査区内中央部北寄りに位置し、標高約50mの平坦面に立地する。近接する遺構はなく、北西約10mにTP-５、南東約10mにTP-22がある。

規模：確認面1.00×0.54 最大厚0.06m　**平面形態**：楕円形（北西-南東に長い）

特徴：【確認】包含層調査２回目の掘り下げ時に炭化物のまとまりを確認した。大きな広がりではなく、径10cm程のまとまりがいくつか分散した状態である。【調査】炭化物塊の広がりを確認し、その長軸を切るかたちで堆積を確認した。【堆積】炭化物塊を主に焼土とTa-d2とが混じる堆積が見られた。炭化物は数cm程度の塊と数mm程度の粒があり、粒の方が多く見られた。【分析】出土した炭化物のうち木片を抽出し、放射性炭素年代測定と炭化材樹種同定を行った。年代測定は3600±30yrB.P.、樹種はコナラ属コナラ節との結果を得た。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代にあたるが詳細を特定できる遺物は出土していない。年代測定により、縄文時代後期前葉との結果を得た。

（藤井）

CB－２（図Ⅳ-26　図版17-２）

位置：T20区　調査区南東部に位置し、標高49mの尾根筋上に立地する。西にTP-29、DU-６、東にCB-３、TP-20と近接する。

規模：炭化材①　確認面0.34×0.40m・　炭化材②　確認面1.02×0.54m

平面形態：炭化材①　複雑に入り組んだ不整形(部分)・　炭化材②　複雑に入り組んだ不整楕円形(部分)

特徴：【確認】ⅡB層１回目の掘り下げで、炭化物・炭化材の大きな広がりを確認した。精査によって東と西の２か所に分かれた。【調査】炭化材の分布状況を確認し①、②それぞれを半截して断面を確認した。【堆積】炭化材のブロックがほとんどで、一部に10～15cmの細長い形で残るものもあった。層厚は薄く、炭化材層１層のみであった。【分析】炭化材②の中から炭化木片をサンプルとして抽出し、放射性炭素年代測定と炭化材樹種同定を行った。年代測定は2960±30yrB.P.(Ta８-07)、樹種同定はいずれもコナラ属コナラ節との結果を得た（Ta８-08・09)。(表Ⅵ-１)

時期：時期の特定ができる遺物がないが、分析結果によって縄文時代晩期初頭の可能性がある。

（藤井）

CB－３（図Ⅳ-26　図版17-３）

位置：S21・T21区　調査区南東部に位置し、標高49mの尾根筋上に立地する。TP-20と重複し、西にCB-２と近接する。西５mにTP-29、南東５mにF-１がある。

規模：確認面2.74×0.99m　**平面形態**：東西に長い不整楕円形

特徴：【確認】ⅡB層１回目の掘り下げで、炭化物粒炭化材の広範囲な広がりを確認した。全体に細かな粒が分散する中に、７か所の炭化材のまとまりを確認した。【調査】炭化材・炭化物の分布状況を確認し、分布範囲の長軸の南半分を掘り下げて土層断面を確認した。【堆積】炭化材及び炭化物ブ

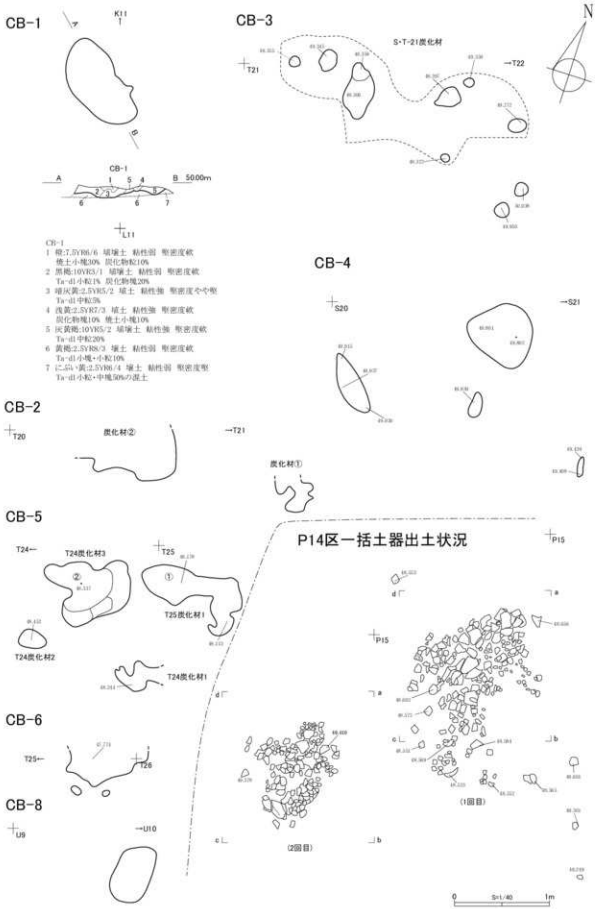
ロックが薄く堆積するのみであった。
時期：縄文時代に相当するも、詳細な時期を特定できる遺物は出土しなかった。周辺の炭化物の出土状況から、縄文時代後期から晩期にかけてのものと考えられる。　（藤井）

CB－４（図Ⅳ-26）
位置：S19・20区　調査区南東部に位置し、標高49mの尾根筋上に立地する。南西にTP-29に近接し、南６mにCB-２、DU-６がある。
規模：確認面0.69×0.68m　**平面形態**：円形、楕円形の大小のまとまりが、径３mの範囲に分散する。
特徴：【確認】ⅡB層２回目の掘り下げで、炭化物ブロック、炭化材のまとまりを数か所で確認した。【調査】炭化物ブロック・炭化材の分布を確認し、各々のまとまりについて半截し、土層断面を確認した。【堆積】いずれのまとまりも、炭化物層のみの薄い堆積であった。
時期：層位や他の炭化物集中の例から縄文時代後期～晩期にかけてのものと考えられる。　（藤井）

CB－５（図Ⅳ-26　図版17-４）
位置：T24・25区　調査区南東部に位置し、標高48mの斜面上部に立地する。西にF-７、東にCB-６と近接する。
規模：①　確認面1.09×0.64m　②　確認面0.96×0.65m　**平面形態**：T25杭を中心に半径２mの円内に、不整形な炭化材群が４か所分布
特徴：【確認】ⅡB層上面の精査時に、炭化材・炭化物ブロックの広範囲な広がりを確認した。広がりは北側調査区外にも及ぶ。【調査】炭化物の分布を確認し、４か所のまとまりについてそれぞれ半截し、土層断面を確認した。【堆積】いずれのまとまりも炭化物層のみの薄い堆積であった。
時期：層位及び他の炭化物集中の例から、縄文時代後期から晩期にかけてと考えられる。　（藤井）

CB－６（図Ⅳ-26　図版17-４）
位置：S25・26、T25・26区　調査区南東部に位置し、標高47.5mの斜面上部に立地する。西にCB-５と近接し、南東８mにC-１がある。
規模：確認面0.81×(0.46) m　**平面形態**：東西に長い不整楕円形（部分）
特徴：【確認】ⅡB層上面の精査時に細かな炭化材ブロックの広がりを確認した。広がりは北側調査区外にも及ぶ。【調査】炭化物の分布を確認し、調査区壁側を残して掘り下げ、土層断面を確認した。【堆積】炭化物層のみの薄い堆積であった。
時期：層位及び他の炭化物集中の例から、縄文時代後期から晩期にかけてのものと考えられる。
（藤井）

CB－７（図Ⅳ-21　図版17-５・６）
位置：U５区　調査区南東部に位置し、標高48～48.5mの緩斜面上に立地する。F-３・４・５からなる焼土群の範囲と重なる。
規模：長径６m、短径４mの範囲　炭化材①　確認面0.20×0.16 最大厚0.04m　②　確認面0.32×0.16 最大厚0.04m　**平面形態**：炭化物粒子が樹枝状に広がる。
特徴：【確認】ⅡB層上面の精査時に、U５・６グリッド内ほぼ全体に細かい炭化物粒子が樹枝状に広がることを確認した。【調査】炭化物の分布範囲を記録し、３か所の炭化材については半截し、土層



図Ⅳ-26　炭化物集中(2)　CB-1・2・3・4・5・6・8　P14区一括土器出土状況

断面を確認した。【堆積】炭化物の堆積は１～２cm程度のきわめて薄い堆積。３か所の炭化材については、樹木の形状が明瞭で厚みも残る堆積が見られた。
時期：層位及び他の炭化物集中の例から、縄文時代後期から晩期にかけてと考えられる。　（藤井）

CB－８（図Ⅳ-26　図版17-７）
位置：Ｕ９区　調査区南端西寄りに位置し、標高49mの緩斜面上に立地する。近接する遺構はなく、西10mにF-３・４・５焼土群がある。
規模：確認面0.66×0.40m　**平面形態**：南北に長い楕円形
特徴：【確認】ⅡB層２回目の掘り下げで、炭化物ブロックの広がりが確認された。【調査】分布範囲を記録し、長軸に沿って半截した後、土層断面を確認した。【堆積】炭化物層のみで、数cm程の薄い堆積であった。
時期：遺物は出土していないが、周辺の炭化物集中の例などから縄文時代後～晩期の可能性がある。
（藤井）

（８）ⅢB層の遺構

ｉ　小ピット（SP）

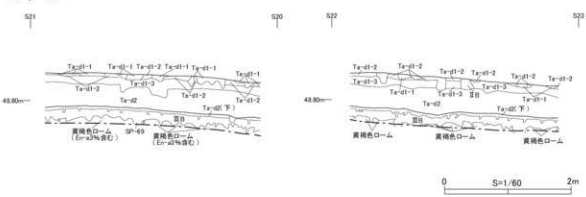
SP－１～４（図Ⅳ-28　図版18-１～４）
位置：Ｕ７区　調査区南西部、標高47.9～48.1mの平坦面に位置する。
調査・特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径12～20cm程の円形の黒色土を確認した。半截して調査を行った。
覆土はⅢB層主体で黄褐色ロームが少量混じり、SP-１の下位には軟質の黄褐色ロームが堆積する。深さは12～24cmで、坑底は丸みを帯びるものが多い。グリッド内での明瞭な配列は確認できない。
時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。　（鈴木）

SP－５～17（図Ⅳ-28　図版18-５～８）
位置：Ｓ７区　調査区南西部、標高48.2～48.4mの平坦面に位置する。
特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径８～16cm程の円形の黒色土を確認した。半截して調査を行った。
覆土は、ⅢB層主体で黄褐色ロームが少量混じるものがほとんどで、黄褐色ローム体のものが少数ある。SP-５の上位のⅢB層上面は平坦であり、その上位のⅢB層堆積後およびTa-d2降下直前には窪みではなかったと考えられる。深さは８～22cmで、坑底は丸みを帯びるものが多い。太さ・深さなどやや定形性に欠ける。分布はランダムで、グリッド内での明瞭な配列は不明である。
時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。　（鈴木）

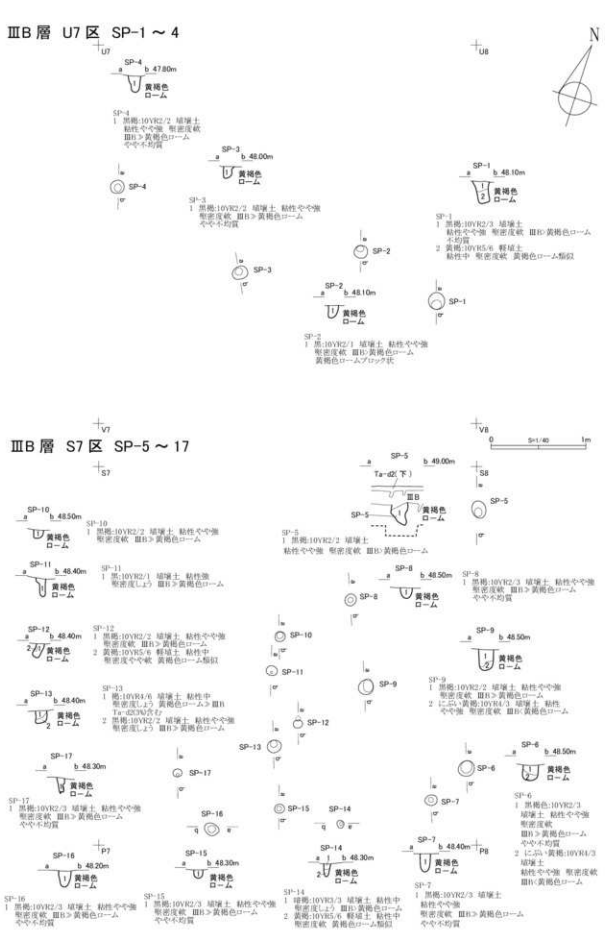
SP－18～32（図Ⅳ-29　図版19-１～４）
位置：Ｍ７区　調査区中西部に位置し、標高48.8～49.0mの平坦面に立地する。
特徴：【確認】ⅡB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径８～20cm程の円形・楕円形の黒色土を複数確認した。【調査】15か所を半截して土層断面を確認した。【堆積】覆土は殆どが灰色を基調としたⅡB層と、斑状の黄褐色ロームブロックとの混土である。【壁・底面】黄褐色ロームを掘り込み、深さ10～26cmである。尖底が多く、壁の立ち上がりも明瞭である。掘り込みは垂直なものや、やや傾斜のあるものがある。【分布】分布に規則性は見られず、配列などは不明である。

8ライン

Sライン

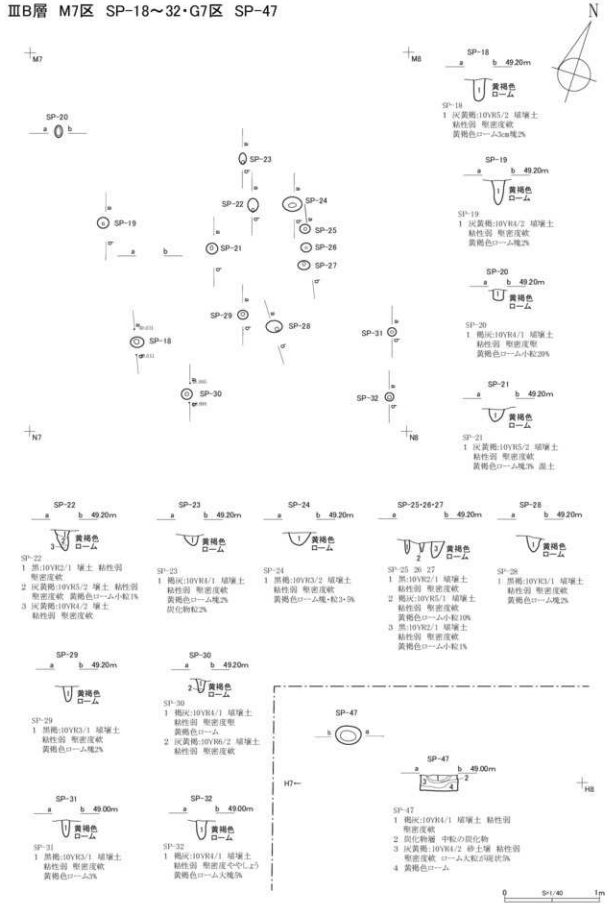


図Ⅳ-27　ⅢB 層調査　土層断面図



図Ⅳ-28 ⅢB 層調査 柱穴状小ピット(1) SP-1～17

ⅢB層　M7区　SP-18～32・G7区　SP-47



図Ⅳ-29　ⅢB層調査　柱穴状小ピット(2) SP-18～32・47

時期：ⅢB層の堆積中につくられたと考えられる。　（藤井）

SP-33～40（図Ⅳ-30　図版19-５～８）

位置：O７区　調査区中西部に位置し、標高48.８～49.0mの平坦面に立地する。

特徴：【確認】ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径６～30cm程の円形、長径40.80cmの楕円形の黒色土を複数確認した。【調査】８か所を半截して土層断面を確認した。【堆積】覆土は殆どが灰色を基調としたⅡB層と、斑状の黄褐色ロームブロックとの混土からなる。SP-36のみ、これにTa-d2ブロックが加わる。【壁・底面】黄褐色ロームを掘り込み、深さは20～30cmのものまである。SP-35・36は浅皿状で、その他は尖底に近い柱穴状で壁の立ち上がりも明瞭である。掘り込みは全て垂直である。【分布】分布に規則性は見られず配列なども不明である。

時期：ⅢB層の堆積中につくられたと考えられる。　（藤井）

SP-41～46（図Ⅳ-30　図版20-１～４）

位置：I７区　調査区中西部やや北寄りに位置し、標高49.１～２mの平坦面に立地する。

特徴：【確認】ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径11～20cm程の円形の黒色土を複数確認した。【調査】７か所を半截して土層断面を確認した。【堆積】覆土は殆どが灰色を基調としたⅢB層と、斑状の黄褐色ロームブロックとの混土である。【壁・底面】黄褐色ロームを掘り込み、深さ12～30cmものがある。SP-46は柱穴状にならなかった。底面は丸底が多く、壁の立ち上がりは明瞭である。掘り込みはやや傾斜のあるものが多い。【分布】グリッド内では南東に偏在するが、分布に規則性はなく配列なども不明である。

時期：ⅢB層の堆積中につくられたものと考えられる。　（藤井）

SP-47（図Ⅳ-29　図版20-５・６）

位置：G７区　調査区北部に位置し標高49mの平坦面に立地する。

規模：確認面 長軸0.34　短軸0.19　最大深さ0.14m

特徴：【確認】ⅢB層確認調査による掘り下げ中、ⅢB層の下部で、楕円形のTa-d2主体の堆積１か所を確認した。【調査】楕円形の長軸北半分を掘り下げて土層断面を確認した。【堆積】覆土はTa-d2ブロック主体で、Ta-d1粒・ⅢB粒との混土である。【壁・底面】ⅢB層を浅く掘り込み、深さ14cmになる底面は浅皿状で壁も緩やかな立ち上がりである。

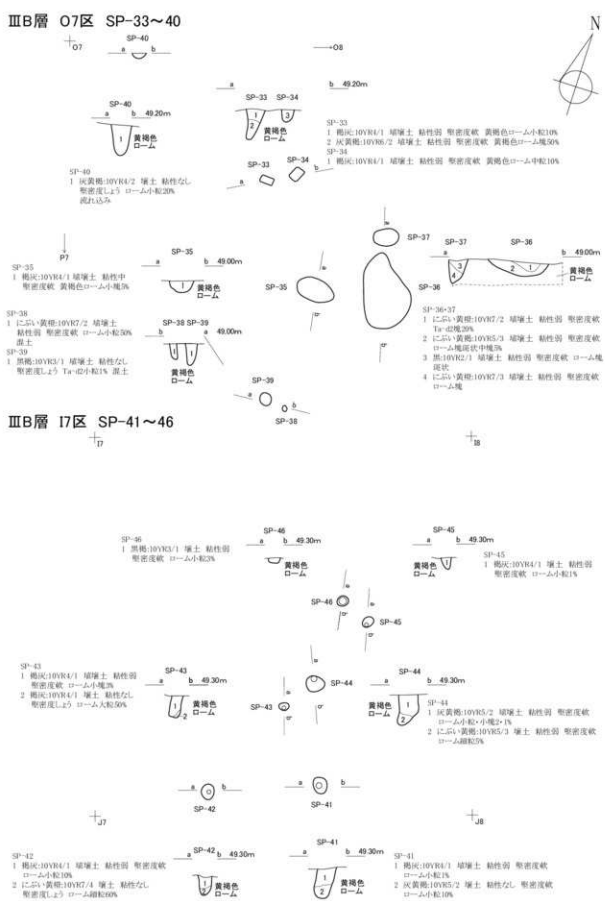
時期：ⅢB層堆積中につくられたものと考えられる。　（藤井）

SP-48～71（図Ⅳ-31　図版20-７・８　21-１・２）

位置：R20区　調査区南東部に位置し、標高48.４～48.60mの平坦面に立地する。

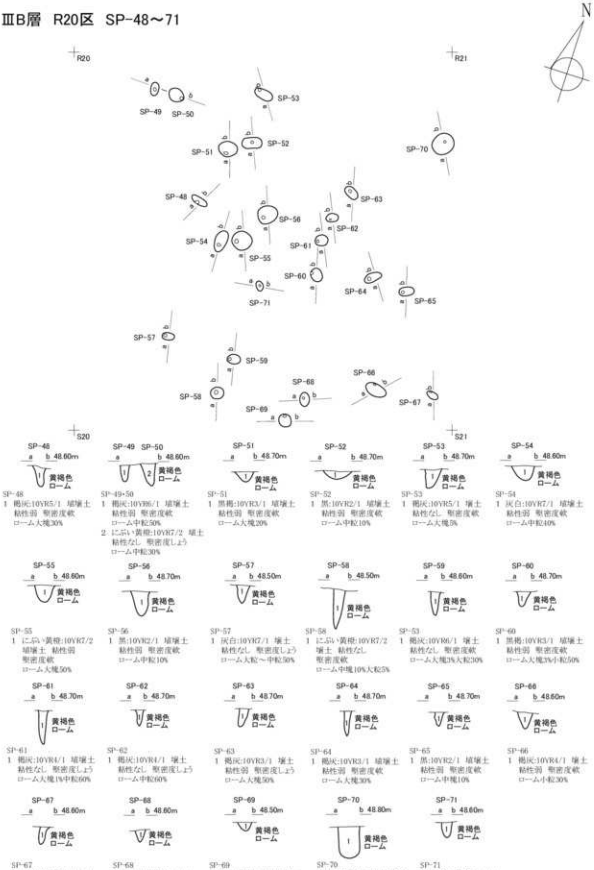
特徴：【確認】ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径９～24cmの円形の黒色土を複数確認した。【調査】24か所を半截して土層断面を確認した。【堆積】覆土は灰色を基調としたⅢB層と、黄褐色ロームブロックとの混土からなる。【壁・底面】黄褐色ローム層を掘り込み、深さ８～36cmのものがある。底面には尖底、丸底、皿状があり、尖底が最も多い。壁は他のグリッドに比べて不明瞭なものが多いが、垂直に掘り込まれたものが多い。【分布】グリッドの中央から南にかけて集中しているが、規則性はなく配列なども不明である。

時期：ⅢB層の堆積中につくられたものと考えられる。　（藤井）



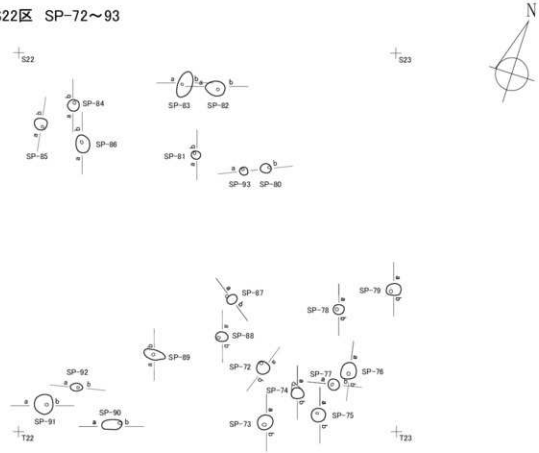
図Ⅳ-30　ⅢB層調査　柱穴状小ピット(3)　SP-33～46

ⅢB層　R20区　SP-48～71



図Ⅳ-31　ⅢB 層調査　柱穴状小ピット (4)　SP-48 ～ 71

ⅢB層　S22区　SP-72～93



図Ⅳ-32　ⅢB層調査　柱穴状小ピット (5)　SP-72～93

SP-72～93（図Ⅳ-32　図版21-３～８）

位置：S22区　調査区南東部に位置し、標高48.２～48.50mの平坦面に立地する。

特徴：【確認】ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径11～22cmの円形の黒色土を複数確認した。【調査】21か所を半截して土層断面を確認した。【堆積】覆土は灰色を基調としたⅢB層と黄褐色ロームブロックとの混土である。SP-92のみTa-d2ブロックも混じる。【壁・底面】黄褐色ローム層を掘り込み、深さ８～46cmのものがあるが、30cm前後のものが多い。底面は丸底、尖底、皿状があり、丸底が目立つ。壁が不明瞭なものが多く、その殆どが垂直な掘り込みである。

【分布】グリッド中心を空白にしてその周囲に分布する。その他に特に規則性はなく、配列も不明である。

時期：ⅢB層の堆積中につくられたものと考えられる。　（藤井）

３　遺物

（１）概要

A地区から出土した遺物は2,725点である。この内、土器が1,849点、石器が678点、礫が198点である。土器が最も多いがⅣc類１個体分の1,722点が大半を占めている

土器は遺構が１点、包含層が1,848点で、時期ではⅣc類が1,722点と最も多く、Ⅲb類が116点、Ⅱa-２類が10点の順である。この他、焼成粘土塊が６点出土した。

石器は遺構が529点、包含層が149点であるが、その殆どはC-１、剥片集中の剥片である。定形石器の器種には石鏃、石槍、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、R・Uフレイク、石斧、たたき石、石錘、砥石、台石石皿あり、石鏃が55点と圧倒的に多い。

礫は遺構が２点、包含層が198点である。扁平な円礫、円礫片が69点と多いのが特徴である。中でも片麻岩の扁平円礫片が27点と最も多い。石材は安山岩が59点と最も多く、次に片麻岩30点、砂岩16点と続く。

（２）土器（図Ⅳ-33・34　図版44　表Ⅳ-１）

図Ⅳ-33-１は遺構出土のものである。TP-26覆土上面より出土したⅢ群b類の口縁部破片で、ⅡB層P15出土の口縁部破片と接合した。

２～22は包含層出土のものである。２はⅡ群a-２類の口縁部破片である。３～20はⅢ群b類の土器片である。３～７はロ縁部破片、３～６は肥厚した口唇断面形を特徴とするもので、３～５は突起がある。３は三角形を呈した大型の突起を伴うもので、平成30年度試掘調査によりK27区で出土した口縁部片と接合した。４は２種の形状の突起で、５は貼付紐を組み合わせた突起を特徴とする。７は口縁部が肥厚せず、縦位の貼付による突起を特徴とする。８、９は口唇が失われているが口縁部付近と考えられる。８は貼付紐に沈線状の刻み、９は半円形の刻み列が特徴である。10～21は胴部破片である。10・11は横位の貼付紐を伴う。12～16はLR原体による斜行縄文を地文とする。中でも12～14は径が小さく、小型鉢のものと思われる。17・18はRL原体による斜行縄文を地文とする。19・20は複節の縄文原体による斜行縄文を特徴とする。

21・22はⅣc類の土器である。21は口縁部破片で突瘤文を特徴とする。

22はA地区内唯一の復元個体の大型深鉢である。口縁から胴下半部までの全体の2/3を復元することができた。文様はRL原体による斜行縄文で、補修孔が多いのが特徴である。出土状況はⅡB層上層に1,718点の大小破片が本来の形状を残しつつ、横倒しの状態であった（図Ⅳ-26　ロ絵３-４）。このうち接合・復元できたのは222点である。底部片は小片１点のみで、口縁から底部までの復元には至

らなかった。

（３）石器・礫（図Ⅳ-34・35　図版45　表Ⅳ-２）

石鏃（図Ⅳ-34-１～16　図版45）

石鏃は55点出土した。石材は黒曜石製が49点、頁岩製が６点であった。その内16点を掲載した。１・２は無茎平基のもので黒曜石製である。３～８は無茎凹基のもので、３～６は黒曜石製、７・８は頁岩製である。３・４は小型、５・６が中型、７・８が大型に分類され、８は抉りの深い細身が特徴である。９～13は有茎凸基または有茎平基のものである。いずれも黒曜石製である。11は尖頭部が菱形、12は側縁が外湾し、逆ハート形に見える。特徴的な形状である。13は基部が失われている。14～16は柳葉形のもので、黒曜石製である。14は小型、15・16が大型に分けられる。

石槍（図Ⅳ-34-17・18　図版45）

石槍は３点出土した。その内２点を掲載した。17・18ともに有茎凸基状で黒曜石製である。17は側縁が曲線的、18は直線的である。

石錐（図Ⅳ-34-19　図版45）

石錐は３点出土した。その内１点を掲載した。19は逆三角形状でつまみ部と錐部が明瞭なものである。

つまみ付きナイフ（石匙）（図Ⅳ-35-20～22　図版45）

つまみ付きナイフは５点出土した。その内３点を掲載した。20・21は頁岩製でナイフの先が右を向き、22は黒曜石製で先が垂直の形態のものである。

スクレイパー（図Ⅳ-35-23　図版45）

スクレイパーは２点出土した。その内１点を掲載した。23は黒曜石製で、縦長剥片の右側縁に刃部を調整したものである。

石斧（図Ⅳ-35-24～27　図版45）

石斧は10点出土した。その内、４点を掲載した。24～26は緑色泥岩、27は片岩製である。24は上端の一部を失っているが、ほぼ完形に近い撥形である。25～27は上半部分を失っている25・26は短冊形、27は撥形である。

たたき石（図Ⅳ-35-28・29　図版45）

たたき石は３点出土し、内２点を掲載した。28は緑色泥岩で棒状礫を素材にしたもの。29は砂岩製で部分のみだが、扁平楕円礫を素材にしている。

砥石（図Ⅳ-35-30　図版45）

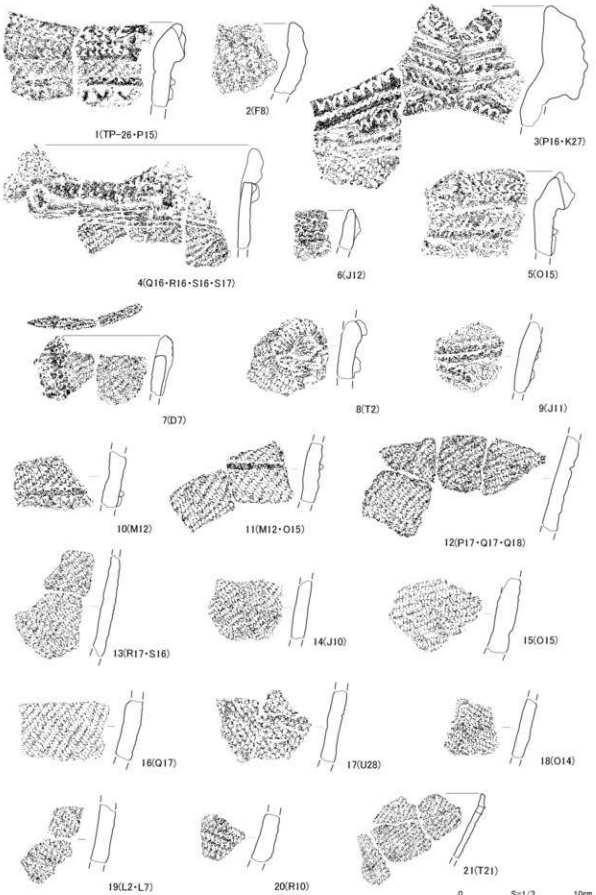
砥石は３点出土し、内１点を掲載した。30は砂岩製で使用面が２面以上みられるものである。

石錘（図Ⅳ-35-31　図版45）

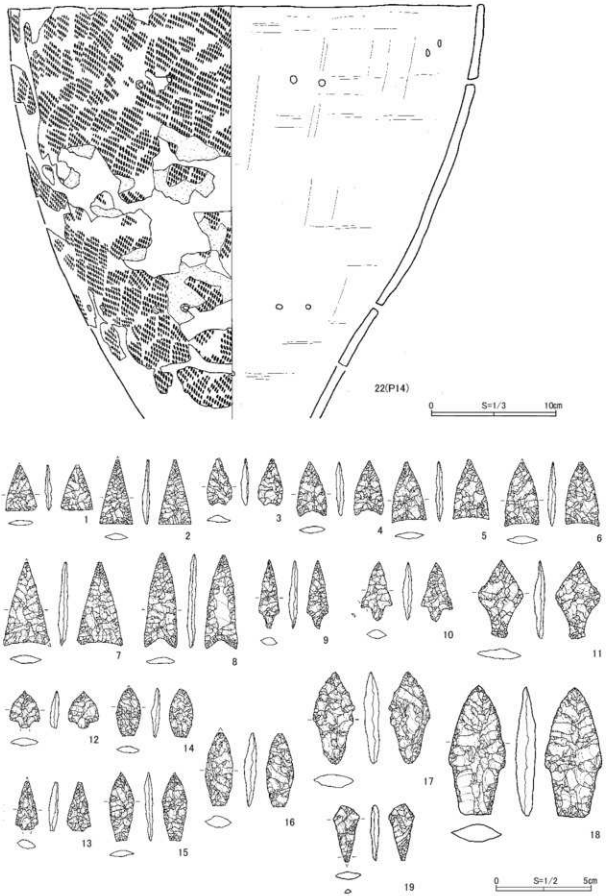
石錘は１点出土のものを掲載した。31は砂岩製で打ち欠きが２か所ある。

台石石皿（図Ⅳ-35-32　図版45）

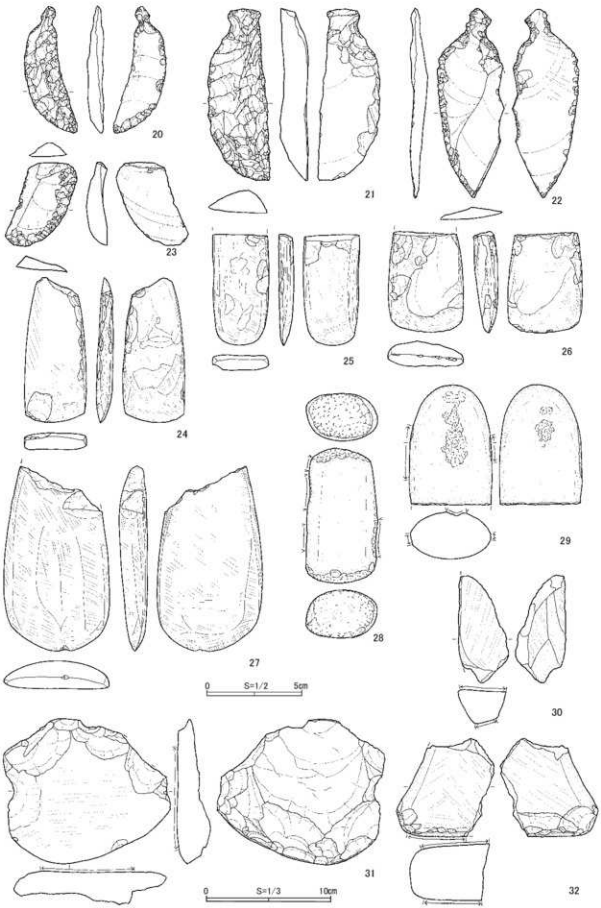
台石石皿は１点出土したものを掲載した。32は安山岩製で、厚さ４cmの板状礫を素材にしたものである。


1(TP-26・P15)
2(F8)
3(P16・K27)
4(Q16・R16・S16・S17)
6(J12)
5(O15)
7(D7)
8(T2)
9(J11)
10(M12)
11(M12・O15)
12(P17・Q17・Q18)
13(R17・S16)
14(J10)
15(O15)
16(Q17)
17(U28)
18(O14)
19(L2・L7)
20(R10)
21(T21)
0
S=1/3
10cm

図Ⅳ-33　土器(1)



図Ⅳ-34　土器(2) 石器(1)



図Ⅳ-35　石器(2)

種図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	分類	点数	重量(g)	部位	表面	内面	施土その他	色調 表	色調 裏
IV-33～1	44-1	TP-26	Q13	覆土上面	Ⅲb	1	59.8	口縁～突起部破片 口縁上に貼付細冬結み合わせた山形突起	(地)丸原体による斜行縄文 貼り付けた肥厚した口唇は断面が切り出し状で、半円形の刻み列が点在 口縁下部に横位の貼付紐と縦横状貼付紐が組み合う。横位の貼付紐には縦美状の刻み。	積すず調整による平滑	小粒の微を5％	2.5YR6/8 ～ 5Y2/1	5YR7/8 ～ 10YR7/6
		包含層	P15	Ⅱ B	3	1	61.2					7.5YR6/3 ～ 10YR6/1	10YR7/6 ～ 2.5YR5/4
IV-33～2	44-2	包含層	F08	Ⅱ B	2	Ⅱ a-2	1	55.3	口縁部破片・口唇に丸味あり	(地)丸原体による斜行縄文	ナデ調整あるが凹凸が残る	細い縦條痕が残る 極小粒が50%、小粒の微が3%	10YR6/1 ～ 5Y2/1
IV-33～3	44-3	包含層	P16	Ⅱ B	2	Ⅲb	1	156.9	口縁・突起部破片 突起は三角形を呈した大型のもの	突起部は貼付紐と平円形の刻み列 口唇は厚みを切り出し状の口唇には、半円形の刻み列と、複原の縦縄文、(地)複原の RL原体による斜行縄文	突起部分は縦ナデ調整、口縁部は横ナデによる調整 平滑	極小粒の微を5％	5YR6/4 ～ 7.5YR4/1	5YR5/8 ～
		試掘坑	K27				1						
IV-33～4	44-4	包含層	Q16	Ⅱ B	2		1	112.4	口縁～突起部破片 突起は2種類の状、直立する棒状のものと、把手部分のある台形状のものからなる。	貼付紐により肥厚した口唇上は やや平坦で、V字状の刻み列が見られる。(地)丸原体による斜行縄文、口唇直下には横条の隆起法線 棒状の突起下には横円形の貼付付が組み合わさる。	縦、横方向の波じったナデ調整 平滑だがザラザラしている	極小粒の微を50％	10YR6/4 ～ 2.5YR6/6	10YR6/3 ～ 2.5Y2/1
		包含層	R16	Ⅱ B	1	Ⅲb	2						
		包含層	S16	Ⅱ B	1		2						
		包含層	S17	Ⅱ B	1		1						
IV-33～5	44-5	包含層	O15	Ⅱ B	2	Ⅲb	1	85.2	口縁～山形突起破片 口縁は平円 突起は貼付付紐を組み合わせた山形突起が口唇上につくられる。	貼付により肥厚した口唇上は切り出し状、口唇上に半円形の刻み列。(地)丸原体による斜行縄文、口唇下に横位の貼付紐と縦横状貼付紐との組み合わせ、横位の貼付紐に半円形の刻み列	積すず調整による平滑・一部剥離	小粒の微が10％	10YR6/4 ～ 5YR6/4	7.5YR6/6 ～ 5YR4/6
IV-33～6	44-6	包含層	J12	Ⅱ B	2	Ⅲb	1	15.0	口縁部破片 口縁は平縁	貼付により口唇が肥厚、断面形は切り出し状、口唇上に半円形の刻み列	斜め方向のナデ調整 炭化物の付着	極小粒の微が50％、雲母などの鉱物が目立つ	2.5YR6/8 ～ 2.5YR2/1	2.5YR3/1 ～ 2.5YR2/1
IV-33～7	44-7	包含層	D07	Ⅱ B	2	Ⅲb	1	41.5	口縁～突起部破片 口縁は平縁 幅広の棒状貼付による突起	突起の貼付付背面に半円形の刻み列。(地)不明瞭であるが丸原体による斜行縄文、ふみのあるC口唇上には半円形の刻み列が施される。	突起部は横位ナデによる調整、平滑	小粒の微を20％	10YR5/2 ～ 5Y2/1	10YR7/6 ～ 5YR6/6
		包含層	D07	Ⅱ B	3	Ⅲb	1						
IV-33～8	44-8	包含層	T02	Ⅱ B	1	Ⅲb	1	43.3	口縁部付近破片 口縁に突起	蓋形に配された貼付紐から垂下した縦位の貼付紐に沿縦状の刻み列 (地)丸原体による斜行縄文	縦ナデ調整による平滑	極小粒の微が5％	10YR6/2 ～ 10YR6/4	10YR4/2 ～ 10YR2/1
IV-33～9	44-9	包含層	J11	Ⅱ B	1	Ⅲb	1	44.4	口縁部付近破片	半円形の刻みのある貼付紐が環状には巻、山形に5巻見られる。(地)丸原体による斜行縄文	縦ナデ調整による平滑	極小～小粒の微が10％	10YR6/6 ～ 7.5YR5/3	5YR6/6 ～ 7.5YR6/3
IV-33～10	44-10	包含層	M12	Ⅱ B	2	Ⅲb	1	37.8	胴部破片	(地)丸原体による斜行縄文 横位の貼付紐と縦横状に配された貼付紐との組み合わせ 横位の貼付紐には半円形の刻み列が施される	縦ナデ調整による平滑	小～中粒の微5％	7.5YR4/3 ～2.5YR4/2	5YR6/6 ～ 7.5YR2/3
IV-33～11	44-11	包含層	M12	Ⅱ B	2	Ⅲb	1	64.2	胴部破片	(地)丸原体による斜行縄文 横位の貼付紐に半円形の刻み列	縦ナデ調整による平滑	小粒の微が20％	5YR6/6 ～ 10YR4/1	7.5YR3/4 ～7.5YR4/3
		包含層	O15	Ⅱ B	2	Ⅲb	1						5YR7/6 ～ 10YR4/1	7.5R5/4 ～ 10YR3/2
IV-33～12	44-12	包含層	P17	Ⅱ B	2	Ⅲb	1	91.5	胴部破片	(地)丸原体による斜行縄文	縦ナデ調整による平滑 炭化物の付着	小粒の微が10％	10YR6/4 ～ 5YR6/6	2.5YR4/2 ～ 2.5Y2/1
		包含層	Q17	Ⅱ B	2	Ⅲb	2							
		包含層	Q18	Ⅱ B	2	Ⅲb	1							
IV-33～13	44-13	包含層	R17	Ⅱ B	2	Ⅲb	1	48.2	胴部破片	(地)丸原体による斜行縄文	縦横ナデ調整により平滑・ザラザラ	極小粒微30％、雲母などの鉱物	10YR6/4 ～ 2.5YR6/6	10YR6/3 ～ 2.5Y2/1
		包含層	S16	Ⅱ B	1		1							
IV-33～14	44-14	包含層	J10	Ⅱ B	1	Ⅲb	1	33.8	胴部破片	(地)丸原体による斜行縄文	横ナデ調整により平滑・ザラザラ	極小粒微50％、雲母などの鉱物	5YR6/6 ～ 7.5Y5/4	2.5Y2/2 ～ 5Y3/1
IV-33～15	44-15	包含層	O15	Ⅱ B	2	Ⅲb	1	58.4	胴部破片	(地)丸原体による斜行縄文	横ナデ調整により平滑・ザラザラ	中～小粒微10％	5YR7/6 ～ 10YR3/2	7.5YR7/6 ～ 7.5YR4/2
IV-33～16	44-16	包含層	Q17	Ⅱ B	1	Ⅲb	1	57.5	胴部破片	(地)丸原体による斜行縄文	縦横ナデ調整により平滑	小粒の微が20％	5YR7/6 ～ 5YR6/6	7.5YR5/6 ～ 7.5YR3/3
IV-33～17	44-17	包含層	U28	Ⅱ B	1	Ⅲb	2	42.8	胴部破片	(地)丸原体による斜行縄文	横ナデ調整により平滑	小粒の微が20％	5YR6/6 ～ 5YR4/2	10YR7/4 ～ 10YR5/4
		包含層	U29	Ⅱ B	上面		1							
IV-33～18	44-18	包含層	O14	Ⅱ B	2	Ⅲb	1	22.4	胴部破片	(地)丸原体による斜行縄文	横ナデ調整により平滑	極小粒の微10％	7.5YR6/8 ～ 2.5YR5/6	7.5YR6/4 ～ 10YR3/2
IV-33～19	44-19	包含層	L02	Ⅱ B	2	Ⅲb	1	31.4	胴部破片	(地)複雑のRL原体による斜行縄文	横ナデ調整により平滑	極小粒の微5％	10YR6/8 ～ 5YR6/6	7.5YR5/3 ～ 7.5YR4/2
		包含層	L07	Ⅱ B	2		1							
IV-33～20	44-20	包含層	R10	Ⅱ B	2	Ⅲb	1	20.6	胴部破片	(地)複雑のRL原体による斜行縄文	横ナデ調整により平滑	極小粒の微1％	5YR6/6 ～ 5YR5/4	10YR4/2 ～ 10YR3/1
IV-33～21	44-21	包含層	T21	Ⅱ B	1	Ⅳc	4	33.6	口縁部破片 口縁は波状口縁	(地)丸原体による斜行縄文・口縁に突瘤文	横ナデ調整により平滑 炭化物付着	極小粒の微5％	10YR7/3 ～ 10YR6/2	10YR5/3 ～ 5Y2/1
IV-34～22	44-22	包含層	P14	Ⅱ B	1	Ⅳc	222	2500.0	口縁～胴下半部分の復元個体 口縁は平縁	(地)丸原体による斜行縄文 口唇の断面形はやや角形	主に縦ナデ調整による平滑	補修孔が1箇	5YR6/6 ～ 2.5Y2/1	10YR6/4 ～ 2.5Y3/1

※(地) 地文

表Ⅳ-1　掲載土器一覧(A地区)

挿図番号	図版番号	グリッド	層位	器種	点数	残存率	形状	剥離調整	石材	色調	他	計測値(cm)＋(g) 長さ	幅	厚さ	重量(g)
IV-34-1	45-1	JO3	Ⅱ B	石器	1	一部欠損(先端)	三角形(1.4:1) 無茎平基 両側縁は直線的	両面全体剥離	透明度の高い、縞状の黒曜石	TA9-1		(2.4)	1.7	0.3	(0.8)
IV-34-2	45-2	P16	Ⅱ B	石器	1	一部欠損(先端)	三角形(2.2:1) 無茎平基 両側縁直線的	両面全体剥離	球顆分散 黒味の強い黒曜石			(3.4)	1.7	0.4	(1.1)
IV-34-3	45-3	M14	Ⅱ B	石器	1	一部欠損(先端)	三角形(1.9:1) 抉りの明瞭な無茎凹基 両側縁外湾	両面全体剥離 表面に一部原礫面剥離	透明度低い、黒味の強い黒曜石			2.5	1.3	0.4	0.9
IV-34-4	45-4	R01	Ⅱ B	石器	1	完形	三角形(1.2:1) 抉りの中央深い無茎凹基 両側縁外湾	両面全体剥離	透明度のやや高い、縞状の黒曜石	TA9-3		2.9	1.6	0.4	1.4
IV-34-5	45-5	S01	Ⅱ B	石器	1	一部欠損(先端)	三角形(1.6:1) 抉りの浅い無茎凹基 両側縁外湾	両面全体剥離	透明度の高い灰色の黒曜石			3.2	1.9	0.4	1.5
IV-34-6	45-6	I10	Ⅱ B	石器	1	一部欠損(先端)	三角形(1.8:1) 抉りの浅い無茎凹基 左側縁下部が鋸状	両面全体剥離 左側縁下部に抉り調整	透明度の低い黒味の強い黒曜石 白滝産	石器転用 TA9-2		(3.4)	1.8	0.4	(1.9)
IV-34-7	45-7	R15	Ⅱ B	石器	1	一部欠損(先端・右縁)	大型の三角形(1.8:1) 抉りの浅い無茎凹基 両側縁直線的 右側縁上部に欠落あり	両面ほぼ全体剥離	貫入	10YR5/1		(4.4)	(2.4)	0.5	(3.3)
IV-34-8	45-8	Q08	Ⅱ B	石器	1	一部欠損(先端)	大型の三角形(3.1:1) 抉りの深い無茎凹基 両側縁が緩やかに外湾	両面ほぼ全体剥離 裏面中央に素材面残	貫入	2.5Y5/1		5.0	1.8	0.4	3.0
IV-34-9	45-9	P14-15	Ⅱ B	石器	1	一部欠損(基部末端)	有茎凸基 尖頭部三角形(1.8:1) 両側縁直線的 基部は末端につれて細くなる	両面全体剥離	透明度低い 球顆分散 黒味の強い黒曜石		一括土器	(3.6)	1.1	0.5	(1.1)
IV-34-10	45-10	U27	Ⅱ B	石器	1	完形	有茎凸基 尖頭部三角形(1.4:1) 両側縁直線的、下部で開折 左側縁部鋸状 基部末端丸い	両面全体剥離 左側縁部に抉り調整	球顆多く分散 黒味の強い黒曜石		石器転用の可能性	3.1	1.7	0.5	1.2
IV-34-11	45-11	R16	Ⅱ B	石器	1	完形	有茎凸基 全体に菱形 尖頭部両側縁直線的 基部は末端につれて細く、端部はつまみ状	両面全体剥離	透明度低い 球顆多く分散 黒味の強い黒曜石	尖頭部左側縁に欠落あり		3.6	2.1	0.5	2.4
IV-34-12	45-12	H09	Ⅱ B	石器	1	完形	小型有茎平基 両側縁湾曲 尖頭部小さい 基部は短く、末端は直線的	両面全体剥離	透明度高い 黒色斑状の黒曜石			(2.0)	1.6	0.4	(1.0)
IV-34-13	45-13	I11	Ⅱ B	石器	1	一部欠損(尖端基部)	有茎凸基(平基に近い) 尖頭部三角形(1.7:1) 両側縁直線的	両面全体剥離	透明度高い 黒色斑状の黒曜石			(2.6)	1.3	0.5	1.1
IV-34-14	45-14	R19	Ⅱ B	3	石器	1	一部欠損(尖端)	小型有茎平基 両側縁外湾	両面全体剥離	透明度低い 球顆小さい黒味の強い黒曜石		(2.6)	1.3	0.4	1.2
IV-34-15	45-15	L08	Ⅱ B	1	石器	1	完形	中型柳葉形凹基 両側縁外湾	両面全体剥離	透明度やや高い 球顆分散 黒味の強い黒曜石	極小形球顆分散 灰色斑状の黒曜石TA9-4	3.6	1.3	0.4	1.5
IV-34-16	45-16	L03	Ⅱ B	3	石器	1	一部欠損(尖端)	中型柳葉形平基 両側縁外湾	両面全体剥離	透明度低い 極小球顆分散少数 黒味の強い黒曜石	極小形球顆分散少数	(3.9)	1.5	0.6	(2.9)
IV-34-17	45-17	R22	Ⅱ B	2	石器	1	完形	有茎凸基状 尖頭部三角形(1.2:1) 両側縁湾曲 基部は長く幅広、末端は丸い	両面全体剥離	透明度低い 黒味の強い黒曜石	尖頭部左側縁が鋸歯状	4.9	2.2	0.8	6.5
IV-34-18	45-18	S13	Ⅱ B	1	石器	1	完形	有茎凸基状 尖頭部三角形(1.3:1) 両側縁直線的、末端につれて細くなる	両面全体剥離	赤味色の混ざりる黒味の強い黒曜石	白滝産 TA9-5	6.8	3.0	1.0	16.4
IV-34-19	45-19	U32	Ⅱ B	1	石器	1	一部欠損(基部先端)	逆三角形の直辺側をつまみ部にする 基部は細長い	両面全体剥離 基部末端付近に抉り調整	透明度低い 黒味の強い黒曜石		(3.0)	1.4	0.5	(1.2)
IV-35-20	45-20	L06	Ⅱ B	2	1	完形	縦長 ナイフの先端が右向き 左側縁外湾、右側縁内湾 ナイフ先端は尖る 断面形D型 つまみ部はナイフに比して小型、縦長の円形	背面全体の片面加工による 腹面剥離の一部が残る つまみ部は両面縁に剥離で作出	貫入	7.5YR4/2		6.7	2.8	0.8	9.6
IV-35-21	45-21	H10	Ⅱ B	2	1	完形	縦長 ナイフの先端が右向き 左側縁外湾、右側縁直線的 断面形D型 つまみ部は左右に広がる形状 先端は尖る	背面全体の片面加工による 腹面右側縁上部に剥離	貫入	2.5Y8/2		9.1	3.3	1.5	41.3
IV-35-22	45-22	R04	表土直付近	つまみ付きナイフ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフが垂直になる 両側縁外湾 先端が尖る つまみ部はナイフに比して小型、やや円形	背部全体鋸を剥離調整して刃部作成 腹面縁辺の調整はまばら 左側縁下部の欠損部分に剥離あり つまみ部は両面縁側の剥離で作出	黒味の強い黒曜石			10.0	(3.5)	0.9	(20.2)
IV-35-23	45-23	J10	Ⅱ B	2	スクレイパー	1	完形	縦長刃片素材 右側縁外湾、右側縁直線的	背面右側縁全体剥離で刃部作成 両面ともに素材剥離面 背面二面石面が残る	透明度低い 球顆多い 黒味の強い黒曜石		4.4	3.8	1.0	8.5
IV-35-24	45-24	R12	Ⅱ B	2	石器	1	基部上部に欠損	やや幅狭 刃部円刃、両刃 基部ゆるやかに細くなる	表面全体剥離 裏面は剥離縁が広く残るも全体に研磨 両面色も研磨 稜線明瞭	緑色泥岩 2.5GY5/1	刃部に欠にぼれ状剥離	7.7	3.3	0.9	35.8
IV-35-25	45-25	G10	Ⅱ B	1	石器	1	完形	基部上半欠損	短幅形 刃部円刃、片平刃	表面は剥離縁が残るも全体に研磨 裏面は剥離縁が残る 両側面も研磨 稜線不明瞭	緑色泥岩 5GY5/1	裏面右側縁に細り切り後調整を	(5.8)	(3.0)	(0.8)	(25.8)
IV-35-26	45-26	U28	Ⅱ B	3	石器	1	完形	2/1、基部上半欠損	短幅形 刃部やや円刃、片平刃に近い	両面剥離縁が広く残るも全体研磨 側面は右側縁にのみ面取り 稜線不明瞭	緑色泥岩 10GY6/1	刃部に敷かれ所の刃に欠ぼれ	5.3	4.0	(1.2)	(37.2)
IV-35-27	45-27	R14	Ⅱ B	1	石器	1	完形	2/3、基部上半欠損	撥形 刃部円刃、両刃	両面全体研磨、光沢あり 側縁の稜線明瞭	片岩 2.5Y3/2	刃部中央に刃にぼれ	(9.8)	5.6	1.5	(116.5)
IV-35-28	45-28	T28	Ⅱ B	1	たたき石	1	完形	稜状破片素材 断面やや楕円形	長軸両端面に剥離痕と敲打痕 長軸両端面に剥離痕と敲打痕 両側縁にくぼみの明瞭な敲打痕	緑色泥岩 5GY6/1	石斧未成品の可能性	10.7	5.7	3.8	458.6
IV-35-29	45-29	C04	Ⅱ B	2	たたき石	1	2/1～3/2、欠損あり	扁平長楕円形素材 断面楕円形	表裏平坦面にくぼみの明瞭な敲打痕	砂岩	5Y4/2	(9.5)	6.6	3.7	(367.9)
IV-35-30	45-30	R20	Ⅱ B	2	砥石	1	部分	素材の形状不明、使用面が平坦で面以上	長軸方向に擦痕	砂岩	10YR5/3	(8.5)	(4.0)	(2.6)	(88.7)
IV-35-31	45-31	U31	Ⅱ B	1	石器	1	完形	扁平楕円礫が素材 長軸端のひか所打ち欠く	表面は広く平滑な面、上半の周縁を剥離、裏面全体を粗く剥離	砂岩	2.5YR4/2	視察痕跡あり	11.5	13.3	2.7	432.3
IV-35-32	45-32	U29	Ⅱ B	2	台石石皿	1	部分	厚さ4cmの板状礫が素材	表裏側面に平滑な面を形成	安山岩	2.5Y8/2	(7.8)	(7.7)	(4.5)	(391.5)

※TA9-1ほか 黒曜石原産地分析試料名(表写-1)

表Ⅳ-2 掲載石器一覧(A地区)

第Ⅴ章　B地区の遺構と遺物

1　概要

（1）地形（図Ⅴ-1・2）

調査区の範囲は字状を呈し、南北に延びる細長い尾根筋はほぼ平坦面で、その東側、西側はともに沢へと下る斜面となっている。特に西側は比高約20mの大きな沢に面している。

（2）遺構（図Ⅴ-3～22　図版22～41　表Ⅶ-1）

遺構は盛土遺構2か所、土坑13基、Tピット21基、焼土1か所、遺物集中6か所、掘り上げ土6か所、炭化物集中2か所である。その分布は尾根筋の平坦面上に多く、特に西側斜面上部に集中する。その一方で東側の緩斜面には盛土遺構（M-1）が広がる。

盛土遺構は2か所で、調査区東側に広がるM-1が主体である。M-2は調査区西側斜面部に立地し、調査時は遺物集中として扱ったが、整理段階で堆積と遺物出土状況を考慮し、盛土遺構と判断した。時期はいずれも縄文前期前半（静内中野式相当）である。

土坑13基はいずれも調査区西側斜面部の標高45～46mに立地し、殆どが円形で直径1m、深さ50cmという特徴がある。覆土の堆積は自然堆積のものと、人為性の明瞭なものとに分けられる。遺物を伴うものも少ないが、時期は縄文前期前半か縄文中期後半のものと考えられる。

Tピット21基は調査区全体に分布するも、主に尾根筋の平坦面から緩斜面かけて多くみられる。A地区同様に単独で存在するよりも、二つ一組か、複数が集中するものが多いことも特徴である。また、重複するものも1か所見られた。時期は縄文中期後半のものと考えられる。

焼土は1か所のみで、A地区も含めて不明瞭な焼土が多い中で唯一明瞭なものである。遺物を伴わないが、年代測定で縄文晩期との結果が出ている。

遺物集中は6か所で、内容は剥片・つまみ付きナイフ・石斧・礫・土器で、調査区中央部、12m四方の範囲に集中している。時期は縄文前期前半と後期後半のものがある。

掘り上げ土は6か所で、伴う遺構が不明なもの、または複数のものを対象にした。分布は調査区北側、平坦面上に多く、同様に集中している。Tピット群に伴うものと考えられる。また中でも最大のDU-5は、遺物集中や土坑群との関係も想像される。時期はTピットとの関係があるものは縄文中期後半と考えられる。

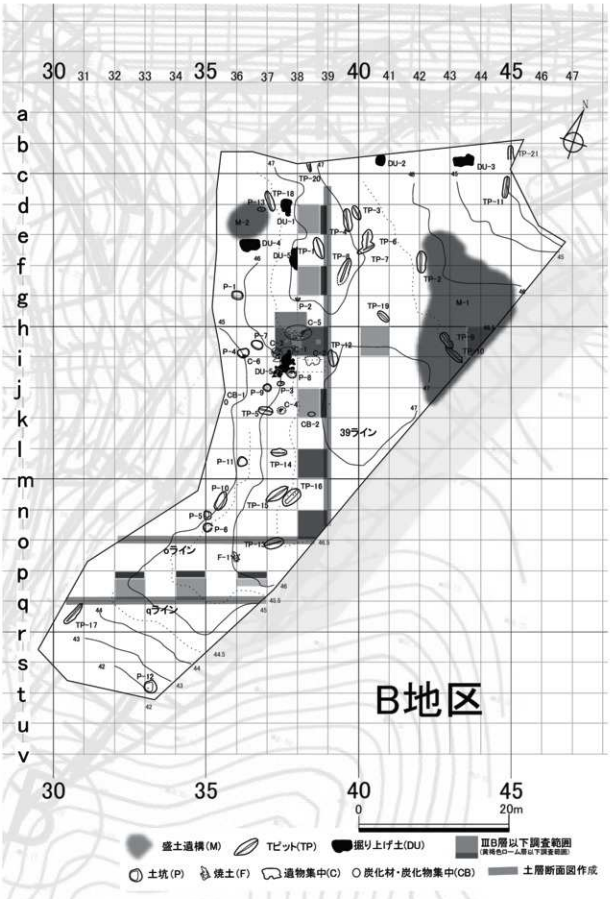
炭化物集中は規模の小さいものが調査区中央部の2か所で確認された。いずれも形状がはっきりした炭化材を含むもので、時期は縄文時代後～晩期と考えられる。

（3）遺物（図Ⅴ-25～43　図版46～54）

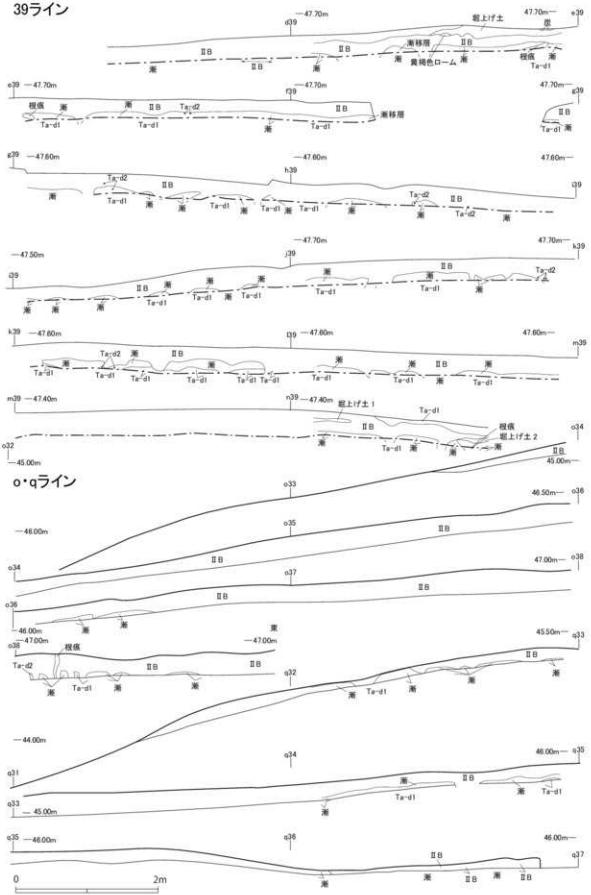
遺物は総点数が26,446点で、土器が2,151点、石器が20,426点、礫が3,869点である。

土器は盛土遺構を主とする遺構出土が618点、包含層出土が1,533点である。土器は縄文前期前半（Ⅱa-2類）が1,234点、縄文中期後半（Ⅲb類）が909点で、前期が圧倒的に多い。また、他の時期のものはまったく見られなかった。

石器は遺構出土が19,060点、包含層が1,366点で、C-1・2の剥片集中出土のものが多く含まれる。石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・篦状石器・スクレイパー・Rフレイク・Uフレイク・剥片・原石・石核・石斧・たたき石・すり石・石錘・扁平打製石器・砥石・台石石皿・加工痕のある礫・石製品が出土した。特に石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・石斧・石錘・砥石が多く見られるのが特徴である。



図Ⅴ-1　B地区遺構位置図



図Ⅴ-2　土層断面図

礫は遺構出土が1,052点、包含層出土が2,817点で盛土遺構やC-4礫集中出土のものが多く含まれる。礫には、角礫や円礫等の形状、完形・礫片等の残存状態など様々であるが、円礫または扁平円礫の礫・礫片が約6割を占めるのが特徴である。

石材には安山岩・珪岩・頁岩・砂岩・泥岩・片岩・片麻岩・チャート・凝灰岩などがあり、安山岩・砂岩・泥岩・片麻岩が多いのも特徴で、遺跡近辺には見られない片麻岩などは遠方から持ち込まれた可能性も考えられる。

（4）ⅢB層調査（図Ⅴ-23・24　図版42・43）

ⅡB層の調査後に、ⅢB層の調査を尾根筋上の頂部にあたるグリッド38ライン、hライン、pラインに沿った d38、f38、g37・38、h37・38・40・43・44、j38、l38、n38、p32、p34・37の15か所のグリッドで行った。黄褐色ローム層上で柱穴状小ピット7か所と、径4mに及ぶ炭化物集中を確認した。遺物は出土していない。炭化物の年代測定により縄文草創期～早期にかけてのものと結果が出た（表Ⅵ-1）。

2　遺構

（1）盛土遺構（M）

M-1（図Ⅴ-3・4　図版24～26）

位置：e42～44、f42～45、g42～45、h41～44、i41～43、j42・43区　調査区北東部に位置し、標高46.5～47mの緩斜面上に立地する。範囲内にはTP-2・9・10があり、M-2とした盛土遺構は20m西にある。

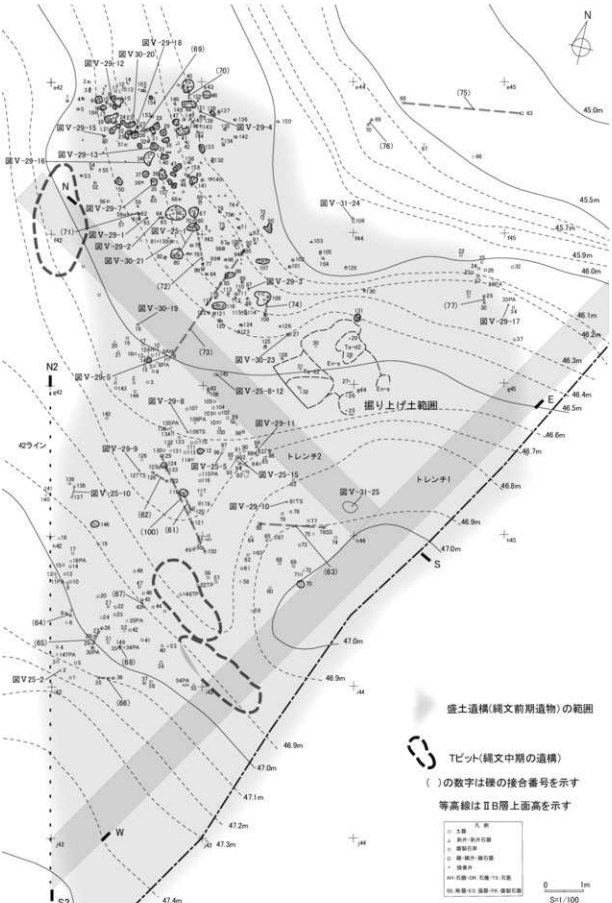
規模：確認面6.40×5.20　最大厚0.15m　**平面形態**：e42を頂点にした楕円形の上半部分

特徴：【確認】重機による表土除去後、調査区南側のTa-bからⅡB層までの高さ約3m土層断面にh44杭を頂点にした高まりが見られた。また、ⅡB層上面の精査後にも、ⅡB層面が北から南のh44杭に向かって緩やかに高まる様子も明らかになった。これにより本来の地形とは異なる堆積層が広範囲に存在することが想定された。

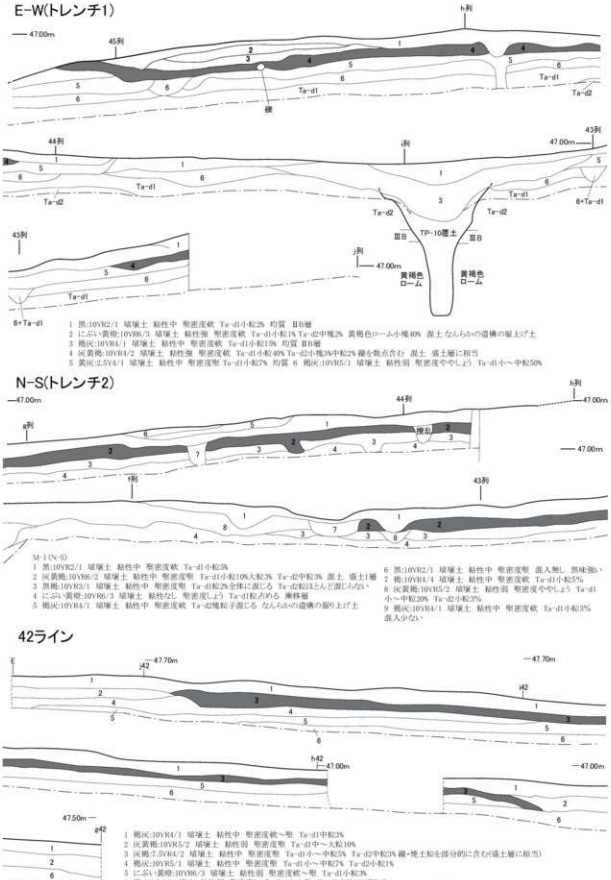
【調査】想定された範囲を対象に、ほぼ調査区壁に沿った北東から南西に延びるトレンチ(1)と、これに直交する北西から南東方向に延びるトレンチ(2)を設定して掘り下げた。トレンチ(1)では最も標高の高いh44杭周辺に、二次堆積層と思われる混土層が確認できた。その南西側はTP-10を中心に大きく落ち込み、混土層も途切れていたが、更に南西側では緩やかに高くなり、混土層も確認することができた。トレンチ(2)ではh44杭周辺から北に向かって緩やかに下る、二次堆積層が確認された。43列からf列にかけての間で不明瞭になり、f列より北側はTP-2の構築によって完全に失われている。また41ラインの土層断面では、j42からi42周辺にかけて二次堆積層が確認された。これらのことからⅡB層上面で確認された高まりは、ほぼ二次堆積層によるものと考えられ、低く落ち込む北西と南西側は、Tピット構築時に盛土遺構を壊して掘り込まれた結果であると思われた。トレンチ等土層断面の確認後、本体の掘り下げを行ったところ、広範囲な遺物の集中出土が見られた。遺物は位置を記録し取り上げた。

【堆積】盛土遺構の主体はTa-d1・Ta-d2粒子が混じる灰黄褐色の混土層である。炭化物や焼土は少ないが小、中礫の混入は目立つ。層厚は最も厚いh44杭周辺で8～12cmであるが端部でもあまり変化はない。混土層の上層は褐灰色土または黒色土で、下層は南側、南西側では黒褐色土、北側では黄灰色土になる。北側に向かうにつれて下限は不明瞭になる。

【範囲】遺物の分布と二次堆積層の位置から考えられる盛土遺構の範囲は、e42・e43方眼杭を結んだ線を北端とし、g45を東端、j42を西端とする三つを結んだ三角形に相当する。北側のTP-2、南西側



図V-3　盛土遺構(1)　M-1範囲及び遺物出土分布図



図Ⅴ-4 盛土遺構(2) M-1土層断面図

のTP-９・10は盛土遺構を壊して構築され、周囲の地形にも影響が見られる。盛土遺構は、より標高の高い南東方向に続く可能性は強く、主体部分が調査区外に存在することも考えられる。

付属遺構：g44杭を囲むように径１mの範囲でTa-d2、黄褐色ロームを含む混土の堆積が見られた。当初盛土遺構に伴うものと考えたが、調査後に何らかの遺構の掘り上げ土と判断した。トレンチ(1)のh44周辺にも、盛土遺構よりも上層に混土の堆積が見られたが、これも同じ性格のものと判断した。

遺物出土状況：遺物は931点出土した。分布状況では３か所で遺物の集中が見られた。１つは最も密度の高い集中で、盛土遺構の北端にあたるe42区からf43区にかけてである。２つは中央部のg42・43区からh43区にかけての集中である。３つは両端にあたるh42区周辺で密度は最も低い。

遺物は土器が137点で、全て縄文前期前半（Ⅱa-２類）の小破片である。石器は150点で、石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石斧・剥片・たたき石・すり石・石錘・台石石皿などがあり、特に石斧・たたき石が多い。礫は644点と最も多く、安山岩・珪岩・砂岩・片麻岩などの円礫、扁平礫が多く見られた。出土地点が特定できる礫については18件が接合した（図Ⅴ-３）。接合位置関係は３～50cm間が多いが、２～４m間の接合も４件見られた。石材は珪岩、砂岩、片麻岩である。

時期：出土遺物から縄文前期前半（Ⅱa-２類）で静内中野式期に相当すると考えられる。

掲載遺物：図Ⅴ-25-１～14は縄文前期前半の土器である。図Ⅴ-29-１～６が石鏃、７が石槍、８～13がつまみ付きナイフ（石匙）、14・15がスクレイパー、16～18が石斧・石斧未成品、図Ⅴ-30-19がたたき石、20がすり石、21が砥石、22が石錘、23が台石石皿、図Ⅴ-31-24が加工痕のある礫、25が台石石皿である。　（藤井）

M-２（図Ⅴ-５　図版27）

位置：c36、d35・36、e35・36区　調査区北西部に位置し、標高45～46mの急斜面上に立地する。範囲内にP-13を含み、北東にTP-18、南にDU-４と近接する東３mにDU-１がある。

規模：確認面4.00×3.00 最大深さ（0.20）m　**平面形態**：北東から南西を長軸にする楕円形

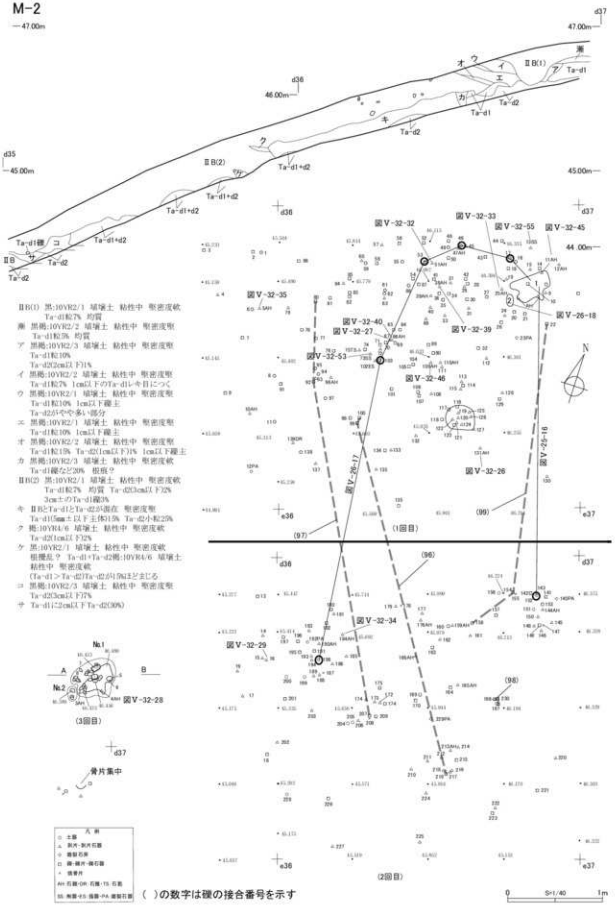
特徴：【確認】d35・36の包含層調査で、ⅡB層の３、４、５回目の掘り下げ時に遺物の集中が見られた。集中の範囲はd35・36区とc36、e35・36区のごく一部にのみで、きわめて限定的な出土分布であった。【調査】調査時は斜面堆積の影響による特殊な遺物出土状況と把え、遺物集中として記録した。dグリッドラインに土層ベルトを残して、断面の観察と並行して掘り下げを行った。

整理作業時にあらためて遺物の分布と層位との関連を確認したところ、黒色土とTa-d1・d2との混土層がⅡB層の下層にあり、遺物分布と重なることが判明した。さらに出土土器はⅡa-２類であり、石器の器種構成もM-１に共通することから、盛土遺構の一部と判断し、M-２とした。

【堆積】遺物の集中と重なったのは断面図（図Ⅴ-５）の「キ」にあたる混土層で、これを盛土遺構の一部とした。混土層の層厚は20～30cm程で黒色土にTa-d1・d2粒子が混じった再堆積層である。比高差約１mの斜面にほぼ同じ層厚で、上から下へ約4.5mの範囲に堆積が見られる。

付属遺構：土坑P-13が範囲内にあり、関連が深いと思われる。また骨片集中や土器集中なども伴う。

遺物出土状況：747点をM-２に伴う遺物とした。主に同範囲のグリッド内、ⅡB層３～５回目出土の遺物が対象である。土器は247点でM-１（137点）より多い。すべて縄文前期前半のⅡa-２類である。石器は石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・Rフレイク・Uフレイク・剥片・石斧・たたき石・すり石・石錘・砥石・台石石皿が出土した。中でも石鏃44点、石錐11点、つまみ付きナイフ10点、石錘７点の出土が目立つ。礫は266点で安山岩が最も多く、珪岩・砂岩・片麻岩が目立つ。また扁平円礫が多く含まれる。出土位置が特定できる礫については４件が接合した。砂岩、片麻


M-2
47.00m
46.00m
45.00m
44.00m
d35
d36
d37
ⅡB(1) 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度軟
Ta-d1粒7% 均質
瀬 黒褐:10YR2/2 堆積土 粘性中 堅密度堅
Ta-d1粒3% 均質
ア 黒褐:10YR2/3 堆積土 粘性中 堅密度堅
Ta-d1粒10%
Ta-d2径5mm以下1%
イ 黒褐:10YR2/2 堆積土 粘性中 堅密度堅
Ta-d1粒7% 1cm以下のTa-d1レキ目につく
ウ 黒褐:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度堅
Ta-d1粒10% 1cm以下礫主
Ta-d2がやや多い部分
エ 黒褐:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度堅
Ta-d1粒10% 1cm以下礫主
オ 黒褐:10YR2/2 堆積土 粘性中 堅密度堅
Ta-d1粒15% Ta-d2(1cm以下)1% 1cm以下礫主
カ 黒褐:10YR2/3 堆積土 粘性中 堅密度軟
Ta-d1礫など20% 根痕?
ⅡB(2) 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度軟
Ta-d1粒7% 均質 Ta-d2(3cm以下)2%
3cm±のTa-d1礫3%
キ ⅡB(2)Ta-d1とTa-d2が混在 堅密度堅
Ta-d1(5mm±以下主)粒15% Ta-d2が粒25%
ク 褐:10YR4/6 堆積土 粘性中 堅密度軟
Ta-d2(1cm以下)2%
ケ 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度軟
根痕孔 ? Ta-d1+Ta-d2粒:10YR4/6 堆積土
粘性中 堅密度軟
(Ta-d1>Ta-d2)Ta-d2が1%ほどまじる
コ 黒褐:10YR2/3 堆積土 粘性中 堅密度堅
Ta-d2(3cm以下)7%
サ Ta-d1(12cm以下Ta-d2(30%)
図V-32-32
図V-32-33
図V-32-55
図V-32-45
図V-32-35
図V-32-40
図V-32-27
図V-32-39
図V-26-18
図V-32-53
図V-32-46
図V-26-17
図V-26-16
図V-32-26
図V-32-34
図V-32-29
図V-32-28
(1回目)
(2回目)
(3回目)
(97)
(99)
(96)
(98)
No.1
No.2
A
B
骨片集中
凡例
土器
剥片・剥片石器
磨製石斧
敲・磨石・凹石類
礫
焼骨片
AH:石器(UH:石器/TS:石器)
SS:角錐・ドリ・掻器・PA:磨製石斧
( )の数字は礫の接合番号を示す
S=1/40
1m

図V-5 盛土遺構(3) M-2

岩、安山岩、チャートが３点ずつ接合した。いずれも10～50cmほど離れた接合であるが、掘り下げ１回目と２回目のものが接合している。

時期：出土土器から縄文前期前半（Ⅱa-２類）で静内中野式期に相当すると考えられる。

掲載遺物：図Ⅴ-25-16、25 - 17・18がM-２出土の土器である。いずれも縄文前期前半、Ⅱa-２類に相当し、深鉢の口縁部破片である。

図Ⅴ-32-26～33-56がM-２出土の石器である。26～35は石鏃、36が石槍、37～47が石錐、48～52がつまみ付きナイフ、53～56がスクレイパーである。（藤井・山中）

（２）土坑（P）

P-１（図Ⅴ-６　図版28-１・２）

位置：f35・36、g35・36区　調査区北部西壁寄り、標高約45.5～46mnの緩斜面上部に立地する。近接する遺構はなく、南東約７mにP-７、北約８mに掘り上げ土DU-４がある。

規模：確認面1.52×1.12 底面1.20×0.72 最大深さ0.66m　**平面形態**：楕円形（東西方向に長軸）

特徴：【確認】斜面部包含層確認のためのトレンチ土層断面にTa-d2を掘り込む黒褐色土層を検出した。周辺をTa-d2上面まで掘り下げたところ不明瞭ながらも黒褐色土の円形範囲を確認した。【調査】土層断面をたよりに、トレンチで検出した底面から壁面の検出を行った。【堆積】ⅡB層の黒褐色土が大きく落ち込み、その下の褐灰色土が覆土の主体である。底面直上にはTa-d2との混土が堆積する。【壁・底面】底面は平坦で、壁は直立するところと緩やかな立ち上がりのところがある。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺出土の遺構と遺物から縄文時代前期の可能性がある。（藤井）

P-２（図Ⅴ-７　図版28-３・４）

位置：g37・38区　調査区北部中央付近、標高約47mの尾根筋上の平坦面に立地する。近接する遺構はなく、南４mに遺物集中C-５、北４mに掘り上げ土DU-５がある。

規模：確認面（0.64）×0.56　底面（0.40）×0.40　最大深さ0.45m　**平面形態**：円形

特徴：【確認】Ta-d1上面まで掘り下げたところで円形をした黒褐色土の広がりを検出した。北半分にトレンチを設定して掘り下げたところ、Ta-d2を掘り込む土層断面を確認した。【調査】トレンチで確認した底面から壁面の検出を行った。【堆積】ⅡB層由来の黒褐色土が覆土の主体で、Ta-d1・d2を少量含む均質な土である。【壁・底面】底面から壁にかけて緩やかに立ち上がる皿状の土坑である。底は中央が少し落ち込み、尖底状になる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構と遺物から縄文時代前期の可能性がある。（藤井）

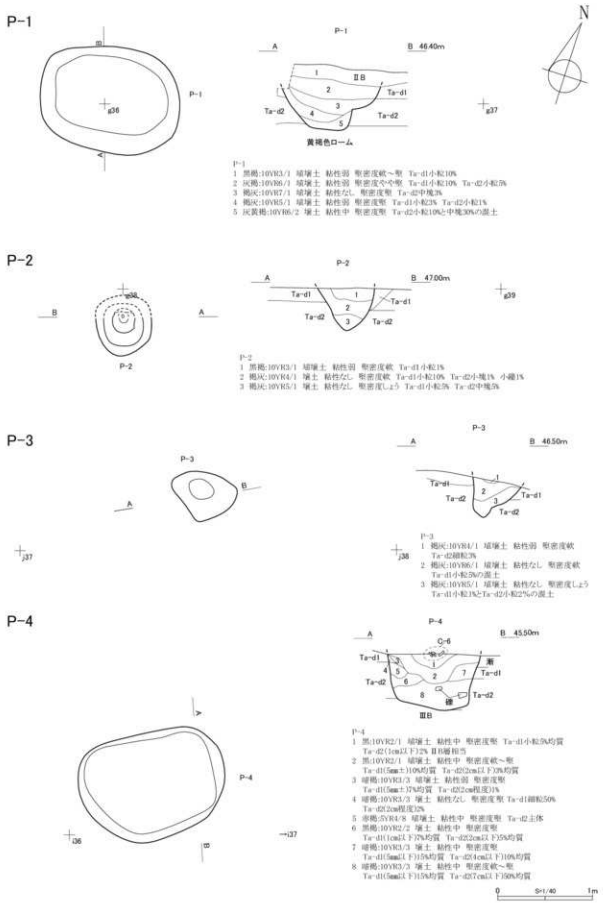
P-３（図Ⅴ-６　図版28-５・６）

位置：i37区　調査区中央部、標高46mの緩斜面上部に立地する。北に掘り上げ土DU-５、北東にP-８、西にP-９、南に遺物集中C-４と近接する。

規模：確認面0.72×0.53 底面0.26×0.22 最大深さ0.40m　**平面形態**：南北を長軸にした不整楕円形

特徴：【確認】ⅡB層下部で楕円形をした黒褐色土の範囲を検出した。範囲が明瞭でなかったので北半分にトレンチを設定し、掘り下げたところTa-d2を掘り込む底面を確認し、土坑と判断した。

【調査】トレンチで検出した底面から壁の立ち上がりを検出した。【堆積】黒味の強い褐灰色土が覆



図Ⅴ-6 土坑(1) P-1・2・3・4

土の主体で、混入の少ない均質な土である。【壁・底面】底面は平坦面がなく凹凸が多い。壁の立ち上がりは概して急である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺構、遺物から縄文時代前期前半の可能性がある。　（藤井）

P-4（図Ⅴ-6　図版28-7・8）

位置：h36、i36区　調査区中央部西壁寄りで、標高45mの緩斜面途中に立地する。遺物（石斧）集中C-6が上面に重複し、東にP-7と近接する。

規模：確認面1.54×1.07 底面1.36×0.94 最大深さ0.59m　**平面形態**：楕円形

特徴：【確認】Ta-d1上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。黒色土の中央には、石斧素材とみられる緑色泥岩の集中がある。【調査】石斧素材の集積から西側の黒色土を掘り下げたところ、Ta-d2や黒色土の混在する土層が現れた。それを除去すると底面や垂直に近い壁が検出されたので、規模・形状から土坑と判断した。なお、確認面の石斧素材は、埋没過程で生じたくぼみに集積されており、本土坑に伴うものではない。【堆積】1・2層はⅡB層を主体とし、3・4層はTa-d1の流入である。5層以下は埋め戻された可能性があり、5層はTa-d2を主体とし、6～8層はTa-d1、Ta-d2、黒色土が混在する。【壁・底面】壁は垂直に近い。底面はⅢB層中につくられ、地形の傾斜に沿って西側へ傾く。なお、8層と自然層の区別がつきにくかったため、底面のⅢB層を掘り抜いてしまった部分が多い。

遺物出土状況：確認面で石斧素材6点が集中していた（C-6で詳述）。覆土上層の黒色土中に砥石1点が出土した。

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺物出土状況から、縄文時代前期前半もしくは中期後半の可能性がある。

掲載遺物：覆土上層出土の砥石1点を掲載した。（図Ⅴ-33-57　図版50）　（藤井・山中）

P-5（図Ⅴ-7　図版29-1・2）

位置：n34・35区　調査区南部西側、標高45mの斜面上に立地する。南側斜面上部にP-6と近接し、北東にP-10と近接する。

規模：確認面1.20×1.06 底面0.76×0.62 最大深さ0.56m　**平面形態**：円形に近い

特徴：【確認】斜面堆積調査のために掘り下げたトレンチ内で確認された。黒褐色土とTa-d2、黄褐色ロームとの混土の堆積が円形に広がり、断面とともに確認された。【調査】トレンチ内を掘り下げて、底面と壁の立ち上がりを検出した後、全体を掘り上げた。【堆積】上層に均質な黒褐色土、中～下層には大粒のTa-d2からなる混土が堆積し覆土の主体となる。【壁・底面】底面は黄褐色ロームを掘り込み、やや凹凸がある。壁は斜面下部が直立し、上部が緩やかである。

遺物出土状況：覆土中から頁岩製のUフレイクが1点出土した。

時期：周辺の遺構、遺物から縄文時代前期前半の可能性がある。

掲載遺物：上記Uフレイクを掲載した（図Ⅴ-33-58　図版50）。メノウ質頁岩製である。　（藤井）

P-6（図Ⅴ-7　図版29-3・4）

位置：n34・35区　調査区南西寄りで、標高45.5mの斜面上に立地する。北側斜面下部のP-5と近接し、北東3mにP-10がある。

規模：確認面1.24×1.12 底面0.95×0.92 最大深さ0.60m　**平面形態**：ほぼ円形である。

特徴：【確認】斜面堆積調査のためのトレンチを掘り下げたところ、断面と黒褐色土の円形範囲を確認した。【調査】トレンチ内を掘り進め、黄褐色ローム層中に底面を確認し、壁面を精査した後、全体を掘り上げた。【堆積】上層に均質な黒褐色土、中～下層には大～中粒のTa-d2ブロックを多く含む混土が堆積し、覆土の主体となる。【壁・底面】黄褐色ロームを掘り込む丸底が底面で、壁は緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況：覆土中から頁岩製のつまみ付きナイフが１点出土した。

時期：周辺の遺構、遺物から縄文時代前期前半の可能性がある。

掲載遺物：つまみ付きナイフ１点を掲載した。(図Ⅴ-33-59　図版50)

（藤井）

P-７（図Ⅴ-７　図版29-５・６）

位置：h36区　調査区中央西側の斜面に位置し、確認面の標高は約46mを測る。

規模：確認面1.55×1.14 底面1.08×0.89 最大深さ0.61m　**平面形態**：楕円形

特徴：【確認】Ta-d1で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の西側半分を掘り下げたところ、Ta-d2や黒色土の混在する土層が現れた。それを除去すると平坦な底面や壁が検出されたので、規模・形状から土坑と判断した。【堆積】１層はⅡB層を主体とする。２・３・６・９層は埋め戻された可能性が高く、Ta-d1、Ta-d2、黒色土が混在する。４・５・７・８・10層は埋め戻しの際の流入かもしれない。【壁・底面】壁は外傾し、底面は平坦でⅢB層中につくられる。なお、９層と自然層の区別がつきにくかったため、底面のⅢB層を掘り抜いてしまった部分が多い。

遺物出土状況：覆土中から黒曜石製のUフレイクが１点出土した。

時期：縄文時代の遺構であるが、詳細の特定には至っていない。周辺の遺物出土状況から、縄文時代前期前半もしくは中期後半の可能性がある。

掲載遺物：Uフレイク１点を掲載した（図Ⅴ-33-60　図版50)。　（藤井）

P-８（図Ⅴ-８　図版29-７・８）

位置：i37区　調査区中央西側の斜面肩部に位置する。確認面の標高は約46mを測る。

規模：確認面1.20×1.07 底面0.18×0.10 最大深さ0.48m　**平面形態**：楕円形

特徴：【確認】、Ta-d1で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の北側半分を掘り下げたところ、Ta-d1・d2との層界が明瞭であったことから、土坑の可能性があると判断した。【堆積】１層はⅡB層が落ち込んだもので、２層はTa-d2が混じる黒褐色土である。【壁・底面】壁は外傾し、底面の一部がくぼむ。底面はTa-d2中につくられる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、詳細の特定には至っていない。周辺の遺物出土状況から、縄文時代前期前半もしくは中期後半の可能性がある。　（藤井・山中）

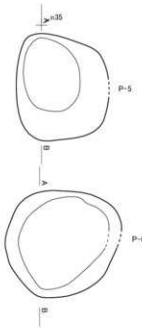
P-９（図Ⅴ-８　図版30-１・２）

位置：i36・37、j36・37区　調査区中央部に位置し、標高45.5mの緩斜面上に立地する。東にP-３、DU-５と近接し、南３mにTP-５がある。

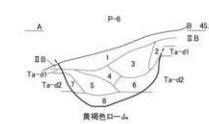
規模：確認面1.12×1.04 底面0.88×0.80 最大深さ0.32m　**平面形態**：不整円形

特徴：【確認】ⅡB層下部で遺物のまとまりが出土し、伴なう遺構を検出するためのトレンチ内で、掘り込みと円形の褐灰色土の範囲を確認した。【調査】トレンチ内で底面を検出し、壁面を確認した。

P-5・6

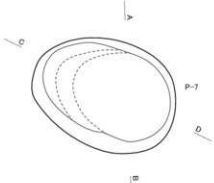


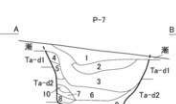
P-5
1 褐灰:10YR4/1 壌土 粘性弱 堅密度しょう Ta-d1小粒10% Ta-d2小粒1%
2 黒褐:10YR3/1 埴壌土 粘性やや強 堅密度ややし.ょう Ta-d1小～中粒10% Ta-d2中粒1%
3 にぶい黄橙:10YR7/2 壌土 粘性弱 堅密度ややし.ょう Ta-d1大粒30% Ta-d2大粒20% 混入土
4 灰白:10YR7/1 壌土 粘性弱 堅密度ややし.ょう Ta-d1小粒30% Ta-d2中粒20% 小礫1% 混土
5 にぶい黄橙:10YR7/4 壌土 粘性ややあり 堅密度ややしょう Ta-d1小粒10% Ta-d2大粒3%
6 にぶい黄橙:10YR7/2 壌土 粘性弱 堅密度しょう Ta-d1小粒5% Ta-d2大粒10%偏在
7 浅黄橙:2.5YR8/6 壌土 粘性弱 堅密度しょう Ta-d1小粒1% Ta-d2大粒70% 混入土
8 にぶい黄橙:10YR7/4 砂壌土 粘性弱 堅密度しょう Ta-d1小粒3% Ta-d2小～大粒10%
黄褐色ローム大粒5% 混入土



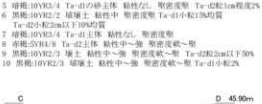
P-6
1 黒褐:10YR3/1 埴壌土 粘性やや小 堅密度堅 Ta-d1小粒2% 均質
2 にぶい黄橙:10YR6/3 砂壌土 粘性弱 堅密度ややしょう Ta-d1小粒10% Ta-d2大粒30%
Ta-d1とTa-d2からの混入土
3 褐灰:10YR4/1 壌土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d1小粒2% Ta-d2小～中粒10%
4 にぶい黄橙:10YR5/3 砂壌土 粘性弱 堅密度ややしょう Ta-d1中粒10% Ta-d2小～大粒10%
小礫1%の混土
5 灰黄褐:10YR4/2 壌土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d1小～大粒5% Ta-d2大粒3% 混土
6 にぶい黄橙:10YR6/4 砂壌土 粘性弱 堅密度ややしょう Ta-d1小粒1% Ta-d2小～大粒60% 混土
7 褐灰:10YR6/1 砂壌土 粘性弱 堅密度しょう Ta-d1小粒1% Ta-d2中粒30% 混入土
8 にぶい黄橙:10YR7/2 砂壌土 粘性弱 堅密度ややしょう Ta-d2小粒1% 黒色土中粒3% 混入土

P-7



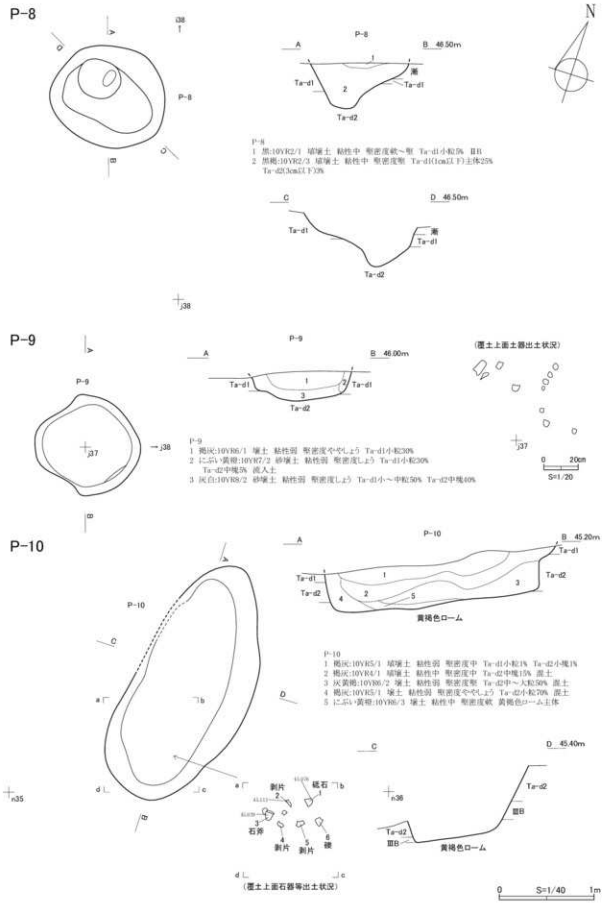


P-7
1 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1小粒10%均質
2 暗褐:10YR3/3 埴壌土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1小粒30%均質
Ta-d32cm程度115%均質
3 黒褐:10YR3/2 埴壌土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒25%均質 Ta-d32cm程度7%
4 暗褐:10YR3/4 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度堅～すこぶる堅い
5 暗褐:10YR3/4 Ta-d1の砂主体 粘性なし 堅密度堅 Ta-d2粒1cm程度2%
6 黒褐:10YR2/2 埴壌土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒1%均質
Ta-d2小粒2cm以下10%均質
7 暗褐:10YR3/4 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度堅
8 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性中～強 堅密度軟～堅
9 黒褐:10YR2/3 埴土 粘性中～強 堅密度軟～堅 Ta-d2粒2cm以下50%
10 黒褐:10YR2/3 埴壌土 粘性中～強 堅密度軟～堅 Ta-d1小粒2%



0　S=1/40　1m

図Ⅴ-7　土坑 (2)　P-5・6・7



図V-8 土坑(3) P-8・9・10

底面は不明瞭でⅢB層まで掘り下げた後、浅皿状の底面であることがわかった。【堆積】上層と下層に大別される。上層はTa-d1が多く混じる褐灰色土で、その上面に遺物が出土した。下層はTa-d2ブロックとの混土が主体である。【壁・底面】底面はTa-d2層中につくられ、浅く平坦である。壁はやや急な立ち上がりである。

遺物出土状況：覆土上面に縄文前期前半の土器片19点、火山礫１点が出土した。覆土中からは同時期の土器片３点が出土した。

時期：出土土器から縄文時代前期前半、Ⅱa-２類の時期の可能性がある。

掲載遺物：覆土上面の土器３点を掲載した（図Ⅴ-19・20・21　図版46）。

（藤井）

P-10（図Ⅴ-８　図版30-３～６）

位置：m35、n35区　調査区南西側に位置し、標高45～45.3mの斜面上に立地する。南西側にP-５・６と近接し、北側５mにP-11がある。

規模：確認面2.64×1.24 底面2.26×0.88 最大深さ0.45m　**平面形態**：長楕円形

特徴：【確認】Ta-d1上面で不整形の褐灰色土の範囲を確認した。当初石斧、砥石を含む石器のまとまりとの関連で、北側のみを円形の土坑と判断したが、トレンチ調査により南側を含む長楕円形の土坑となった。【調査】トレンチ内で底面を検出しつつ、壁面の立ち上がりを確認した。【堆積】上・中・下層に大別される。上層はくぼみに堆積した黒味の強いⅡB層、中層は黒味の強いⅡB層とTa-d2主体のパミスを多く含む混土層、下層はやや黄色味のあるⅡB層とTa-d2との混土層である。中下層は人為的な埋積層の可能性がある。【壁・底面】底面は黄褐色ローム層中につくられ、南方向にやや下がる。壁面は垂直に近い急な立ち上がりである。

遺物出土状況：遺構北側の覆土上面にて、石斧・砥石・剥片・礫のまとまりが見つかった。また覆土下層からつまみ付きナイフが出土した。

時期：時期の特定が可能な遺物は出土していないが、周辺遺構と遺物の出土状況から、縄文時代前期前半の可能性が考えられる。

掲載遺物：つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、砥石の４点を掲載した（図Ⅴ-33-61～64　図版50）。

（藤井）

P-11（図Ⅴ-９　図版30-７・８）

位置：l36区　調査区やや南西寄りの標高45～45.5mの斜面上に立地する。東側５mにTP-14、南側４mにP-10がある。

規模：確認面1.28×1.26 底面1.10×1.06 最大深さ0.43m　**平面形態**：ほぼ円形

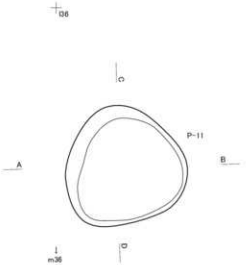
特徴：【確認】Ta-d1からTa-d2上面まで掘り下げた斜面上で、褐灰色の円形範囲を確認した。【調査】円形の南側半分を掘り下げて、覆土の堆積を確認し、土坑と判断した。【堆積】壁側の流入土を除く覆土の大半が、上層から下層までⅡB層とTa-d1・d2との混土層であった。人為的な堆積によるものと考えられる。【壁・底面】底面は黄褐色ローム層上面を掘り込み、確認面と平行に西側に大きく下がる。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、明瞭である。

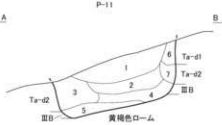
遺物出土状況：覆土上面に石斧未成品１点、覆土上層にRフレイク、確認面上に珪岩の円礫１点が出土した。

時期：周辺遺構と遺物の出土状況から縄文時代前期前半の可能性が考えられる。

掲載遺物：石斧未成品１点を掲載した（図Ⅴ-33-65　図版50）　（藤井）

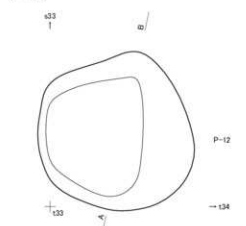
P-11

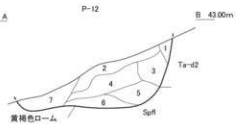




P-11
1 褐灰:10YR5/1 埴壌土 粘性中 堅密度やや堅 Ta-d1小粒30% Ta-d2中粒1% 混土
2 褐灰:10YR4/1 埴壌土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒3% Ta-d2中粒2% 混土
3 灰黄褐:10YR6/2 埴壌土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d2小粒10%中塊3% 混土
4 にぶい黄褐:10YR6/3 埴土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d2中塊5% 混土
5 灰黄褐:10YR5/2 埴土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1小粒1%
6 にぶい黄褐:10YR7/2 埴土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d1小粒2%
7 黄褐:7.5YR7/8 埴土 粘性弱 堅密度しょう Ta-d2主体 混入土

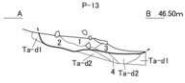
P-12





P-12
1 にぶい黄褐:10YR7/3 埴土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d2小粒10% 混土
2 灰黄褐:10YR5/2 埴土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1小粒1% Ta-d2中塊10%
3 褐:5YR6/6 埴土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d2主体 混入土
4 にぶい黄褐:10YR6/3 埴土 粘性弱 堅密度やや堅 Ta-d2中塊5%
5 褐灰:10YR4/1 埴土 粘性弱 堅密度 Ta-d2小粒1%中塊5%
6 にぶい黄褐:10YR6/3 埴土 粘性やややわ 堅密度堅 Ta-d1ふ2小粒1% 混土
7 にぶい黄褐:10YR6/4 砂壌土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d2中塊1%

P-13



P-13
1 褐灰:10YR4/1 埴土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒25% 骨片小片50%
2 灰黄褐:10YR6/2 埴土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒3% Ta-d2小粒1% 礫片数点
3 にぶい黄褐:10YR7/2 砂壌土 粘性弱 堅密度ややしょう Ta-d1小粒2%
4 褐灰:10YR5/1 砂壌土 粘性弱 堅密度しょう Ta-d2小粒1%

0 S=1/40 1m

図V-9 土坑(4) P-11・12・13

P-12（図Ⅴ-9　図版31-1・2）

位置：s32・33、t33区　調査区最南端の標高42～43mの斜面上に立地する。周辺に遺構はなく、北西約15mのTP-17が最も近い。

規模：確認面1.70×1.68 底面1.30×1.04 最大深さ0.54m　**平面形態**：ほぼ円形

特徴：【確認】Ta-d2から黄褐色ロームにかけて掘り下げた斜面上で、灰黄褐色の円形の範囲を確認した。【調査】傾斜に沿って東側半分を掘り下げて、Ta-d2などの混土主体の覆土を確認し、土坑と判断した。【堆積】壁際にTa-d2主体の流入土と、覆土上層から底面にかけて大粒のTa-d2粒子を含む混土からなる。混土は人為的に埋積された可能性がある。【壁・底面】底面はSpflから黄褐色ローム層中につくられ、水平で平坦である。壁は斜面方向に沿って急な立ち上がりで東側が緩やかである。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺遺構と遺物出土状況から縄文時代前期前半の可能性が考えられる。　（藤井）

P-13（図Ⅴ-9　図版31-3・4）

位置：d36区　調査区北西端に近い標高約46mの斜面上部に立地する。東にTP-18と近接し、盛土遺構M-2の範囲内に含まれる可能性もある。

規模：確認面0.50×0.22 底面不明 最大深さ0.16m　**平面形態**：楕円形

特徴：【確認】盛土遺構M-2を掘り下げ、遺物を取り上げた後に、灰褐色土の堆積に細かな骨片や石器、礫などが伴なうことが明らかになった。【調査】範囲を確認した時にはすでに堆積は残り浅く、北半分をトレンチで掘り下げたところ、土層断面の一部を確認できた。本来は、より上層から掘り込まれたものと思われる。覆土は全て採取して土壌水洗及びフローテーションを行った。【堆積】骨片を多く含む褐灰色土とTa-d1、d2を含む灰黄褐色土、にぶい黄橙土からなる。【壁・底面】Ta-d1からTa-d2を浅く掘り込む凹凸のある底面で、上層をすでに掘り下げてしまい壁はほとんど確認できなかった。

遺物出土状況：確認面上から凝灰岩製の石鏃、安山岩の礫2点、珪岩の円礫1点、砂岩の円礫2点が出土した。中には被熱したものもある。覆土中には骨片が多く含まれ、分析の結果エゾシカのものであることが明らかになった（表Ⅵ-1）。

時期：時期の特定できる遺物がなく、詳細は不明である。周囲には縄文前期前半の土器が出土しているためこの時期の可能性が高い。

掲載遺物：凝灰岩製の石鏃1点を掲載した（図Ⅴ-33-66　図版50）。　（藤井）

（3）Tピット（TP）

TP-1（図Ⅴ-10　図版31-5・6）

位置：e38区　調査区北側の平坦面に位置し、確認面の標高は約47mを測る。長軸方向は北西-南東である。

規模：確認面2.94×1.30 底面2.52×0.14 最大深さ1.20m　**平面形態**：長楕円形（溝状）

特徴：【確認】Ta-d1の上面で、長楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の南側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。その後、北側半分に残る覆土を除去し、全体の形状を観察する段階になって、底面と判断した黄褐色ロームのしまりが弱いことに気付いた。再度掘り下げを行ったところ、約45cm下でしまりのある黄褐色ロームの底面を検出した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積

である。１～３層はⅡB層、４～７層はTa-d1・d2を主体とする。８層はTa-d2の混じる黒色土で、その下から底面にかけて、しまりの弱い黄褐色ロームが堆積する。再度の掘り下げ時に土層断面を残さなかったため、堆積状況の記録はない。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩れて外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は中央から長軸両端に向かって浅くなり、縦断面は弧状に近い。

遺物出土状況：覆土中から縄文前期前半（Ⅱa-２類）の土器胴部片が１点出土した。

時期：前期の遺物が出土しているが、流れ込みによるものと思われる。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。

掲載遺物：縄文前期前半の土器胴部片を掲載した。（図Ⅴ-33-22　図版46）　（山中）

TP－２（図Ⅴ-10　図版32-１～５）

位置：e41・42、f41・42区　調査区北東側、標高46.5mの緩斜面上部に立地する。盛土遺構M-１の範囲内北側に位置すると考えられるが近接する遺構はない。

規模：確認面3.00×1.40 底面2.72×0.24 最大深さ1.20m　**平面形態**：長楕円形（溝状）

特徴：【確認】盛土遺構M-１確認時に想定された溝状遺構の延長として、トレンチ内で黒色土範囲の一部を確認した。周辺を黄褐色ローム層まで掘り下げるに及び、黒色土の輪郭が楕円形の溝状となった。【調査】トレンチの範囲で掘り下げたところ、黄褐色ローム層中に底面と「V」字状に立ち上がる壁面を検出してTピットと判断した。【堆積】ⅡB層上面から落ち込んだ状態がTピット下半にまで及ぶ。壁面からの崩落土が主体の埋積土である。【壁・底面】短軸上の壁面は底面から緩やかに広がる形状で「U」字形に近い。長軸方向には北端が垂直に近い立ち上がりで、南端はオーバーハングとなる。底面は細く平坦である。

付属遺構：底面に３ヵ所の柱穴状小ピットを確認した。北半部にほぼ直線上に並ぶ。SP-１が北にやや離れ、SP-２・３が近接する。掘り込みは明瞭で、深さは約15～20cmである。

遺物出土状況：覆土中から礫片（頁岩）が出土した。

時期：土層断面から、縄文前期の盛土遺構M-１を切ってTピットがつくられていたことから、縄文前期以降のものであり、また周辺の調査事例から縄文中期後半頃と考えられる。　（藤井）

TP－３（図Ⅴ-11　図版32-６・７）

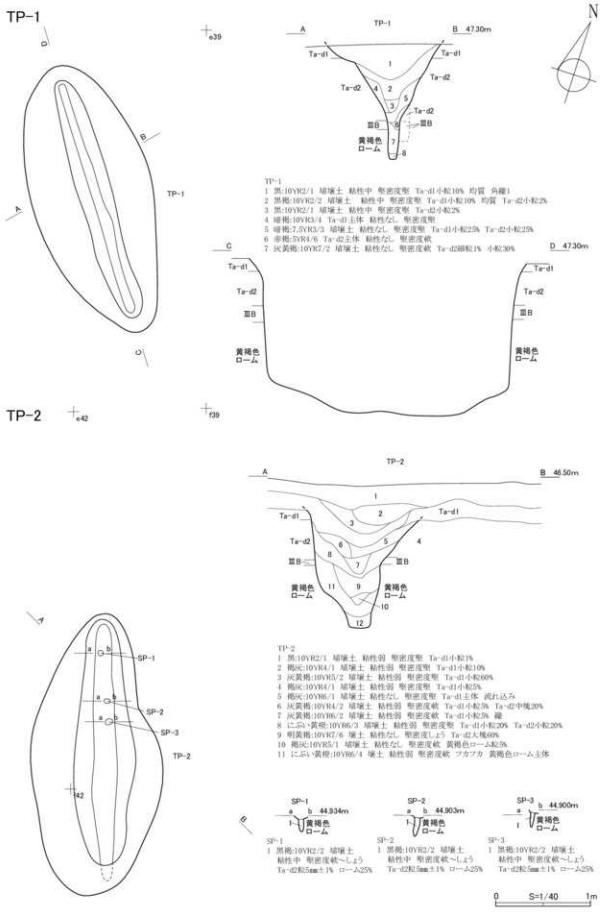
位置：d39・40区　調査区北側の平坦面に位置し、確認面の標高は約47mを測る。長軸方向は北西-南東である。

規模：確認面1.98×0.97　底面1.80×0.13 最大深さ1.26m　**平面形態**：楕円形（溝状）

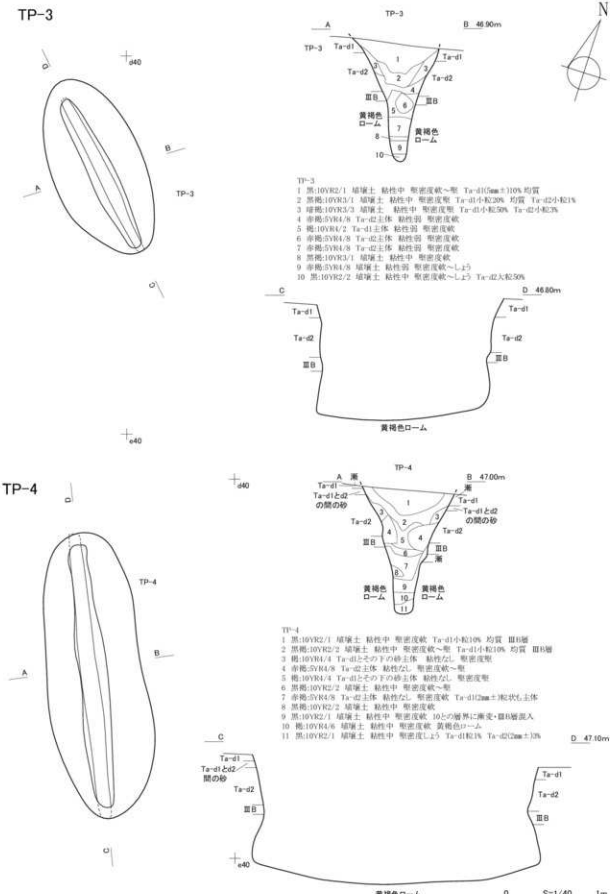
特徴：【確認】Ta-d1の上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の南側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積で、１・２層はⅡB層を主体とする。３～９層はTa-d1とTa-d2が混在するが、d2の割合が多い。底面に堆積する10層は黒色土である。８・10層は腐植土が主体である。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩れて外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は長軸北側が浅く、南端がわずかにオーバーハングする。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。　（山中）



図Ⅴ-10　Tピット(1)　TP-1・2



図Ⅴ-11 Ｔピット(2) TP-3・4

TP－4（図Ⅴ-11　図版33-1・2）

位置：d39区　調査区北側の平坦面に位置し、確認面の標高は約47mを測る。長軸方向は北西-南東である。

規模：確認面3.02×1.08 底面3.02×0.18 最大深さ1.32m　**平面形態**：長楕円形（溝状）

特徴：【確認】Ta-d1の上面で、長楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の南側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積で、1・2層はⅡB層、3・5層はTa-d1、4・7層はTa-d2、9層はⅢB層、10層は黄褐色ロームが主体である。底面に堆積する11層はTa-d2の混じる黒色土である。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩落により外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は中央部から長軸両端に向かって浅くなり、縦断面は弧状を呈する。長軸両端はオーバーハングする。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、詳細の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。（山中）

TP－5（図Ⅴ-12　図版33-3・4）

位置：j36・37区　調査区中央西側の斜面肩部に位置し、確認面の標高は約46mを測る。長軸方向は東-西で、等高線にほぼ直交する。

規模：確認面1.85×0.93 底面1.98×0.17 最大深さ1.42m　**平面形態**：楕円形（溝状）

特徴：【確認】Ta-d1の上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の西側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】2層は暗褐色を呈し、他のTピットの掘り上げ土かもしれない。1層と3層以下は壁からの崩落や流入による堆積で、1層はⅡB層、3層はTa-d1、4・6・8層はTa-d2、10層は黄褐色ロームを主体とする。底面に堆積する11層はTa-d2の混じる黒色土である。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩れて外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は東側から西側に向かって下がり、長軸両端がオーバーハングする。

遺物出土状況：覆土中から安山岩と珪岩の礫片2点が出土した。

時期：縄文時代の遺構であるが、詳細の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。（山中）

TP－6（図Ⅴ-13　図版34-1・2）

位置：d40、e40区　調査区北側の平坦面に位置し、確認面の標高は約47mを測る。長軸方向は北西-南東である。

規模：確認面2.38×1.30 底面2.04×0.15 最大深さ1.16m　**平面形態**：楕円形（溝状）

特徴：【確認】Ta-d1の上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。南側は長軸方向が異なる同様の広がりと重複する（TP-7）。【調査】黒色土の北側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積で、1・3層はⅡB層を主体とする。2・4～7層はTa-d1とTa-d2が混在するが、d2の割合が多い。底面に堆積する9層はTa-d2の混じる暗褐色土である。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩れて外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面はおおむね

平坦で、南端は重複するTP-７の掘削により壊される。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、詳細の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。重複するTP-７より古い。（山中）

TP－７（図Ⅴ-13　図版34-３・４）

位置：e39・40区　調査区北側の平坦面に位置し、確認面の標高は約47mを測る。

規模：確認面2.48×0.68 底面1.54×0.12 最大深さ1.22m　**平面形態**：楕円形（溝状）長軸方向は北東-南西

特徴：【確認】Ta-d1の上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。北側は長軸方向が異なる同様の広がりと重複する（TP-６）。【調査】黒色土の西側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。土層断面の観察から、重複するTP-６よりも新しい。なお、南西側の壁を掘りすぎてしまったため、上端の長径値が欠けているが、残存する下端の状況から、２m弱であったと推測される。【堆積】２層は暗褐色を呈し、他のTピットの掘り上げ土かもしれない。１層と３層以下は壁からの崩落や流入による堆積で、１層はⅡB層、３層はTP-６の覆土に由来する。４～12層はTa-d1・d2、Ⅲb層、黄褐色ロームなどからなるが、d2の占める割合が多い。底面に堆積する10層は黒色土である。【壁・底面】壁面の下部は直立するが、上部は崩落により外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は中央から両端に向かって浅くなる。

遺物出土状況：覆土中から黒曜石製剥片（チップ）が出土した。

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。重複するTP-６より新しい。（山中）

TP－８（図Ⅴ-12　図版35-１・２）

位置：e39、f39区　調査区北側の平坦面に位置し、確認面の標高は約47mを測る。

規模：確認面3.40×1.25 底面3.10×0.22 最大深さ1.20m　**平面形態**：長楕円形（溝状）長軸方向は北-南である。

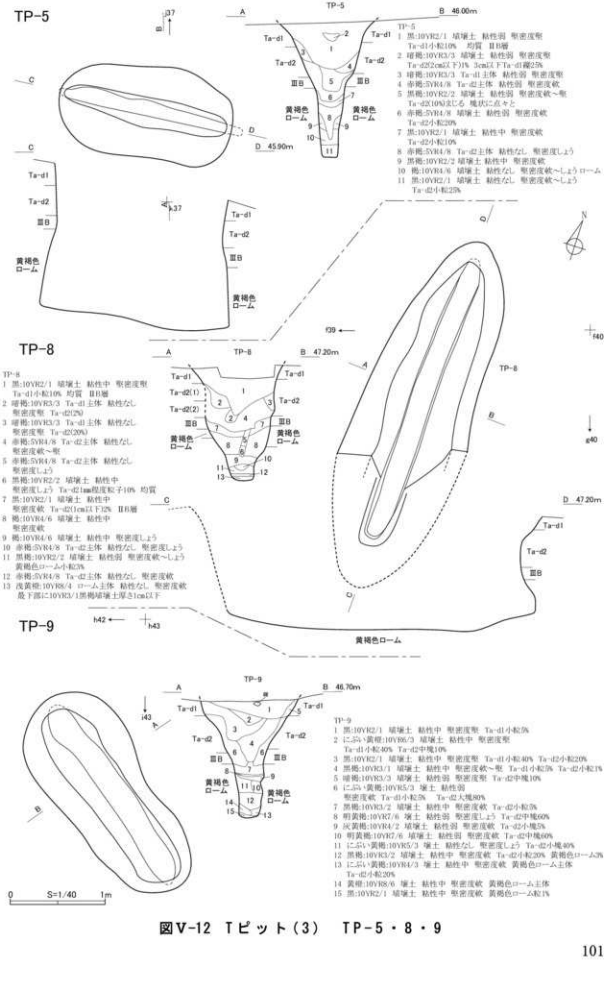
特徴：【確認】Ta-d1の上面で、鉄塔建設により一部が壊されているが、長楕円形とみられる黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の北側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。１層はⅡB層、２・３層はTa-d1、４・10・12層はTa-d2、７層はⅢB層、８・９層は黄褐色ロームを主体とする。底面に堆積する14層は黒褐色で、層厚は１cm未満である。【壁・底面】壁の下部は直立するが、そこから上部は崩れて幅広になる。外傾の程度は弱い。南側の壁は、南端の立ち上がり部分をのぞき、鉄塔建設により失われる。底面はおおむね平坦であるが、長軸両端側で浅くなり、北端はオーバーハングする。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代の遺構であるが、時期の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。（山中）

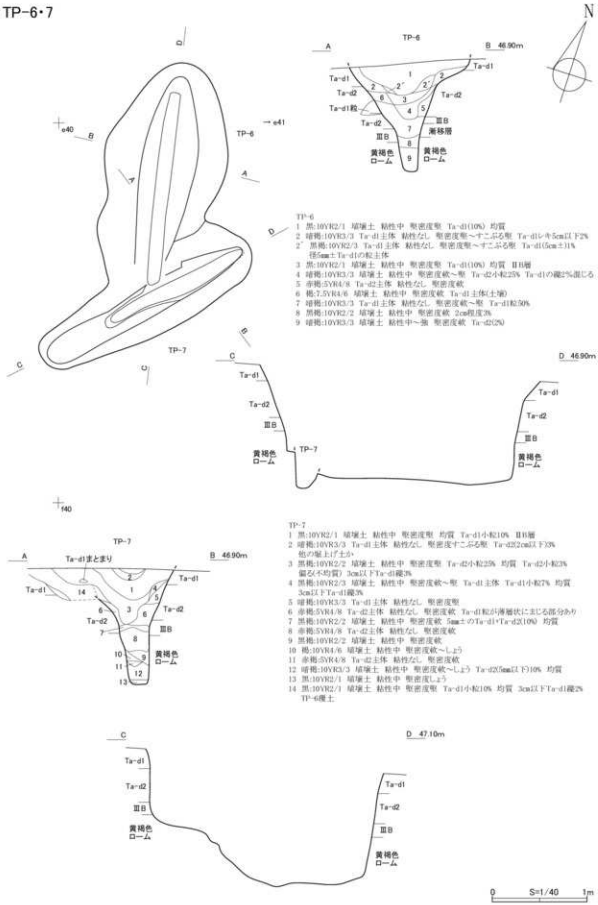
TP－９（図Ⅴ-12　図版34-５・６）

位置：h42・43区　調査区北東部、標高46.5mの緩斜面上部に位置する。盛土遺構M-１の範囲内にあ



図V-12 Tピット(3)　TP-5・8・9

TP-6・7



TP-6
1 黒:10YR2/1 暗褐土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1(10%) 均質
2 暗褐:10YR3/3 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度堅～すこぶる堅 Ta-d1レキ5cm以下2%
2' 黒褐:10YR2/3 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度堅～すこぶる堅 Ta-d1(5cm±)1%
径5mmとTa-d1の粒主体
3 黒:10YR2/1 暗褐土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1(10%) 均質 Ⅲ層
4 暗褐:10YR3/3 暗褐土 粘性中 堅密度硬～堅 Ta-d2小粒25% Ta-d1の縞2%混じる
5 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性なし 堅密度硬
6 橙:5YR4/6 暗褐土 粘性中 堅密度硬 Ta-d1主体(土壌)
7 暗褐:10YR3/3 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度硬～堅 Ta-d1粒50%
8 黒褐:10YR2/2 暗褐土 粘性中 堅密度硬 2cm程度3%
9 暗褐:10YR3/3 暗褐土 粘性中～強 堅密度硬 Ta-d2(2%)

TP-7
1 黒:10YR2/1 暗褐土 粘性中 堅密度堅 均質 Ta-d1小粒10% Ⅱ層
2 暗褐:10YR3/3 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度すこぶる堅 Ta-d2(2cm以下)3%
他の凝上げとか
3 黒褐:10YR2/2 暗褐土 粘性中 堅密度堅 Ta-d2小粒25% 均質 Ta-d2小粒3%
縞状(不均質) 3cm以下Ta-d縞3%
4 黒褐:10YR2/3 暗褐土 粘性中 堅密度硬～堅 Ta-d1主体 Ta-d1小粒7% 均質
3cm以下Ta-d1縞3%
5 暗褐:10YR3/3 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度堅
6 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性なし 堅密度硬 Ta-d1粒が薄層状にまじる部分あり
7 黒褐:10YR2/2 暗褐土 粘性中 堅密度硬 5mmとのTa-d1+Ta-d2(10%) 均質
8 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性なし 堅密度硬
9 黒褐:10YR2/2 暗褐土 粘性中 堅密度硬
10 橙:10YR4/6 暗褐土 粘性中 堅密度硬～しょう
11 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性なし 堅密度硬
12 暗褐:10YR3/3 暗褐土 粘性中 堅密度硬～しょう Ta-d2(5mm以下)10% 均質
13 黒:10YR2/1 暗褐土 粘性中 堅密度しょう
14 黒:10YR2/1 暗褐土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒10% 均質 3cm以下Ta-d1縞2%
TP-6覆土

図Ⅴ-13 Ⅰピット(4) TP-6・7

り、南にTP-10と接する。

規模：確認面2.42×1.09 底面2.24×0.26 最大深さ1.24m　**平面形態**：楕円形

特徴：【確認】盛土遺構確認段階でⅡB層上面にわずかな溝状の黒色土の広がりが見られた。当初A地区で見られた溝状遺構の類として調査したが、黄褐色ローム層まで掘り下げたところ、二つの黒色土範囲が直列状態で確認されTピットと判断した。本遺構はその北側の楕円形のTピットにあたる。【調査】北半分を先に掘り下げたところ、黄褐色ロームを底面とした溝状の掘り込みとなった。【堆積】上半部は黒色土主体の落ち込みと壁面の崩落土からなる。下半部は混入の少ない黒色土(7)から下はTa-d2、黄褐色ロームの混土と黒色土が交互に堆積する。【壁・底面】短軸方向に壁は下半部に直立し、上半部が外に広がる形状で「Y」字形になる。長軸方向には両端ともにわずかなオーバーハングとなる。底面は細く平坦である。

遺物出土状況：覆土中に安山岩１点、砂岩１点、片麻岩２点の礫片が出土した。盛土遺構からの流入の可能性もある。

時期：縄文前期の盛土遺構を掘り込むことから前期以降と推定される。周辺の調査事例から縄文時代中期後半と考えられる。（藤井）

TP-10（図Ⅴ-14　図版35-３・４）

位置：h42・43、i43区　調査区北東部、標高46.5mの緩斜面上部に位置する。盛土遺構M-１の範囲内にあり、北にTP-９と接する。

規模：確認面2.74×0.90 底面3.19×0.20 最大深さ1.61m　**平面形態**：長楕円形（溝状）

特徴：【確認】盛土遺構確認段階で、ⅡB層上面に溝状の黒色土の広がりが見られた。当初溝状遺構の類として調査をはじめたが、黄褐色ローム層まで掘り下げた段階で、２つの溝状の黒色土範囲が直列状態で確認されたため、Tピットと判断した。本遺構はその南側の１つである。

【調査】盛土遺構のトレンチ側土層断面を残して北半分を掘り下げたところ、黄褐色ロームを底面にした細い溝状の掘り込みとなった。【堆積】ⅡB層上面より観察記録ができ、ⅡB層上層からTピット上半部に至るまで大きく落ち込むことが明らかになった。Tピット中～下半部は、黒色土と混土が細かく交互に堆積する互層状態である。【壁・底面】短軸方向に壁は下部から中部まで直立し、上半部が外傾する「Y」字形である。長軸両端側は深くオーバーハングし、底面は細く平坦である。

遺物出土状況：出土していない。

時期：縄文前期の盛土遺構を掘り込んでいたことから、前期以後の縄文時代と考えられる。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。（藤井）

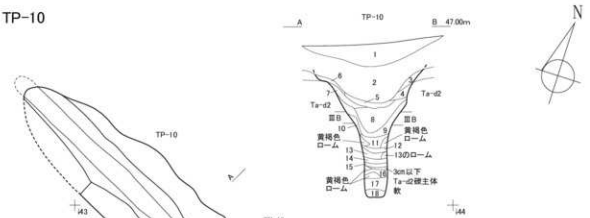
TP-11（図Ⅴ-14　図版36-１・２）

位置：c44・45区　調査区北東側の斜面に位置し、確認面の標高は約44mを測る。長軸方向は北-南で、等高線におおむね平行する。

規模：確認面2.88×0.80 底面2.65×0.22 最大深さ1.11m　**平面形態**：長楕円形（溝状）

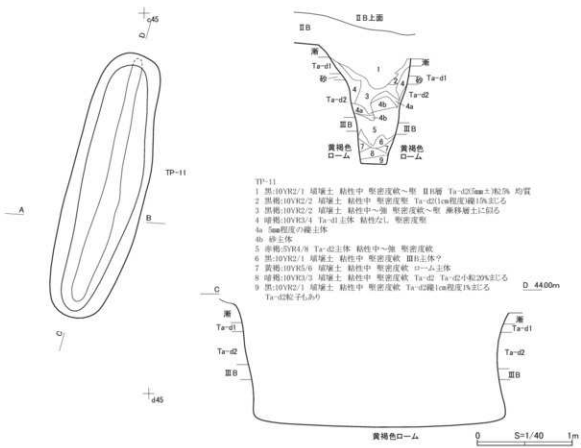
特徴：【確認】ⅡB層からTa-d1への漸移層で、楕円形とみられる黒色土の広がりを確認した。【調査】北側が調査区の法面下にあったので、法面より南側を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。なお、北側の調査は法面（旧鹿柵）除去工事後に行った。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。１～３層はⅡB層、４層はTa-d1、５層はTa-d2、６層はⅢB層、７層は黄褐色ロームを主体とする。底面に堆積する

TP-10



TP-10
1 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 Ⅲ層 堅密度軟～堅 Ta-d1粒2% 均質
2 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 Ⅲ層 堅密度堅 Ta-d1粒1% 均質 Ta-d2粒2cm以下1%
3 黒褐:10YR2/3 堆積土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1(1cm程度)以下3% Ta-d2粒1%
4 赤褐:5YR4/8 Ta-d2土体 粘性なし 堅密度軟
5 暗褐:10YR3/3 5mm±以下のd1砂レキ土体 粘性なし 堅密度堅
6 黒褐:10YR2/3 堆積土 粘性中 堅密度堅 Ta-d2粒2%
7 赤褐:5YR4/8 Ta-d2土体 堅密度軟 Ta-d2に10YR2/3黒褐堆積土が混在
8 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1(1cm以下)5% Ta-d1レキ4cm程度以下目につく Ta-d2粒2cm以下1%
9 赤褐:5YR4/8 Ta-d2土体 粘性なし 堅密度軟
10 黒:7.5YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度堅 Ⅲ層に似る 落ち込みわずかで掘りすぎては入ら
11 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2粒2cm以下3% ローム40%
12 赤褐:5YR4/8 Ta-d2土体 粘性なし 2cm程度の d2土体 10YR2/1黒が1%混在 堅密度軟
13 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2粒5mm程度2% ローム20% 右硬質
14 赤褐:5YR4/8 Ta-d2土体 2cm程度のd2土体 10YR2/1黒が30%混在 堅密度軟
15 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度軟
16 黄褐:10YR5/8 堆積土 堅密度軟 ローム(2.5YR2/1黒褐)が混じる
17 暗褐:10YR3/3 堆積土 粘性中 堅密度堅 Ta-d2粒2cm程度以下7%
18 暗褐:10YR3/3 堆積土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2粒2cm程度以下7%

TP-11



TP-11
1 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度軟～堅 Ⅲ層 Ta-d2粒5mm±3%2% 均質
2 黒褐:10YR2/2 堆積土 粘性中 堅密度堅 Ta-d2(1cm程度)粒1%まじる
3 黒褐:10YR2/2 堆積土 粘性中～強 堅密度軟～堅 廃棄屑土に似る
4 暗褐:10YR3/4 Ta-d1土体 粘性なし 堅密度堅
4a 5mm程度の礫土体
4b 砂土体
5 赤褐:5YR4/8 Ta-d2土体 粘性中～強 堅密度軟
6 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度軟 Ⅲb土体？
7 黄褐:10YR5/6 堆積土 粘性中 堅密度軟 ローム土体
8 暗褐:10YR3/3 堆積土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2 Ta-d2小粒20%まじる
9 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2粒1cm程度1%まじる
Ta-d2粒子もあり

図Ⅴ-14 Ｔピット (5) TP-10・11

９層はTa-d1・d2の混じる黒色土である。【壁・底面】壁は下部から上部に向かってやや外傾するが、西側の一部はTa-d1・d2の層界付近でさらに外傾する。底面は平坦である。

遺物出土状況：遺物は出土していない

時期：縄文時代の遺構であるが、詳細の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。（藤井）

TP-12（図Ⅴ-15　図版36-３・４）

位置：h39、i39区　調査区中央の平坦面に位置し、確認面の標高は約47mを測る。長軸方向は北東-南西である。

規模：確認面2.31×1.19 底面2.20×0.11 最大深さ1.25m　**平面形態**：楕円形（溝状）

特徴：【確認】ⅡB層からTa-d1の漸移層で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の北側を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積である。１・２層はⅡB層、３層はTa-d1、５層はTa-d2、６層はⅢB層、７層は黄褐色ロームを主体とする。底面に堆積する９層は暗褐色土である。【壁・底面】壁面の最下部は直立ぎみであるが、それより上部は崩れて外傾し、短軸の断面は「V」字形に近い。北側の壁面上部は撹乱により壊される。底面は中央から両端に向かって浅くなり、南端はわずかにオーバーハングする。

遺物出土状況：覆土２層から石器10点、片麻岩の礫片１点が出土した。石器は黒曜石製の石錐部分片１点と頁岩１点、黒曜石８点の剥片である。

時期：縄文時代の遺構であるが、詳細の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。（山中）

TP-13（図Ⅴ-15　図版36-５・６　37-１～３）

位置：n37、o36・37区　調査区南側の平坦面に位置し、確認面の標高は約46mを測る。長軸方向は東-西である。

規模：確認面2.60×1.32 底面2.30×0.10 最大深さ1.22m　**平面形態**：楕円形（溝状）

特徴：【確認】Ta-d1上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の西側を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積で、１～４層はⅡB層を主体とする。５層以下はTa-d2が多く混じり、底面に堆積する９層はTa-d2の混じる黒褐色土である。【壁・底面】壁の下部は直立するが、上部は崩れて外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面はおおむね平坦で、両端はオーバーハングする。

付属遺構：底面で杭痕３か所を検出した（SP-１～３）。

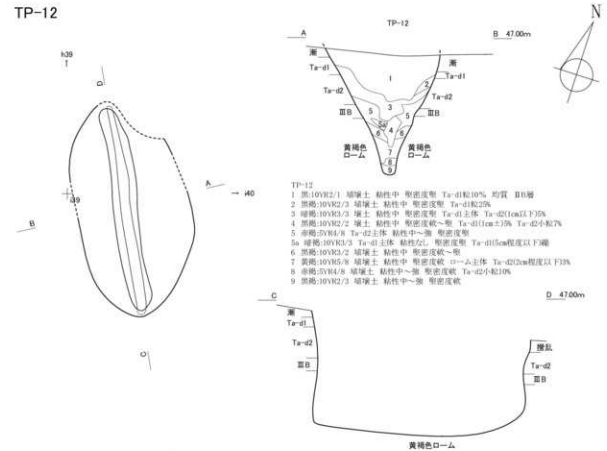
遺物出土状況：覆土１層からⅢ群土器とみられる小破片が数点出土した。覆土１層から縄文中期後半の土器胴部片小片22点と安山岩、砂岩の礫片が出土した。

時期：縄文時代の遺構であるが、詳細の特定には至っていない。周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。（山中）

TP-14（図Ⅴ-16　図版37-４・５）

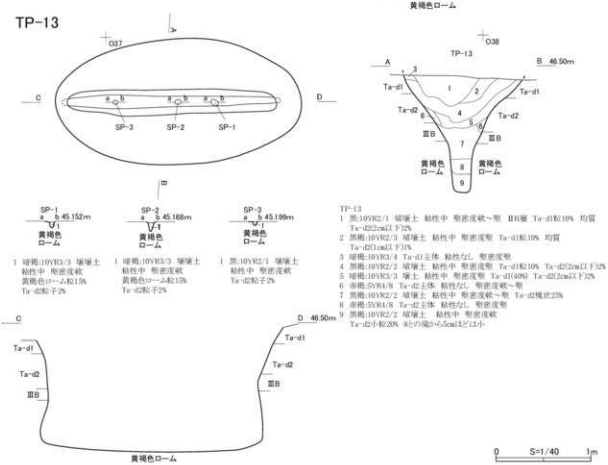
位置：i37区　調査区南側の斜面肩部に位置し、確認面の標高は約46mを測る。長軸方向は東-西で、

TP-12



TP-12
1 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1粒10% 均質 ⅡB層
2 黒褐:10YR2/3 堆積土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1粒25%
3 暗褐:10YR3/3 堆土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1主体 Ta-d2(1cm以下)5%
4 黒褐:10YR2/2 堆土 粘性中 堅密度硬～堅 Ta-d1(1cm±)5% Ta-d2小粒7%
5 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性中～強 堅密度堅
5a 暗褐:10YR3/3 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度堅 Ta-d1(5cm程度以下)礫
6 黒褐:10YR3/2 堆積土 粘性中 堅密度硬～堅
7 黄褐:10YR5/8 堆積土 粘性中 堅密度硬 ローム主体 Ta-d2(2cm程度以下)3%
8 赤褐:5YR4/8 堆積土 粘性中～強 堅密度硬 Ta-d2小粒10%
9 黒褐:10YR2/3 堆積土 粘性中～強 堅密度硬

TP-13



SP-1
1 暗褐:10YR3/3 堆積土 粘性中 堅密度軟 黄褐色ローム粒15% Ta-d2粒子2%

SP-2
1 暗褐:10YR3/3 堆積土 粘性中 堅密度軟 黄褐色ローム粒15% Ta-d2粒子2%

SP-3
1 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2粒子2%

TP-13
1 黒:10YR2/1 堆積土 粘性中 堅密度硬～堅 ⅡB層 Ta-d1粒10% 均質 Ta-d22cm以下2%
2 黒褐:10YR2/3 堆積土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1粒10% 均質 Ta-d23cm以下1%
3 暗褐:10YR3/4 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度堅
4 黒褐:10YR2/2 堆積土 粘性中 堅密度硬 Ta-d1粒10% Ta-d22cm以下2%
5 暗褐:10YR3/3 堆土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1(40%) Ta-d22cm以下2%
6 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性なし 堅密度硬～堅
7 黒褐:10YR2/2 堆積土 粘性中 堅密度硬～堅 Ta-d2塊状25%
8 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性なし 堅密度堅
9 黒褐:10YR2/2 堆積土 粘性中 堅密度硬 Ta-d2小粒20% 礫の縁が5cmほどロム

図V-15 Tピット(6) TP-12・13

等高線に直交する。

規模：確認面2.04×0.95 底面1.92×0.12 最大深さ1.36m　**平面形態**：楕円形（溝状）

特徴：【確認】Ta-d1上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。【調査】黒色土の西側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】各層とも壁からの崩落や流入による堆積で、1・2層はⅡB層を主体とする。3・10層はTa-d1、6・7層はTa-d2を主体とし、5層は両者が交互に堆積する。9層には黄褐色ロームの薄層も認められ、底面を覆う11層はTa-d2の混じる黒色土である。【壁・底面】壁の下部は直立するが、上部は崩れて外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。底面は中央から北端に向かって浅くなる。長軸両端がオーバーハングする。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。　（山中）

TP-15（図Ⅴ-16　図版37-6・7）

位置：m36・37区　調査区南側の平坦面に位置し、確認面の標高は約46mを測る。

規模：確認面3.32×1.32 底面3.22×0.23 最大深さ1.33m　**平面形態**：長楕円形（溝状）長軸方向は東-西である。

特徴：【確認】Ta-d1上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。黒色土の中央にはTa-d2がまとまる。【調査】黒色土の西側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、溝状の掘り込みが検出されたので、Tピットと判断した。【堆積】1層はTa-d2のまとまりで、他のTピットの掘り上げ土とみられる。2層以下は壁からの崩落や流入による堆積で、2・3・5・6層はⅡB層、4・7～9・11層はTa-d1を主体とする。10・12～18層には、Ta-d1、Ta-d2、黒色土の三者が混在する部分や、それぞれが単独でまとまる部分がある。19層は黄褐色ロームで、底面の21層は暗褐色土の薄層である。【壁・底面】壁の下部は直立するが、上部は崩れて外傾し、短軸の断面は「Y」字形を呈する。長軸の両端はオーバーハングする。底面の中央は平坦であるが、長軸両端に向かって浅くなり、縦断面は弧状を呈する。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。　（山中）

TP-16（図Ⅴ-17　図版37-8・9、38-1）

位置：m37・38区　調査区南側の平坦面に位置し、確認面の標高は約47mを測る。

規模：確認面2.90×1.60 底面2.22×0.52 最大深さ1.43m　**平面形態**：長楕円形（短冊形）　長軸方向は東-西である。

特徴：【確認】Ta-d1上面で、楕円形を呈する黒色土の広がりを確認した。黒色土の内側には、褐灰色土が同心楕円状に認められる。【調査】黒色土の西側半分を地山である黄褐色ロームが現れるまで掘り下げたところ、短冊形の掘り込みが検出された。壁からの崩落や流入が主体の堆積状況と合わせて、Tピットと判断した。【堆積】2層は褐灰色を呈し、他のTピットの掘り上げ土とみられる。1層と3層以下は壁からの崩落や流入による堆積で、1・3～5層はⅡB層、6～8層はTa-d2を主体とする。9～11層はⅢB層～黄褐色ロームの崩落で、12層はTa-d1、Ta-d2、黒色土が混在する。底面に堆積する14層は、黒色土と黄褐色ロームとが交互に堆積する。【壁・底面】壁は崩落により底面から上部に向かって外傾する。底面は平坦で短冊形を呈し、立ち上がりが角張る。

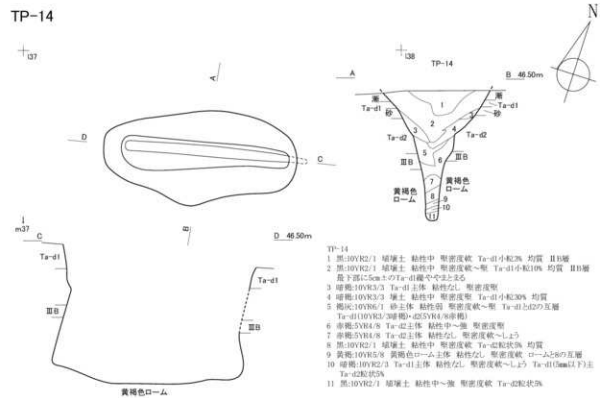
付属遺構：底面で杭痕が１か所検出された（SP-１）。
遺物出土状況：遺物は出土していない。
時期：周辺の遺跡における調査例から、縄文時代中期後半の可能性がある。　（山中）

TP-17（図Ⅴ-17　図版38-２・３）
位置：q30区　調査区南西端の標高43～44mの斜面上に立地する。近接する遺構はない。
規模：確認面3.44×0.91 底面3.18×0.20 最大深さ1.36m　**平面形態**：長楕円形（溝状）　長軸は等高線に平行
特徴：【確認】Ta-d1上面まで掘り下げた段階で黒褐～橙色の細い筋状の範囲を確認した。【調査】細い筋状の南側半分を掘り下げ、深い溝状であることと、覆土の堆積壁の形状などからTピットと判断した。【堆積】覆土は全体的に風化して灰色がかった黄褐色ロームが主体で、壁側からの崩落土・流入土からなる。【壁・底面】風化した黄褐色ローム層までを掘り込んでいる。短軸上の壁面は細い底面から急な立ち上がりの「V」字形になる。長軸方向にも立ち上がりは急で、北壁はオーバーハングしている。底面は細く、平坦面は少ない。
遺物出土状況：遺物は出土していない。
時期：周辺の調査事例などから縄文時代中期後半の可能性がある。　（藤井）

TP-18（図Ⅴ-18　図版38-４・５）
位置：c36・37、d37区　調査区北部の標高46.5mの斜面上部に立地する。西に土坑P-13、盛土遺構M-２、南東に掘り上げ土DU-１と近接する。
規模：確認面2.73×0.85 底面2.98×0.17 最大深さ1.16m　**平面形態**：長楕円形　長軸は等高線に平行
特徴：【確認】Ta-d1層上で褐灰色土の長楕円形範囲を確認することができた。【調査】長楕円形の中央にベルトを残して両側を掘り下げ、深い溝状であること、覆土の堆積や壁の形状などからTピットと判断して調査した。【堆積】覆土は上中下層に大別される。上層は凹みに堆積した黒味の強い腐植土層、中層は縦に長い、流入を基とした堆積でTa-d2ブロックを多く含む。下層は灰褐を基調とした軟らかい壌土層で上、中と比べて混入が少ない。【壁・底面】Ta-d1層からSpflまでを掘り込んでつくられている。短軸上は細い溝から急な立ち上がりの「V」字形、長軸上は底面部が大きくふくらむオーバーハングになる。底面は細いが平坦である。
遺物出土状況：覆土中に頁岩製Uフレイクが１点出土した。
時期：周辺の調査事例などから縄文時代中期後半の可能性がある。　（藤井）

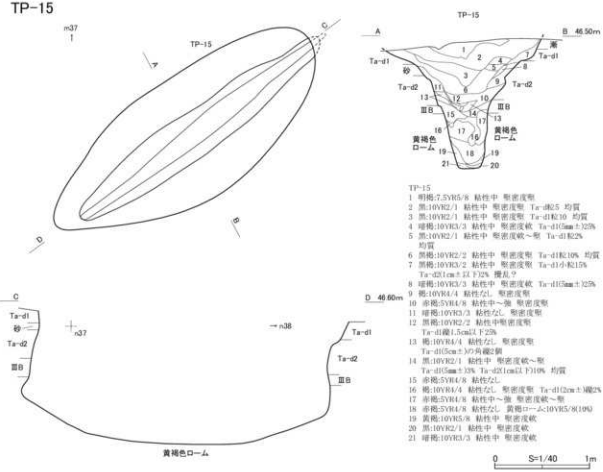
TP-19（図Ⅴ-18　図版39-１・２）
位置：g40・41、h40区　調査区中央部やや東寄りの標高46.8mの平坦面上に立地する。周辺に近接する遺構はないが、周囲８～10mの範囲にTピットが７か所ある。
規模：確認面1.84×0.91 底面1.48×0.12 最大深さ1.30m　**平面形態**：楕円形　長軸は等高線に平行
特徴：【確認】Ta-d1層中で楕円形をした黒褐色土の広がりを確認することができた。【調査】楕円形の中央にベルトを残して両側を掘り下げ、細い溝状であること、覆土の堆積や壁の形状などからTピットと判断して調査した。【堆積】覆土は上中下層に大別される。上層は凹みに堆積した黒味の強い腐植土層で、Ta-d1粒を多く含み分厚い。中層は流入土、崩落土が主体で、Ta-d2ブロックが多く含ま

TP-14



TP-14
1 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒3% 均質 Ⅱ層
2 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1小粒10% 均質 Ⅲ層 敷下部に5cm±のTa-d1礫や土土さる
3 暗褐:10YR3/3 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度堅
4 暗褐:10YR3/3 埴土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1小粒30% 均質
5 褐灰:10YR6/1 砂土体 粘性弱 堅密度軟～堅 Ta-d1と d2の互層 Ta-d1(10YR1/3暗褐)・d2(5YR4/8赤褐)
6 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性中～強 堅密度堅
7 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 粘性なし 堅密度軟～しょう
8 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2粒状3% 均質
9 黄褐:10YR5/8 黄褐色ローム主体 粘性なし 堅密度軟 ロームとその互層
10 暗褐:10YR2/3 Ta-d1主体 粘性なし 堅密度軟～しょう Ta-d1(5mm以下)主 Ta-d2粒状5%
11 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性中～強 堅密度軟 Ta-d2粒状3%

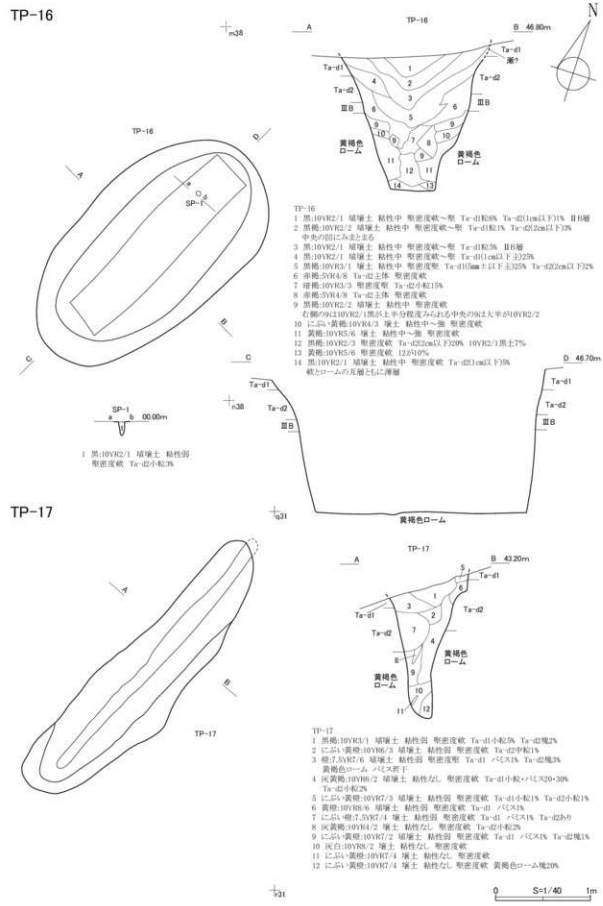
TP-15



TP-15
1 明褐:7.5YR5/6 粘性中 堅密度堅
2 黒:10YR2/1 粘性中 堅密度堅 Ta-d2と5 均質
3 黒:10YR2/1 粘性中 堅密度堅 Ta-d1粒10 均質
4 暗褐:10YR3/3 粘性中 堅密度軟 Ta-d1(5mm±)25%
5 黒:10YR2/1 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1粒2% 均質
6 黒褐:10YR2/2 粘性中 堅密度軟 Ta-d1粒10% 均質
7 黒褐:10YR3/2 粘性中 堅密度軟 Ta-d1小粒15% Ta-d2(1cm±以下)2% 攪乱？
8 暗褐:10YR3/3 粘性中 堅密度軟 Ta-d1(5mm±)25%
9 褐:10YR4/4 粘性なし 堅密度軟
10 赤褐:5YR4/8 粘性中～強 堅密度堅
11 暗褐:10YR3/3 粘性なし 堅密度堅
12 黒褐:10YR2/2 粘性中堅密度堅 Ta-d2(1cm±)2%
13 褐:10YR4/4 粘性なし 堅密度堅 Ta-d1(5cm±)の角礫2個
14 黒:10YR2/1 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1(5mm±)3% Ta-d2(1cm以下)10% 均質
15 赤褐:5YR4/8 粘性なし
16 褐:10YR4/4 粘性なし 堅密度堅 Ta-d1(2cm±)礫2%
17 赤褐:5YR4/8 粘性中～強 堅密度軟～堅
18 赤褐:5YR4/8 粘性なし 黄褐ローム:10YR5/8(10%)
19 黄褐:10YR5/8 粘性中 堅密度軟
20 黒:10YR2/1 粘性中 堅密度軟
21 暗褐:10YR3/3 粘性中 堅密度軟

0　S=1/40　1m

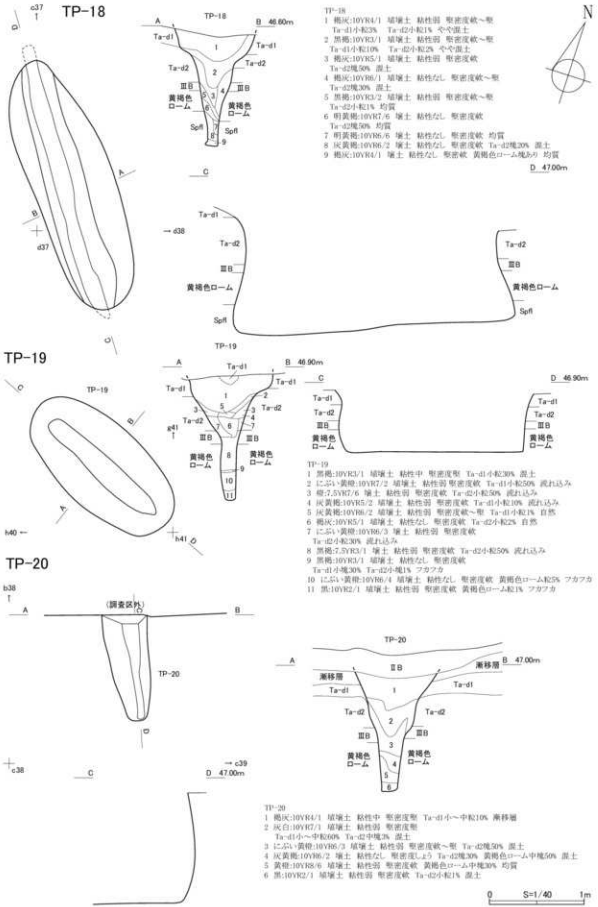
図V-16　Tピット(7)　TP-14・15



TP-16
1 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1粒8% Ta-d2(1cm以下)1% Ⅱb層
2 黒褐:10YR2/2 埴壌土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1粒1% Ta-d2(2cm以下)3%
中央の凹にみ土とまる
3 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1粒5% Ⅱb層
4 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性中 堅密度軟～堅 Ta-d1(1cm以下主)25%
5 黒褐:10YR3/1 埴土 粘性中 堅密度堅 Ta-d1(5mm主以下主)25% Ta-d2(2cm以下)2%
6 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 堅密度軟
7 暗褐:10YR3/3 堅密度堅 Ta-d2小粒15%
8 赤褐:5YR4/8 Ta-d2主体 堅密度軟
9 黒褐:10YR2/2 埴壌土 粘性中 堅密度軟
右側の9は10YR2/1黒が上半分程度みられる中央の9は大半が10YR2/2
10 に ぶい黄褐:10YR4/3 埴土 粘性中～強 堅密度軟
11 黄褐:10YR5/6 埴土 粘性中～強 堅密度軟
12 黒褐:10YR2/3 堅密度軟 Ta-d2(2cm以下)20% 10YR2/1黒土7%
13 黄褐:10YR5/6 堅密度軟 12と10%
14 黒:10YR2/1 埴壌土 粘性中 堅密度軟 Ta-d2(1cm以下)5%
軟とローム層の互層とともに薄層

TP-17
1 黒褐:10YR3/1 埴壌土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒5% Ta-d2塊2%
2 に ぶい黄褐:10YR6/3 埴壌土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d2中粒1%
3 褐:7.5YR7/6 埴壌土 粘性弱 堅密度堅 Ta-d1 パミス1% Ta-d2塊3%
黄褐色ローム パミス若干
4 灰黄褐:10YR6/2 埴壌土 粘性なし 堅密度軟 Ta-d1小粒・パミス20・30%
Ta-d2小粒2%
5 に ぶい黄褐:10YR7/3 埴壌土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1小粒1% Ta-d2小粒1%
6 黄褐:10YR6/6 埴壌土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1 パミス1%
7 に ぶい褐:7.5YR7/4 埴土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1 パミス1% Ta-d2あり
8 灰黄褐:10YR4/2 埴土 粘性なし 堅密度軟 Ta-d2小粒2%
9 に ぶい黄褐:10YR7/2 埴壌土 粘性弱 堅密度軟 Ta-d1 パミス1% Ta-d2塊1%
10 灰白:10YR8/2 埴土 粘性なし 堅密度軟
11 に ぶい黄褐:10YR7/4 埴土 粘性なし 堅密度軟
12 に ぶい黄褐:10YR7/4 埴土 粘性なし 堅密度軟 黄褐色ローム塊20%

図Ⅴ-17 Ｔピット(8) TP-16・17



図V-18　Tピット(9)　TP-18・19・20

れる。下層は黒味のある腐植質な土で混入が比較的少なく、軟らかいのが特徴である。【壁・底面】Ta-d1から黄褐色ロームまでを掘り込んでいる。短軸上の壁面は細い溝の底面から半ばまで垂直な立ち上がりで、上半部で広がる「Y」字形である。長軸上は急な立ち上がりである。底面は細く、平坦である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の調査事例などから縄文時代中期後半の可能性がある。　（藤井）

TP-20（図Ⅴ-18　図版39-３）

位置：b38区　調査区北端にあたる標高47mの尾根筋上の平坦面に立地する。近接する遺構はなく、周囲８～10mのところにTピットが３か所ある。

規模：確認面1.02×0.46 底面1.00×0.17 最大深さ1.18m　**平面形態**：長楕円形（部分）　長軸が等高線に平行

特徴：【確認】ⅡB層下層中に楕円形をした褐灰色土の範囲を確認した。【調査】範囲の北側は調査区外にあたり、区界を壁にして南側を掘り下げた。細い溝状であること、覆土の堆積、壁の形状などからTピットと判断して調査した。【堆積】覆土は上中下層に大別される。上層は凹みに堆積した灰色の腐植土層。中層はTa-d1とTa-d2それぞれの崩落、流入土の堆積。下層は灰～黒味のある黄褐色ロームを含む軟質な堆積である。【壁・底面】ⅡB層から黄褐色ローム層まで掘り込んでいる。短軸上は細い溝の底面から下半部は壁が直立し、上半部で広がる「Y」字形に近い。長軸上はオーバーハングに近い立ち上がりである。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の調査事例などから縄文時代中期後半の可能性がある。　（藤井）

TP-21（図Ⅴ-19　図版39-４・５）

位置：b44・45区　調査区北東端にあたる標高44mの斜面上に立地する。南側３mにTP-11、西側４mにDU-３がある。

規模：確認面（1.80）×0.80 底面（1.60）×0.20 最大深さ1.28m　**平面形態**：長楕円形（部分）　長軸は等高線に平行

特徴：【確認】Ta-d1上面で長楕円形をした褐灰色土の範囲を確認した。【調査】長楕円形の中央部にベルトを残して両側を掘り下げた。細い溝状であること、覆土の堆積や壁の形状などからTピットと判断して調査した。【堆積】覆土は上中下層に大別される。上層は主体のⅡB層と壁側の流入土に分けられる。流入土にはTa-d1・d2が含まれる。中層はⅡB層とTa-d2との混土層になる。下層は黒味のある混入の少ない軟らかい土が主体になる。【壁・底面】Ta-d1から黄褐色ローム層までを掘り込む。短軸上の壁は細い溝の底面から下半部は壁が直立し、上半部で広がる「Y」字形である。長軸上の壁はやや緩やかである。底面は細く平坦である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：周辺の調査事例などから縄文時代中期後半の可能性がある。　（藤井）

（４）焼土（F）

F-１（図Ⅴ-19　図版40-１・２）

位置：o35・36区　調査区南西部の台地先端に位置する。確認面の標高は約46mを測る。

規模：確認面1.24×0.70 最大厚0.10m　**平面形態**：不整形

特徴：【確認】ⅡB層の掘り下げ中に、炭化木片を伴う赤みを帯びた土が広がっていたので、焼土と判断した。【調査】焼土の中央に小トレンチを入れて断面を観察したところ、赤みのやや強い部分が大きく２か所認められた。堆積状況などから判断すると、焼土ではあるが、この場所で形成されたものではない可能性が高い。【堆積】断面で認められた２か所の焼土はどちらも層界が画然としている。南側の焼土は厚さ10cmで色調にむらがあり、北側の焼土は２cm程度と薄い。焼土上面の中央から北側にかけて炭化木片の薄層が堆積する。

遺物出土状況：焼土上面でⅢb類土器１点、焼土のすぐ南側でⅢb類土器と礫がややまとまって出土した。

時期：検出した層位と出土遺物から、縄文時代中期末葉（北筒式期）と考えられる。

掲載遺物：Ⅲb類土器胴部片１点を掲載した。（図Ⅴ-26-23）　（山中）

（５）遺物集中（C）

C-１（図Ⅴ-19　図版40-３）

位置：h37、i37区　標高46.2～46.6mで西に傾斜する緩斜面上に立地する。掘り上げ土DU-６と重複し、西にP-７・８、東にSC-２・４に近接する。

規模：長径3.08×短径1.76m　**平面形態**：不整楕円形（範囲）

特徴・調査：剥片集中である。ⅡB層１回目の掘り下げ時に、黒曜石の剥片・砕片が集中して出土した。集中の範囲を記録（１回目）してⅡB層をさらに掘り下げたところ、集中の南側に掘り上げ土を確認した。掘り上げ土に剥片・砕片は含まれないが、その周囲と下位のⅡB層では剥片・砕片が集中していたため、再度範囲を記録（２回目）した。その最下位では、頁岩のつまみ付きナイフ、スクレイパー、緑色泥岩の磨製石斧、石のみからなる石器集中（C-３）を検出した。

ⅡB層１回目の掘り下げ時に黒曜石の剥片が集中して出土した。層位は重複する掘り上げ土より上位のⅡB層から大半が出土した。剥片は10cm前後のレベル差をもって出土した。赤井川産黒曜石の特徴がみられるものが多い。剥片は大きいものでも３cm程度、１cm未満の砕片が大部分で、石器素材と成り得るものはない。

遺物出土状況：石器（剥片）が13,689点、総重量275.4g出土した。全て径１cm以下の砕片（チップ）で、黒曜石製が13,683点、頁岩製が６点である。黒曜石には球顆が見られるものが多い。

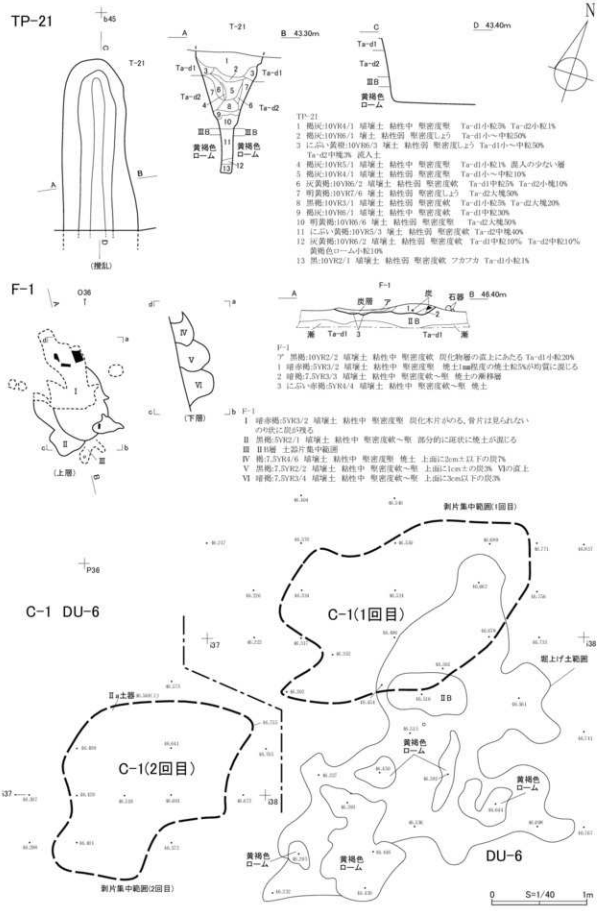
時期：縄文時代前期前半（Ⅱa-２類　静内中野式期）もしくは縄文時代中期末葉（北筒式期）の可能性がある。　（藤井・山中）

C-２（図Ⅴ-20　図版40-３）

位置：h38、i38区　標高46.8～47.0mで西に傾斜する緩斜面上に立地する。西に剥片集中C-１、C-３、掘り上げ土DU-６、東にTP-12に近接する。

規模：長径2.0×短径1.2m　**平面形態**：不整楕円形（範囲）

特徴：剥片集中である。【確認】ⅡB層１回目の掘り下げ時に、黒曜石の剥片・砕片が集中して出土した。集中の東側には両面加工石器の破片が２点あり、剥片・砕片はその下位で特に多い。集中の範囲を記録（１回目）してⅡB層をさらに掘り下げたところ、一部で掘り上げ土を確認した。掘り上げ土に剥片・砕片は含まれないが、その周囲と下位のⅡB層では剥片・砕片が集中していたため、再度範囲を記録（２回目）した。



図V-19 Tピット(10)・焼土・遺物集中(1)・掘り上げ土(1) TP-21 F-1 C-1 DU-6

集中の黒曜石は赤井川産とみられるものが多い。剥片・砕片は大きいもので2cm強であるが、大部分は1cm以下で、石器の素材と成り得るものはない。なお、集中部分の土壌を土のう袋で取上げ、水洗選別を行ったところ、剥片・砕片が5,479点得られた。

遺物出土状況：石器・礫片5480点が出土した。石器は黒曜石製の剥片5,479点、総重量166.4gと石槍部分片1点である。この内の剥片2点を抽出し、原産地分析を行った結果2点とも赤井川産との判定された。礫片は安山岩のものである。

時期：縄文時代前期前半の可能性がある。検出状況から、隣接するC-1とは同時期と考えられる。

掲載遺物：黒曜石原産地分析を行った2点の剥片を掲載した。（図Ⅴ-33-67・68）　（藤井・山中）

C-3（図Ⅴ-20　図版40-4）

位置：h37、i37区　調査区中央西側、標高46mの斜面肩部に立地する。C-1・2・5、P-7に近接する。

規模：確認面0.47×0.26 m　**平面形態**：ほぼ円形（範囲）

特徴：石器集中である【確認】ⅡB層3回目の掘り下げ時に検出した。C-1の掘り下げ中に検出した。集中範囲には、C-1の剥片・砕片が散在する。両面加工のつまみ付きナイフ（69）をのぞき、石器は東側へやや傾くが、石のみ（76）は側面を上にしてほぼ直立する。中心部の剥片石器5点（70・71・72・73・74）は腹面が上を向く。

遺物出土状況：石器10点、総重量465.1gが出土した。石器はつまみ付きナイフ4点、スクレイパー3点、石斧3点である。全て掲載した。

時期：周辺の遺物出土状況から、縄文時代前期前半の可能性がある。

掲載遺物：つまみ付きナイフ（図Ⅴ-34-69～72）、スクレイパー（73～75）、石斧（76～78）を掲載した。（藤井・山中）

C-4（図Ⅴ-20　図版40-5）

位置：j37区　標高46.3～46.4mで西に傾斜する緩斜面上に立地する。西にTP-5、P-3に近接する。

規模：長径2.0×短径1.2m　**平面形態**：不整楕円形（範囲）

特徴：礫集中である。【確認】ⅡB層下位で、径10cm前後の扁平な円礫または楕円礫とそれらの破片が集中していた。礫のなかには被熱したものや、この場で砕けたものもある。礫種は安山岩、砂岩、片麻岩などが見られる。

遺物出土状況：土器1点、石器1点、礫・礫片45点（重量3890.3g）が出土した。土器1点は胴部細片で縄文前期前半のものである。石器1点はたたき石片で安山岩製である。被熱している。礫・礫片は安山岩、砂岩、片麻岩からなる。扁平礫または円礫が多いのが特徴で、完形が12点、破片26点である。被熱の痕跡が多く見られ、割れたものもあり、接合によって完形となったものも多い。また異なる番号の接合も6件あり、被熱して割れた後に礫が移動した可能性もある。

時期：縄文時代前期前半の頃と思われる。

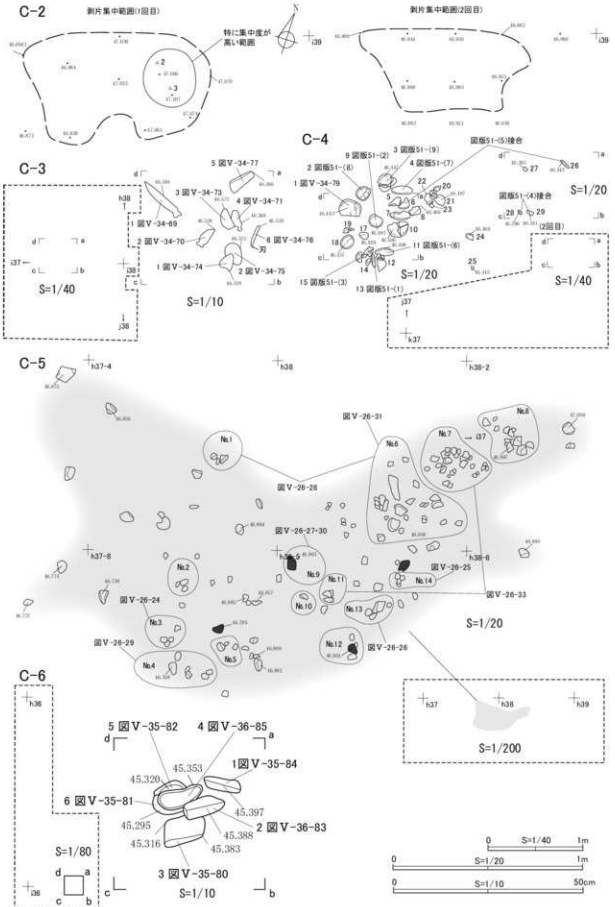
掲載遺物：たたき石1点を掲載した（図Ⅴ-34-79　図版51）。礫・礫片は図版51-(1)～(9)で掲載した。（山中）

C-5（図Ⅴ-20　図版40-6）

位置：h37・38区　調査区中央西側の斜面肩部に位置し、標高は約47mを測る。

規模：確認面4.68×2.72m　**平面形態**：不整形

特徴：土器集中である。【確認】ⅡB層下位で、Ⅱa-2類（静内中野式）の土器片が比較的まとまって出土した。破片は大きいもので8cm程度を測るが、全体的に残存状態は不良で、2cm程度の剥離し



図V-20　遺物集中(2)　C-2・3・4・5・6

た小破片も多い。【特徴】盛土遺構M-1とM-2の間に位置することと時期が縄文前期前半であることから、盛土遺構の一部にあたる可能性もある。

遺物出土状況：土器数は164点。頁岩の礫が2点出土した。土器は全て縄文前期前半のもので、口縁部片9点、胴部片154点、焼成粘土塊1点である。

時期：縄文時代前期前半（Ⅱa-2類 静内中野式期）である。

掲載遺物：縄文前期前半の土器片10点を掲載した（図Ⅴ-26-25～34）。　（藤井・山中）

C-6（図Ⅴ-20　図版40-7）

位置：h36、i36区　調査区中央西寄りの斜面肩部に位置する。P-4覆土上面で確認された。北側にP-7と近接する。

規模：確認面0.30×0.20m

特徴：石斧等集中である。素材及び未成品、転用品からなる。【確認】Ta-d1の面で、楕円形を呈する黒色土の中央に、石斧素材とみられる緑色泥岩が6点集中していた。【調査】集中の西側を掘り下げて土層断面を確認したところ、土坑P-4の埋没過程で生じたくぼみに集積されており、P-4に伴うものではない。

遺物出土状況：石斧未成品5点、石斧原石1点、総重量1961.1gからなる。全て緑色泥岩製である。6点のうち、2～5の5点は重なって出土した。3・5・6は集積の中央に向かって傾く。

時期：周辺の遺物出土状況から、縄文時代中期末葉（Ⅲb類　北筒式期）の可能性がある。

掲載遺物：6点全て掲載した（図Ⅴ-35・36-80～85）。　（藤井・山中）

（6）掘り上げ土（DU）

DU-1（図Ⅴ-21　図版41-1）

位置：c37、d37区　調査区北西側の斜面肩部に位置し、確認面の標高は約47mを測る。

規模：確認面2.12×1.40　最大厚0.06m　**平面形態**：楕円形

特徴：【確認】ⅡB層の掘り下げ中に、Ta-d2と黄褐色ロームの広がりを確認した。黄褐色ロームにTa-d2が混在する部分と、それぞれが単独でまとまる部分とがある。【調査】堆積状況を確認するため、広がりの中央に小トレンチを入れたところ、遺構や土層の撹乱が認められなかったので、掘り上げ土と判断した。なお、掘り上げ土のすぐ西側でTP-18が検出されている。【堆積】1層は黄褐色ロームにTa-d2が混在し、2層は黄褐色ロームが主体である。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：縄文時代のものであるが、詳細の特定には至っていない。Tピットの掘り上げ土であれば、縄文時代中期後半の可能性がある。　（山中）

DU-2（図Ⅴ-21　図版41-2）

位置：b40区　調査区北端、標高46.3mの斜面上部に立地する。周辺に遺構はなく、西側8mにTP-20、東側10mにDU-3がある。

規模：確認面1.51×1.34　最大厚0.08m　**平面形態**：楕円形（部分）　北側が調査区界

特徴：【確認】ⅡB層上面精査時にTa-d2粒とⅡB層との混土の広がりを確認した。

【調査】楕円形の広がりの南側半分を掘り下げて、土層断面の堆積と遺構を伴なっていないことを確認し、掘り上げ土とした。【堆積】Ta-d2ブロック、小粒とⅡB層との混土が薄く堆積する。

時期：縄文時代にあたるが詳細の特定はできていない。周辺のTピットに伴なうものであれば、縄文中期後半の可能性がある。（藤井）

DU－3（図Ⅴ-21　図版41-3）

位置：b43区　調査区北端、標高44～45mの緩斜面上に立地する。東側5mにTP-11・21がある。

規模：確認面2,82×1,58 最大厚0,12m　**平面形態**：長楕円形状の不整形

特徴：【確認】ⅡB層上面精査時にTa-d2粒、黄褐色ローム粒とⅡB層との混土の広がりを確認した。また、混土の内容の組み合わせによって6か所の範囲に区分することができた。【調査】楕円形の長軸に沿って南側を掘り下げて断面を確認した。混土の堆積範囲と伴なう遺構がないことを確認して、掘り上げ土とした。【堆積】組み合わせの異なる混土が地面の傾斜に沿って薄く堆積する。

時期：縄文時代にあたるが詳細の特定はできていない。周辺のTピットに伴なうものであれば、縄文中期後半の可能性がある。（藤井）

DU－4（図Ⅴ-22　図版41-4）

位置：e36区　調査区北側西寄り、標高45～46mの急斜面上に立地する。盛土遺構M-2の範囲に近接し、北側5mにP-13、TP-18、北東3mにDU-1がある。

規模：確認面2,78×1,56 最大厚（0,05）m　**平面形態**：不整楕円形（部分）

特徴：【確認】ⅡB層を少し掘り下げたところで黄褐色ローム粒、Ta-d1・Ta-d2粒とⅡB層との混土が半円状に広がるのを確認した。さらに混土の内容により、4か所の範囲に区分することができた。【調査】楕円形の長軸に沿ったトレンチにより、堆積状況と伴なう遺構がないことを確認して、掘り上げ土として調査した。【堆積】組み合わせの異なる混土が地面の傾斜に沿って薄く堆積する。

時期：縄文時代にあたるが特定できていない。隣接するM-2の遺物を含まないので、周辺のTピットに伴なうものであれば、縄文中期後半の可能性がある。（藤井）

DU－5（図Ⅴ-22　図版41-4）

位置：e37・38、f37・38区　調査区北側西寄りで標高47mの尾根筋上平坦面に立地する。北西にTP-18、西にM-2と近接する。南西4mにDU-4、南3mにDU-5と掘り上げ土が集中する。

規模：確認面3,03×1,05 最大厚0,08m　**平面形態**：不整楕円形（部分）

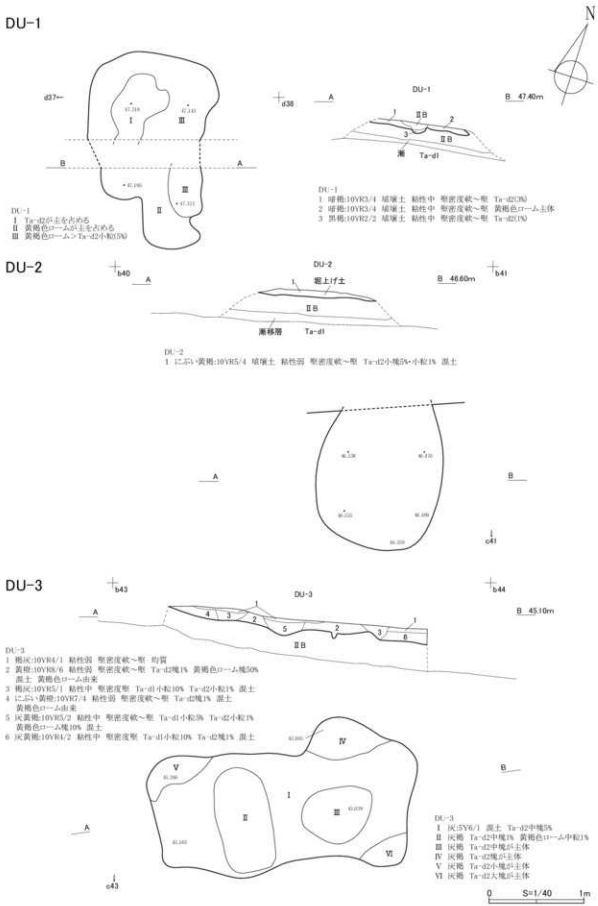
特徴：【確認】ⅡB層を少し掘り下げたところでTa-d2、黄褐色ロームとⅡB層との混土の広がりを確認した。また、混土の内容により三つの範囲に区分することができた。【調査】楕円形の長軸に沿ったトレンチにより、堆積状況と伴なう遺構がないことを確認して、掘り上げ土として調査した。【堆積】ⅡB層上にTa-d2主体で黄褐色ロームを含む混土（Ⅰ）、黄褐色ローム主体の混土（Ⅱ）、黄褐色ロームにTa-d2を含む混土（Ⅲ）の3種の堆積が見られた。層厚はいずれも約8～12cmである。

時期：縄文時代と考えられるも詳細は不明である。Tピットに伴なうものであれば、縄文中期後半の可能性がある。（藤井）

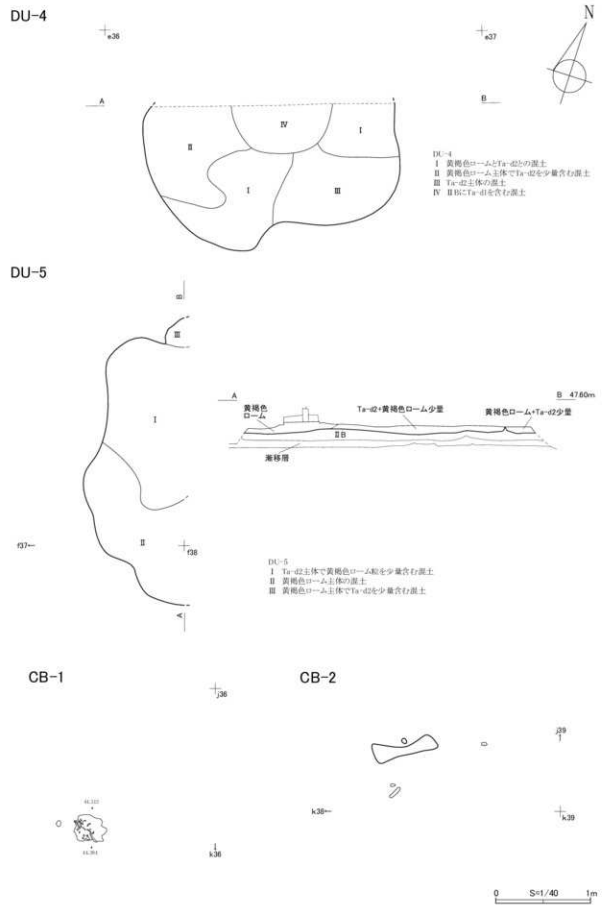
DU－6（図Ⅴ-19　図版41-6）

位置：h37・i37区　標高46,2～46,6mで西に傾斜する緩斜面上に立地する。遺物集中C-1と重複し、西にP-7・8に近接する。

規模：長径4,28×短径2,2m　最大厚0,05m　**平面形態**：不整形（範囲）



図Ⅴ-21　掘り上げ土 (1)　DU-1・2・3



図Ⅴ-22 掘り上げ土(2) DU-4・5 炭化物集中 CB-1・2

特徴：【確認】剥片集中であるC-１の掘り下げ時にⅡB層中で確認した。【調査】C-１に伴うものでなく、ほかに関連する遺構がないことを確認して掘り上げ土として調査した【堆積】Ta-d2とⅡB層との混土中に、黄褐色ロームが分散している状態で堆積する。層厚は約５cmである。
遺物出土状況：遺物は出土していない。
時期：遺物集中C-１との関係から縄文時代中期後半の可能性が考えられる。

（７）炭化物集中（CB）

CB-１（図Ⅴ-22　図版41-６）
位置：j35区　調査区中央部西側に位置し、標高44～45mnの急斜面上に立地する。東側４mにP-９とTP-５がある。**規模**：確認面0.40×0.30m　**平面形態**：不整形
特徴：【確認】ⅡB層を少し掘り下げたところで炭化材のまとまりを確認した。【調査】広がりを確認し、炭化材が紐状に連なる部分、ブロックが重なる部分、湾曲する部分などを観察した。【堆積】薄い炭化物１層のみの堆積
時期：縄文時代、詳細は不明である。確認された層位と遺跡内他の炭化材資料との比較から、縄文後期～晩期の可能性がある。（藤井）

CB-２（図Ⅴ-22　図版41-７）
位置：j38区　調査区中央部に位置し、標高47mの平坦面に立地する。北側５mにTP-12、C-２、西側７mにC-４がある。
規模：確認面0.72×0.12m　**平面形態**：不整形
特徴：【確認】ⅡB層を少し掘り下げたところで炭化材のまとまりを確認した。【調査】炭化材、炭化物の広がりを確認し、分布状況の詳細を観察した。炭化材は平面的に扇状に広がる部分と、紐状に連なり湾曲する部分、ブロックが分散する部分とに分かれた。【堆積】伴なう遺構はなく、薄い炭化物１層のみの堆積。【分析】Ta８-13として樹種同定を行った結果、コナラ属コナラ節であることが明らかになった。
時期：縄文時代、詳細は不明である。確認された層位と遺跡内の他の炭化材資料との比較から縄文後期～晩期の可能性がある。（藤井）

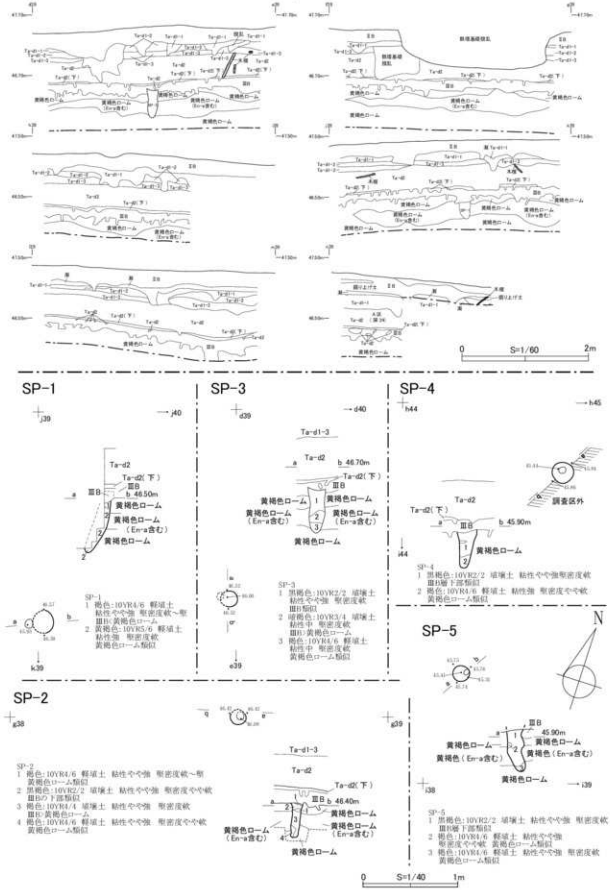
（８）ⅢB層の遺構

ｉ　柱穴状小ピット（図Ⅴ-23・24　図版42・43）

SP-１（図Ⅴ-23　図版42-２）
位置：j38・39区　調査区中央部、標高46.6mの平坦面に位置する。
調査・特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、グリッド東壁の断面で黄褐色ローム層に落ち込む黒色土を確認した。
　覆土は上部がⅢB層混じりの黄褐色ロームで、下部はしまりの弱い黄褐色ロームである。深さは50cm程で、斜めに傾き、坑底は丸みを帯びる。グリッド内では単独で検出された。遺物の出土はない。
時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。（鈴木）

SP-２（図Ⅴ-23　図版42-４）
位置：f38・g38区　調査区中央北寄り、標高46.4mの平坦面に位置する。

39 ラインセクション深掘り部（d39･f39･h39･j39･l39･n39 区西壁）



図Ⅴ-23　Ⅲb層調査　土層断面及び柱穴状小ピット(1)　SP-1・2・3・4・5

調査・特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、グリッド南壁断面で黄褐色ローム層に落ち込む黒色土を確認した。

覆土は黄褐色ロームが少量混じるⅢB層主体の２・３層と、黄褐色ローム主体の１・４層が堆積する。深さは36cmで、坑底は平坦である。グリッド内では単独で検出された。遺物は出土していない。

時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。（鈴木）

SP－３（図Ⅴ-23　図版42-５・６）

位置：d38・39区　調査区中央北部、標高46.5mの平坦面に位置する。

調査・特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、グリッド東壁断面で黄褐色ローム層に落ち込む黒色土を確認した。

覆土はⅢB層主体で坑底付近には軟質の黄褐色ロームが堆積する。深さは48cmで、東側に傾き、坑底の形状は不明である。グリッド内では単独で検出された。遺物は出土していない。

時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。（鈴木）

SP－４（図Ⅴ-23　図版42-７）

位置：h44区　調査区東部、標高45.9mの平坦面に位置する。

調査・特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径25cm程の円形の黒色土を確認した。半截して調査を行った。

覆土は上部がⅢB層類似のもので下部は軟質の黄褐色ロームである。深さは42cmで、坑底は丸みを帯びる。グリッド内では単独の検出である。遺物は出土していない。

時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。（鈴木）

SP－５（図Ⅴ-23　図版42-８）

位置：h38区　調査区中央部、標高45.7mの平坦面に位置する。

調査・特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径20cm程の円形の黒色土を確認した。半截して調査を行った。

覆土はⅢB層に類似した土が主体で坑底付近には軟質の黄褐色ロームが堆積する。深さは46cmで、下部は傾き、坑底は丸みを帯びる。炭化物集中の周辺に分布するが、明瞭な配列は確認できない。遺物は出土していない。

時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。（鈴木）

SP－６（図Ⅴ-24　図版43-１）

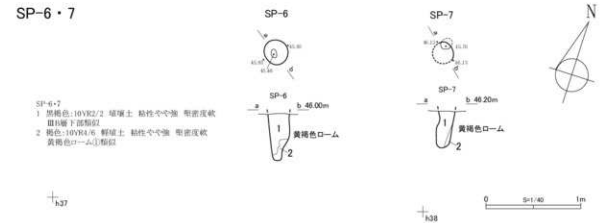
位置：g37区　調査区中央部北寄り、標高45.9mの平坦面に位置する。

調査・特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径25cm程の円形の黒色土を確認した。半截して調査を行った。

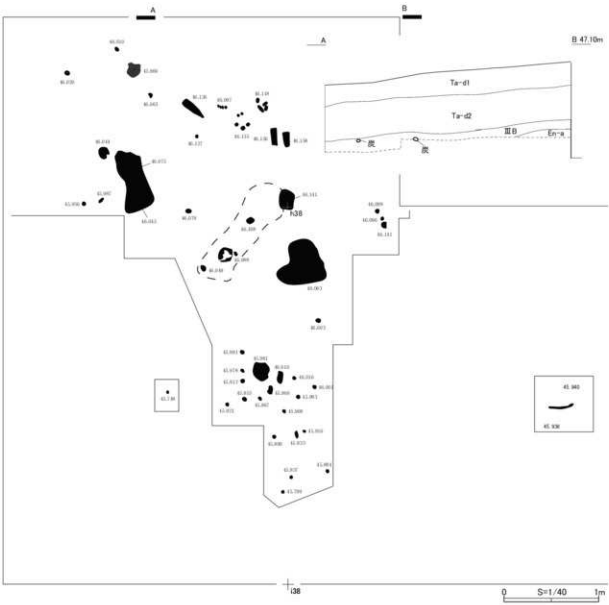
覆土はⅢB層に類似した土が主体で坑底付近には軟質の黄褐色ロームが堆積する。深さは50cmで、坑底は丸みを帯びる。炭化物集中の周辺に分布するが、明瞭な配列は確認できない。遺物は出土していない。

時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。（鈴木）

SP-6・7



ⅢB層炭化物集中 CB-1



図Ⅴ-24 ⅢB層調査 柱穴状小ピット(2) 炭化物集中 SP-6・7 CB-1

SP－7（図Ⅴ-24　図版43-2）

位置：g38区　調査区中央部北寄り、標高46.1mの平坦面に位置する。

調査・特徴：ⅢB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で直径22cm程の円形の黒色土を確認した。半截して調査を行った。

覆土はⅢB層に類似した土が主体で坑底付近には軟質の黄褐色ロームが堆積する。深さは38cmで、坑底は丸みを帯びる。炭化物集中の周辺に分布するが、明瞭な配列は確認できない。遺物は出土していない。

時期：ⅢB層堆積中に形成されたと考えられる。（鈴木）

ii　炭化物集中（CB）

CB－1（図Ⅴ-24　図版43-3～5）

位置：g37・38、h37・38区　調査区中央部やや北寄りに位置し、標高46.0mの平坦面に立地する。

規模：確認面5.00×2.00m

特徴：【確認】ⅡB層確認調査による掘り下げ後、黄褐色ローム層上面で、炭化材・炭化物粒の集中を確認した。【調査】炭化材・炭化物粒の出土状況を精査し、当初h38区のみの調査範囲を4グリッドに拡張し、集中範囲全体を明らかにすることができた。【堆積】ほとんどが黄褐色ローム土上面にやや大型な炭化物ブロックが分散した状態であるが、ローム上面に貼りつくように薄く広がる状態の炭化物も3か所でみられた。炭化物ブロックが輪状に連なった状態での出土もあった。【分布】h38杭を中心に、径30cmほどのやや大きな広がりがあり、その周辺に向かって小さなブロック状になる傾向が見られる。

時期：ⅢB層の堆積中に形成されたものと考えられる。（藤井）

3　遺物

（1）概要

B地区から出土した遺物は26,446点である。この内、土器が2,151点、石器が20,426点、礫が3,869点を数えた。石器が最も多いがC-1・2出土の剥片が占める割合が高い。

土器は遺構が618点、包含層が1,533点でⅡa-2類が1,234点、Ⅲb類が909点である。この内、遺構出土を34件、包含層出土を67件掲載した。遺構出土は全てⅡa-2類、包含層は59件がⅡa-2類で、7件がⅢb類に相当する。

石器は遺構が19,060点、包含層が1,366点である。器種は石鏃・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・Rフレイク・Uフレイク・剥片・石斧・たたき石・すり石・石錘・砥石・台石石皿などが出土した。特につまみ付きナイフ・石錐・石鏃・石斧が多いことに特徴がある。この内、遺構からは83点、包含層からは95点を掲載した。

礫は遺構出土が1,052点、包含層出土が2,817点である。石材は、安山岩・砂岩・片麻岩が多く、扁平楕円礫が多いことに特徴がある。掲載はC-4出土の扁平楕円礫を写真図版に掲載した。

（2）土器（図Ⅴ-25～28　図版46～48　表Ⅴ-1）

土器は縄文前期前半（Ⅱa-2類）と縄文中期後半（Ⅲb類）のものを掲載した。

Ⅱa-2類は繊維土器の類で、胎土に繊維を多く含み、脆いのが特徴である。今回出土の土器についても器面の多くに剥離、剥落にそれが表れている。この剥落には繊維部分の焼失によって深く大きな欠落が生じたものと、広範囲ではあるが器面を深く損なうことなく、緩やかな凹凸で覆われ、モコモ

コしたような状態のものがあることがわかった。これについて前者を「内部剥落」、後者を「表層剥離」と表現した。また、滑らかな質感のある土器については、調整等によって得られた平滑さとは異なり、素材そのものの滑らかさであることを表すために「スベスベ」と表記した。

【遺構出土の土器】(図Ⅴ-25～26　図版46・47　表Ⅴ-1)

図Ⅴ-25-1～14がM-1出土の土器である。すべてⅡa-2類である。

1は復元個体の小型深鉢形土器である。26点が接合し、口縁から胴下半部までを復元できた。口唇付近にわずかに斜行縄文を残すが、器面の殆どが「表層剥離」で占められる。

2～7は口縁部破片である。2・3は器面が縄文と「表層剥離」からなり、黒化してスベスベしている。4・5は斜行縄文のみで、胎土に撚紐痕跡が見られる。6・7も斜行縄文のみであるが、7は黒化し、スベスベしている。8～14は胴部破片である。8・9は斜行縄文と「表層剥離」からなるものでスベスベしている。9は内面に縄文が見られる。10・11は表面の殆どが「表層剥離」で、スベスベしている。12～15は斜行縄文が施され、12はスベスベした黒色化、15は胎土に撚紐痕跡が見られる。

図Ⅴ-25-16、26-17・18がM-2出土の土器、口縁部破片である。Ⅱa-2類である。

16・17は大型深鉢の口縁～胴部破片である。16は25点が接合した。上半が斜行縄文、下半が「表層剥離」の組み合わせで、内面では逆になるのが特徴。17は12点が接合した。18は斜行縄文が地文の黒色でスベスベした土器である。内面は「表層剥離」が殆どである。

19～21はP-9出土の土器で、いずれも胴部分である。炭の付着したスベスベした土器が特徴である。

22はTP-1覆土出土の胴部小片で、「表層剥離」が見られる。23はF-1出土土器である。斜行縄文を地文とする胴部片で内面はすべて剝落している。Ⅲb相当と考えられる。24は剝片集中のC-1出土土器で「表層剥離」しか見られない胴部破片である。Ⅱa-2相当と考えられる。25～34は土器集中のC-5出土土器である。25～27は口縁部片で粒の粗い斜行縄文と繊維痕が見られるのが特徴である。28～31は胴部片で粒の粗い斜行縄文が特徴である。28は表面の大半が剥落している。29・31には撚紐痕跡が明瞭である。32～34は底部付近の破片である。胎土に片麻岩とみられる大粒の礫を含む。

【包含層出土の土器】(図Ⅴ-26～28　表Ⅴ-1　図版47・48)

縄文前期前半の土器(Ⅱa-2類)(図Ⅴ-26～28　図版47・48)

1～60がⅡa-2類の土器である。

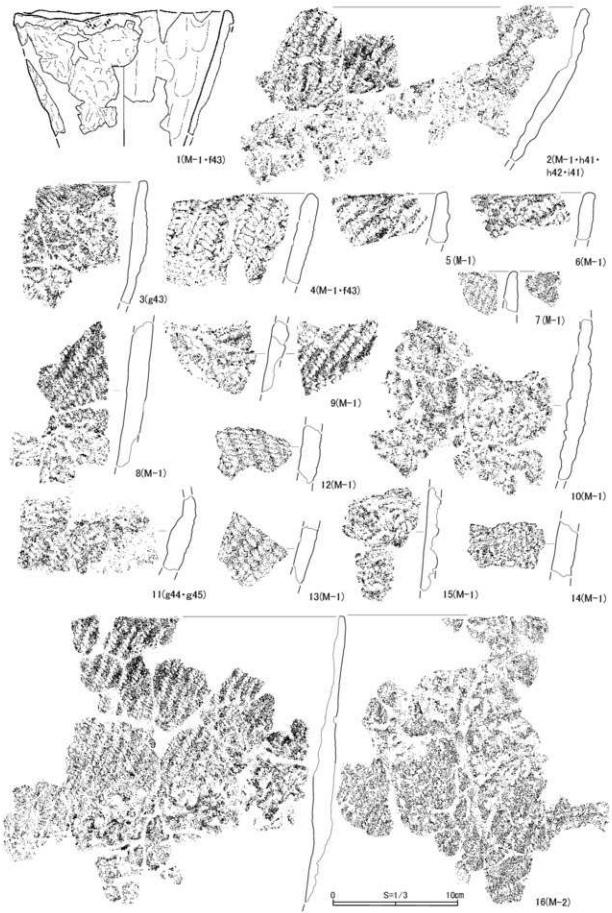
1～21は口縁部破片である。1～9は比重が軽く、質感がスベスベしていて、黒い光沢があるのが特徴である。1・2は大型破片で1が10点、2が19点接合した。1は斜行縄文と「表層剥離」からなり、2はわずかな斜行縄文に表面の殆どが失われている。3～5は斜行縄文が明瞭に残る小片。6～9は一部斜行縄文が残るも、殆どが剝落している。特に8・9は「表層剥離」としたものである。

10～14は薄手の小片で粒の細かいものと粗い縄文が残る。15～18は厚手の破片で粒の粗い斜行縄文が残る。18は施文後にナデ消されている。19～21は撚紐痕が表面に見られる小片である。いずれも薄手で縄文がわずかに残る。

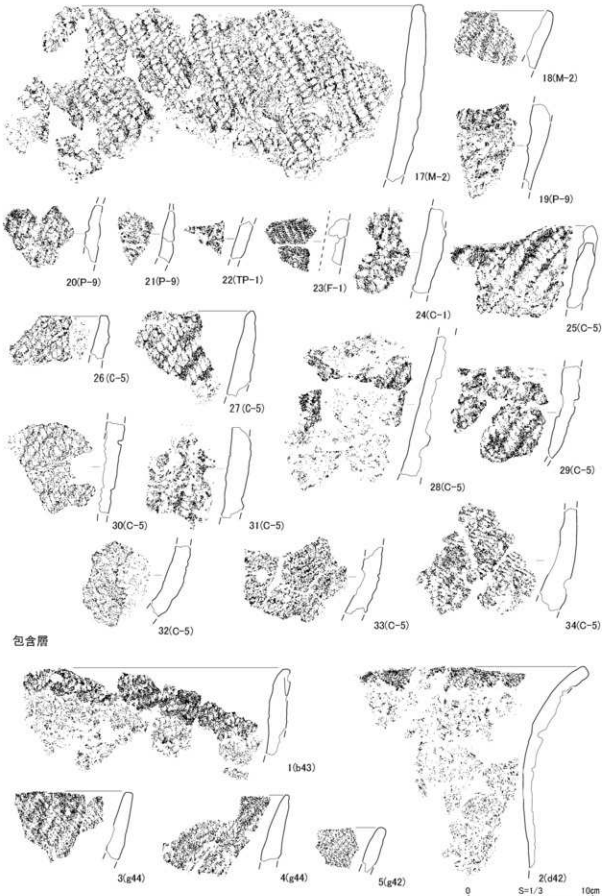
22～57は胴部破片である。22～32は黒い光沢が特徴の土器で、22～29は斜行縄文が残るもの、30～32は表面が「表層剥離」のみのものである。22は表面が一部の縄文と「表層剥離」の組み合わせ、31は内面に明瞭な縄文が残る。

33～60は表面色調が橙色系のものである。33～39は撚紐痕跡が明瞭に見えるものでいずれも斜行縄文が残る。40・41は細い繊維痕跡が土器の表裏面に見られるもので、これも斜行縄文を地文とする。

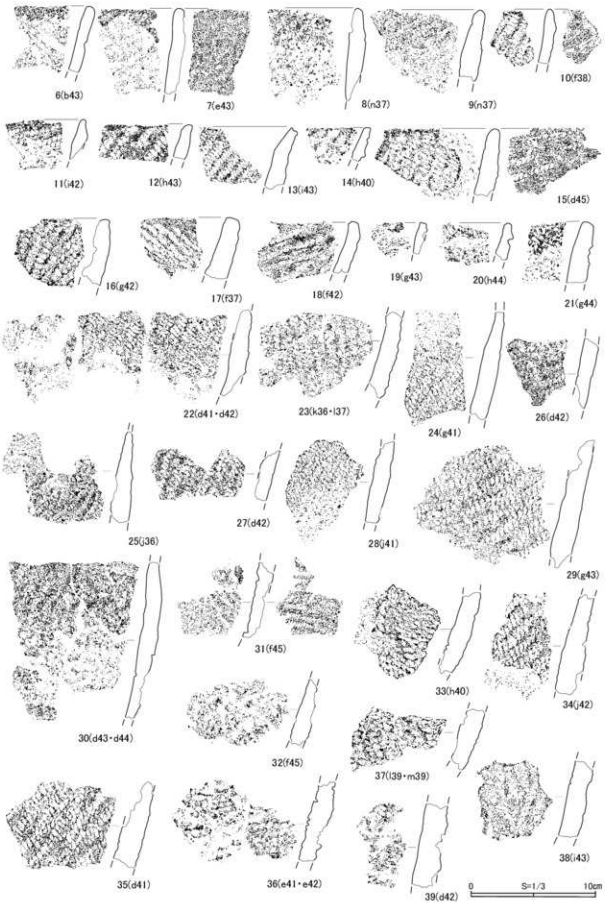
42～50は胴下半部にあたる厚手の土器で、粒の粗い斜行縄文が特徴である。50は複節の斜行縄文である。51～57は胴下半部にあたる薄手の土器で、表面が斜行縄文、内面が平滑なものである。


1(M-1・f43)
2(M-1・h41・h42・i41)
3(g43)
4(M-1・f43)
5(M-1)
6(M-1)
7(M-1)
8(M-1)
9(M-1)
10(M-1)
11(g44・g45)
12(M-1)
13(M-1)
14(M-1)
15(M-1)
16(M-2)
0
S=1/3
10cm

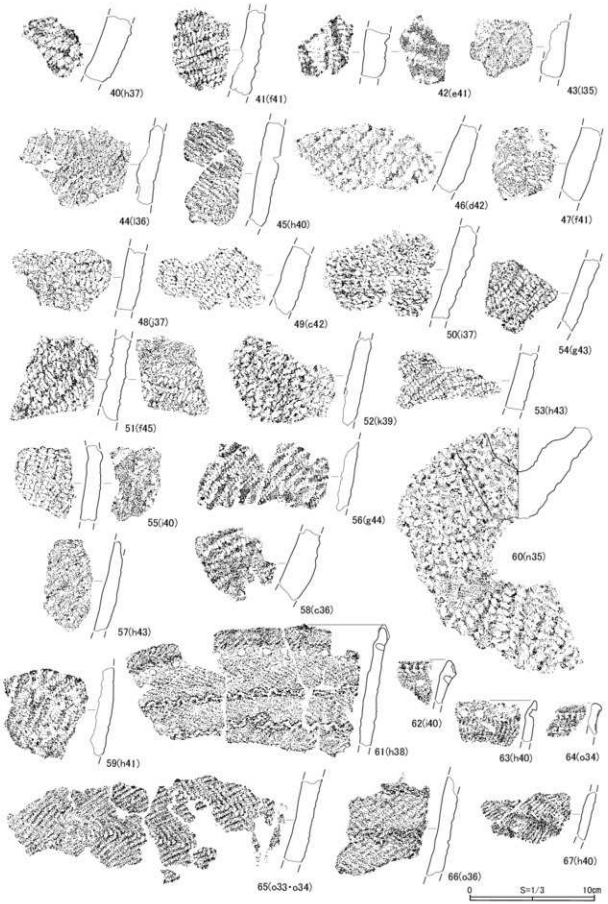
図V-25　土器(1)　遺構(1)



図V-26　土器(2)　遺構(2)　包含層(1)



図V-27　土器(3)　包含層(2)



図V-28　土器(4)　包含層(3)

58～60は底部付近と底部破片である。58は厚手で大型の尖底深鉢のもの、59は薄手で小型の深鉢のものである。60は本調査唯一の底部破片で、厚手の尖底深鉢のものである。

縄文中期後半の土器（Ⅲ群b類）（図Ⅴ-28　図版48）

61～67はⅢb類の土器である。61～64は口縁部片で、61～63は円形刺突文、64は刻み列が施されている。65～67は胴部破片で、65は結束１種、66は２種の羽状縄文、67は斜行縄文に結節が見られる。

（３）石器・礫（図Ⅴ-29～43　図版49～54　表Ⅴ-２）

【遺構出土の石器】（図Ⅴ-29～36　表Ⅴ-２　図版49～61）

図Ⅴ-29 - １～31 - 25はM-１出土のものである。１～６は石鏃である。１～３は抉りの浅い無茎凹基で黒曜石製である。４・５は抉りの深い無茎凹基で、４は両側縁中央の抉入により異形化した黒曜石製、５は脚部が左右非対称な頁岩製である。６は幅広な三角形の抉りの明瞭な無茎凹基で、メノウ質頁岩製である。７は有茎凸基状の石槍で、頁岩製である。８～13はつまみ付きナイフ（石匙）である。８～11はナイフの先端が右を向く形状、12・13は左を向く形状で、全て頁岩製である。14・15はスクレイパーで、頁岩製である。15はエンドスクレイパーである。16～18は石斧である。16は刃部片、17は基部片、18は未成品である。16は再加工の可能性もある。19はたたき石で扁平円礫を素材に、広い平坦面にたたき痕が残る。20はすり石で断面三角形礫を素材にした定形的なものである。21は砂岩製の砥石、22は打ち欠きが２か所の石錘である。23・25は台石石皿で23は部分片、25は完形である。24は加工痕のある礫とした。

図Ⅴ-32-26～33-56はM-２出土の石器である。26～35は石鏃で全て無茎凹基の形状になる。26～29は抉りが浅く、30～35は抉りの深いものである。31～33は脚部が左右非対称である。36は石槍で、基部の形状に特徴がある。37～46は石錐である。37・38は棒状の頁岩製、39～41は逆三角形状で広い部分がつまみ部の黒曜石製、42～44は不定形な剥片を素材にしたもの、45・46は石鏃を転用したものである。47～52はつまみ付きナイフ（石匙）である。47はナイフの先が垂直、48～51は右向き、52は左向きの形状である。53～56はスクレイパーである。53～55はやや横長の剥片、56は縦長の剥片を素材にしたものである。

図Ⅴ-33-57はP-４出土の砥石である。覆土中層から出土した。扁平な砂岩礫を素材にしたものである。58はP-５出土の珪質頁岩製のUフレイクである。ヘラ状を呈し、未成品の可能性がある。59はP-６出土の頁岩製つまみ付きナイフである。覆土中から出土した。

60はP-７出土の黒曜石製Uフレイクである。覆土中から出土した。

61～64はP-10出土の石器である。61は頁岩製のつまみ付きナイフで、62はメノウ質頁岩製のUフレイクで、覆土中から出土した。63は刃部のみの石斧片、64は砥石片である。覆土上面から出土した。

65はP-11出土の石斧（未成品）である。覆土上面から出土した。66はP-13出土の石鏃で凝灰岩製である。覆土中から出土した。

図Ⅴ-34-67・68はC-２（剥片集中）出土の黒曜石製剥片である。5,478点の剥片のうち、黒曜石原産地分析のサンプルとした。いずれも赤井川産との結果を得た。

69～78はC-３（石器集中）出土の石器である。69～72は頁岩製のつまみ付きナイフである。73～75は頁岩製のスクレイパーである。74・75はエンドスクレイパーと思われる。76～78は緑色泥岩製の石斧である。76は小型の撥形で石のみの類、77・78は刃部の幅が広い撥形である。

79はC-４（礫集中）出土のたたき石である。土器１、石器１、礫45点からなる礫集中の内の石器１点である。

図Ⅴ-35-80～82・84　36-83・85は石斧集中のC-６出土である。全て石斧原材に相当し、未加工の

石材と加工が一部にしか見られないものも含まれる。80・81は大型の原材で、扁平礫を素材に剥離と敲打痕が見られる。82・83は中型の原材で、82が扁平礫、83が棒状礫を素材に剥離と敲打痕が見られる。84・85は小型の原材で整形痕が見られない石材そのものである。

【包含層出土の石器】(図Ⅴ-36～43　表Ⅴ-2　図版52～54)

石鏃（図Ⅴ-37-1～19）

石鏃は161点出土した。定形的な石器の中で最も多い。この内、包含層出土は108点である。石材は黒曜石が最も多い123点、頁岩が37点、凝灰岩が1点である。ここでは包含層出土の19点を掲載した。

1～14は無茎凹基の形状で1～3は小型、4～6は中型、7・8はやや大型、9～11は大型のものである。12～14は幅広のものである。3～8・11・13のように脚部が左右非対称のものがある。15～17は有茎、18・19は柳葉形のもので、いずれも黒曜石製である。

石槍（図Ⅴ-37-20～27）

石鏃様の石器で長さ5cm以上のものを石槍とした。

石槍は18点出土した。この内、包含層から14点出土した。石材は黒曜石が10点、頁岩が8点である。

20～24は有茎凸基状のもので、20・21は小型、22～24は大型のものである。21～23は基部につまみ状部分が作出される。25・26は菱形・木葉形のものである。27は大型のもので尖頭部のみの破片で、梨肌状の黒曜石製である。

石錐（図Ⅴ-38-28～33）

石錐は47点出土した。この内、包含層から29点出土した。石材は黒曜石が23点、頁岩が23点、珪質頁岩が1点である。これらの内、6点を掲載した。

28・29は逆三角形状で幅広いつまみ部のあるもの、30～32は不定形な剥片の一端に錐部を作出するもの、33は石鏃から転用したものである。

つまみ付きナイフ（石匙）（図Ⅴ-38-34～46、39-47・48）

つまみ付きナイフ（石匙）は108点出土した。定形的な石器の中で石鏃161点に次ぐ数である。包含層から84点出土した。石材は頁岩が90点、黒曜石が17点、珪質頁岩が1点である。この内、15点を掲載した。

34～36は両面剥離によるもので、特に34は石槍から転用の可能性もある。37～48は片面加工によるもので、37・38はナイフの先が垂直、39～44が右向き、45が左向きである。46～48はナイフが横長で幅広のもの、下部が失われている。

スクレイパー（図Ⅴ-39-49～54）

スクレイパーは36点出土した。この内、包含層出土が24点である。石材は頁岩が27点、黒曜石が8点、珪質頁岩が1点である。6点を掲載した。

49～52は形状がつまみ付きナイフ様のもので下端が細く、または尖るものである。53は下端が弧状になるエンドスクレイパー。54は横長の剥片に下端が尖るように作出されたものである。

石斧（図Ⅴ-39-55～60、40-61～67、41-68・69）

石斧は86点出土した。この内、包含層出土が61点である。石材は緑色泥岩が80点、片岩が6点である。この内、15点を掲載した。

55～59は超小型の石斧、石のみの類である。55・56は撥形、57～59は短冊形である。60・61は撥形の完形、62～65は短冊形の完形である。66～69は部分片で、66・67は刃部、68・69は基部である。67は割れ口に剥離、たたき痕があり、再加工の可能性がある。

たたき石（図Ⅴ-41-70・71）

たたき石は37点出土した。包含層出土が25点である。扁平円礫、楕円礫を素材にするものが多く、石材には安山岩・砂岩・片麻岩がある。２点を掲載した。

70は片麻岩製の扁平長楕円礫、71は安山岩製の扁平楕円礫が素材で、主に側縁に敲打痕が見られる。

すり石（図Ⅴ-41-72、42-73～77）

すり石は14点出土した。この内、包含層出土が12点である。石材には安山岩と砂岩がある。６点を掲載した。

72～75は断面三角形礫を素材としたもので、安山岩製である。72が大型、73・74が中型、75が小型である。73には上部にも敲打痕が見られ、北海道式石冠の可能性もある。76・77は砂岩の扁平楕円礫のごく一部にすり面が見られるものである。

扁平打製石器（図Ⅴ-42-78）

扁平打製石器は１点出土した。砂岩製である。78は扁平楕円礫を素材としたもので、両面の上下に剥離を加え、下端面に細いすり面を作出している。

砥石（図Ⅴ-42-79～81）

砥石は15点出土した。この内、10点が包含層出土である。全て砂岩である。３点を掲載した。

79・80は表裏両面、81は表面のみに使用面が残る。

石錘（図Ⅴ-43-82～93）

石錘は45点出土した。この内、包含層出土は35点である。石材には安山岩・砂岩・片麻岩・泥岩がある。12点を掲載した。

82～93が石錘である。82～91が扁平楕円礫の長軸端２か所に打ち欠きが見られるものである。82～84は小型、85～88が中型、89・90が大型、91が超大型のものである。92・93は欠損があるが、長短軸両端の４か所に打ち欠きをしたものと見られる。93は被熱している。

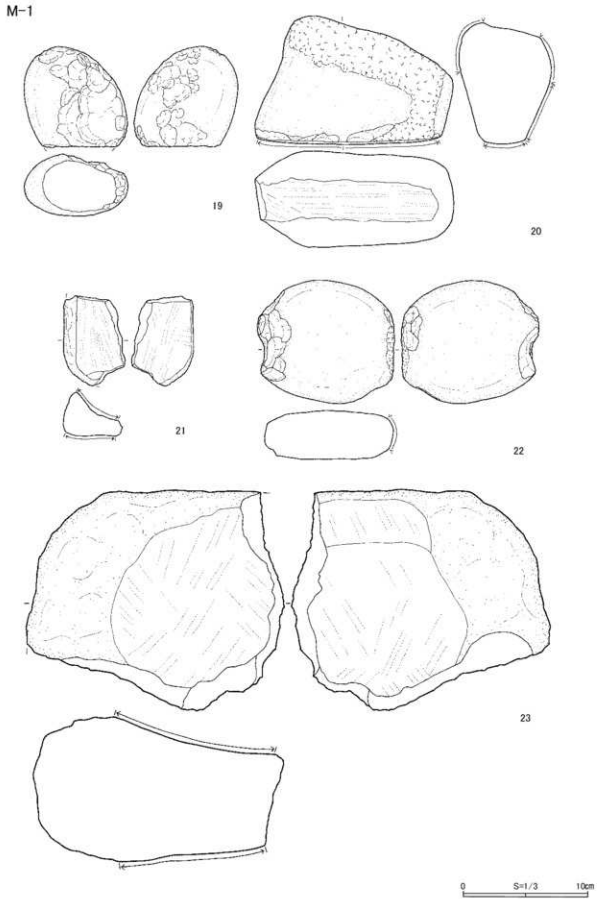
台石石皿（図Ⅴ-36-94・95）

台石石皿は11点出土した。その内包含層から６点出土した。石材は殆ど安山岩で、砂岩が２点である。94、95の２点を掲載した。すり面などの使用が見られる厚さ５cm以上の扁平礫を台石石皿とした。いずれも使用面が１面で94は裏面が素材面、95は平滑な面になっている。

【試掘時出土の遺物】（図Ⅰ-2-1～7　図版54-1～7　表Ⅴ-2）

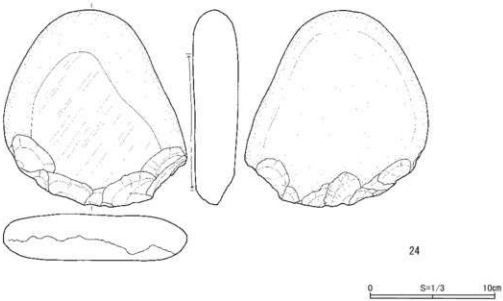
図Ⅰ-2-1は縄文中期後半、Ⅲb類の口縁部突起破片である。平成30年実施の試掘で出土した（K27）口縁部片とA地区調査で出土した突起片（P16）が接合したものである。２もⅢb類の胴部片で斜行縄文（RL）が残る。３はⅡa-2類の胴部片で、表面が一部剥離しているが、斜行縄文（RL）が残る。４は石鏃で上下端を欠失しているが、有茎凸基のもので黒曜石製である。５はつまみ付きナイフで、ナイフ先端を欠失しているが、先が垂直になる類である。黒曜石製で被熱している。６・７は石錘である。６は片麻岩製の部分片で、礫の長軸端の１か所の打ち欠きが残る。７は砂岩製の完形で、長軸端の２か所に打ち欠きが見られる。

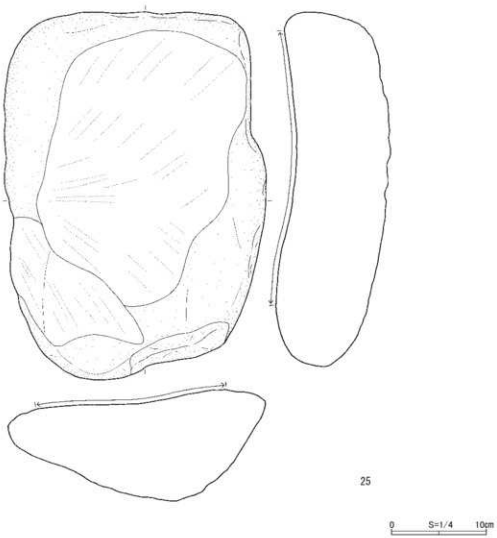
図Ⅴ-29　石器(1)　遺構(1)



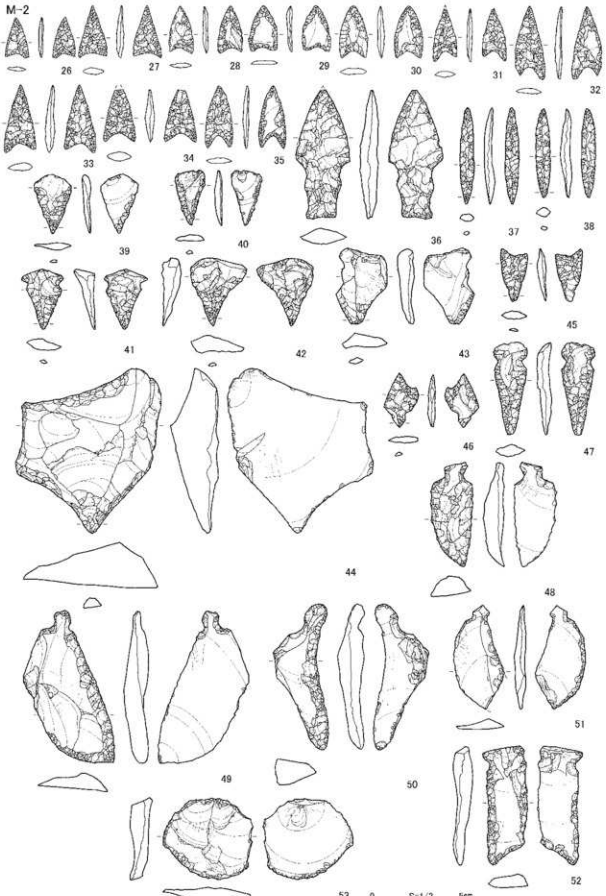
図V-30　石器(2)　遺構(2)

M-1

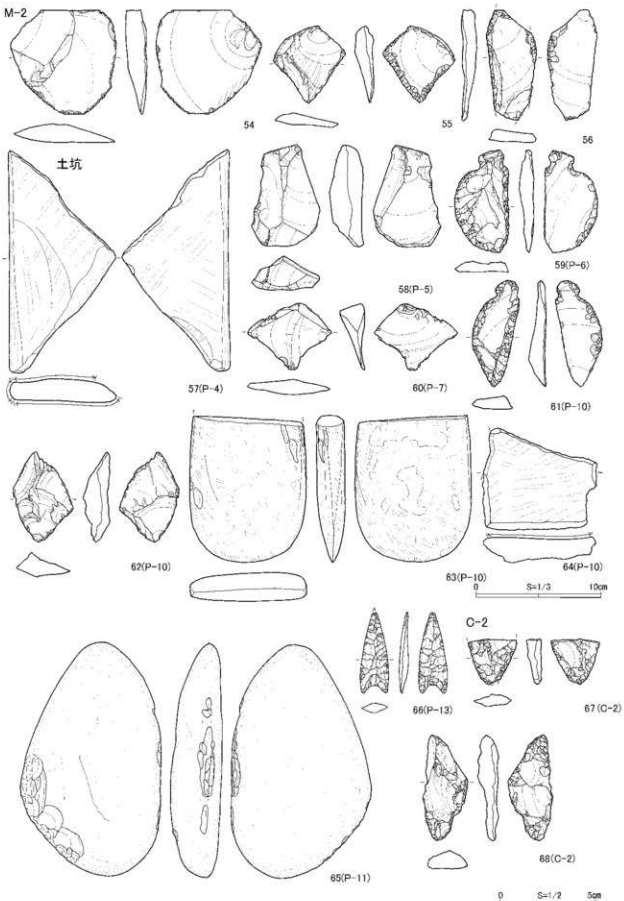




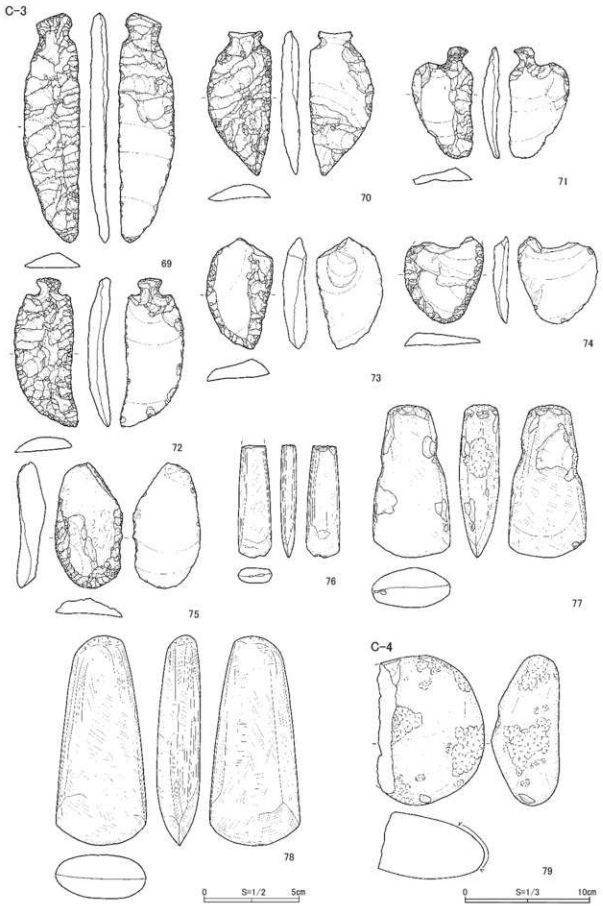
図V-31　石器(3)　遺構(3)


M-2
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
0
S=1/2
5cm

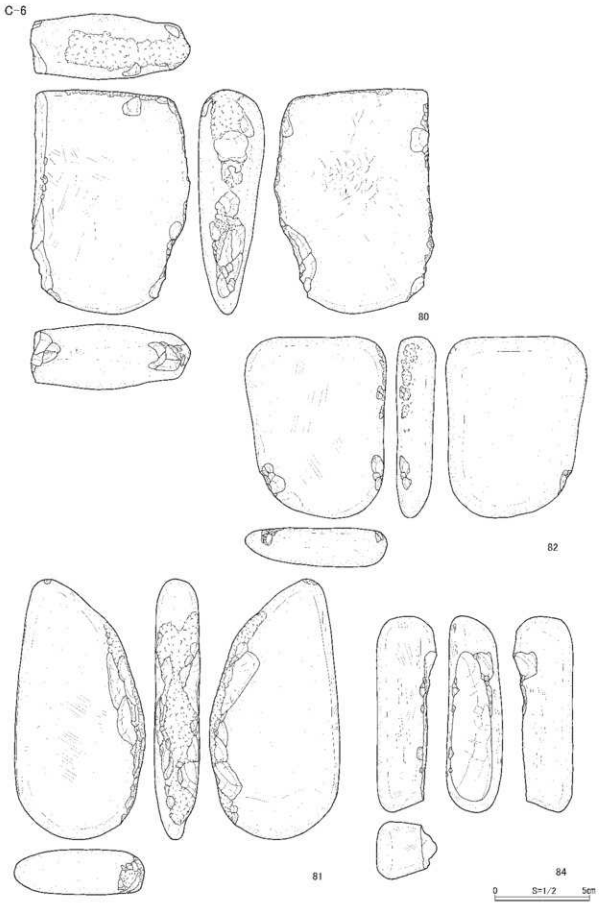
図V-32　石器(4)　遺構(4)


M-2
54
55
56
土坑
57(P-4)
58(P-5)
59(P-6)
60(P-7)
61(P-10)
62(P-10)
63(P-10)
64(P-10)
0 S=1/3 10cm
C-2
66(P-13)
67(C-2)
65(P-11)
68(C-2)
0 S=1/2 5cm

図Ⅴ-33　石器(5)　遺構(5)

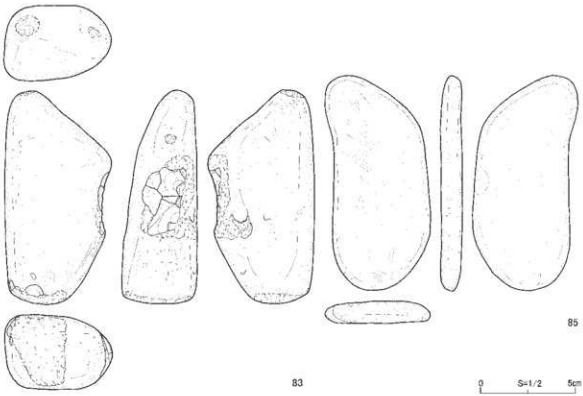


図V-34　石器(6)　遺構(6)

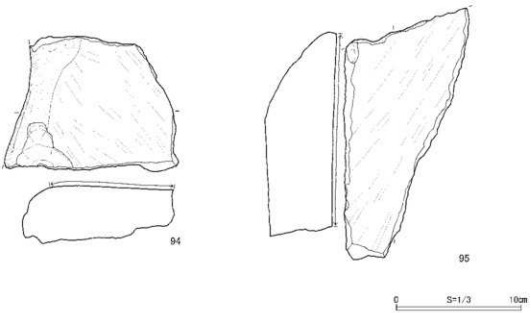


図V-35 石器(7) 遺構(7)

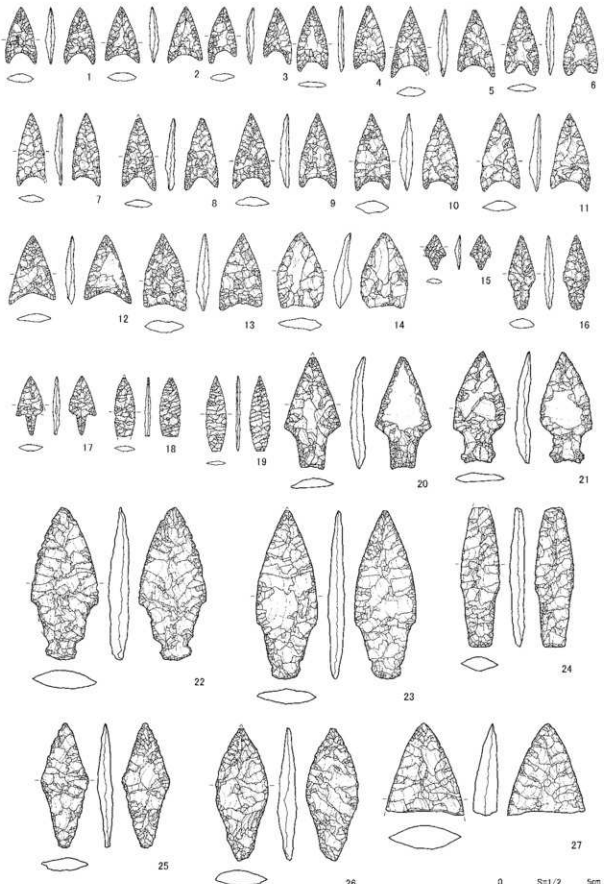
C-6



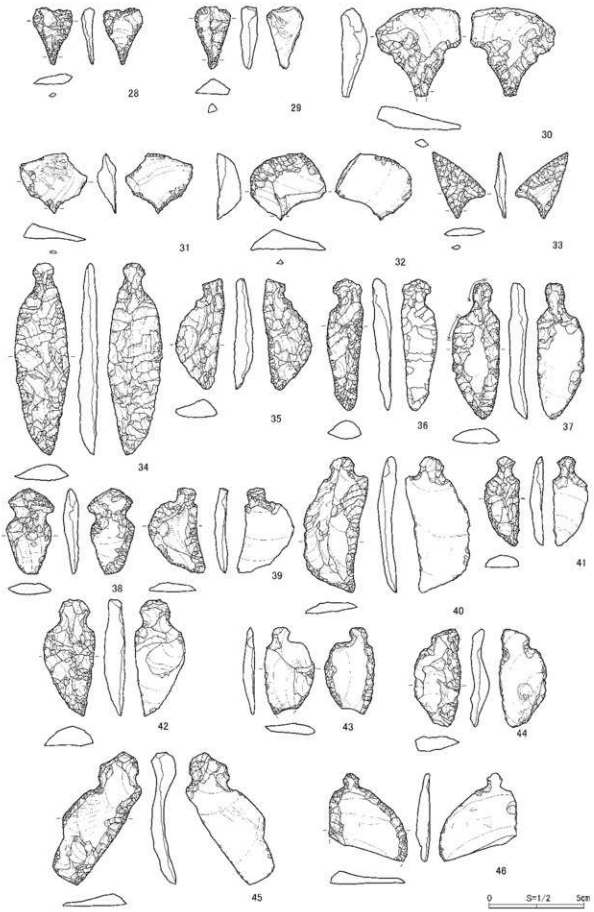
包含層



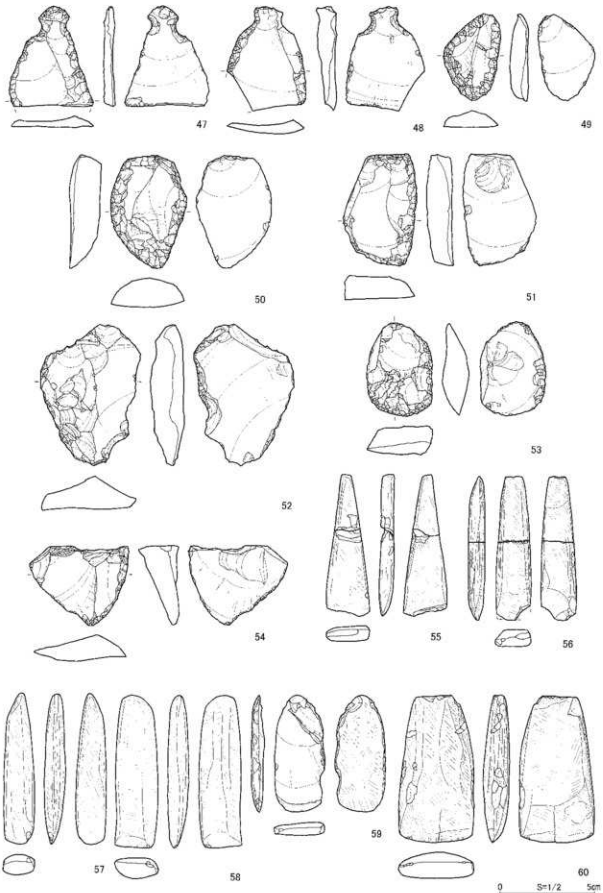
図V-36　石器(8)　遺構(8)　包含層(1)



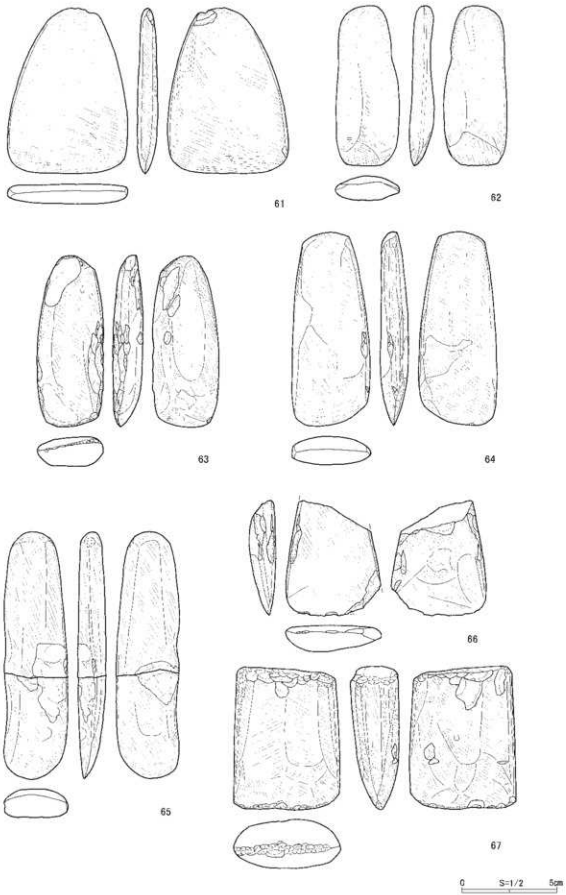
図V-37 石器(9) 包含層(2)



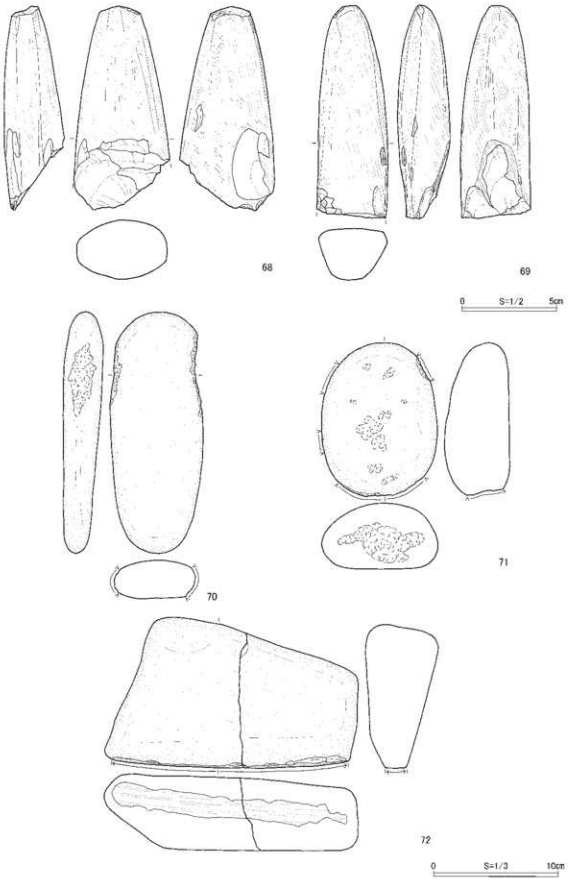
図V-38　石器(10)　包含層(3)



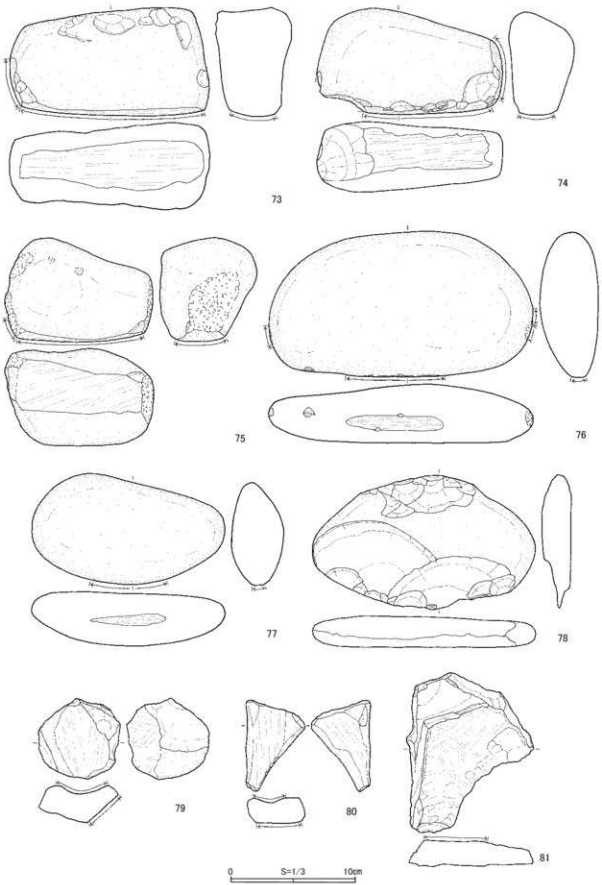
図V-39　石器(11)　包含層(4)



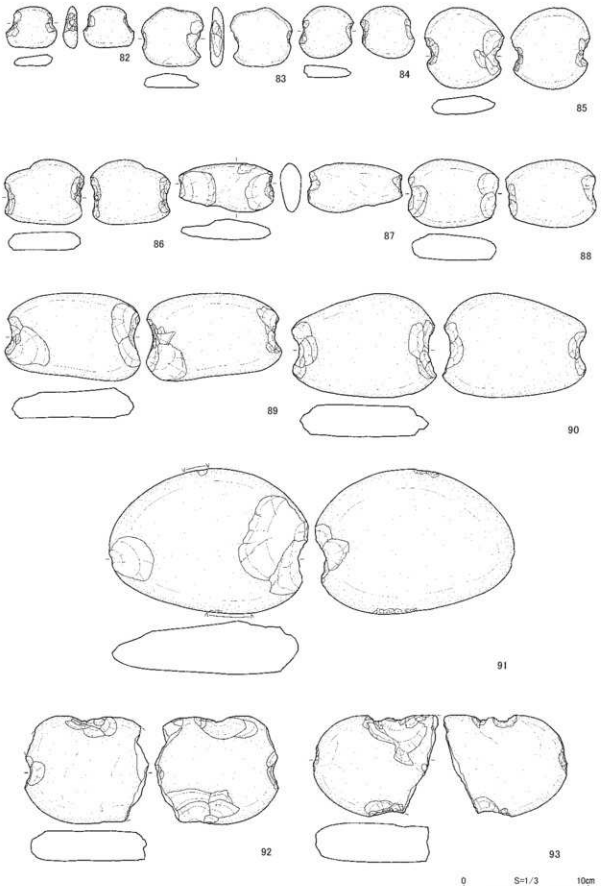
図V-40　石器(12)　包含層(5)



図Ⅴ-41　石器(13)　包含層(6)



図V-42　石器(14)　包含層(7)



図V-43　石器(15)　包含層(8)

遺構出土の土器

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	分類	点数	部位	表面	内面	胎土	色調(Hue)	重量(g)	備考
図V-25-1	46-1	M-1 M-1 M-1 包含層	a42 a42 f42 f43	M M M B 3	Ⅱ-a 2	11 1 1 1	口縁～肩上半部(小型深鉢)・縦やかな小波状口縁・口唇断面丸形	口唇直下1cm幅のみ黒色光沢ある磨面、ちぢれた斜行縄文(LR)(「表層剥離」スペスペ)	縦ナデ調整と指頭圧痕により平滑ツルと上半部黒色化で光沢あり(一部剥落あり)	細小砂5% 繊維微跡	2.5Y5/1 7.5Y2/1	2.5Y5/2 7.5Y2/1	500.0	No.708 No.1008 No.1009
図V-25-2	46-2	M-1 包含層 包含層 包含層 包含層	a41 h42 h43 h41 i41	B 1 B 3 B 2 B 4 B 4	Ⅱ-a 2 Ⅱ-a 2 Ⅱ-a 2 Ⅱ-a 2 Ⅱ-a 2	1 1 17 17 1	口縁～肩上半部(口縁部が直立する深鉢)・口唇断面丸形	口縁部付近3～5cm幅で黒味帯化・光沢あり(地)斜行縄文(LR)(スペスペ)・下半部は「表層剥離」(スペスペ)	上半部は部分剥離と「表層剥離」(スペスペ)・下半部は地文で黒化・やや光沢ある	細小砂2% 繊維微跡	2.5Y5/1 7.5Y2/1	2.5Y4/1 7.5Y2/1	873.3	No.2・A B1 -1
図V-25-3	46-3	M-1 包含層	g43 h43	M B 1	B4 Ⅱ-a 2	1 3	口縁～肩上半部(大型深鉢)・口唇断面丸形	口縁下3cm幅の地)斜行縄文(縦位LR)(スペスペ)・下半部は「表層剥離」(スペスペ)	縦ナデ調整により平滑ツルスペスペ・内面全体が黒化・光沢あり	小砂2%・細繊微跡	5Y5/1 7.5Y2/1	5Y3/1 5Y2/1	135.4	トレンチ B34
図V-25-4	46-4	M-1	f43	M	Ⅱ-a 2	1	口縁(大型深鉢)・平縁・口唇断面丸～角形	(地)斜行縄文(縦の粗いLR)(スペスペ)	縦ナデ調整により平滑ツル)	小砂1%・黒細ムノ隠(体)繊微跡	7.5Y2/1 2.5Y7/3	5Y5/1 10YR6/2	103.7 0.0	B5
図V-25-5	46-5	M-1(A)	g43	M	Ⅱ-a 2	1	口縁(大型深鉢)・平縁・口唇断面角形	(地)斜行縄文(LR)・地文黒文後に全体に磨消縄	縦ナデ調整により平滑ツル	小砂2%・黒細ム繊維微跡	10YR4/1 10YR6/3	2.5Y5/2 10YR6/3	44.6	No.96 B2
図V-25-6	46-6	M-1(C)	f45	M	Ⅱ-a 2	1	口縁(大型深鉢)・緩やかな波状・口唇断面丸形	(地)斜行縄文(LR)・地文後に磨消縄	縦ナデ調整により平滑ツル	小砂10%・繊維微跡	10YR7/3 2.5Y2/1	10YR7/2 10YR7/2	32.0	No.1・D第 B4
図V-25-7	46-7	M-1	f43	M	Ⅱ-a 2	1	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面丸形	(地)斜行縄文(LR)・黒色で光沢あり・スペスペ	縦ナデ調整により平滑(スペスペ)	粗いい中礫粒1%	N3/0 10YR4/1	10YR6/2 10YR5/2	7.3	B66
図V-25-8	46-8	M-1(A)	h43	M	Ⅱ-a 2	5	胴(大型深鉢)	(地)粗の細い斜行縄文(LR)・一部「表層剥離」がスペスペ・全体に黒色で光沢あり	縦ナデ調整により平滑・ゆるか	小砂2%	7.5Y2/1 7.5Y4/1	2.5Y4/1 2.5Y2/1	109.9	No.145 B3
図V-25-9	46-9	M-1	i42	M	Ⅱ B3	2	胴(深鉢)	「表層剥離」(スペスペ)・斜行縄文(縦位LR)・黒化	(地)粗の細い斜行縄文(LR)・スペスペ	細小砂10%・繊維微跡	N4/0 5Y3/1	N3/0 5Y4/1	36.6	B6
図V-25-10	46-10	M-1(A) M-1(A)	g42 g42	M M	Ⅱ-a 2 Ⅱ-a 2	2 2	胴(大型深鉢)	「表層剥離」(スペスペ)・黒色化	「表層剥離」(スペスペ)・黒色化	小砂2%・細繊微跡	N4/0 N1.5/0	7.5Y2/1 2.5Y2/1	173.2	No.138 No.138 B63
図V-25-11	46-11	包含層 包含層	g44 g45	B 3 B 2	Ⅱ-a 2 Ⅱ-a 2	1 1	胴(大型深鉢)	「表層剥離」(スペスペ)・黒色化・光沢あり	「表層剥離」(スペスペ)・一部炭化物付着	細繊微跡・細小砂10%	2.5Y5/1 N1.5/0	10YR5/1 5Y2/1	72.0	B72
図V-25-12	46-12	M-1(A)	f43	M	Ⅱ-a 2	1	胴(深鉢)	(地)斜行縄文(縦位の乱)・スペスペ・黒色化	縦ナデ調整により平滑ツルスペスペ	小砂5%・粗い	2.5Y4/1 2.5Y2/1	10YR4/1 10YR5/1	29.7	No.145 B64
図V-25-13	46-13	M-1	i42	M	Ⅱ B4	2	胴(深鉢)	(地)粗の細い斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により平滑(ツル)	中礫(滑石?)1%・小砂2%・繊維微跡	2.5Y4/1 2.5Y2/1	2.5Y6/2 2.5Y4/1	30.6	B67
図V-25-14	46-14	M-1	h43	M	Ⅱ-a 2	1	胴(深鉢)	(地)斜行縄文(不明瞭)・施文後に磨消	縦ナデ調整により平滑ツル)	小砂10%	5YR6/6 10YR6/4	10YR5/2 10YR3/2	47.0	B65
図V-25-15	46-15	M-1(A)	g43	M	Ⅱ-a 2	1	胴(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・部分剥離	縦ナデ調整により平滑ツル	中礫1%・細小砂2%・黒細繊微跡	5YR6/6 10YR4/1	2.5Y7/2 2.5Y7/1	34.6	No.62 No.94 B62
図V-25-16	46-16	M-1(A) M-2 M-2 M-2	g43 d36 d36 d36	M B 3 B 5 B 6	Ⅱ-a 2 Ⅱ-a 2 Ⅱ-a 2 Ⅱ-a 2	1 20 5 6	口縁～肩下半部(大型深鉢)平縁・口唇断面丸形	(地)斜行縄文(LR)・上半は地文・下半は「表層剥離」(スペスペ)	上半は「表層剥離」(スペスペ)・上半は縦ナデ調整により平滑ツル・スペスペ	細繊微跡・大礫2%・滑石?小礫1%～小砂	2.5Y5/1 2.5Y2/1	2.5Y5/1 2.5Y3/1	415.9	1 No.132 B -1
図V-25-17	46-17	M-2 M-2 M-2 M-2 M-2	d36 d36 d36 d36 d36	B 5 B 5 B 5 B 5 B 5	Ⅱ-a 2 Ⅱ-a 2 Ⅱ-a 2 Ⅱ-a 2 Ⅱ-a 2	7 1 1 1 1	口縁～肩上半部(大型深鉢)平縁・口唇断面丸形	(地)斜行縄文(RL)	主に縦ナデ調整により平滑(ツル)	細繊微跡・細小砂2% 10YR8/3 2.5YR6/2	2.5Y6/2 2.5Y8/6 2.5Y8/4	873.3	No.168 No.17 No.46 No.53 No.103
図V-25-18	46-18	M-2	d36	B 3～4	Ⅱ-a 2	3	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面尖形	(地)斜行縄文(LR)・スペスペ・黒色で光沢あり	「表層剥離」(スペスペ)	小砂2%	2.5Y4/1 2.5Y2/1	2.5Y7/1 2.5Y6/1	13.7	B No.2 17 -2
図V-25-19	46-19	P-09	覆土上面		Ⅱ-a 2	2	胴(深鉢)	「表層剥離」(スペスペ)・斜行縄文(LR)	「表層剥離」(スペスペ)・一部炭化物付着	小砂2%・粗い	7.5YR2/1 7.5YR6/1	2.5Y7/2 10YR5/1	30.7	No.3・第B B7
図V-25-20	46-20	P-09	覆土上面		Ⅱ-a 2	2	胴(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・施文後に磨消・スペスペ	「表層剥離」(スペスペ)	小砂1%・粗い	N2/0 N4/0	10YR6/1 2.5Y7/2	16.2	No.3・第B B8
図V-25-21	46-21	P-09	覆土上面		Ⅱ-a 2	2	胴(深鉢)	「表層剥離」(スペスペ)	縦ナデ調整により平滑(スペスペ)	中礫1%・粗い	10YR4/1 10YR5/1	2.5Y3/1 2.5Y5/1	7.2	No.3・第B B9
図V-25-22	46-22	TP-01	覆土		Ⅱ-a 2	1	胴(深鉢)	(地)斜行縄文(縦位LR)	縦ナデ調整により平滑スペスペ・炭化物付着	細繊微跡・粗い	2.5Y5/1 2.5Y4/1	5Y2/1 2.5Y2/1	6.3	B10
図V-25-23	46-23	F-1 F-1	o36 o36	B 1 B 1	Ⅱ-a 2 Ⅱ-a 2	1 1	胴(深鉢)	(地)斜行縄文(縦位LR)	刷毛	細小砂3%	10YR5/1 5Y3/2	7.5YR7/6 5Y3/2	16.2	B11 No.4
図V-25-24	46-24	C-5	h37	B 2～3	Ⅱ-a 2	3	胴下半部(深鉢)	「表層剥離」	縦ナデ調整により平滑(ツル)	大礫1%,片麻岩?・粗細微	10YR7/4 10YR6/4	2.5Y7/3 10YR6/4	55.6	No.3 B12
図V-25-25	46-25	C-5	h37	B 2～3	Ⅱ-a 2	2	口縁(深鉢)・緩やかな波状、口唇断面角形(左が本)	(地)斜行縄文(LR)・一部縦ナデ調整凸凹面	大礫1%,片麻岩?・細繊微跡	2.5YR4/1 2.5YR7/3	2.5YR7/3 2.5Y7/4	86.8	No.13 B39 No.14
図V-25-26	46-26	C-5	h38	B 2～3	Ⅱ-a 2	1	口縁(深鉢)・平縁・口唇断面角形(左が本)	(地)粗の細い斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により中平滑・頂凸のこる	大～中礫(片麻岩)小・繊細微少し	2.5YR6/3 2.5Y4/1	2.5YR5/1 2.5Y6/3	22.2	No.13 B77
図V-25-27	46-27	C-5	h38	B 2～3	Ⅱ-a 2	3	口縁(深鉢・平縁・口唇断面丸形	(地)粗の細い斜行縄文(LR)・施文後に縦位の磨消ザラ)	縦ナデ調整により平滑(やや凸	小砂2%・繊細微	2.5YR7/3 N4/0	10YR7/3 10YR5/2	49.0	No.9 B43
図V-25-28	46-28	C-5 C-5 C-5 C-5	h37 h37 h38 h38	B 2 B 2 B 3 B 3	Ⅱ-a 2 Ⅱ-a 2 Ⅱ-a 2 Ⅱ-a 2	3 2 2 1	胴(大型深鉢)	(地)粗の細い斜行縄文(LR)・表面のほとんどが剥離	縦ナデ調整により平滑(ツル)	粗小～小砂・横ぶい・繊微跡	7.5YR7/6 10YR6/3	2.5YR7/3 5Y2/1	169.1	No.1 No.6 B40
図V-25-29	46-29	C-5	h37	B 2～3	Ⅱ-a 2	1	胴(深鉢下半)	(地)粗の細い斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により平滑(ツル	大粗細(片麻岩)10%・繊微跡	2.5Y6/3 2.5Y2/1	10YR7/4 10YR5/1	68.7	No.4 B74
図V-25-30	46-30	C-5	h37	B 2～3	Ⅱ-a 2	3	胴(深鉢上半)	(地)粗の細い斜行縄文(LR)・施文後磨消縄	全面刷毛	中粗細砂・繊細微跡	2.5YR6/6 5YR6/6	2.5Y4/2 5Y2/1	49.6	No.9 B75

※(地)：地文　　※(ツル)：平滑面にざらつきがない。(ザラ)：平滑面にざらつきがある

表V-1　掲載土器一覧(B地区)

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	分類	点数	部位	表面	内面	胎土	色調(Hue)	重量(g)	備考
図V－47－26-30	31	C-5	h38	第Ⅲ層下半	2～3	Ⅱa+2	1	(地)粗の細い斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により平滑(ツルツル一部凹凸)	大石細(片岩25%・黒結晶多い)	5YR6/6 10YR6/4	74.4	No.6 B42
図V－47－26-32	32	C-5	h38	第Ⅲ層	2～3	Ⅱa+2	1	底部付近(尖底深鉢下部)	(地)粗の細い斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により平滑(ツルツル)	大～中程細(片岩多20%) 10YR7/6	40.1	B78
図V－47－26-33	33	C-5	h38	第Ⅲ層	2～3	Ⅱa+2	2	底部付近(尖底深鉢下部)	(地)粗の細い斜行縄文(LR)・胎文(大粒二種)・大小の結晶が目立つ	一部縦ナデ調整により平滑・ほとんどが剥離	中粗細2%(結晶多い) 10YR7/4 10YR7/6	30.0	No.7 B76 No.11 B76
図V－47－26-34	34	C-5	h37	第Ⅲ層	2～3	Ⅱa+2	1	底部付近(深鉢)	(地)粗の細い斜行縄文(LR)	縦ナデ調整により平滑(ツルツル一部剥離	大～小粗細(片岩 10YR7/4 10YR7/6	102.8	2.5YR7/2 2.5YR7/4 B38

包含層出土の土器

図V－26－1	47－1	b43	第Ⅲ層	2	Ⅱa+2	2	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面丸形	(地)粗の細い斜行縄文(LR)・口縁幅3cmで地文が残る・スベスベ・地文下は「表面剥離」	口縁幅3cmは「表面剥離」その下は横ナデ平滑	小粗細1%・軽い	2.5YR/4 7.5YZ/2	10YR7/1 10YR2/1	106.3 B13
		b43	第Ⅲ層	3	Ⅱa+2	2							
図V－26－2	47－2	d42	第Ⅲ層	3	Ⅱa+2	15	□縦一部上が断面丸形・□帯・□帯断面丸～角形・□縦は大きく外反する	(地)斜行縄文(LR)・口縁下2cm幅で残る。その下無熱状剥落	平滑・やや「表面剥離」・全体的に統熱	極小～小粗3%・軽い	2.5Y7/3 5Y2/1	5Y2/1 N1.5/0	No.1 108.2 No.2 B21 No.3
		d42	第Ⅲ層	3	Ⅱa+2	2							
		d42	第Ⅲ層	3	Ⅱa+2	2							
図V－26－3	47－3	g44	第Ⅲ層	7	Ⅱa+2	2	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面丸形	(地)斜行縄文(LR)・炭化物の付着あり・スベスベ	「表面剥離」・スベスベ	極小粗細5%・やや軽い	2.5YR2/1 5YR2/1	10YR4/1 10YR3/1	24.1 B35
図V－26－4	47－4	g44	第Ⅲ層	7	Ⅱa+2	3	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面丸形	(地)粗の細い斜行縄文(LR)・「表面剥離」剥離・スベスベ・炭化物付着あり	「表面剥離」・平滑・スベスベ	細粗状態多・極小粗3%・軽い	2.5YR6/1 10YZ/1	2.5YR3/2 2.5YR2/1	28.6 B36
図V－26－5	47－5	g42	第Ⅲ層	4	Ⅱa+2	1	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面丸形	(地)斜行縄文・LR)・スベスベ	縦ナデ調整により平滑・口縁付近タール状付着あり・スベスベ	極小～小粗3%・軽3%	2.5YZ/2 N1.5/0	2.5Y6/2 2.5Y2/1	10.4 トレンチB69
図V－27－6	47－6	b43	第Ⅲ層	2	Ⅱa+2	2	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面やや角形	「表面剥離」・スベスベ	縦ナデ調整により平滑・口縁付近にタール状付着・ややスベスベ	粗い～極小粗3%・軽2%	5YR6/4 5YR6/6	2.5Y3/1 2.5Y2/1	17.4 B14
図V－27－7	47－7	e43	第Ⅲ層	4	Ⅱa+2	2	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面丸形	「表面剥離」	斜方向ナデ調整により平滑・部分的に斜行縄文(LR)・口縁付近炭化物付着	極小粗細2%・軽2%	2.5Y5/1 2.5Y4/1	10YR2/1 2.5Y2/1	34.8 B96
図V－27－8	47－8	n37	第Ⅲ層	2	Ⅱa+2	1	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面細丸形	「表面剥離」剥離・スベスベ	口縁付近「表面剥離」剥離・口縁下部:地:斜行縄文(LR)・炭化物付着あり・スベスベ	極小粗細1%・軽2%	2.5Y6/2 2.5Y2/1	2.5Y2/1	32.6 B58
図V－27－9	47－9	n37	第Ⅲ層	2	Ⅱa+2	1	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面丸形	口縁付近「表面剥離」剥離・口縁下部:地:斜行縄文(LR)・炭化物付着あり・スベスベ	口縁付近「表面剥離」・口縁下部斜方向のナデ調整により平滑・ややスベスベ	極小～小粗3%・軽2%	10YR6/1 2.5Y2/1	10YR6/1 10YR4/1	35.7 B59
図V－27－10	47－10	f38	第Ⅲ層	2	Ⅱa+2	1	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面丸形	(地)斜行縄文(LR)	横ナデ調整により平滑	極小粗細1%・軽2%	10YR6/1 10YR4/1	10YR4/1 2.5Y3/1	13.8 B99
図V－27－11	47－11	i42	第Ⅲ層	2	Ⅱa+2	1	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面丸形	「表面剥離」・斜行縄文・炭?	斜方向ナデ調整により平滑	粗細疎鉄(L)・極小粗2%・軽2%	10YR6/4 2.5Y4/1	2.5Y7/4 2.5Y4/1	13.2 B87
図V－27－12	47－12	h43	第Ⅲ層	2	Ⅱa+2	1	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面丸形	(地)粗の細い斜行縄文(LR)	粗の細い斜行縄文(LR)	極小粗細5%・軽2%	2.5Y3/2 2.5Y2/1	2.5Y3/3 10YR7/6	23.0 B84
図V－27－13	47－13	i43	第Ⅲ層	1	Ⅱa+2	1	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面丸形・やや外反する	(地)斜行縄文(LR)・口巻に縄文	横ナデ調整により平滑	小粗細1%	2.5Y7/4 2.5Y2/1	10YR7/4 7.5YR7/6	26.0 B97
図V－27－14	47－14	h40	第Ⅲ層	1	Ⅱa+2	1	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面丸形	粗の大きな斜行縄文(LR)	横ナデ調整によりやや平滑	小粗細1%	10YR6/3 2.5Y2/1	10YR7/4 10YR6/4	10.1 口縁 B44
図V－27－15	47－15	d45	第Ⅲ層	2	Ⅱa+2	1	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面丸形・厚	(地)粗の大きな斜行縄文(LR)	粗の大きな斜行縄文LR)・一部・横ナデ調整により平滑	極小粗細1%・軽2%	10YR6/3 10YR6/2	5YR6/3 5YR6/6	57.9 B24
図V－27－16	47－16	g42	第Ⅲ層	4	Ⅱa+2	1	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面丸形	(地)斜行縄文(LR)	剥離により凸凹	細粗疎鉄(L)・極小粗2%・軽2%	10YR7/4 10YR4/1	10YR5/2 10YR4/1	35.6 トレンチB70
図V－27－17	47－17	f37	第Ⅲ層	4	Ⅱa+2	1	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面丸形・厚	(地)斜行縄文(RL?)	横ナデ調整により平滑	小粗細1%	2.5Y6/2 2.5Y2/1	2.5Y7/3 2.5Y4/1	39.7 B26
図V－27－18	47－18	f42	第Ⅲ層	2	Ⅱa+2	1	□縦:深鉢)・平縁(緩やかな波状)・口帯断面やや角形	(地)斜行縄文(LR)・胎文後ナデ	横ナデ調整により平滑	極小粗細5%	10YR6/3 2.5Y2/1	2.5Y7/2 5Y2/1	39.0 トレンチB29
図V－27－19	47－19	g43	第Ⅲ層	3	Ⅱa+2	1	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面丸形・薄手	全体剥離	横ナデ調整により平滑	粗細疎鉄(L)・胴鉄	2.5Y6/1 2.5Y4/1	2.5Y2/1	5.2 B33
図V－27－20	47－20	h44	第Ⅲ層	5	Ⅱa+2	3	□縦:深鉢)・平縁・小突起?・□帯断面切り出し状	斜行縄文・全体剥離	横ナデ調整により平滑	粗細疎鉄(L)・胴鉄・極小粗細5%	10YR7/2 7.5YR2/1	10YR7/4 10YR4/1	11.9 B85
図V－27－21	47－21	g44	第Ⅲ層	5	Ⅱa+2	1	□縦:深鉢)・平縁・□帯断面丸形	斜行縄文・口縁下部剥離	斜方向のナデ調整により平滑	粗細疎鉄(L)・胴鉄・小粗2%	10YR6/3 2.5Y4/1	2.5Y6/2 2.5Y4/1	22.1 トレンチB96
図V－27－22	47－22	d41	第Ⅲ層	4	Ⅱa+2	2	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・「表面剥離」ややスベスベ・剥離	主に横ナデ調整により平滑・炭付着	極小～小粗3%・軽1%	N4/0 N1.5/0	5Y4/1 5Y2/1	118.3 B20
		d42	第Ⅲ層	2	Ⅱa+2	2							No.5
		d42	第Ⅲ層	3	Ⅱa+2	2							
図V－27－23	47－23	k36	第Ⅲ層	2	Ⅱa+2	1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・表面スベスベ	横ナデ調整により平滑・「表面剥離」・スベスベ	小粗細10%	10YR7/4 2Y4/1	10YR6/3 10YR4/1	95.6 B53
		l37	第Ⅲ層	2	Ⅱa+2	1							
図V－27－24	47－24	g41	第Ⅲ層	2	Ⅱa+2	1	胴部(深鉢)	上部「表面剥離」・下部:地:斜行縄文(LR)・スベスベ	横ナデ調整により平滑・上部皮付着	粗い～極小～小粗2%	10YR4/1 5Y2/1	10YR4/1 2.5Y2/1	46.1 B66
図V－27－25	47－25	j36	第Ⅲ層	3	Ⅱa+2	2	胴部(深鉢)	上部「表面剥離」・下部:地:斜行縄文(LR)・ややスベスベ	平滑面と「表面剥離」剥離の混在	中粗細1%・小粗2%	7.5YR6/1 N1.5/0	7.5YR7/1 7.5YR6/1	49.9 B51
図V－27－26	47－26	d42	第Ⅲ層	3	Ⅱa+2	1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・炭化物付着	横ナデ調整	極小粗細・中粗細1%	7.5YR6/1 N1.5/0	10YR5/1 10YR2/1	22.7 B92
図V－27－27	47－27	d42	第Ⅲ層	4	Ⅱa+2	1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・炭化物付着・ややスベスベ	平滑面と「表面剥離」	極小粗10%	N1.5/0 10YR4/1	29.6	No.8 B91
図V－27－28	47－28	j41	第Ⅲ下層	2	Ⅱa+2	1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)・炭化物付着・スベスベ	「表面剥離」	極小～中粗細2%・軽2%	10YR6/1 2Y2/1	10YR7/1 10YR4/1	45.2 B89

※(地):地文　　※(ツル):平滑面にざらつきがない、(ザラ):平滑面にざらつきがある

表V-1 掲載土器一覧(B地区)

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	分類	点数	部位	表面	内面	胎土	色調(Hue)	重量(g)	備考
図V-27-29	48-29		g43	Ⅱ B	3	Ⅱa-2	2	胴下半部(大型深鉢)	(地)粗の細い斜行縄文(LR)-光沢ありスベスベ	植子質量により平滑・ややスベスベ-大きな剥離あり	褐小粒雲1%	2.5Y4/1 N1.5/0	2.5Y5/1 2.5Y2/1	118.8	トレンチB95
図V-27-30	48-30		d43	Ⅱ B	3	Ⅱa-2	1	胴下半部(大型深鉢)	「表層剥離」;炭化物付着-剥離	植子質量により平滑-下部に炭化物付着-ややスベスベ	小粒雲3%	5Y4/1 5Y2/1	2.5Y5/1 2.5Y4/1	122.6	B93
図V-27-31	48-31		d44	Ⅱ B	3	Ⅱa-2	1								
図V-27-32	48-32		f45	Ⅱ B	2	Ⅱa-2	3	胴部(深鉢)	「表層剥離」	斜行縄文(LR)-スベスベ	中粒雲1%	5Y2/1	5Y2/1	20.2	トレンチB31
図V-27-33	48-33		f45	Ⅱ B	1	Ⅱa-2	4	胴部(深鉢)	「表層剥離」;スベスベ	針方向ナデ調整により平滑-炭化物付着	小粒雲1%-褐粗雲跡多	10YR6/1 N3/0	2.5Y5/1 N1.5/0	45.4	トレンチB30
図V-27-34	48-34		h40	Ⅱ B	3	Ⅱa-2	1	胴部(深鉢)	(地)粗の細い斜行縄文(LR)-一部剥離	植子質量により平滑	黒結晶跡(L)-小粒雲	10YR6/2 10YR4/1	2.5Y6/2 10YR4/1	66.4	B81
図V-27-35	48-35		j42	Ⅱ B	3	Ⅱa-2	1	胴部(深鉢)	斜行縄文(LR)-一部剥離	植子質量により平滑	黒結晶跡(L)明雲	10YR6/3 5Y2/1	2.5Y6/3 7.5Y4/1	72.3	B52
図V-27-36	48-36		d41	Ⅱ B	5	Ⅱa-2	1	胴部(深鉢)-厚手	(地)斜行縄文(LR)	植子質量により平滑-剥離	黒結晶跡(L)明雲	10YR6/3 2.5Y2/2	2.5Y5/2 2.5Y4/2	80.2	B19
図V-27-37	48-37		e41	Ⅱ B	4	Ⅱa-2	1	胴部(深鉢)-厚手	(地)斜行縄文(LR)-施文後一部ナデ消し	植子質量により平滑	黒結晶跡(L)明雲-褐小	10YR6/3 10R6/8	10YR6/2 10YR4/1	94.7	B25
図V-27-38	48-38		e42	Ⅱ B	5	Ⅱa-2	1							トレンチ	
			i39	Ⅱ B	2	Ⅱa-2	1	胴部(深鉢)	(地)粗の細い斜行縄文(RL)	植子質量により平滑	黒結晶跡(L)明雲	10YR7/4 10YR4/1	10YR6/4 10YR7/4	43.0	B56
			n39	Ⅱ B	2	Ⅱa-2	1								
図V-27-39	48-39		i42	Ⅱ B	3	Ⅱa-2	1	胴部(深鉢)	(地)粗の細い斜行縄文(RL)	植子質量により平滑	黒結晶跡(L)あり-褐極小粒5%小粒1%	2.5Y6/6 2.5Y2/1	10YR5/2 7.5Y2/1	61.0	トレンチB50
図V-27-40	48-40		e42	Ⅱ B	3	Ⅱa-2	1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)-剥離	植子質量により平滑-炭化物一部付着	黒結晶跡(L)あり-小粒雲10%	10YR7/4 2.5YR7/6	2.5Y4/2 2.5Y2/1	43.0	B23
			d42	Ⅱ B	4	Ⅱa-2	1								
図V-28-41	48-41		h37	Ⅱ B	2	Ⅱa-2	1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)	植子質量により平滑	結晶跡多明雲-褐小-小粒雲10%	10YR7/4 2.5YR6/6	2.5Y4/1 5Y4/1	75.0	B 37 -1
図V-28-42	48-42		f41	Ⅱ B	3	Ⅱa-2	1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)	植子質量により平滑-部分剥離	結晶跡多明雲	10YR6/4 7.5YR6/4	2.5Y6/3 2.5Y2/1	46.6	B27
図V-28-43	48-43		e41	Ⅱ B	3	Ⅱa-2	1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)-部分剥離	植子質量により平滑-一部ナデ消し	褐小-小粒雲2%	10YR7/2 7.5YR7/4	10YR6/3 2.5YR6/4	46.5	B94
図V-28-44	48-44		d35	Ⅱ B	1	Ⅱa-2	1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)-施文後「表層剥離」;一部ナデ消し	植子質量により平滑	褐小-小粒雲30%	7.5YR6/6 2.5Y2/1	10YR7/3 10YR7/4	37.5	B90
図V-28-45	48-45		i36	Ⅱ B	3	Ⅱa-2	4	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(RL)-一部ナデ消し	植子質量により平滑	結晶跡多明雲-褐小-小粒雲	10YR6/4 10YR7/3	10YR6/4 10YR5/4	72.7	B55
図V-28-46	48-46		h40	Ⅱ B	3	Ⅱa-2	2	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(RL)-一部ナデ消し-炭化物付着	針方向ナデ調整により平滑	小粒雲10%	2.5Y4/1 10YR2/1	10YR5/2 10YR4/1	63.3	B79
図V-28-47	48-47		d42	Ⅱ B	1	Ⅱa-2	2	胴下半部(大型深鉢)-厚手	(地)粗の細い斜行縄文(LR)-剥離	植子質量により平滑(ザラ)	褐小粒雲1%	7.5YR7/4 10YR5/2	2.5Y6/2 2.5Y5/2	127.6	B22
図V-28-48	48-48		f41	Ⅱ B	4	Ⅱa-2	1	胴部(尖底深鉢)-厚手	斜行縄文(LR)8段-一部ナデ消し	植子質量により平滑(ザラ)	褐小粒雲10%	10YR7/4 10YR7/6	10YR6/3 2.5Y3/1	72.9	B28
図V-28-49	48-49		j37	Ⅱ B	2	Ⅱa-2	1	胴部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)-ナデ消し	植子質量により平滑(ツル)-炭化物付着	褐小粒雲1%	7.5YR6/4 5YR7/6	5Y2/1 5Y2/1	55.0	B88
図V-28-50	48-50		c42	Ⅱ B	1	Ⅱa-2	1	胴下部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)	針方向のナデ調整により平滑(ツル)		7.5YR6/6 10YR5/3	2.5Y5/2 2.5Y2/1	70.3	B16
			c42	Ⅱ B	2	Ⅱa-2	1								
図V-28-51	48-51		i37	Ⅱ B	3	Ⅱa-2	3	胴下部(深鉢)	(地)斜行縄文(複節LR)	植子質量により平滑(ツル)	褐小粒雲1%	2.5Y7/3 2.5YR6/6	2.5Y5/2 5Y2/1	127.6	B48
図V-28-52	48-52		f45	Ⅱ B	4	Ⅱa-2	1	胴下部(深鉢)	(地)粗い粗の斜行縄文(LR)	植子質量により平滑(ツル)-一部斜行縄文(LR)	小粒雲1%	2.5Y3/2 2.5Y2/1	10YR5/4 2.5Y4/1	72.7	トレンチB32
図V-28-53	48-53		h39	Ⅱ B	1	Ⅱa-2	2	胴下部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)	植子質量により平滑(ツル)	小-大粒雲1%	N6/0 N1.5/0	2.5Y6/1 2.5Y2/1	76.5	B54
図V-28-54	48-54		h43	Ⅱ B	1	Ⅱa-2	1	胴下部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)	植子質量により平滑(ザラ)	小粒雲2%	2.5Y6/2 2.5YR6/6	2.5Y4/2 2.5Y3/2	44.8	B82
図V-28-55	48-55		i40	Ⅱ B	5	Ⅱa-2	1	胴下部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)	植子質量により平滑(ツル)-一部縄文痕跡あり	褐小粒雲1%	10YR6/4 5YR6/6	5Y4/1 5Y2/1	40.9	B86
図V-28-56	48-56		e44	Ⅱ B	6	Ⅱa-2	2	胴下部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)-一部ナデ消し	植子質量により平滑	全面跡	小粒雲5%	10YR6/4 5YR5/6	2.5Y4/1 2.5Y5/2	57.0	トレンチB73
図V-28-57	48-57		h43	Ⅱ B	1	Ⅱa-2	1	胴下部(深鉢)	(地)斜行縄文(LR)	針方向-植子質量により平滑(ツル)	小-中粒雲1%	5YR6/6 5YR5/4	2.5Y6/3 2.5Y2/1	34.3	B83
図V-28-58	48-58		c36	Ⅱ B	2	Ⅱa-2	1	底部付近(尖底深鉢)-厚手	(地)斜行縄文(LR)	植子質量により平滑(ツル)-一部炭化	褐小粒雲1%	2.5YR7/6 2.5YR6/6	10YR6/2 2.5Y2/1	92.0	B15
図V-28-59	48-59		h41	Ⅱ B	2	Ⅱa-2	1	底部付近(尖底深鉢)-厚手	(地)斜行縄文(LR)	全面剥離	褐小粒10%-中粒1%	10YR6/2 10YR4/1	2.5Y4/1 2.5Y4/2	45.9	B46
図V-28-60	48-60		n35	Ⅱ B下層		Ⅱa-2	1	底部(尖底深鉢)-厚手	(地)斜行縄文(LR)-底面摩耗	凹凸残る	結晶跡多明雲-褐小粒雲1%	10YR6/2 5YR6/6	10YR6/2 2.5Y5/1	410.9	B57
図V-28-61	48-61		e42	Ⅱ B	M	Ⅱa-2	2	口縁部(深鉢)-平縁+小突起-口唇断面丸、切り出し状	(地)一部羽状縄文(LR)-円形刺突列-結節あり	植子質量により平滑(ザラ)	褐小粒雲3%	7.5YR7/6 10YR4/2	2.5YR6/3 2.5Y3/1	136.8	№29 B41 No.1
			h38	Ⅱ B	1	Ⅱa-b	5	口縁部(深鉢)-平縁+口唇断面肥厚、切り出し状	口唇に刻み列-口縁下に円形刺突-(地)斜行縄文(LR)	植子質量により平滑	褐小粒雲1%	2.5Y5/3 2.5Y2/1	2.5Y2/1	8.2	B49
図V-28-62	48-62		i40	Ⅱ B	2	Ⅱa-b	1	口縁部(深鉢)-平縁+口唇断面肥厚、切り出し状	円形刺突-(地)斜行縄文(LR)	植子質量により平滑	褐小粒雲2%	2.5Y7/2 2.5Y3/3	10YR4/11 GYR1.7/1	16.0	B80
図V-28-63	48-63		h40	Ⅱ B	3	Ⅱa-b	1	口縁部(深鉢)-平縁+口唇断面尖る	刻み列	全面剥離		10YR6/4 10YR5/1	10YR7/3 10YR4/1	5.3	B 60 -1
図V-28-64	48-64		o34	Ⅱ B	1	Ⅱa-b	1	口縁部(深鉢)-平縁+口唇断面丸形							
図V-28-65	48-65		o32	Ⅱ B	2	Ⅱa-b	4	胴部(大型深鉢)	(地)結束第1種羽状縄文-一部剥離	植子質量により平滑	褐小粒雲1%	5YR6/6 5YR2/2	10YR7/6 10YR3/2	277.2	B 60 -2
			o34	Ⅱ B	1	Ⅱa-b	6								
			o34	Ⅱ B上面		Ⅱa-b	1								
図V-28-66	48-66		o36	Ⅱ B	1	Ⅱa-b	2	胴部(深鉢)	(地)結束第2種羽状縄文(RL上R)	植子質量により平滑(ツル)	褐小粒雲1%	7.5YR4/4 5YR6/6	10YR5/4 10YR4/3	88.3	B61
図V-28-67	48-67		h40	Ⅱ B	2	Ⅱa-b	2	胴部(小型深鉢)	(地)斜行縄文(LR-結節)	植子質量により平滑(ツル)	褐小粒雲10%	2.5Y7/3 2.5Y4/1	10YR7/2 2.5Y2/1	26.1	B45

※(地):地文　　※(ツル):平滑面にざらつきがない、(ザラ):平滑面にざらつきがある

表V-1 掲載土器一覧(B地区)

掲図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	分類	点数	残存率	形状	調整・制作	石材（色調）	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	その他
図V-29-1	49-1	盛土遺構	M-1 a42	M	石鏃	1	完形	三角形(1.5:1) 狭い深い無茎凹基 両側縁やや曲線的	両面全体剥離	灰色の筋が入る黒曜石	2.9	1.8	0.4	1.4	No.63
図V-29-2	49-2	盛土遺構	M-1 a42	M	石鏃	1	一部欠損(尖端及び両脚)	三角形(1.8:1) 狭い深い無茎凹基 両側縁やや曲線的	両面ほぼ全体に剥離調整 両面中央に素材面が残る	黒曜透明、黒曜の強い黒曜石	(2.6)	1.5	0.3	(1.0)	No.64
図V-29-3	49-3	盛土遺構	M-1 H42	M	石鏃	1	完形	三角形(1.8:1) 狭い深い無茎凹基 両側縁やや外湾、曲線的	両面全体剥離 腹面黒曜に剥離、素材面広く残る	黒曜の強い黒曜石	2.9	1.8	0.4	1.5	No.87
図V-29-4	49-4	盛土遺構	M-1 a42	M	石鏃	1	完形	三角形(1.8:1) 狭い深い無茎凹基 両側縁直線的、中央に挟入 右側縁挟入が幅広く異形化	両面全体剥離	黒曜石	3.3	1.8	0.5	1.8	No.151
図V-29-5	49-5	盛土遺構	M-1 H42	M	石鏃	1	完形	三角形(2.5:1) 狭い深い無茎凹基 両側縁直線的 脚部左右非対称	両面ほぼ全体剥離 両面ともに中央に素材面	真岩	3.7	1.5	0.4	1.5	No.9
図V-29-6	49-6	盛土遺構	M-1 i43	Ⅱ B	4 石鏃	1	完形	幅広な三角形(1.7:1) 狭いの明瞭な無茎凹基 両側縁はやや外湾、曲線的 脚部左右非対称	両面ほぼ全体剥離	メノウ質 真岩	2.5YR 3/3	4.1	2.4	0.8	6.2	トレンチ
図V-29-7	49-7	盛土遺構	M-1 a42	M	石錐	1	完形	有茎凸基状 中央やや下、両側縁に挟入あり、尖頭部は幅広な三角形(1.8:1) 両側縁外湾、曲線的、基部は長方形に近い逆台形状	両面全体剥離	真岩	10YR 4/1	6.3	2.4	0.7	10.9	No.35
図V-29-8	49-8	盛土遺構	M-1 g42	M	つまみ付きナイフ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁外湾、右側縁両縁に近い 先端がやや尖る つまみ部はナイフに対してやや小型の円形	背面のみの片面加工 左側縁下部と右側縁全体剥離調整により刃部作成 背面下部全体に剥離 つまみ挟入部のみ両面剥離	真岩	10YR5/1	6.8	2.6	0.8	11.4	No.108
図V-29-9	49-9	盛土遺構	M-1 g42	M	つまみ付きナイフ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁外湾、右側縁内湾 先端が尖る つまみ部はナイフに比してやや小型の円形	背面のみの片面加工 背面両側縁とつまみ部周縁に剥離 腹面はつまみ挟入部分に剥離	真岩	10YR7/2	6.7	2.3	0.8	11.3	No.127
図V-29-10	49-10	盛土遺構	M-1 g43	M	つまみ付きナイフ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁外湾、右側縁も外湾、ナイフ先端がある つまみ部はナイフに比してやや大型の横長楕円形	背面のみの片面加工 背面両側縁とつまみ部周縁に剥離調整、刃部作成 腹面はつまみ挟入部のみ	真岩	表 10YR3/1 裏 2.5Y5/1	7.8	2.9	1.3	21.2	No.81
図V-29-11	49-11	盛土遺構	M-1 g43	M	つまみ付きナイフ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁外湾、右側縁直線的 ナイフ先端が尖る つまみ部は挟入が小所で円形 ナイフに比して大型	背面のみの片面加工 背面左側縁下部から右側縁全体に剥離で刃部作成 つまみ部は背面全体と腹面の一部に剥離	真岩	7.5YR4/1	6.1	2.4	1.1	8.1	No.87
図V-29-12	49-12	盛土遺構	M-1 a42	M	つまみ付きナイフ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が左向き 左側縁外湾、右側縁直線的 ナイフ先端が尖る つまみ部はナイフに比して大型、横長の楕円形	背面のみの片面加工 右側縁は全体に細かな剥離で刃部作出 左側縁に部分的な剥離 つまみ部は背面全体に細い剥離、腹面は挟入部のみ	真岩	2.5Y4/1	7.2	3.0	0.8	10.7	No.8
図V-29-13	49-13	盛土遺構	M-1 a42	M	つまみ付きナイフ	1	一部欠損（ナイフ先端）	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が左向き 左側縁外湾、右側縁直線的 つまみ部はナイフに比して大型、横長の楕円形	背面のみの片面加工 背面全体に剥離 左右両側縁に細かな剥離により刃部作出 つまみ部は両面に細い剥離	真岩	10YR4/2	5.7	2.8	0.9	9.8	両面中央光沢沢あり No.33
図V-29-14	49-14	盛土遺構	M-1 a42	M	スクレイパー	1	完形	縦長剥片素材 逆三角形状で薄平 両側縁が外湾 先端が尖る	背面側縁の剥離のみで意外な調整	真岩	10YR5/2	3.9	2.4	1.1	13.5	
図V-29-15	49-15	盛土遺構	M-1 a42	M	スクレイパー	1	完形	縦長剥片素材 厚手の一つ代 側面左側縁外湾、右側縁直線的 下端部は弧状	背面のみの片面加工 背面全体に剥離 特に下部は急角度な剥離による刃部作出	真岩	2.5YR2/1	6.7	3.5	1.6	42.8	エンドスクレイパー No.20
図V-29-16	49-16	盛土遺構	M-1 a42	M	石斧	1	一部欠損（基部）	短冊形 高刃に近い幅刃 側面は平坦で表裏面との接線明瞭	全面研磨 刃部凸状に剥離、敲打痕残る、再加工か	緑色定岩	7.3GY 5/1	(6.5)	4.6	(2.3)	(117.0)	No.34
図V-29-17	49-17	盛土遺構	M-1 H45	M	石斧	1	部分(基部)	撥形、台形状 側縁が緩やかな外湾、上端は弧状	一部剥離痕が残るも全面研磨 上端面に敲打痕	緑色定岩	10GY 3/1	(7.2)	(4.6)	(1.8)	(98.4)	No.33
図V-29-18	49-18	盛土遺構	M-1 a42	M	石斧	1	中型の原材	扁平長楕円礫片が素材	表面下端全体から裏面の一部に大きく剥離 刃部作成のため	緑色定岩	5GY 6/1	10.3	5.5	2.4	221.2	No.26
図V-29-19	49-19	盛土遺構	M-1 H42	M	たたき石	1	一部欠損	やや扁平な楕円礫片が素材	礫の表裏平坦面2/3程にたたき痕 表面は深く、裏面は浅いたたき痕 側面上部に浅いたたき痕	片麻岩	5Y7/2	(8.0)	8.2	7.9	(407.6)	No.18
図V-29-20	49-20	盛土遺構	M-1 a42	M	すり石	1	完形	大型の台形様 断面三角形礫が素材 ※形状、加工痕によりと海進式石冠の可能性あり	すり面は三角形の稜線をすったもの 断面はやや丸く幅が広い 両側面上部に敲打痕、その下に平滑な面 上面、両端面は素材のまま	安山岩	5Y6/1	10.2	15.7	7.6	1600.0	No.23
図V-29-21	49-21	盛土遺構	M-1 H42	M	砥石	1	部分片（側縁部の残る）	やや厚みのある角礫が素材	表裏及び側面がすり面として使用 表面は薄く浅い凹面 裏面は平滑な平坦面 側面は細い溝状が残る	砂岩	10YR6/2	(7.1)	(4.9)	(3.5)	(114.6)	No.81
図V-29-22	49-22	盛土遺構	M-1 i43	Ⅱ B	2 石錘	1	完形	大型 扁平楕円礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き1か所は剥離、1か所は敲打と剥離による	安山岩	2.5Y7/3	9.8	10.9	3.9	633.2	
図V-29-23	49-23	盛土遺構	M-1 H43	M	台石石皿	1	部分片（側縁部周辺）	厚手の板状礫が素材	使用面は表裏両面 表面は平滑なすり面が曲面として残る 裏面は平滑なすり面が緩やかな曲面として残る	安山岩	5Y6/1	(17.5)	(20.5)	(11.5)	5050.0	No.127

表V-2 掲載石器一覧(B地区)

掲図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	分類	点数	残存率	形状	調整・剥離	石材（色調）	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	その他
図V-31-24	49-24	盛土遺構	M-1 a43	M	加工痕のある礫	1	完形	扁平円錐状素材	一端を両面からの剥離によって刃部状を作出．表面は広く平滑で平坦なすり面となる	砂岩	5Y5/2	15.6	14.5	3.7	1160.2	No.106
図V-31-25	49-25	盛土遺構	M-1 g43	M	台石皿	1	完形	厚平の大型礫が素材	使用面は表面のみ．平滑なすり面により礫の中央が凹む．縁やかな曲面がつくられる．裏面、側面とも素材のまま	安山岩	5Y6/2	39.0	27.8	11.1	15000.0	
図V-32-26	50-26	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	3～4 石鏃	1	完形	三角形(1.7:1)　狭りの深い無茎凹基	両面全体剥離	透明度高い黒曜石	2.1	1.2	0.3	0.5	No.131
図V-32-27	50-27	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	3～4 石鏃	1	完形	三角形(1.8:1)　狭りの深い無茎凹基　両側縁直線的	両面全体剥離	透明度高い灰色の黒曜石	2.8	1.5	0.4	1.0	No.67
図V-32-28	50-28	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	3～4 石鏃	1	完形	三角形(2:1)　狭りの深い無茎凹基　両側縁外湾、曲線的　左側縁剥離が加工により鋭状	両面周縁に剥離　両面に広く素材剥離面が残る	透明度高い黒曜石　黒曜石　球顆稀小粒1%	2.5	1.3	0.3	0.7	石器転用か No.4
図V-32-29	50-29	盛土遺構	M-2 d35	Ⅲ B	5 石鏃	1	完形	三角形(1.6:1)　狭りの深い無茎凹基　両側縁外湾、直線的	両面周縁のみの剥離	黒地に赤茶色斑の入る黒曜石	2.4	1.5	0.3	1.0	No.16
図V-32-30	50-30	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	7 石鏃	1	完形	三角形(1.8:1)　狭りの深い無茎凹基　両側縁外湾、曲線的　左側縁下部に屈折あり．両加工の可能性	両面周縁のみ幅広く剥離	貫岩	10YR6/2	2.8	1.5	0.4	1.5	左縁部加工により石鏃転用か
図V-32-31	50-31	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	4 石鏃	1	一部欠損（尖端）	三角形(2:1)　狭りの深い無茎凹基　両側縁やや外湾、曲線的　脚部左右非対称	両面全体細かな剥離	透明度高い黒曜石の黒曜石	(2.8)	1.3	0.3	(0.7)	TA8-6
図V-32-32	50-32	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	3～4 石鏃	1	完形	三角形(2.3:1)　狭りの深い無茎凹基　両側縁直線的　両脚部左右非対称、左脚部両加工の可能性	背面全体、腹面周縁部に細かな剥離	赤灰色ある黒曜の強い黒曜石	3.8	1.6	0.4	1.6	石器転用の可能性 No.51
図V-32-33	50-33	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	3～4 石鏃	1	完形	三角形(2.4:1)　狭りの深い無茎凹基　両側縁直線的	両面全体細かな剥離	透明度低く黒曜の強い黒曜石	4.1	1.7	0.5	1.9	No.25
図V-32-34	50-34	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	5 石鏃	1	一部欠損（尖端）	三角形(1.8:1)　狭りの深い無茎凹基　両側縁直線的	両面全体細かな剥離	赤灰色ある黒曜の強い黒曜石	(2.8)	1.7	0.5	(1.4)	No.184
図V-32-35	50-35	盛土遺構	M-2 d35	Ⅲ B	3 石鏃	1	完形	三角形(2.2:1)　狭りの深い無茎凹基　両側縁外湾曲線的	背面全体と腹面周縁のみに剥離	貫岩	10YR3/2	3.3	1.5	0.3	1.3	No.5
図V-32-36	50-36	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	2 石槍	1	一部欠損（尖端）	有茎凸基状　尖頭部は三角形(1.2:1)　両側縁は外湾、曲線的　基部は長方形．2対の抉入により中央が張り出す．特殊な剥離形状	両面全体剥離	貫岩	10YR4/1	(6.8)	2.9	1.0	(14.6)	
図V-32-37	50-37	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	3 石鏃	1	完形	基脚が直線の棒状　両端が先の尖った鏃状　断面菱形	両面全体細かな剥離	貫岩	10YR5/2	5.1	0.8	0.5	1.7	
図V-32-38	50-38	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	3 石鏃	1	完形	基脚が直線の棒状　両端が先の尖った鏃状　断面菱形	両面全体細かな剥離	貫岩	10YR5/2	4.7	0.8	0.5	1.7	
図V-32-39	50-39	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	3～4 石鏃	1	完形	逆三角形状　幅広の逆辺側がつまみ部　先の尖った三角形の尖端が鏃部	背面両側縁及び腹面右側縁に剥離	透明度の高い、黒い斑状の黒曜石	3.1	2.0	0.4	1.8	No.38
図V-32-40	50-40	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	3～4 石鏃	1	完形	逆三角形状　やや広い逆辺側がつまみ部　先の尖った三角形の尖端が鏃部	背面両側縁と腹面右側縁に細かな剥離	透明度のない黒味の強い黒曜石	2.9	1.6	0.4	1.4	No.66
図V-32-41	50-41	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	3 石鏃	1	完形	逆三角形状　幅広の逆辺側がつまみ部　つまみ部に一対の抉入り．先の尖った三角形の尖端が鏃部	両面全体細かな剥離　つまみ部上端に原石面残る	透明度のない黒味の強い黒曜石	3.2	2.3	1.0	3.6	石器からの転用の可能性
図V-32-42	50-42	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	3～4 石鏃	1	完形	不定形な剥片を素材にした逆三角形状　広い逆辺側がつまみ部　先の尖った三角形の尖端が鏃部	両面全体に剥離　つまみ部上端には原石面	透明度の低い黒地に球顆小粒1%	3.6	3.0	1.0	6.2	No.125
図V-32-43	50-43	盛土遺構	M-2 d35	Ⅲ B	5 石鏃	1	完形	不定形な剥片を素材にした逆三角形状　不定形な剥片の幅広側が鏃部　三角形の尖端が鏃部　鏃の尖端は丸	鏃部の両側縁のみ剥離　他は無調整	貫岩	10YR5/2	4.0	2.7	0.9	6.9	
図V-32-44	50-44	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	3 石鏃	1	完形	大型の不定形剥片を素材にした逆三角形状　不定形剥片の幅広側が鏃部　三角形の尖端が先の尖った鏃部	背面のみの片面加工　鏃部周辺とその側縁部に剥離　つまみ部は上端側縁に剥離	貫岩	表5Y5/1　裏2.5Y4/2	8.7	7.7	2.4	118.6	
図V-32-45	50-45	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	3～4 石鏃	1	完形	無茎凹基の石鏃を素材にした逆三角形状　基部がつまみ部　尖頭部が先のやや尖った鏃部	両面全体に剥離　鏃部下部を狭り、鏃部を作出？	透明度やや高い黒味の強い黒曜石	2.8	1.4	0.5	1.2	石器からの転用 No.11
図V-32-46	50-46	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	3～4 石鏃	1	完形	無茎凹基の石鏃が素材　尖頭部の一端を加工し鏃部を作出　脚部の一端も鏃側に加工	両面周縁部分を幅広く剥離　両鏃部周辺に細かな剥離	透明度高い、黒い斑状	2.8	1.8	0.4	1.3	石器からの転用 No.109
図V-32-47	50-47	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	4 つまみ付きナイフ	1	完形	縦長　つまみ部に対してナイフが垂直　両側縁直線的　ナイフ先端はふくらない　つまみ部はナイフに比して大型．横長の横円形	両面ほぼ全体に剥離　両側縁細かな剥離　つまみ部は粗い剥離で狭りは鏃面からの剥離が細かい．上端面に原石面	黒地に赤茶の黒曜石	4.9	1.8	0.7	4.7	
図V-32-48	50-48	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	5 つまみ付きナイフ	1	完形	縦長　つまみ部に対してナイフ先端が右向き　左側縁外湾、右側縁直線的　ナイフ先端はふくらない　つまみ部はナイフに比して小型　狭りのある円形	背面のみの片面加工　背面全体剥離　側縁下部は急角度な剥離で刃部作出　つまみ部は抉入部のみ	貫岩	2.5Y4/1	5.5	2.3	1.1	11.0	
図V-32-49	50-49	盛土遺構	M-2 d36	Ⅲ B	3 つまみ付きナイフ	1	完形	縦長　つまみ部に対してナイフ先端が右向き　左側縁外湾、左側縁直線的　ナイフ先端はふくらない　つまみ部はナイフに比して小型　狭りのある円形	背面のみの片面加工　背面側縁右側縁全体、左側縁下部のみ剥離　刃部作出　つまみ部は抉入部側面、上部狭りは背面から	貫岩	10YR5/1	8.1	4.8	1.2	29.2	腹面上部に光沢あり

表V-2　掲載石器一覧(B地区)

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	分類	点数	残存率	形状	調整・刺離	石材	(色調)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	その他
図V-32-50	50-50	盛土遺構	M-2 d35	Ⅱ B	6	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁外周、右側縁内周 ナイフ先端は尖らない つまみ部はナイフに比して大型、円形	概右背面のみの片面加工 背面右側縁に急角度な細かな剥離で刃部作出 腹面右側縁の外周部分に剥離 つまみ部は周縁を周囲からの剥離で作出 抉入は背面からの剥離	黄岩	10YR6/1	7.7	3.4	1.4	16.9	
図V-32-51	50-51	盛土遺構	M-2 d35	Ⅱ B	6	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁外周、右側縁外周 ナイフ先端は尖る つまみ部はナイフに比して小型、菱形	腹面からの加工が主 腹面右側縁全体に剥離 背面右側縁の剥離は部分的 つまみ部は無調整、抉入部のみ両面	黄岩	5Y5/1	(5.5)	(2.7)	(0.6)	(5.7)	
図V-32-52	50-52	盛土遺構	M-2 d36	Ⅱ B	6	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が左向き 左側縁直線的、右側縁外周 ナイフ先端はやや尖る つまみ部はナイフに比して大型、楕長の楕円形	背面主体の片面加工 背面は両側縁とつまみ部全体の剥離 腹面は主要縁下部から右側縁中～下部とつまみ部全体に剥離 つまみ部の抉入は両面	黄岩	10YR5/1	6.3	2.4	1.0	14.7	
図V-32-53	50-53	盛土遺構	M-2 d36	Ⅱ B	3～4	1	完形	やや楕長の円形に近い剥片が素材 下端に外周する刃部	背面下端から左側縁、上端にかけて剥離 腹面は下端側縁のみ 下端側縁は両面細かな剥離で刃部作出	透明度のある黒い縞状の黒曜石	4.3	4.8	1.0	15.7	No.73
図V-33-54	50-54	盛土遺構	M-2 d36	Ⅱ B	3	1	完形	頂径円形に近い剥片が素材 下端部に外周する刃部	背面下端部側縁に剥離で刃部作出 腹面周縁の剥離は部分的	黄岩	5Y5/1	5.5	5.6	1.1	31.3	
図V-33-55	50-55	盛土遺構	M-2 d36	Ⅱ B	3～4	1	完形	菱形楕円の剥片が素材 左側縁がやや内湾、右側縁が直線的 下端が尖る	腹面の両側縁に細かな剥離で刃部作出 背面の剥離は部分的 上端には原石面	やや透明度のある黒味の強い縞状の黒曜石	4.1	3.8	0.9	7.6	No.13
図V-33-56	50-56	盛土遺構	M-2 d36	Ⅱ B	上面	1	一部欠損(上下両端)	縦長の剥片が素材 左側縁直線的、右側縁外湾する	左側縁全体に急角度な剥離で刃部作出 右側縁の一部に両面からの剥離	メノウ質黄岩	5YR4/1	(5.8)	2.7	(0.7)	(10.8)	つまみ付きナイフの可能性
図V-33-57	50-57	土坑	P-04	覆土	礫石	1	一部分片	扁平な砂岩礫が素材 表裏両面が平滑な使用面 側面はあく、表裏面との境に明瞭な稜線	表面に薄状のすり痕と平滑なすり痕 表面全体に平滑なすり痕 側面はあく傷形	砂岩	2.5Y6/4	17.5	8.5	1.8	273.0	No.1
図V-33-58	50-58	土坑	P-05	覆土	U字レイク	1	完形	縦長のへら状剥片が素材 両側縁は直線的、末端縁はやや窄まる	ほとんど素材面 表裏両面の一部に使用痕跡あり ※刃部調整などが見られないので未成品か	メノウ質黄岩	2.5Y5/1	5.4	3.6	1.8	30.2	
図V-33-59	50-59	土坑	P-06	覆土	つまみ付きナイフ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向く 左側縁外湾、右側縁直線的 ナイフ先端はやや尖る つまみ部はナイフに比して小やや大きい 左右に長い長方形	ほぼ背面のみの片面加工 背面全体剥離 両側縁全体に細かな剥離で刃部作成 右側縁は急角度な剥離 つまみ部周辺は細い剥離で作出	黄岩	2.5Y3/2	5.4	2.9	0.7	10.3	表裏面ともに光沢あり
図V-33-60	50-60	土坑	P-07	覆土	U字レイク	1	完形	楕長の菱形様な剥片が素材 両側縁ともにわずかに内湾する 末端がやや尖る	両側縁と末端に刃こぼれ状の欠落 上端に原石面	扁縞のみ透明、黒味の強い黒曜石	3.5	4.4	1.3	9.2	
図V-33-61	50-61	土坑	P-10	覆土	つまみ付きナイフ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフの先端が左向き 左側縁外湾、右側縁直線的 ナイフ先端は丸る つまみ部はナイフに比して小ぶり円形	ほぼ背面のみの片面加工 背面はつまみ部を含めた周縁全体に剥離 腹面は右側縁に部分的な剥離 つまみ部の抉入に剥離	黄岩	2.5Y5/2	5.6	2.5	0.9	8.8	
図V-33-62	50-62	土坑	P-10	覆土	U字レイク	1	完形	縦長の菱形様剥片が素材 両側縁外湾 末端ややせる	ほとんど素材面のみ 両側縁に刃こぼれ状の欠落あり	メノウ質黄岩	2.5Y5/1	4.8	3.2	1.3	10.9	
図V-33-63	50-63	土坑	P-10	覆土上面	石斧	1	一部欠損	大型の短冊形 円刃、面刃 両側面敲、稜線明瞭	全面研磨 一部に敲痕、敲打痕が残る	緑色泥岩	5G5/1	(7.8)	6.2	(1.5)	(122.4)	No.3
図V-33-64	50-64	土坑	P-10	覆土上面	礫石	1	部分片	扁平な砂岩礫が素材 表面のみが平滑な使用面 裏面は凹凸の残る素材面 側面の一部にあい角が残る	扁平方向に沿った縦やかな傾斜	砂岩	2.5Y6/3	(8.1)	(9.1)	(2.0)	(146.0)	No.1
図V-33-65	50-65	土坑	P-11	覆土上面	石斧	1	完存	三角縦の扁平楕円錐が素材 左側縁外湾、右側縁直線的 表裏両面平坦	表面全面に粗い敲打痕 左側縁下部に剥離痕と明瞭な敲打痕 右側縁に剥離痕、明瞭な敲打痕 裏面無調整、スベスベ	緑色泥岩	5GY4/1	12.3	7.4	2.7	345.6	裏面全体に光沢
図V-33-66	50-66	土坑	P-13	覆土	石皿	1	一部欠損(尖端)	三角形(2.75:1) 狭い面が無至広 両側縁緩やかに外湾、曲線的 両脚端やや尖る	両面全体剥離	凝灰岩	N7/0	(4.3)	1.6	0.5	(2.5)	
図V-33-67	50-67	遺物集中	O-2	Ⅱ B	1	1	剥片	逆三角形状(石器基部片?)の剥片	両面全体剥離 両側縁下部細かな剥離	球顆約5%の黒味の強い黒曜石	2.4	2.6	0.8	3.7	赤井川産(TAS-09)
図V-33-68	50-68	遺物集中	O-2	Ⅱ B	1	1	剥片	結縁状の剥片	部分的に細かな剥離	黒味の強い黒曜石	5.6	2.4	1.1	8.5	赤井川産(TAS-10)	
図V-34-69	51-69	遺物集中	O-3 h37	Ⅱ B	4	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁外湾、右側縁直線的 ナイフ先端はやや尖る つまみ部はナイフに比して小やや大型 左右に長い楕円形	背面全体剥離 両側縁に細かな剥離で刃部作出 腹面上半分剥離 両側縁に部分的な剥離 つまみ部は表裏面に細い剥離 抉りは両面から	黄岩	10YR5/2	12.2	3.0	0.9	29.9	No.1
図V-34-70	51-70	遺物集中	O-3 h37	Ⅱ B	4	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフ先端が右向き 左側縁外湾、右側縁直線的 ナイフ先端が尖る つまみ部はナイフに比して小左寄、左右に細く伸びた三角形	背面全体剥離 両側縁に細かな剥離で刃部作出 腹面下半及びわた側縁剥離 つまみ部背面のみ剥離 抉りは両面から	黄岩	表10YR5/6 裏10YR4/2	7.6	3.4	0.9	23.1	No.2

表V-2 掲載石器一覧(B地区)

掲図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	分類	点数	残存率	形状	調整・刺離	石材	(色調)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	その他
図V-34-71	51-71	遺物集中	O-3 h37	Ⅱ B	4 つまみ付きナイフ	1	完形	縦長　つまみ部に対してナイフ先端が右向き　左側縁外湾、右側縁直線的　先端がやや尖る　つまみ部はナイフに比して小型、幅広状	背面周縁部に刺離　下端及び右側縁に細かな刺離、刃部作出　腹面周縁上部のみ刺離　つまみ部両面刺離、抉り状両面から	黄岩	10YR 6/2	5.9	3.2	0.9	11.8	No.4
図V-34-72	51-72	遺物集中	O-3 i37	Ⅱ B	4 つまみ付きナイフ	1	完形	縦長　つまみ部に対してナイフ先端が右向き　左側縁外湾、右側縁上部直線下部内湾　ナイフ先端が尖る　つまみ部はナイフに比して小型、左右に長い幅円形　抉りはナイフの厚に沿った円形	背面全体刺離の片面加工　両側縁に細かな刺離で刃部作出　腹面側縁部は部分的な刺離　つまみ部は両面細かな刺離　抉りは両面から	黄岩	10YR 3/1	7.9	3.4	1.0	23.3	No.3
図V-34-73	51-73	遺物集中	O-3 h37	Ⅱ B	4 スクレイパー	1	完形	縦長剥片が素材　左側縁外湾、右側縁直線的　末端が中央尖る	背面側縁部幅広く刺離　全て急角度な刺離で刃部作出　腹面周縁部に部分的な刺離のみ	黄岩	10YR 4/1	5.9	3.5	1.2	19.9	No.3
図V-34-74	51-74	遺物集中	O-3 i37	Ⅱ B	4 スクレイパー	1	一部欠損(上端部)	半円状の縦長剥片が素材　両側縁が外湾し、横円形状	背面のみの片面加工　背面周縁部分に細かな刺離で急角度な刃部作出	黄岩	N1.5/0	(4.6)	4.2	(0.8)	(12.6)	エンドスクレイパー No.1
図V-34-75	51-75	遺物集中	O-3 i37	Ⅱ B	4 スクレイパー	1	完形	横円形の縦長剥片が素材　両側縁は直線的　下端部は狭状	背面のみの片面加工　背面下半部周縁のみ刺離　急角度な刺離で刃部作出　背面上半は原石面　腹面全面素材面	黄岩	10YR1.7/1	6.7	3.6	1.4	29.8	エンドスクレイパー No.2
図V-34-76	51-76	遺物集中	O-3 h37	Ⅱ B	4 石斧	1	一部欠損(基端部)	細身で小型の撥形(石のみ)　刃部は弧状の円刃で両刃　側面は直線的、稜線も明瞭　刃部に欠落あり	全面全体に研磨	緑色泥岩	5GY5/1	(6.0)	1.8	0.8	(16.5)	No.6
図V-34-77	51-77	遺物集中	O-3 h37	Ⅱ B	4 石斧	1	完形	撥形刃部が広く基端が細い)　刃部は幅広の円刃で両刃　側面は面取りされる。部分的に不明瞭　稜線が曖昧	全面ほぼ全体に研磨　一部に刺離痕　両側面及び上端面に明瞭な敲打痕	緑色泥岩	5G4/1	8.1	4.1	2.1	104.7	No.5
図V-34-78	51-78	遺物集中	O-3 i37	Ⅱ B	4 石斧	1	完形	やや大型の撥形(刃部が広く基端が細い)　刃部は弧状の円刃で両刃　基端は狭状　側面は面取りが不明瞭で稜線も曖昧	全面全体研磨	緑色泥岩	10GY 4/1	11.1	4.8	2.3	193.5	No.4
図V-34-79	51-79	遺物集中	O-4 j37	Ⅱ B	2～3 たたき石	1	一部欠損	扁平円錐が素材　表面は磨やかな山頂　裏面は平滑な平坦面	表面部分的にたたき痕　側面全体にたたき痕	安山岩	2.5YR/3	11.9	(8.5)	(5.3)	852.8	No.1・被熱
図V-35-80	51-80	遺物集中	O-6 h36	Ⅱ E (B)	石斧	1	大型の剥材	割れて短冊状になった扁平礫が素材	側縁と上端面に刺離と敲打による整形痕が見られる	緑色泥岩	5GY4/1	11.9	8.4	3.5	577.0	No.3
図V-35-81	51-81	遺物集中	O-6 h36	Ⅱ E (B)	石斧	1	大型の剥材	薄型状の扁平礫が素材	右側縁に刺離と敲打による整形痕が見られる	緑色泥岩	5GY5/1	13.8	6.9	2.4	364.0	No.6
図V-35-82	51-82	遺物集中	O-6 h36	Ⅱ E (B)	石斧	1	中型の剥材	谷状状の扁平礫が素材	両側縁に刺離と敲打による整形痕が見られる	緑色泥岩	7.5GY 3/1	9.6	7.5	2.1	277.8	No.5
図V-36-83	51-83	遺物集中	O-6 h36	Ⅱ E (B)	石斧	1	中型の剥材	厚みのある棒状に近い角礫が素材	左側縁に刺離と敲打と棒面には、たたき状の敲打痕が見られる	緑色泥岩	5GY5/1	11.3	5.7	4.0	431.1	No.2
図V-35-84	51-84	遺物集中	O-6 h36	Ⅱ E (B)	石斧	1	小型の剥材	断面三方形の短い棒状礫が素材	刺離によって一部割れている。か、他と石材そのものである	緑色泥岩	5GY6/1	10.4	3.2	3.0	165.4	No.1
図V-36-85	51-85	遺物集中	O-6 h36	Ⅱ E (B)	石斧	1	小型の剥材	薄型状の扁平礫が素材	明瞭な整形痕は見られず、石材そのものである	緑色泥岩	2.5GY4/1	11.4	5.6	1.2	125.8	No.4
図V-37-1	52-1	包含層	i41	Ⅱ B	2 石鏃	1	完形	小型の三角形(1.8:1)　抉りの深い無茎凹基　両側縁外湾、曲線的　右側縁下部に欠落？	両面全体刺離	黒緑色小透明の黒曜石		3.0	1.6	0.5	1.3	
図V-37-2	52-2	包含層	o42	Ⅱ B	1 石鏃	1	一部欠損(脚端)	小型の三角形(1.6:1)　抉りの深い無茎凹基　両側縁直線的	両面全体刺離　背面中央に素材面残る	透明度のない黒味の強い黒曜石		3.0	1.8	0.5	1.5	TA8-7
図V-37-3	52-3	包含層	i41	Ⅱ B	2 石鏃	1	完形	小型の三角形(2:1)　抉りの深い無茎凹基　両側縁やや外湾、曲線的　脚部左右非対称	両面全体刺離　背面中央に素材面残る	黄岩	10YR6/1	3.0	1.5	0.4	1.2	
図V-37-4	52-4	包含層	o35	Ⅱ B	2 石鏃	1	完形	中型の三角形(2:1)　抉りの深い無茎凹基　両側先端が尖る	両面全体刺離　背面中央に素材面残る	透明度のない黒味の強い黒曜石		3.5	1.7	0.3	1.4	
図V-37-5	52-5	包含層	s33	Ⅱ B	2 石鏃	1	一部欠損(先端・脚端)	中型の三角形(1.8:1)　抉りの深い無茎凹基　両側縁ほぼ直線的　脚部先端が尖る	両面全体刺離	球顆及び球顆部が9%黒味の強い黒曜石		(3.6)	(2.0)	0.5	(2.3)	
図V-37-6	52-6	包含層	o34	Ⅱ B	2 石鏃	1	完形	中型の三角形(2:1)　抉りの深い無茎凹基　両側縁やや外湾、曲線的　脚部左右非対称	両面ほぼ全体刺離　両面中央部分に素材面残る　右側縁上部に鋸歯状部分	透明度のやや少ない黒味の黒曜石		3.6	1.8	0.4	2.0	
図V-37-7	52-7	包含層	o36	Ⅱ B	2 石鏃	1	一部欠損(脚端)	中型の三角形(2:1)　抉りの深い無茎凹基　両側縁やや外湾、曲線的　脚部左右非対称、脚部は尖る	両面全体刺離	黄岩	N3/0	3.8	(1.5)	0.4	(1.5)	全体的に被熱
図V-37-8	52-8	包含層	m37	Ⅱ B	3 石鏃	1	一部欠損(尖端)	大型の三角形(2:1)　抉りの深い無茎凹基　両側縁直線的　脚部左右非対称、脚部やや尖る	両面全体細かな刺離	球顆約30%　透明度のない黒味の強い黒曜石		(3.8)	1.8	0.5	(1.8)	
図V-37-9	52-9	包含層	h40	Ⅱ B	1 石鏃	1	完形	大型の三角形(2:1)　抉りの深い無茎凹基　両側縁ほぼ直線的　両脚端やや尖る	両面全体細かな刺離	透明度のない黒味の強い黒曜石		3.9	2.0	0.5	2.7	
図V-37-10	52-10	包含層	s33	Ⅱ B	石鏃	1	完形	大型の三角形(2:1)　抉りの深い無茎凹基　両側縁やや外湾、曲線的、下部で直立　両脚部細い	両面全体刺離	球顆小粒30%　透明度のない黒味の強い黒曜石		4.1	1.9	0.7	3.5	
図V-37-11	52-11	包含層	p32	Ⅱ B	1 石鏃	1	完形	大型の三角形(2:1)　抉りの深い無茎凹基　両側縁直線的、中間で抉状　抉り　右側縁直線的　脚端やや尖る	両面全体刺離	黄岩	10YR 6/2	4.1	2.1	0.6	3.5	凹基部両面に黒い付着あり

表V-2　掲載石器一覧(B地区)

掲図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	分類	点数	残存率	形状	調整・剥離	石材（色調）	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	その他
図V-37-12	52-12	包含層	o35	Ⅱ B	1 石鏃	1	完形	幅広の三角形(1.4:1) 抉りの深い無茎凹基 両側縁直線的 脚部は左右非対称	両面ほぼ全体に剥離調整 腹面右側に大きな剥離	透明度ややあり 黒状の微鱗片を付ける黒曜石	3.6	2.5	0.4	2.2	
図V-37-13	52-13	包含層	o35	Ⅱ B	5 石鏃	1	完形	幅広の三角形(1.8:1) 抉りが浅い無茎凹基 両側縁は曲線的、やや膨らむ 脚部は左右非対称	両面全体に細かな剥離調整	透明度ややあり 黒味の強い黒曜石	4.1	2.3	0.7	4.4	
図V-37-14	52-14	包含層	i41	Ⅱ B	1 石鏃	1	完形	幅広の三角形(1.6:1) 抉りの浅い無茎凹基 側縁は曲線的で膨らみがある	両面全体剥離	黄岩 2.5Y5/2	4.0	2.5	0.9	5.8	
図V-37-15	52-15	包含層	i40	Ⅱ B	1 石鏃	1	一部欠損（左側縁）	尖頭形正三角形基 小型の有茎平基	両面全体に細かな剥離調整	透明度が、やや高い黒曜石	1.8	(1.1)	0.3	(0.4)	
図V-37-16	52-16	包含層	a37	Ⅱ B	2 石鏃	1	完形	有茎凸基 尖頭形三角形(1.7:1) 両側縁直線的 基部は太く、先端に向かいやや細い 実測は上向き	両面全体剥離	球顆等小程1% 透明度のない黒味の強い黒曜石	3.9	1.4	0.5	1.9	
図V-37-17	52-17	包含層	o38	Ⅱ B	3 石鏃	1	一部欠損（右側縁）	中型の有茎凹基 尖頭形三角形(1.2:1) 両側縁直線的 微細的基部は細身で末端に向かい尖る	両面全体剥離	球顆及び球顆列50% 透明度のない黒味の強い黒曜石	3.1	(1.4)	0.4	(1.0)	
図V-37-18	52-18	包含層	o35	Ⅱ B	3 石鏃	1	一部欠損（尖端基部下端）	柳葉形 両側縁緩やかに外寄	両面全体細かな剥離 側縁に細かな欠損(刃こぼれ)	透明度の高い灰褐色の黒曜石	(3.1)	1.1	0.3	(0.8)	
図V-37-19	52-19	包含層	l40	Ⅱ B	2 石鏃	1	完形	柳葉形 両側縁緩やかに外寄	両面全体剥離 両側縁に欠落あり(刃こぼれ)	透明度の高い灰色味状の黒曜石	4.0	1.1	0.2	(0.7)	TAB-9
図V-37-20	52-20	包含層	d36	Ⅱ B	2 石槍	1	一部欠損（尖端）	小型の有茎凸基状 尖頭部幅広の三角形(1.4:1) 両側縁直線的 基部は幅広で側縁が直立し、底縁部がやや凹む。	両面全体剥離 腹面は尖頭部が剥離 基部が全体に剥離	透明度の低い黒味の強い黒曜石	(5.9)	3.0	0.7	(7.9)	
図V-37-21	52-21	包含層	o35	Ⅱ B	1 石槍	1	完形	小型の有茎凸基状 尖頭部は幅広の三角形(1.5:1) 両側縁やや湾、曲線的 基部は直立、底側に左右に張出す茎起状のつまみ部	両面全体剥離、側縁に細かな剥離 腹面尖頭部は側縁周辺の剥離 基部全体剥離	透明度のない黒味の強い黒曜石	5.9	2.8	0.8	8.6	
図V-37-22	52-22	包含層	b37	Ⅱ B	3 石槍	1	完形	大型の有茎凸基状 尖頭部幅広の三角形(1.4:1) 両側縁外寄、曲線的、尖端はやや尖る 基部は剥離が直線的で底側に細くなる 底側には一対の快入により「つまみ」状になる	両面全体剥離 左上端剥離に欠落あり 底縁は直線的	赤褐色の斑が入る黒味の強い黒曜石	8.1	3.6	1.1	(24.3)	
図V-37-23	52-23	包含層	h36	Ⅱ B	3 石槍	1	一部欠損（尖端）	大型の有茎平基状 尖頭部は幅広の三角形(1.8:1) 両側縁緩やかに外寄、曲線的 基部は幅広で、底に向かい細くなる 底側には一対の快入による「梅円形」のつまみ部	両面全体剥離	黄岩 10YR 5/2	(8.9)	3.3	0.9	(20.7)	
図V-37-24	52-24	包含層	i37	Ⅱ B	4 石槍	1	一部欠損（尖端）	大型の有茎凸基状 尖頭部は幅広の三角形(2.2:1) 両側縁直線的 基部は尖頭部に比べ幅広、側縁は直立に近い 底縁も直線で水平	両面全体剥離	黄岩 2.5Y 3/2	(7.4)	2.1	0.8	(11.2)	
図V-37-25	52-25	包含層	i39	Ⅱ B	1 石槍	1	完形	中型の茎形、大型状 尖頭部は幅広の三角形(1.2:1) 両側縁直線的 尖端やや尖る 基部両側縁直線的、下に細くなる。下端は丸い	両面全体剥離 尖頭部左側縁上部は顕著状	透明度のある黒い細状の黒曜石	6.6	2.5	0.8	8.6	
図V-37-26	52-26	包含層	j39	Ⅱ B	1 石槍	1	一部欠損（尖端）	中型の茎形、大型状 尖頭部は幅広の三角形(1.3:1) 両側縁はやや外湾し、曲線的 基部は末端につれて細くなる	両面全体に剥離調整	球顆列30% 黒味の強い黒曜石	(7.0)	2.8	1.0	(13.7)	
図V-37-27	52-27	包含層	o35	Ⅱ B	1 石槍	1	部分片（尖頭部）	幅広の三角形 両側縁が曲線的 三角形の尖端が丸のような錐部 両側縁緩やかに内湾 錐部は細長い	両面全体に剥離調整 錐部全体と側縁部に細かな剥離 上端面は無調整	透明度のない黒味の強い黒曜石	(4.9)	(4.1)	(1.3)	(18.1)	大型石槍の一部
図V-38-28	52-28	包含層	o35	Ⅱ B	1 石錐	1	完形	逆三角形状 幅広の逆逆錐がつまみ部 三角形の尖端が丸のような錐部 両側縁緩やかに内湾 錐部は細長い	両面全体剥離 錐部から側縁に細かな剥離 上端面は無調整	透明度のない黒味の強い黒曜石	3.0	2.1	0.6	2.3	
図V-38-29	52-29	包含層	o35	Ⅱ B	3 石錐	1	完形	逆三角形状 幅の広い逆逆錐がつまみ部 尖端側が錐部で細長いが、断面形が凸形 両側縁は直線的	両面のみの片面加工 両面全体剥離 錐部から側縁にかけて細かな剥離 上端部は無調整	透明度のない黒味の強い黒曜石	3.3	1.9	0.9	4.4	
図V-38-30	52-30	包含層	b37	Ⅱ B	2 石錐	1	一部欠損（錐部）	不定形な剥片の一部に逆三角形の錐部を作出 両側縁は内湾 錐部の断面は菱形	錐部は両面に細かな剥離 つまみ部と錐部は原石面が残り、調整なし	透明度がややあり黒い細状の黒曜石	(4.7)	4.5	1.3	(15.7)	
図V-38-31	52-31	包含層	d41	Ⅱ B	4 石錐	1	完形	不定形な剥片の一部に小さな逆三角形の錐部を作出	錐部は両面からの剥離 つまみ部となる剥片剥片には原石面が残り調整なし	透明度がやや高く、細状に黒い黒曜石	3.2	3.6	1.0	4.6	
図V-38-32	52-32	包含層	i43	Ⅱ B	2 石錐	1	完形	楕円形に調整した剥片の一部に小さな逆三角形状の錐部を作出 錐部の断面は三角形	錐部は腹面からの剥離調整で作出 つまみ部は背面周縁を急角度に調整してつくれている	黄岩 10YR 7/1	3.5	4.0	1.2	10.2	トレンチ
図V-38-33	52-33	包含層	b37	Ⅱ B	2 石錐	1	完形	無茎凹基の石錐からの転用 左部を錐部にする	両面のほとんどが剥離調整で、左部分の快入により錐部を作出	やや透明度のある黒曜石	3.5	2.8	0.6	2.4	
図V-38-34	52-34	包含層	h42	Ⅱ B	2 つまみ付きナイフ	1	完形	大型の縦長 つまみ部に対してナイフが垂直 両側縁が緩やかに外湾 先端が尖る つまみ部がナイフに比して小型、円形	両面全体剥離 両側縁下半部に細かな剥離	黄岩 10YR 3/2	10.2	2.9	1.0	26.2	
図V-38-35	52-35	包含層	o33	Ⅱ B	つまみ付きナイフ	1	完形	縦長 つまみ部に対してナイフが左向き 左側縁外湾、右側縁直線的 ナイフ先端は尖らない つまみ部はナイフにはしてやや大型、身状	両面全体剥離 腹面左側縁下部に細かな剥離	黄岩 2.5Y 3/2	5.9	2.6	1.0	12.5	

表V-2 掲載石器一覧(B地区)

掲図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	分類	点数	残存率	形状	調整・剥離	石材	(色調)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	その他
図V-38-35	52-36	包含層	i42	Ⅱ B(M)	つまみ付きナイフ	1	完形	中型の縦長　つまみ部に対してナイフが垂直　左側縁やや外湾、右側縁直線的　ナイフの先端がやや尖る　つまみ部はナイフに比して大型の円形	両面全体剥離　ナイフ先端付近から右側縁上部まで細かな剥離	貫岩	10YR 6/1	7.0	1.9	1.0	10.0	
図V-38-37	52-37	包含層	i39	Ⅱ B	つまみ付きナイフ	1	完形	中型の縦長　つまみ部に対してナイフが垂直　左側縁外湾、右側縁直線的　ナイフ先端はやや尖る　つまみ部はナイフに比して中ぐらい型で、縦長の楕円形	ほぼ背面のみの片面加工　背面周縁部やや急角度な細かい剥離　つまみ部は狭いとともに両面からの剥離で作出	貫岩	10YR 3/2	7.2	2.5	1.0	16.8	両面に光沢　左側縁かなり丸み部に擦痕
図V-38-38	52-38	包含層	o35	Ⅱ B	つまみ付きナイフ	1	完形	小型の縦長　つまみ部に対してナイフが垂直　両側縁ともに直線的　ナイフ先端はふらず平坦　つまみ部はナイフに比して2/1以上の大型三角形状	背面はつまみ部周辺のみ細い剥離　腹面は右側縁が細かな剥離　つまみ部周辺が粗い剥離	透明度のない黒味の強い黒曜石		4.5	2.5	0.8	7.7	
図V-38-39	52-39	包含層	j42	Ⅱ B	つまみ付きナイフ	1	完形	縦長　つまみ部に対してナイフ先端が右向き　左側縁大きくくびれ、右側縁内湾　ナイフ先端はふらない　つまみ部はナイフに比して小さい、棒状	ほぼ背面のみの片面加工　背面周縁剥離　右側縁に細かな剥離により刃部作出　つまみ部は両面から剥離	貫岩	10YR 5/2	4.5	3.0	0.6	6.7	
図V-38-40	52-40	包含層	i37	Ⅱ B	つまみ付きナイフ	1	完形	縦長　つまみ部に対してナイフ先端が右向き　左側縁外湾、右側縁内湾　ナイフ先端はやや尖る　つまみ部はナイフに比して小さ円形	ほぼ背面のみの片面加工　背面全体剥離　右側縁全体から剥離下部にかけて、細かな剥離で刃部作出　つまみ部は両面から抉りとるとに剥離	貫岩	10YR 1.7/1	7.2	3.4	0.8	15.0	
図V-38-41	52-41	包含層	q31	Ⅱ B	つまみ付きナイフ	1	完形	小型の縦長　つまみ部に対してナイフ先端が右向き　左側縁外湾、右側縁直線的　ナイフ先端はやや尖る　つまみ部はナイフに比してやや大型で低状	ほぼ背面のみの片面加工　背面全体剥離　両側縁に細かな剥離で刃部作出　ナイフ先端に抉入あり　つまみ部は両面から抉りとるとに剥離	2.5Y 6/3	4.7	1.9	0.7	5.3	
図V-38-42	52-42	包含層	k38	Ⅱ B	つまみ付きナイフ	1	完形	中型の縦長　つまみ部に対してナイフの先端が右向き　左側縁外湾、右側縁直線的　ナイフ先端がふらず尖る　つまみ部はナイフに比して大型、左右に長い楕円形	ほぼ背面のみの片面加工　背面全体剥離　両側縁下部に細かな剥離で刃部作出　つまみ部は抉りとるとに両面からの粗い剥離	貫岩	10YR 4/2	6.2	2.7	1.1	15.4	
図V-38-43	52-43	包含層	o33	Ⅱ B	つまみ付きナイフ	1	一部欠損（ナイフ先端）	小型の縦長　つまみ部に対してナイフ先端が左向き　左側縁大きく外湾、右側縁緩やかに外湾　つまみ部はナイフに比して小型、円形	背面のみの片面加工　背面は周縁のみ細かな剥離	貫岩	10YR 4/1	(4.6)	2.7	0.6	(5.8)	
図V-38-44	52-44	包含層	i42	Ⅱ B	つまみ付きナイフ	1	完形	小型の縦長　つまみ部に対してナイフ先端が左向き　左側縁大きく外湾、右側縁小さく外湾　ナイフ先端はやや尖る　つまみ部はナイフに比してやや大型、三角形状	ほぼ背面のみの片面加工　背面全体剥離　右側縁全体に細かな剥離　腹面は左側縁に部分的とつまみの抉入部のみ	黒縁透明度高い固体に黒味の強い黒曜石		5.2	2.5	0.8	9.1	
図V-38-45	52-45	包含層	r30	Ⅱ B	つまみ付きナイフ	1	完形	中型の縦長　つまみ部に対してナイフ先端が左向き　左側縁直線的なが外湾、右側縁直線的　ナイフ先端は直角に近い　つまみ部はナイフに比して大型で円形	ほぼ背面のみの片面加工　背面はつまみ部を含む周縁のみ剥離　右側縁に細かな剥離　つまみ部は抉入を含めて両面から	貫岩	10YR 5/2	7.0	4.7	1.3	17.7	
図V-38-46	52-46	包含層	n34	Ⅱ B	つまみ付きナイフ	1	一部欠損（ナイフ下部）	つまみ部に対してナイフが横長　左側縁直線的、右側縁大きく外湾　つまみ部はナイフに比して小型、菱形棒	背面のみの片面加工　両側縁、つまみ部に細かな剥離　左側縁は急角度な剥離	貫岩	2.5YS/2	(4.7)	4.1	(0.7)	(7.8)	
図V-38-47	52-47	包含層	n34	Ⅱ B	つまみ付きナイフ	1	完形	つまみ部に対してナイフが横長　左側縁外湾、右側縁直線的　つまみ部はナイフに比して大型で隅状	背面のみの片面加工　つまみ部を含む周縁のみ剥離　腹面はつまみ部と底縁の一部に剥離	貫岩	2.5YR/1	(5.3)	4.5	(0.6)	(11.8)	
図V-38-48	52-48	包含層	r30	Ⅱ B	つまみ付きナイフ	1	一部欠損（ナイフ下部）	つまみ部に対してナイフが幅広で長、右、左の三辺がある　右側縁と底縁の角は尖らない　つまみ部はナイフに比して中大型で横に広がる角状	背面は左側縁全体と右側縁下部に細かな剥離　腹面は底縁に部分的な剥離　つまみ部は抉入の両面から	貫岩	2.5YR/1	(5.5)	(4.2)	1.0	(13.6)	
図V-39-49	52-49	包含層	l40	Ⅱ B	スクレイパー	1	完形	小型の縦長　左側縁が外湾し、右側縁が直線的　末端がやや尖る	背面のみの片面加工　両縁ほぼ全体細かな剥離　末端から左側縁半ばにかけて急角度な剥離	貫岩	7.5YR0/1	4.6	3.0	1.5	12.9	
図V-39-50	52-50	包含層	k41	Ⅱ B	スクレイパー	1	完形	中型の縦長、薄い剥片　左側縁外湾、右側縁直線的　末端はややくびる	背面のみの片面加工　両縁全体に細かな剥離　特に下半部周縁は急角度な剥離	貫岩	10YR 5/2	6.0	4.0	1.6	42.0	
図V-39-51	52-51	包含層	s33	Ⅱ B	スクレイパー	1	完形	中型の縦長でへら状、薄手の剥片　左側縁外湾、右側縁直線的　末端が右向きで尖る	背面のみの片面加工　左側縁下部から右側縁全体にかけて細かな剥離　側縁は急角度な剥離、特に左側縁下部は直角に近い	貫岩	7.5RD/2	5.9	3.9	1.4	43.5	
図V-39-52	52-52	包含層	i35	Ⅱ B	スクレイパー	1	完形	大型の縦長　左側縁外湾、右側縁直線的　末端がやや尖る	ほぼ背面のみの片面加工　左側縁下部にやや細かな急角度の剥離　右側縁中央に腹面からの剥離で細長状に	貫岩	10YR0/1 黒 10YR5/2	7.5	5.3	1.8	63.1	
図V-39-53	52-53	包含層	l40	Ⅱ B	スクレイパー	1	完形	中型の縦長　左側縁外湾、右側縁直線的　末端が低状	ほぼ背面のみの片面加工　背面下半部全体剥離　側縁部は細かな剥離で刃部作出	貫岩	2.5YS/1	3.5	5.0	1.5	26.4	エンドスクレイパー
図V-39-54	52-54	包含層	j38	Ⅱ B	スクレイパー	1	完形	逆三角形様の縦長剥片が素材　左側縁直線的、右側縁外湾曲緩的　末端がやや尖る	背面は末端から右側縁全体にかけて細かな剥離　左側縁は部分的な剥離　腹面は右側縁に一部細かな剥離	貫岩	10YR 4/2	4.2	5.3	2.1	29.8	

表V-2　掲載石器一覧(B地区)

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	分類	点数	残存率	形状	調整・刺離	石材（色調）	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	その他
図V-39-55	53-55	包含層	J37	Ⅱ B	2	石斧	2 一部欠損（刃部）	薄手超小型(石のみ) 撥形(逆三角形状) 刃部幅広の円刃、両刃 側縁直取、稜線明瞭 基端平坦	全面全体研磨 表面に一部叩き痕	緑色岩 7.5Y7/2	7.5	2.3	0.8	18.4	2点接合
図V-39-56	53-56	包含層	J42	Ⅱ B	2	石斧	2 一部欠損（刃部）	薄手超小型(石のみ) 細やかな撥形(刃部広く、基部や狭い) 刃部幅広の円刃、両刃 側縁敷面の面取、稜線明瞭 基端刃部状(両頭斧)	全面全体研磨	緑色岩 7.5Y7/1	7.7	1.9	0.9	(21.5)	2点接合
図V-39-57	53-57	包含層	I40	Ⅱ B	1	石斧	1 完形	薄手超小型(石のみ) 原石の形状を残す短形形 刃部円刃、両刃 側縁明瞭な面取なし、稜線のみ 基端は原石のまま	全面全体研磨	緑色岩 2.5GY8/1	8.0	1.7	1.1	23.6	
図V-39-58	53-58	包含層	H42	Ⅱ B	5	石斧	1 完形	薄手超小型(石のみ) 原石の形状を残す短形形 刃部直刃、両刃 側縁面取なし、稜線も不明瞭 基端円形、原石形状	全面全体研磨	緑色岩 7.5Y4/2	8.1	2.3	1.1	30.9	
図V-39-59	53-59	包含層	d42	Ⅱ B	1	石斧	1 完形	超薄手超小型(石のみ) 原石素材形 刃部幅大、両刃 側縁面取、稜線明瞭 基端素材のまま	素材形離面 表面、刃部以外は表面側面全体研磨	緑色岩 2.5GY6/1	6.2	2.7	0.7	17.0	
図V-39-60	53-60	包含層	m35	Ⅱ B	1	石斧	1 完形	薄手小型 緩やかな撥形(刃部広く、基部や狭い) 刃部円刃、両刃 側縁わずかな面取、稜線不明瞭 基端直線	全体研磨 基端面に素材面側面に敲打痕残る	緑色岩 10Y4/1	7.8	4.0	1.4	69.5	
図V-40-61	53-61	包含層	g41	Ⅱ B	2	石斧	1 完形	薄手中型 撥形(三角形状) 刃部直刃、両刃 側縁面取、稜線明瞭 基端弧状、一部欠落	全面研磨	緑色岩 5GY5/1	8.8	6.4	1.1	97.2	
図V-40-62	53-62	包含層	i38	Ⅱ B	1	石斧	1 完形	薄手小型 薄石形状の残る短形形 刃部直刃、両刃 側縁面取なし、稜線不明瞭 基端原石形状	全面全体研磨	緑色岩 7.5Y5/2	8.5	3.4	1.2	50.9	
図V-40-63	53-63	包含層	i40	I B		石斧	1 完形	薄手小型 素材形状の残る短形形 刃部幅刃、両刃に近い 側縁面取、稜線明瞭 基端素材形状	全面全体研磨 側縁裏面に剥離痕 基端に素材面 刃部に剥離痕残る	泥岩 2.5Y3/1	9.1	3.5	1.6	82.0	
図V-40-64	53-64	包含層	j41	Ⅱ B	2	石斧	1 完形	薄手大型 撥形(刃部が広く基部が狭い) 刃部幅刃、両刃 側縁敷面取、稜線明瞭 基端弧状	全面全体研磨 一部剥離痕	緑色岩 5GY6/1	10.3	4.2	1.5	108.0	
図V-40-65	53-65	包含層	g38+39	Ⅱ B	2-1	石斧	2 完形	薄手大型 原石形状を残す短形形 刃部幅刃、両刃 側縁一部面取、稜線不明瞭 基端弧状、敲跡あり	全面研磨 一部剥離痕残る	緑色岩 10Y5/2	13.1	3.4	1.5	114.9	接合
図V-40-66	53-66	包含層	n38	Ⅱ B	3	石斧	1 部分片（刃部）	薄手大型 幅広な撥形 刃部円刃、両刃 側縁面取、稜線明瞭	全面研磨 側縁に一部剥離痕	緑色岩 2.5GY5/1	(6.1)	(5.1)	(1.4)	(55.6)	
図V-40-67	53-67	包含層	c43	Ⅱ B	2	石斧	1 部分片（刃部）	薄手大型 短形形 刃部直刃、両刃 側縁面取、稜線明瞭	全面研磨、一部剥離痕 上部敲打口、及び刃部に研磨後の敲打痕	緑色岩 5GY6/1	7.6	5.7	2.6	195.7	再加工、たたき石など転用か
図V-41-68	53-68	包含層	n37	Ⅱ B	1	石斧	1 部分片（基部）	薄手大型 撥形(基端細くなる) 側縁面取不明瞭、稜線不明瞭 断面楕円形	全面研磨(先況あり) 基端敲打痕(再加工？)	緑色岩 2.5GY6/1	10.8	5.1	3.2	(216.9)	
図V-41-69	53-69	包含層	n37	Ⅱ B	1	石斧	1 完形(未成品)	大型の断面三角錐が素材 撥形(基部細くなる) 側縁面取、稜線明瞭、刃部未成	刃部周辺以外全面研磨 刃部に剥離痕残る	緑色岩 5YB/2 2.5GY4/1	(11.3)	(3.8)	2.8	(188.3)	
図V-41-70	53-70	包含層	c34	Ⅱ B	2	たたき石	1 完形	扁平長楕円状が素材 断面楕円形	左右両側縁上部にくぼみの明瞭な敲打痕	片麻岩 10Y4/2 2.5Y8/2	18.1	7.4	3.1	764.3	
図V-41-71	53-71	包含層	h38	Ⅱ B	1～2	たたき石	1 完形	扁平楕円状が素材 断面D形 表面凸、裏面平滑	主要な敲打痕は側縁部 下端に最も大きな敲打痕 凸側表面に小さな敲打痕が散在	安山岩 10YR7/1	12.2	9.2	5.2	825.4	No.2 被熱あり
図V-41-72	53-72	包含層	f44	Ⅱ B	2-3	すり石	2 完形	大型の台形棒 断面三角形線が素材 側面及び上面は平滑 両端面は素材面	すり面は三角形の稜線のすったもの 断面は平坦で幅は狭い	安山岩 5Y6/1	11.9	20.1	5.9	1996.0	接合
図V-42-73	53-73	包含層	k39	Ⅱ B	2	すり石	1 完形	中型の台形棒 断面三角形線が素材	すり面は三角形の稜線から左端面の一部をすったもの 断面はやや大く、幅が広い 両側面上部に敲打、剥離痕、下部に平滑な面が残る	安山岩 5Y6/1	8.6	15.8	6.9	1475.0	形状及び加工痕によりと海道式石冠の可能性あり
図V-42-74	53-74	包含層	i40	Ⅱ B	4	すり石	1 一部欠損（すり面端部）	中型の台形棒 断面三角形線が素材	すり面は三角形の稜線と右端面の一部をすったもの 断面はややあく、幅広い 両側面及び上左端面は平滑	安山岩 5Y6/1	8.5	(14.7)	5.6	1055.3	
図V-42-75	53-75	包含層	f42	Ⅱ B	2	すり石	1 完形	小型で凹凸のある台形棒 断面三角形線が素材	すり面は三角形棒の稜線 断面はややえ味あり、幅広、側面、上面は凹凸のある素材面 左右両端面には敲打痕が残る	安山岩 7.5YR/1	8.2	11.8	7.7	963.3	転用の可能性あり
図V-42-76	53-76	包含層	i40	Ⅱ B	3	すり石	1 完形	大型の自然礫で扁平楕円線が素材 断面楕円形で表面は平滑	すり面は直線的な側縁の一部をすったもの 断面は平坦で幅は狭い	砂岩 2.5Y6/3	11.6	20.9	4.7	1650.0	
図V-42-77	54-77	包含層	i39	Ⅱ B	3	すり石	1 完形	中型の自然礫で扁平楕円線が素材 断面楕円形で表面は平滑	すり面は彼の側縁の一部をすったもの 断面は平坦で幅が狭い	砂岩 7.5Y5/1	8.8	15.3	4.2	730.4	
図V-42-78	54-78	包含層	g44	Ⅱ B	6	扁平打製石器	1 完形	扁平楕円線が素材	正面下平部、上端部に剥離 裏面下部及びと機部に剥離 上下側縁に刃部状のすり面を作出	砂岩 5Y5/2	10.6	17.6	2.5	537.7	扁平打製石器の未成品トレンチ

表V-2　掲載石器一覧(B地区)

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	分類	点数	残存率	形状	調整・刻離	石材	(色調)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	その他
図V-42-79	54-79	包含層	j42	Ⅱ B	3	礫石	1	完形	やや薄みのある角礫が素材	使用面は表面と裏面の一部表面は薄状の使用痕跡 裏面はやや平坦が残る使用痕跡	砂岩	2.5YS/3	6.4	6.5	2.3	92.1
図V-42-80	54-80	包含層	d36	Ⅱ B	6	礫石	1	完形	使用によってやや薄みのある逆三角形状になった	表裏及びその他もすり面として使用 表面は薄状、裏面は平坦、側面は面取	砂岩	2.5YE/3	7.2	4.7	2.0	55.8
図V-42-81	54-81	包含層	e45	Ⅱ B	2	礫石	1	完形	扁平な不整形礫が素材	表面の平坦面をすり面として使用 裏面、側面には素材面が残る	砂岩	2.5YS/2	12.7	10.1	2.1	240.2
図V-43-82	54-82	包含層	j42	Ⅱ B	4	石錘	1	完形	小型扁平楕円礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き	安山岩	5Y5/2	3.3	4.0	1.1	18.2
図V-43-83	54-83	包含層	j41	Ⅱ B	1	石錘	1	完形	小型扁平不整円礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き	砂岩	5BG5/1	4.8	4.9	1.1	34.5
図V-43-84	54-84	包含層	i41	Ⅱ B	2	石錘	1	完形	小型扁平円礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き	片麻岩	5GY3/1	4.2	4.3	1.0	30.1
図V-43-85	54-85	包含層	o36	Ⅱ B	1	石錘	1	完形	中型(幅2～10cm)円形扁平礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き	片麻岩	2.5YE/3 5Y2/1	6.4	6.3	1.4	91.5
図V-43-86	54-86	包含層	H42	Ⅱ B	2	石錘	1	完形	中型(幅2～10cm)扁平楕円礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き	片麻岩	5YR/1 5Y2/1	5.2	6.3	1.5	84.9	トレンチ
図V-43-87	54-87	包含層	p42	Ⅱ B	3	石錘	1	完形	中型(幅2～10cm)扁平長楕円礫が素材	長軸端の2か所に表面からの剥離と打ち欠き	砂岩	7.5YS/1	3.9	7.5	1.7	60.7	トレンチ
図V-43-88	54-88	包含層	q42	Ⅱ B	3	石錘	1	完形	中型(5～10cm)扁平楕円礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き	片麻岩	2.5YR/4	5.4	7.2	2.1	125.4
図V-43-89	54-89	包含層	g43	Ⅱ B	6	石錘	1	完形	大型(10cm～)扁平長楕円礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き	砂岩	5Y6/2	7.0	10.7	2.4	281.0	トレンチ
図V-43-90	54-90	包含層	j38	Ⅱ B	4	石錘	1	完形	大型(10cm～)扁平楕円礫が素材	長軸端の2か所に打ち欠き	片麻岩	7.5YS/2	8.3	11.4	2.5	399.3
図V-43-91	54-91	包含層	k41	Ⅱ B	2	石錘	1	完形	超大型(15cm～)扁平楕円礫が素材 ※たたき石など転用か	長軸端の2か所に打ち欠き主に表面からの剥離による上下側縁に小さな敲打跡	砂岩	5Y6/3	11.6	15.8	4.2	1043.1	裏表面一部に赤状付着
図V-43-92	54-92	包含層	o36	Ⅱ B	4	石錘	1	一部欠損(右側縁)	中型(5～10cm)扁平楕円礫が素材	長軸端の2か所、短軸端の2か所に打ち欠き 表面からと2か所の剥離、裏面からと2か所の剥離が残る	片麻岩	2.5Y7/3	8.6	(9.8)	(2.4)	(331.4)
図V-43-93	54-93	包含層	e42	Ⅱ B	5	石錘	1	一部欠損(右半部)	中型扁平楕円礫が素材	長軸端1か所、短軸端2か所に打ち欠き 表面に剥離2か所と敲打痕2か所 裏面には剥離痕が2か所残る	砂岩	2.5Y4/1	(8.0)	(9.8)	3.1	(342.7)	全体的に被熱
図V-36-94	54-94	包含層	g43	Ⅱ B	2	台石石皿	1	部分片(例縁を含む)	扁平な板状礫が素材 側縁が一部 裏面全体素材のまま残る	使用面は表面に1面 平滑なすり面がやや磨耗、傾斜に沿って擦痕	安山岩	7.5YE/1	(10.8)	(13.8)	(4.3)	(1064.8)	トレンチ
図V-36-95	54-95	包含層	j38	Ⅱ B	1	台石石皿	1	部分片(側縁を含む)	扁平な板状礫が素材 側縁の一部は素材のまま	表面は平滑で左半なすり面 裏面はやや平滑な面	安山岩	5Y6/3	(19.9)	(10.0)	(5.4)	(1118.9)

	51-1			2～3	穂	1	完形	円礫・扁平			片麻岩	10YR6/3～5Y4/2			237.7	13
	51-2				穂	1	完形	円礫・扁平			片麻岩	2.5Y6/3～5Y3/2			208.8	9
	51-3				穂	2	完形	円礫・扁平			砂岩	2.5Y7/3			179.0	15
	51-4			2～3	穂	1	完形	円礫・扁平		被熱	砂岩	10YR6/2			237.3	18
				3	穂片	1										28
		遺物集中	O-4	3	穂片	1										29
	51-5			2～3	穂片	1	完形	円礫・扁平			砂岩	2.5YE/3			74.0	6
				3	穂片	1		円礫・扁平							46.2	26
	51-6			2～3	穂	1	完形	楕円礫・扁平		被熱	片麻岩	2.5Y7/2～5Y3/2			279.3	11
	51-7				穂	1	完形	楕円礫・扁平			砂岩	2.5Y5/2			293.3	4
	51-8				穂	2	完形	円礫・扁平			安山岩	2.5YB/1			251.0	2
	51-9				穂	3	完形	円礫		被熱	砂岩	5YR5/2			496.9	3

Ⅰ　試掘調査と出土遺物

挿図番号	図版番号	試掘坑		種別	分類	点数	部位	表面	内面	胎土その他	表	(色調)	裏	重量	その他
図Ⅰ-2-1	54-1	H30試掘坑	K27	土器	Ⅱb	1	口縁部破片	口縁は緩やかな波状、貼り付けにより肥厚するRリム、枝のロ縁には、半円形の刻み列と、複節の縄紋文、地文は複節のRL原体による斜行縄文	横ナデによる調整 平滑	極小粒の砂を5％	5YR6/4～7.5YR4/1	5YR5/6	156.9	IV-33-3に掲載	
		包含層	P16 Ⅱ B2			1	口縁突起片	突起部は貼付紐と平円形の刻み列	突起部分は縦ナデ調整						
2-2	54-2	試掘坑	26	土器	Ⅱb	1	胴部片	斜行縄文(RL)	ナデ調整による平滑		7.5YR5/4	10YR3/1	18.1		
2-3	54-3	試掘坑	2	土器	Ⅱa-2	1	胴部片	斜行縄文(RL)	ナデ調整による平滑		7.5YR5/3	7.5YR5/4	25.5		
				種別	分類	点数	部位	形状	調整・刻離	石材	(色調)	長さ	幅	厚さ	重量
2-4	54-4	試掘坑	22	石器	石鏃	1	一部欠損	有茎凸基	両面に刻離調整	黒曜石		(1.8)	(1.5)	0.5	(0.9)
2-5	54-5	試掘坑	2	石器	つまみ付ナイフ	1	一部欠損	ナイフ先端が張面	両面に刻離調整	被熱した黒曜石		(5.2)	2.2	1.0	(10.0)
2-6	54-6	試掘坑	2	石器	石錘	1	部分	中型扁平円礫が素材	縁の長軸端に打ち欠き1か所	片麻岩	2.5YB/1	(7.6)	(7.1)	(2.6)	(171.7)
2-7	54-7	試掘坑	2	石器	石錘	1	完形	やや大型の扁平円礫が素材	縁の長軸端に打ち欠き2か所	砂岩	5Y5/3	(11.1)	12.7	2.3	446.7

表Ⅴ-2　掲載石器一覧(B地区)

第Ⅵ章　分析の成果

1　試料採取と分析内容（表Ⅵ-1　図Ⅵ-1）

本調査では、4種の自然科学的分析及び鑑定を専門機関等に依頼して実施した。内容は放射性炭素年代測定、炭化材樹種の同定、動物遺存体（骨）の分析、黒曜石の原産地分析である。

放射性炭素年代測定、炭化材樹種、動物遺存体（骨）の同定については、土壌採取の上フローテーションによって得られた試料を対象とし、黒曜石原産地分析については出土した黒曜石製石器を試料とした。

フローテーション試料については、焼土などの土から採取した土壌サンプルを対象にフローテーション法による土壌水洗を行った。作業はPROJECT SEEDS MODEL TYPE-1を使用し、篩のサイズは浮遊：2.00mm、0.425mm、沈殿2.00mmのものを用いた。得られた微細の遺物については土器、フレイク、骨片、炭化物に分類した。このうち炭化物について年代測定及び炭化材樹種、骨の同定試料として重量、容積等を計測して提出した。なお試料の内容、採取位置については一覧にまとめた（表Ⅵ-1　図Ⅵ-1）。

2　高丘8遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

1　測定対象試料

高丘8遺跡は、北海道苫小牧市高丘41番地1および18に所在し、標高約50mの河岸段丘上に立地する。測定対象試料は、焼土や遺物包含層中で検出された炭化物ブロックから採取された炭化物15点である（表1）。

試料No.1、7、9、10は縄文時代中期、No.2～6、8は縄文時代前期と推定されている。No.11～14は、上下で検出された火山灰（上位にTa-d2、下位に黄褐色ローム）から縄文時代早期、No.15も上下の火山灰との関係から旧石器時代と推定されている。

2　測定の意義

試料が出土した遺構、層の年代を明らかにする。

3　化学処理工程

（1）メス・ピンセットを使い、土等の付着物、混入物を取り除く。

（2）酸-アルカリ-酸（AAA:Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。

（3）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

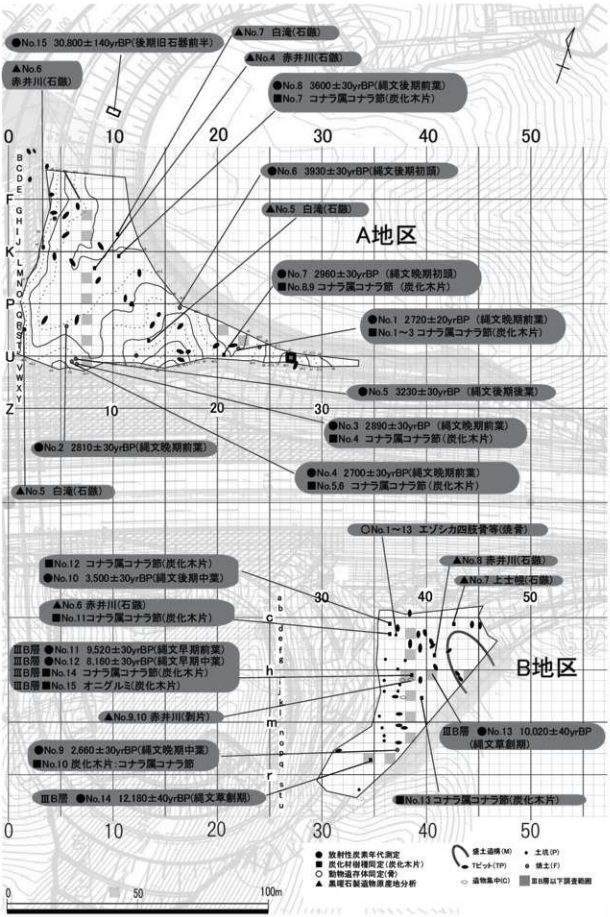
（4）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（5）精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（6）グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

リストNo. 資料番号	種別	地区	遺構及び グリッド	遺構等種別	層位	重量 (g)	点数	推定時期	分析結果等			
1　放射性炭素年代測定((株)加速器分析研究所)												
No.01　TA8-01	炭化物	A	F-1	焼土	ⅡB1	0.03		縄文中期	2,720	±20	晩期前葉	
No.02　TA8-02	炭化物	A	F-2	焼土	ⅡB1	0.06		縄文前期	2,810	±30	晩期前葉	
No.03　TA8-03	炭化物	A	F-3	焼土	ⅡB1	0.46		縄文前期	2,890	±30	晩期前葉	
No.04　TA8-04	炭化物	A	F-4	焼土	ⅡB1	0.04		縄文前期	2,700	±30	晩期中葉	
No.05　TA8-05	炭化物	A	F-5	焼土	ⅡB1	0.04		縄文前期	3,230	±30	後期後葉	
No.06　TA8-06	炭化物	A	F-6	焼土	ⅡB1	0.09		縄文前期	3,930	±30	後期初頭	
No.07　TA8-07	炭化物	A	CB-2	炭化物集中	ⅡB上面	0.09		縄文中期	2,960	±30	晩期初頭	
No.08　TA8-08	炭化物	A	CB-1	炭化物集中	ⅡB	0.28		縄文前期	3,600	±30	後期前葉	
No.09　TA8-09	炭化物	B	F-1	焼土	ⅡB1	0.07		縄文中期	2,660	±30	晩期中葉	
No.10　TA8-10	炭化物	B	c36	炭化物塊	ⅡB4	0.35		縄文中期	3,500	±30	後期中葉	
No.11　TA8-11	炭化物	B	CB-1	炭化物集中	ⅢB	0.19		縄文早期	9,520	±30	早期前葉	
No.12　TA8-12	炭化物	B	CB-1	炭化物集中	ⅢB	0.08		縄文早期	8,160	±30	早期中葉	
No.13　TA8-13	炭化物	B	h40	炭化物集中	ⅢB	0.07		縄文早期	10,020	±30	草創期	
No.14　TA8-14	炭化物	B	p34	炭化物塊	ⅢB	0.06		縄文早期	12,180	±40	草創期	
No.15　TA8-15	炭化物	A	調査区外 北壁直請	炭化物塊	ローム層	0.22		旧石器	30,800	±140	後期旧石器 前半	
2　炭化材樹種同定　((株)古環境研究所)												
No.01　TA8-01	炭化木片	A	F-1	焼土	ⅡB	0.10	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.02　TA8-02	炭化木片	A	F-1	焼土	ⅡB	0.11	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.03　TA8-03	炭化木片	A	F-1	焼土	ⅡB	0.08	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.04　TA8-04	炭化木片	A	F-3	焼土	ⅡB	1.20	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.05　TA8-05	炭化木片	A	F-4	焼土	ⅡB1	0.21	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.06　TA8-06	炭化木片	A	F-4	焼土	ⅡB1	0.18	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.07　TA8-07	炭化木片	A	CB-1	炭化物集中	ⅡB	0.82	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.08　TA8-08	炭化木片	A	CB-2	炭化物集中	ⅡB1	0.32	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.09　TA8-09	炭化木片	A	CB-2	炭化物集中	ⅡB1	0.24	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.10　TA8-10	炭化木片	B	F-1	焼土	ⅡB1	2.42	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.11　TA8-11	炭化木片	B	d36	炭化物塊	ⅡB5	0.50	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.12　TA8-12	炭化木片	B	c36	炭化物塊	ⅡB5	1.83	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.13　TA8-13	炭化木片	B	j39	炭化物塊	ⅡB1	0.40	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.14　TA8-14	炭化木片	B	CB-1	炭化物集中	ⅢB	0.30	1	縄文前期	コナラ属コナラ節			
No.15　TA8-15	炭化木片	B	CB-1	炭化物集中	ⅢB	0.66	1	縄文前期	オニグルミ			
3　動物遺存体同定((株)パリノ・サーヴェイ)												
No.01　TA8-01	骨	B	d36	土坑P-13上面	ⅡB上層	2.59	1	縄文前期	哺乳類　四肢骨			
No.02　TA8-02	骨	B	d36	土坑P-13上面	ⅡB上層	1.04	1	縄文前期	エゾシカ　角片			
No.03　TA8-03	骨	B	d36	土坑P-13上面	ⅡB上層	1.15	1	縄文前期	哺乳類　部位不明			
No.04　TA8-04	骨	B	d36	土坑P-13上面	ⅡB上層	0.80	1	縄文前期	哺乳類　部位不明			
No.05　TA8-05	骨	B	d36	土坑P-13上面	ⅡB上層	0.62	1	縄文前期	エゾシカ　中手骨/中足骨?			
No.06　TA8-06	骨	B	d36	土坑P-13上面	ⅡB上層	0.61	1	縄文前期	エゾシカ　中手骨/中足骨			
No.07　TA8-07	骨	B	c36	土坑P-13上面	ⅡB上層	2.83	1	縄文前期	エゾシカ　中足骨片			
No.08　TA8-08	骨	B	c36	土坑P-13上面	ⅡB上層	1.54	1	縄文前期	エゾシカ　角?			
No.09　TA8-09	骨	B	c36	土坑P-13上面	ⅡB上層	0.81	1	縄文前期	哺乳類　部位不明			
No.10　TA8-10	骨	B	c36	土坑P-13上面	ⅡB上層	0.82	1	縄文前期	哺乳類　四肢骨			
No.11　TA8-11	骨	B	d36	土坑P-13	覆土	2.40	50	縄文前期	哺乳類　歯牙片			
No.12　TA8-12	骨	B	d36	土坑P-13	覆土	4.02	50	縄文前期	哺乳類　歯牙片			
No.13　TA8-13	骨	B	d36	土坑P-13	覆土	1.32	30	縄文前期	哺乳類　部位不明			
4　黒曜石製遺物原産地分析((株)パレオ・ラボ)									長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	原産地
No.01　TA8-01	石鏃	A	J03	遺物包含層	ⅡB4	0.84	1	縄文前期	2.4	1.8	0.3	赤井川
No.02　TA8-02	石鏃	A	I10	遺物包含層	ⅡB4	1.91	1	縄文前期	3.4	1.8	0.3	白滝
No.03　TA8-03	石鏃	A	R01	遺物包含層	ⅡB2	1.47	1	縄文前期	2.6	1.1	0.3	赤井川
No.04　TA8-04	石鏃	A	L08	遺物包含層	ⅡB1	1.51	1	縄文前期	3.4	1.3	0.3	赤井川
No.05　TA8-05	石槍	A	S13	遺物包含層	ⅡB1	16.45	1	縄文前期	6.8	3.0	0.9	白滝
No.06　TA8-06	石鏃	B	d36	遺物包含層	ⅡB4	0.77	1	縄文前期	2.6	1.3	0.2	赤井川
No.07　TA8-07	石鏃	B	c42	遺物包含層	ⅡB1	1.53	1	縄文前期	2.9	1.8	0.3	上士幌
No.08　TA8-08	石鏃	B	f40	遺物包含層	ⅡB1	0.76	1	縄文前期	4.0	1.1	0.1	赤井川
No.09　TA8-09	剥片	B	C-2	剥片集中2	ⅡB1	3.74	1	縄文前期	2.4	2.4	0.5	赤井川
No.10　TA8-10	剥片	B	C-2	剥片集中2	ⅡB1	8.50	1	縄文前期	5.5	2.4	1.1	赤井川

表Ⅵ-1　分析試料及び成果一覧



図Ⅵ-1 分析試料採取地点と成果一覧

4　測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5　算出方法

（1）δ^{13}Cは、試料炭素の^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（2）^{14}C年代（Libby Age:yrBP）は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C年代はδ^{13}Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。^{14}C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（±1σ）は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

（3）pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cによって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

（4）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差（1σ=68.2%）あるいは2標準偏差（2σ=95.4%）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C補正を行い、下1桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.3較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

6　測定結果

測定結果を表1、2に示す。また、複数の試料の年代値を比較できるようにマルチプロット図を図2に示している。

試料No.1～10の^{14}C年代は、3930±30yrBP（試料No.6）から2660±30yrBP（試料No.9）の間にある。暦年較正年代（1σ）は、最も古いNo.6が4425～4298cal BPの間に3つの範囲、最も新しいNo.9が2778～2752cal BPの範囲で示される。No.6が縄文時代後期初頭頃、No.9が縄文時代晩期中葉頃に相当し（小林2017、小林編2008）、全体的に推定される年代より新しい結果となった。

試料No.11～14の^{14}C年代は、12180±40yrBP（試料No.14）から8160±30yrBP（試料No.12）の間にある。暦年較正年代（1σ）は、最も古いNo.14が14130～14001cal BPの範囲、最も新しいNo.12

が9122～9028cal BPの範囲で示される。No. 14が縄文時代草創期の隆線文土器等の時期頃、No. 12が縄文時代早期中葉頃に相当し（小林2017、小林編2008）、かなり年代幅があるが、おおむね推定される年代の範囲内と見られる。

試料No. 15の^{14}C年代は30800±140yrBP、暦年較正年代（1σ）は34872～34576cal BPの範囲で示され、後期旧石器時代前半期頃に相当する（工藤2012）。おおむね推定と一致する年代値である。

試料の炭素含有率は、すべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林謙一 2017 縄文時代の実年代 ―土器型式編年と炭素14年代―, 同成社

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

工藤雄一郎 2012 旧石器・縄文時代の環境文化史 高精度放射性炭素年代と考古学, 新泉社

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C補正値）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C (‰) (AMS)	δ^{13}C補正あり Libby Age (yrBP)	δ^{13}C補正あり pMC (%)
IAAA-182364	No. 1 (TA8-01)	A地区 焼土（A地区F-1） ⅡB1層	炭化物	AaA	-28.38 ± 0.34	2,720 ± 20	71.30 ± 0.22
IAAA-182365	No. 2 (TA8-02)	A地区 焼土（A地区F-2） ⅡB1層	炭化物	AAA	-28.66 ± 0.49	2,810 ± 30	70.47 ± 0.22
IAAA-182366	No. 3 (TA8-03)	A地区 焼土（A地区F-3） ⅡB1層	炭化物	AAA	-28.16 ± 0.36	2,890 ± 30	69.81 ± 0.22
IAAA-182367	No. 4 (TA8-04)	A地区 焼土（A地区F-4） ⅡB1層	炭化物	AAA	-28.85 ± 0.48	2,700 ± 30	71.49 ± 0.22
IAAA-182368	No. 5 (TA8-05)	A地区 焼土（A地区F-5） ⅡB1層	炭化物	AAA	-29.64 ± 0.37	3,230 ± 30	66.91 ± 0.21
IAAA-182369	No. 6 (TA8-06)	A地区 焼土（A地区F-6） ⅡB1層	炭化物	AAA	-29.50 ± 0.43	3,930 ± 30	61.27 ± 0.20
IAAA-182370	No. 7 (TA8-07)	A地区 炭化物ブロック（A地区CB-2） ⅡB上面	炭化物	AAA	-25.98 ± 0.50	2,960 ± 30	69.14 ± 0.22
IAAA-182371	No. 8 (TA8-08)	A地区 炭化物ブロック（A地区CB-1） ⅡB層	炭化物	AAA	-27.67 ± 0.47	3,600 ± 30	63.87 ± 0.21
IAAA-182372	No. 9 (TA8-09)	B地区 焼土（B地区F-1） ⅡB1層	炭化物	AAA	-29.50 ± 0.44	2,660 ± 30	71.80 ± 0.22
IAAA-182373	No. 10 (TA8-10)	B地区 炭化物ブロック（B地区c36） ⅡB4層	炭化物	AAA	-28.08 ± 0.47	3,500 ± 30	64.69 ± 0.21
IAAA-182374	No. 11 (TA8-11)	B地区 炭化物ブロック（B地区CB-1） ⅢB層	炭化物	AAA	-27.95 ± 0.35	9,520 ± 30	30.57 ± 0.13
IAAA-182375	No. 12 (TA8-12)	B地区 炭化物ブロック（B地区CB-1） ⅢB層	炭化物	AAA	-28.30 ± 0.36	8,160 ± 30	36.22 ± 0.15
IAAA-182376	No. 13 (TA8-13)	B地区 炭化物ブロック（B地区h40） ⅢB層	炭化物	AAA	-26.49 ± 0.42	10,020 ± 40	28.73 ± 0.13

IAAA-182377	No. 14 (TA8-14)	B 地区　炭化物ブロック (B 地区 p34)　ⅢB 層	炭化物	AaA	**-26.68 ± 0.44**	**12,180 ± 40**	**21.96 ± 0.12**
IAAA-182378	No. 15 (TA8-15)	A 地区　炭化物ブロック (A 地区 北側露頂)　ローム層	炭化物	AaA	**-24.88 ± 0.38**	**30,800 ± 140**	**2.16 ± 0.04**

【IAA 登録番号：#9439】

表 2　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）

測定番号	δ^{13}C 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-182364	2,770 ± 20	70.80 ± 0.21	2,717 ± 24	2844calBP - 2780calBP (68.2%)	2856calBP - 2764calBP (95.4%)
IAAA-182365	2,870 ± 20	69.94 ± 0.21	2,811 ± 25	2945calBP - 2878calBP (68.2%)	2976calBP - 2850calBP (95.4%)
IAAA-182366	2,940 ± 20	69.35 ± 0.21	2,887 ± 25	3060calBP - 2971calBP (68.2%)	3141calBP - 3126calBP (2.0%) 3110calBP - 3093calBP (2.1%) 3079calBP - 2942calBP (90.6%) 2937calBP - 2929calBP (0.7%)
IAAA-182367	2,760 ± 20	70.92 ± 0.21	2,696 ± 25	2842calBP - 2826calBP (16.2%) 2797calBP - 2760calBP (52.0%)	2849calBP - 2756calBP (95.4%)
IAAA-182368	3,300 ± 20	66.28 ± 0.20	3,227 ± 25	3470calBP - 3440calBP (32.2%) 3433calBP - 3400calBP (36.0%)	3551calBP - 3533calBP (4.0%) 3492calBP - 3381calBP (91.4%)
IAAA-182369	4,010 ± 30	60.71 ± 0.19	3,934 ± 26	4425calBP - 4384calBP (35.2%) 4370calBP - 4352calBP (12.5%) 4328calBP - 4298calBP (20.5%)	4508calBP - 4485calBP (3.2%) 4440calBP - 4287calBP (91.2%) 4268calBP - 4259calBP (1.0%)
IAAA-182370	2,980 ± 20	69.00 ± 0.20	2,964 ± 25	3169calBP - 3076calBP (68.2%)	3214calBP - 3057calBP (94.2%) 3048calBP - 3036calBP (1.2%)
IAAA-182371	3,650 ± 20	63.52 ± 0.19	3,601 ± 25	3963calBP - 3947calBP (13.1%) 3928calBP - 3869calBP (55.1%)	3974calBP - 3844calBP (95.4%)
IAAA-182372	2,740 ± 20	71.14 ± 0.21	2,661 ± 25	2778calBP - 2752calBP (68.2%)	2843calBP - 2821calBP (5.8%) 2797calBP - 2745calBP (89.6%)
IAAA-182373	3,550 ± 20	64.28 ± 0.20	3,498 ± 25	3830calBP - 3815calBP (11.0%) 3798calBP - 3722calBP (57.2%)	3841calBP - 3696calBP (95.4%)
IAAA-182374	9,570 ± 30	30.39 ± 0.12	9,519 ± 32	11063calBP - 11028calBP (16.4%) 11002calBP - 10969calBP (13.2%) 10791calBP - 10713calBP (38.6%)	11071calBP - 10950calBP (41.1%) 10869calBP - 10697calBP (54.3%)
IAAA-182375	8,210 ± 30	35.98 ± 0.14	8,157 ± 32	9122calBP - 9028calBP (68.2%)	9247calBP - 9172calBP (12.9%) 9141calBP - 9011calBP (82.5%)
IAAA-182376	10,040 ± 40	28.64 ± 0.13	10,020 ± 36	11611calBP - 11518calBP (30.7%) 11509calBP - 11396calBP (37.5%)	11710calBP - 11323calBP (95.4%)
IAAA-182377	12,200 ± 40	21.89 ± 0.11	12,176 ± 42	14130calBP - 14001calBP (68.2%)	14205calBP - 13927calBP (95.4%)
IAAA-182378	30,800 ± 140	2.16 ± 0.04	30,798 ± 141	34872calBP - 34576calBP (68.2%)	35033calBP - 34401calBP (95.4%)

【参考値】

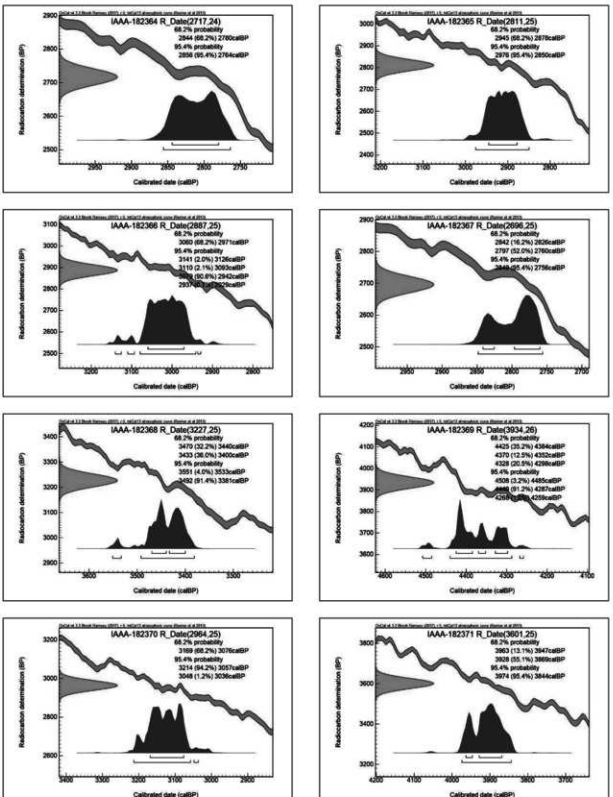
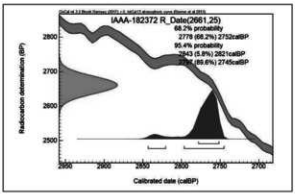
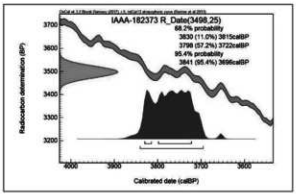
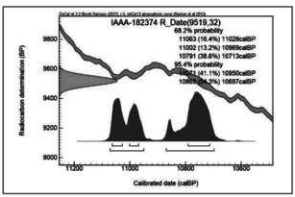
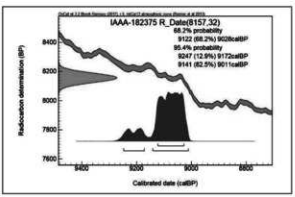


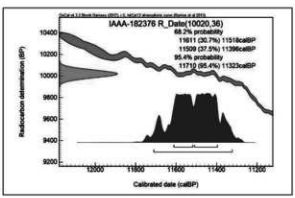
図１　暦年較正年代グラフ（参考）

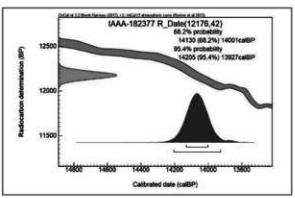












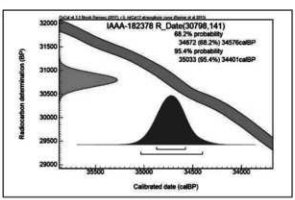


図１　暦年較正年代グラフ（参考）

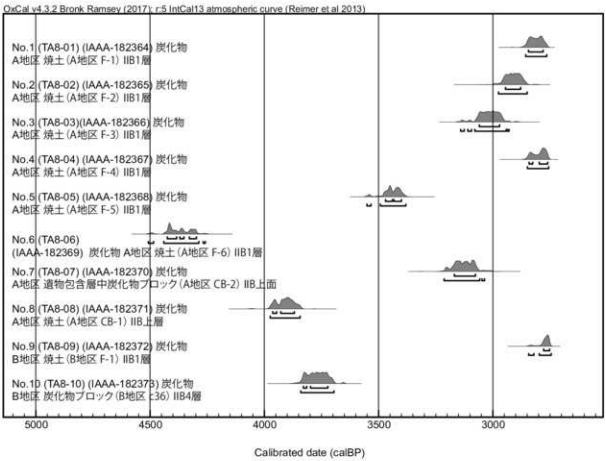


図２（1）　暦年較正年代グラフ（マルチプロット図、参考）

縄文時代後期から晩期の試料を示した。

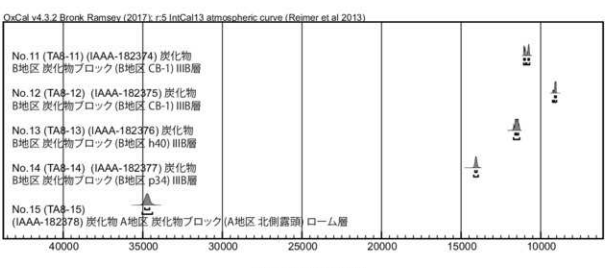


図２（2）　暦年較正年代グラフ（マルチプロット図、参考）

旧石器時代から縄文時代早期の試料を示した。

3　苫小牧市高丘８遺跡における炭化樹種同定報告

株式会社 古環境研究所

1．はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、木材構造から概ね属レベルの同定が可能である。また木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能である。本報告では、高丘８遺跡の縄文時代とされる遺構から採取あるいは覆土のフローテーションによって採取された炭化材を対象として樹種同定を実施し、当時の木材利用と周辺植生について検討する。

2．試料

試料は、縄文時代の焼土および炭化物集中から採取あるいはフローテーションによって得られた炭化材15点（№１～15）である。

3．方法

樹種同定は、以下の方法で行った。各試料について、横断面（木口）・放射断面（柾目）・接線断面（板目）の３断面の割断面を作製し、双眼実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡（低真空）で木材組織の種類や配列を観察する。観察された特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）およびRichter他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

4．結果

樹種同定結果を表１に示す。炭化材は広葉樹２分類群（コナラ属コナラ節・オニグルミ）に同定された。各分類群の解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属コナラ節　*Quercus sect. Prinus*　ブナ科

年輪の始めに大きな道管が配列する環孔材。孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に径を減じる。孔圏外の道管は多数が集まって火炎状に配列し、年輪界に向かって経を漸減させる。道管の穿孔板は単穿孔板、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・オニグルミ　*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitamu.　クルミ科クルミ属

散孔材。道管は、散孔材としては比較的大径となる。道管は単独または２～３個が放射方向に複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織はほぼ同性、１-３細胞幅、１-40細胞高。

5．考察

炭化材は、ⅡB層の焼土と炭化物集中、ⅢB層の炭化物集中から検出されており、燃料材等の一部が残存したと考えられる。これらの炭化材には、コナラ節とオニグルミの２種類が確認された。コナラ節は、北海道ではミズナラが広く分布するほか、コナラやカシワも生育している。いずれも比較的日当たりの良い土地に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い。オニグルミは、渓畔等に生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度が高い。

表1　樹種同定結果

番号	試料番号	地区	遺構等	遺構種別	層位	状態	種類	
№1	TA8-01	A	F-1	焼土	ⅡB	破片	コナラ属コナラ節	*Quercus* sect. *Primus*
№2	TA8-02	A	F-1	焼土	ⅡB	柾目状	コナラ属コナラ節	*Quercus* sect. *Primus*
№3	TA8-03	A	F-1	焼土	ⅡB	柾目状	コナラ属コナラ節	*Quercus* sect. *Primus*
№4	TA8-04	A	F-3	焼土	ⅡB	節破片	コナラ属コナラ節	*Quercus* sect. *Primus*
№5	TA8-05	A	F-4	焼土	ⅡB1	柾目状	コナラ属コナラ節	*Quercus* sect. *Primus*
№6	TA8-06	A	F-4	焼土	ⅡB1	柾目状	コナラ属コナラ節	*Quercus* sect. *Primus*
№7	TA8-07	A	CB-1	炭化物集中	ⅡB	柾目状	コナラ属コナラ節	*Quercus* sect. *Primus*
№8	TA8-08	A	CB-2	炭化物集中	ⅡB1	柾目状	コナラ属コナラ節	*Quercus* sect. *Primus*
№9	TA8-09	A	CB-2	炭化物集中	ⅡB1	柾目状	コナラ属コナラ節	*Quercus* sect. *Primus*
№10	TA8-10	B	F-1	焼土	ⅡB1	柾目状	コナラ属コナラ節	*Quercus* sect. *Primus*
№11	TA8-11	B	d36	炭化物塊	ⅡB5	柾目状	コナラ属コナラ節	*Quercus* sect. *Primus*
№12	TA8-12	B	c36	炭化物塊	ⅡB5	節破片	コナラ属コナラ節	*Quercus* sect. *Primus*
№13	TA8-13	B	j39	炭化物塊	ⅡB1	柾目状	コナラ属コナラ節	*Quercus* sect. *Primus*
№14	TA8-14	B	CB-1	炭化物集中	ⅢB	柾目状	コナラ属コナラ節	*Quercus* sect. *Primus*
№15	TA8-15	B	CB-1	炭化物集中	ⅢB	破片	オニグルミ	*Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Komatsu) Kitamu.

層位別、遺構別にみると、ⅡB層の焼土と炭化物集中の炭化材は、全てコナラ節である。一方、ⅢB層の炭化物集中ではコナラ節とオニグルミが認められ、少なくとも2種類が利用されたことが推定される。材質的には、硬い材質の木材の利用が伺えるが、硬い材質の木材は一般に火付きが悪いが持続性が有り、軽軟な材質の木材に比べて燃え残り易い。焼土や炭化物集中の炭化材についても、燃焼時に燃え残り易い硬い材質の種類が残った可能性がある。

本地域では、樽前d軽石（約9000年前）～樽前c軽石（約3000年前）の期間は、入江を取りまく低地にイネ科、カヤツリグサ科、シダの生育する湿地、台地斜面にミズナラ、シラカンバ、ハルニレ、オニグルミ、サワシバ、ハシバミ等の広葉樹林、台地上にはカラマツソウ、キク、ワレモコウ、カヤツリグサ科等の多い草原が見られたと指摘されている（小野ほか、1991）。今回確認された種類は、推定されている古植生とも整合的である。

引用文献

林　昭三, 1991, 日本産木材　顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.

伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.

伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.

伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.

伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.

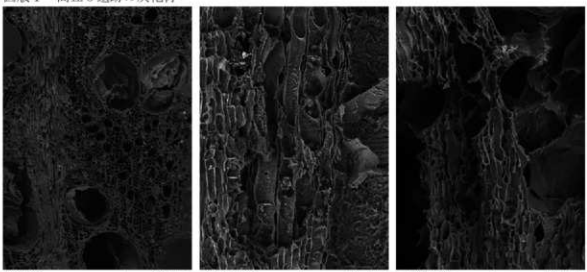
伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.

小野有五・五十嵐八枝子, 1991, 北海道の自然史　氷期の森林を旅する. 北海道大学図書刊行会, 219p.

島地　謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.

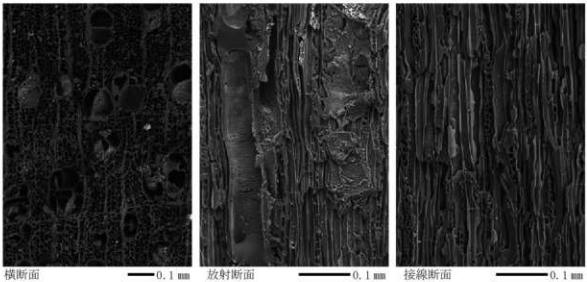
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(編), 1998, 広葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト, 伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩(日本語版監修), 海青社, 122p.【Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)*IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*】

図版１　高丘８遺跡の炭化材



横断面　0.1㎜　放射断面　0.1㎜　接線断面　0.1㎜

コナラ属コナラ節　No.10



横断面　0.1㎜　放射断面　0.1㎜　接線断面　0.1㎜

オニグルミ　No.15

4　高丘８遺跡の出土骨

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

高丘８遺跡（北海道苫小牧市高丘に所在）は、約４万年前の支笏火山の大規模火砕流噴火により形成された更新世の火砕流台地とされる千歳台地（国土地理院, 2010）に位置し、苫小牧インター線道路改良工事に伴って発掘調査が行われた。

本分析調査では、縄文時代前期の土坑包含層や覆土のハンドピックおよびフローテーションで得られた骨について、その種類を明らかにし、当時の動物質資源の利用について検討する。

１．試料

試料は、B地区 P-13覆土上面遺物包含層（ⅡB上層）から出土した骨10点（No. 1～10）、および覆土から出土した骨３点（No. 11～13）、合計13点である。なお、No. 1～10は、ハンドピックサンプルから選別されており、No. 11～13はフローテーションサンプルから抽出され微細骨片中に小型骨数点を含む。なお、試料の詳細は、結果とともに表示する。

２．分析方法

試料を肉眼および実体顕微鏡下で観察し、形態学的な特徴から種・部位を特定する。

３．結果

結果を表１に示す。

ハンドピックサンプルから選別されたNo. 1～10は、小型の破片で、いずれも焼けている。種類・部位を明らかにできた試料は、No. 2のエゾシカ角片、No. 6のエゾシカ中手骨／中足骨、No. 7のエゾシカ中足骨片である。また、No. 5はエゾシカの中手骨／中足骨の可能性があり、No. 8はエゾシカの角の可能性がある。それ以外は、No. 1・10が哺乳綱の四肢骨、No. 3・４・９が哺乳綱の部位不明破片である。

フローテーションサンプルから抽出されたNo. 11～13は、焼けてない骨と焼けた骨が混在する。焼けてない骨では哺乳綱の歯牙片と部位不明破片、焼けた骨では哺乳綱の部位不明破片がみられた。

４．考察

確認された種類・部位は、ニホンジカの亜種であるエゾシカの角・中足骨・中手骨／中足骨がみられた。なお、No. 11～12で確認された歯牙片は、小片のため種類を明らかにできないが、エゾシカに由来する可能性もある。土坑覆土から検出されていること、および数量的に極めて少ないことを考えると、解体された後の全身骨格がここで焼かれたものではないと思われる。No. 11～13で検出される焼けてない骨は、火元から離れた場所であった可能性がある。

エゾシカは、北海道全土に分布しており、ニホンジカの中では最も体が大きいとされる。森林とその周辺に棲息し、多雪地域では冬に雪の少ない地域に季節移動するとされる（阿部, 2000）。北海道内部で縄文時代の遺跡からシカが検出される事例は珍しくない。当時、遺跡の周辺部に棲息しており、捕獲の対象となっていたと考えられる。食料資源、あるいは骨角器の素材などとして、部分的に利用されたものが火中に投棄されたものと思われる。

表1. 骨同定結果

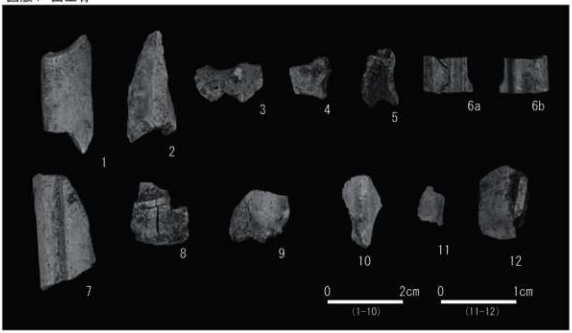
リスト No.	試料番号	地区名	遺構/グリッド	遺構等	層位	種別	種類	部位	状態等	点数	重量(g)	被熱	備考
No.1	TA8-01	B	d36	土坑P-13	ⅡB上層	上面遺物包含層	哺乳綱	四肢骨	破片	1	2.59	○	脛骨?
No.2	TA8-02	B	d36	土坑P-13	ⅡB上層	上面遺物包含層	エゾシカ	角	破片	1	1.04	○	
No.3	TA8-03	B	d36	土坑P-13	ⅡB上層	上面遺物包含層	哺乳綱	不明	破片	1	1.15	○	
No.4	TA8-04	B	d36	土坑P-13	ⅡB上層	上面遺物包含層	哺乳綱	不明	破片	1	0.80	○	
No.5	TA8-05	B	d36	土坑P-13	ⅡB上層	上面遺物包含層	エゾシカ?	中手骨/中足骨?	遠位端片?	1	0.62	○	
No.6	TA8-06	B	d36	土坑P-13	ⅡB上層	上面遺物包含層	エゾシカ	中手骨/中足骨	破片	1	0.61	○	
No.7	TA8-07	B	d36	土坑P-13	ⅡB上層	上面遺物包含層	エゾシカ	中足骨	破片	1	2.83	○	
No.8	TA8-08	B	d36	土坑P-13	ⅡB上層	上面遺物包含層	エゾシカ?	角?	破片	1	1.54	○	
No.9	TA8-09	B	d36	土坑P-13	ⅡB上層	上面遺物包含層	哺乳綱	不明	破片	1	0.81	○	
No.10	TA8-10	B	d36	土坑P-13	ⅡB上層	上面遺物包含層	哺乳綱	四肢骨	破片	1	0.82	○	
No.11	TA8-11	B	d36	土坑P-13	覆土		哺乳綱	歯牙	破片	3	0.03		
								不明	破片	39 +	0.38		
										24	1.40	○	
							砂礫				0.57		
No.12	TA8-12	B	d36	土坑P-13	覆土		哺乳綱	歯牙	破片	10	0.35		
								不明	破片	31 +	1.17		
										9	1.27	○	
							砂礫				1.17		
No.13	TA8-13	B	d36	土坑P-13	覆土		哺乳綱	不明	破片	12 +	0.13		
										19	1.17	○	

引用文献

阿部　永, 2000, 日本産哺乳類頭骨図説. 北海道大学図書刊行会, 279p.

国土地理院, 2010, 土地条件調査解説書「苫小牧地区」, 14p.

図版1　出土骨



1.哺乳綱四肢骨(B 区 d36 土坑 P-13；ⅡB 上層)　2.エゾシカ角(B 区 d36 土坑 P-13；ⅡB 上層)

3.哺乳綱不明(B 区 d36 土坑 P-13；ⅡB 上層)　4.哺乳綱不明(B 区 d36 土坑 P-13；ⅡB 上層)

5.エゾシカ?中手骨/中足骨?(B 区 d36 土坑 P-13；ⅡB 上層)　6.エゾシカ中手骨/中足骨(B 区 d36 土坑 P-13；ⅡB 上層)

7.エゾシカ中足骨(B 区 d36 土坑 P-13；ⅡB 上層)　8.エゾシカ?角?(B 区 d36 土坑 P-13；ⅡB 上層)

9.哺乳綱不明(B 区 d36 土坑 P-13；ⅡB 上層)　10.哺乳綱四肢骨(B 区 d36 土坑 P-13；ⅡB 上層)

11.哺乳綱歯牙(B 区 d36 土坑 P-13；覆土)　12.哺乳綱歯牙(B 区 d36 土坑 P-13；覆土)

5　高丘８遺跡出土黒曜石製石器の産地推定

竹原弘展（パレオ・ラボ）

１．はじめに

苫小牧市に所在する高丘８遺跡から出土した黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

２．試料と方法

分析対象は、黒曜石製石器10点である（表１）。時期は、いずれも縄文時代前期とみられている。試料は、測定前に超音波洗浄器やメラミンフォーム製スポンジを用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

表1　分析対象

試料番号	種別	調査区	ｸﾞﾘｯﾄﾞ	層位	法量(g, cm)				推定時期
					重量	長さ	幅	厚さ	
TA8-01	石鏃	A	J03	Ⅱ B4	0. 84	2. 4	1. 8	0. 3	縄文時代前期
TA8-02	石鏃	A	I10	Ⅱ B4	1. 91	3. 4	1. 8	0. 3	
TA8-03	石鏃	A	R01	Ⅱ B2	1. 47	2. 6	1. 1	0. 3	
TA8-04	石鏃	A	L08	Ⅱ B1	1. 51	3. 4	1. 3	0. 3	
TA8-05	石槍	A	S13	Ⅱ B1	16. 45	6. 8	3. 0	0. 9	
TA8-06	石鏃	B	d36	Ⅱ B4	0. 77	2. 6	1. 3	0. 2	
TA8-07	石鏃	B	c42	Ⅱ B1	1. 53	2. 9	1. 8	0. 3	
TA8-08	石鏃	B	f40	Ⅱ B1	0. 76	4. 0	1. 1	0. 1	
TA8-09	剥片	B	剥片集中2	Ⅱ B1	3. 74	2. 4	2. 4	0. 5	
TA8-10	剥片	B	剥片集中2	Ⅱ B1	8. 50	5. 5	2. 4	1. 1	

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA1200VXを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器はSDD検出器である。測定条件は、測定時間100sec、照射径８mm、電圧50kV、電流1000μA、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタにPb測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた（望月,1999など）。本方法では、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム（K）、マンガン（Mn）、鉄（Fe）、ルビジウム（Rb）、ストロンチウム（Sr）、イットリウム（Y）、ジルコニウム（Zr）の合計７元素のX線強度（cps:count per second）について、以下に示す指標値を計算する。

１）Rb分率＝Rb強度×100/（Rb強度＋Sr強度＋Y強度＋Zr強度）
２）Sr分率＝Sr強度×100/（Rb強度＋Sr強度＋Y強度＋Zr強度）
３）Mn強度×100/Fe強度
４）log（Fe強度/K強度）

そして、これらの指標値を用いた２つの判別図（横軸Rb分率－縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率－縦軸log（Fe強度/K強度）の判別図）を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定する。

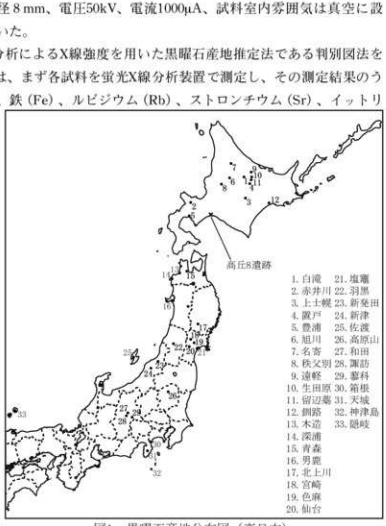


図1　黒曜石産地分布図（東日本）

この方法は、できる限り蛍光X線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせて指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合、log（Fe強度/K強度）の値が減少する（望月, 1999）。試料の測定面には、なるべく平滑な面を選んだ。

原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表２に判別群一覧とそれぞれの原石の採取地点および点数を、図１に各原石の採取地の分布図を示す。

３．分析結果

表３に石器の測定値および算出した指標値を、図２と図３に黒曜石原石の判別図に石器の指標値をプロットした図を示す。視覚的にわかりやすくするため、図では各判別群を楕円で取り囲んだ。

分析の結果、２点が白滝１群（北海道、白滝エリア）、７点が赤井川群（北海道、赤井川エリア）、１点が上士幌群（北海道、上士幌エリア）の範囲にプロットされた。

赤井川群と上士幌群の図２、３の判別図では、一部に重複があるため、区別が困難な場合がある。そこで、以下に示すY分率を算出した。

Y分率＝Y強度×100/（Rb強度＋Sr強度＋Y強度＋Zr強度）

赤井川群および上士幌群の原石および石器について、横軸Y分率、縦軸Mn強度×100/Fe強度をプロットした判別図を図４に示す。図４においても、７点が赤井川群、１点が上士幌群と判断できる。

表２　東日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名		原石採取地
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂(43), 八号沢露頭(15), 7の沢川支流(2), 1K露頭(10), 十勝石沢露頭直下河床(11), アジサイの滝露頭(10)	赤石山山頂, 八号沢露頭, 八号沢, 黒曜の沢, 幅加林道(36)
		白滝2		
	赤井川	赤井川	畑川・土石川(24)	
	上士幌	上士幌	十勝三股(4), タウシュベツ川右岸(42), タウシュベツ川左岸(10), 十三ノ沢(32)	
	置戸	置戸山	置戸山(5)	
		所山	所山(5)	
	豊浦	豊浦	豊泉(10)	
	旭川	旭川	近文台(8), 雨紛台(2)	
	名寄	名寄	忠烈布川（19）	
	秩父別	秩父別1	中山(65)	
		秩父別2		
		秩父別3		
	遠軽	遠軽	社名淵川河床(2)	
	生田原	生田原	仁田布川河床(16)	
	留辺蘂	留辺蘂1	ケショマップ川河床(9)	
		留辺蘂2		
	銅路	銅路	銅路市営スキー場(9), 阿寒川右岸(2), 阿寒川左岸(6)	
青森	木造	出来島	出来島海岸(15), 鶴ヶ坂（10）	
	深浦	八森山	岡崎浜(7), 八森山公園(8)	
	青森	青森	天田内川(6)	
秋田	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)	
		脇本	脇本海岸(4)	
岩手	北上川	北上折居1	北上川(9), 真城（33）	
		北上折居2		
		北上折居3		
宮城	宮崎	湯ノ倉	湯ノ倉(40)	
	色麻	根岸	根岸(40)	
	仙台	秋保1	士蔵(18)	
		秋保2		
	塩竈	塩竈	塩竈(10)	
山形	羽黒	月山	月山荘前(24), 天越沢（10）	
		櫛引	たらのき代（19）	
新潟	新発田	板山	板山牧場(10)	
	新津	金津	金津(7)	
	佐渡	真光寺	沢分(4)	
栃木	高原山	甘湯沢	甘湯沢(22)	
長野	和田	七曲沢	七曲沢(3), 宮川(3), 枝持沢(3)	
		西餅屋	芙蓉パーライト土砂集積場(30)	
		鷹山	鷹山(14), 東餅屋(54)	
		小深沢	小深沢(42)	
		土屋橋1	土屋橋西(10)	
		土屋橋2	新和田トンネル北(20), 土屋橋北西(58), 土屋橋西(1)	
		古峠	和田峠トンネル上(28), 古峠(38), 和田峠スキー場(28)	
		ブドウ沢	ブドウ沢(20)	
		牧ヶ沢	牧ヶ沢下(20)	
		高松沢	高松沢(19)	
	諏訪	星ヶ台	星ヶ台(35), 星ヶ塔(20)	
	蓼科	冷山	冷山(20), 麦草峠(20), 麦草峠東(20)	
神奈川	箱根	芦ノ湯	芦ノ湯(20)	
		畑宿	畑宿(51)	
静岡		鍛冶屋	鍛冶屋(20)	
		上多賀	上多賀(20)	
	天城	柏峠	柏峠(20)	
東京	神津島	恩馳島	恩馳島(27)	
		砂糖崎	砂糖崎(20)	
島根	隠岐	久見	久見パーライト中(6), 久見採掘現場(5)	
		箕浦	箕浦海岸(3), 加茂(4), 岸浜(3)	

表３　測定値および産地推定結果

試料番号	K強度(cps)	Mn強度(cps)	Fe強度(cps)	Rb強度(cps)	Sr強度(cps)	Y強度(cps)	Zr強度(cps)	Rb分率	Mn*100/Fe	Sr分率	log Fe/K	Y分率	判別群	エリア	試料番号
TA8-01	309.1	110.3	2019.5	777.5	356.7	380.5	784.5	33.82	5.46	15.51	0.82	16.55	赤井川	赤井川	TA8-01
TA8-02	294.5	90.3	2073.8	841.1	217.9	402.6	661.3	39.62	4.36	10.26	0.85	18.97	白滝1	白滝	TA8-02
TA8-03	282.6	99.4	1766.8	714.6	335.0	358.4	756.0	33.02	5.63	15.48	0.80	16.56	赤井川	赤井川	TA8-03
TA8-04	281.9	98.0	1800.1	707.0	331.4	347.7	730.4	33.41	5.45	15.66	0.81	16.43	赤井川	赤井川	TA8-04
TA8-05	301.8	93.2	2079.0	827.9	213.7	394.6	648.5	39.71	4.48	10.25	0.84	18.93	白滝1	白滝	TA8-05
TA8-06	227.2	77.2	1482.7	545.4	247.9	262.7	539.4	34.19	5.21	15.54	0.81	16.47	赤井川	赤井川	TA8-06
TA8-07	278.6	91.2	1931.4	815.8	355.9	428.3	779.3	34.29	4.72	14.96	0.84	18.00	上士幌	上士幌	TA8-07
TA8-08	264.6	96.1	1750.4	685.5	321.3	335.8	695.1	33.64	5.49	15.77	0.82	16.48	赤井川	赤井川	TA8-08
TA8-09	302.2	106.2	1876.1	726.9	334.3	355.5	740.8	33.69	5.66	15.49	0.79	16.48	赤井川	赤井川	TA8-09
TA8-10	321.4	114.1	2042.6	743.4	341.8	367.2	753.5	33.70	5.59	15.50	0.80	16.65	赤井川	赤井川	TA8-10

表３に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。

４．おわりに

高丘８遺跡より出土した縄文時代前期の黒曜石製石器10点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、２点が白滝、７点が赤井川、１点が上士幌エリア産と推定された。

引用文献

望月明彦（1999）上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定．大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書２―上和田城山遺跡篇―」：172-179, 大和市教育委員会．

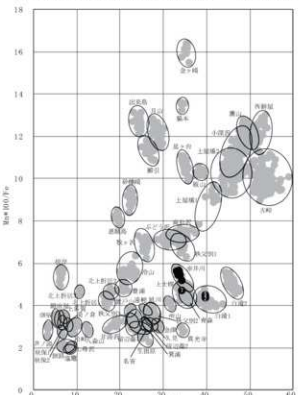


図２　黒曜石産地推定判別図（1）

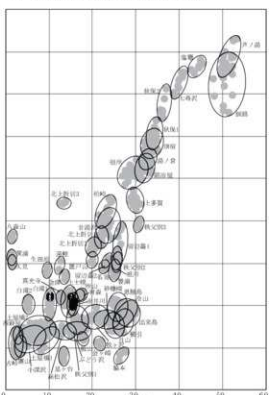


図３　黒曜石産地推定判別図（2）

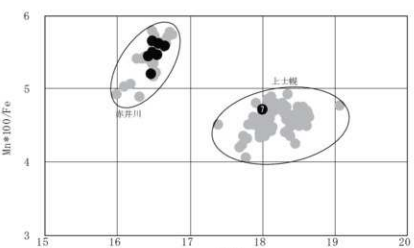


図４　黒曜石産地推定判別図（3）

第Ⅶ章　まとめ

1　調査成果概要（表Ⅰ-1　Ⅶ-1）

遺構は盛土遺構２か所、土坑15基、Tピット50基、焼土８か所、溝状遺構１条、遺物集中７か所、掘り上げ土17か所、炭化物集中10か所を確認した。またⅢB層の調査では柱穴状小ピット100か所、炭化物集中１か所を確認した。

この遺構については時期的変遷、盛土遺構の特徴、Tピット、掘り上げ土の特徴、ⅢB層の遺構についてまとめた。

遺物は総点数29,171点出土した。その内訳は土器が4,000点、石器が21,104点、礫が4,067点である。土器はⅣc類が1,722点と最も多く、次にⅡa-２類が1,244点、Ⅲb類が1,020点である。遺跡の主体的な時期は縄文前期前半で、これに縄文中期後半が続くと考えられる。後期後葉の土器は1,722点のうち、１個体とみられるものが1,721点であるが、焼土、炭化材の時期とも重なり、この時期の何らかの生活痕跡を示すものと思われる。

石器は石鏃・石槍・石錐・つまみ付ナイフ（石匙）・スクレイパー・Rフレイク・Uフレイク・剥片・石斧・たたき石・すり石・石錘・砥石・台石石皿などである。定形的な石器のうち、最も多いものでは石鏃が216点、次につまみ付ナイフが113点、石斧が96点、石錐が50点である。

礫は完形が1,177点あり、このうち円礫が561点、そのうち扁平円礫が378点ある。また、扁平円礫の石材には片麻岩が220点と多く、ほかに安山岩や砂岩がある。

これらの遺物については、特にⅡa-２類の土器の特徴、石器組成についての特徴、さらに分析結果をもとに考えられることと問題点についてまとめた。

2　遺構について

（1）遺構の時期

遺構の時期については、出土土器から盛土遺構が縄文前期前半、Tピットが縄文中期後半～縄文後期初頭と考えられる。土坑はA地区の２基が縄文時代のもの、B地区の13基が縄文前期前半と縄文中期後半とした。溝状遺構については詳細を特定できないが縄文時代のもので、縄文中期の環濠に類する可能性も考えられる。遺物集中は周辺の土器出土状況から縄文前期前半と縄文中期末のものとがある。焼土、炭化物集中は炭化物の年代測定により縄文後期から晩期にかけてのものと明らかになった。掘り上げ土はTピットに伴うものであれば同時期のものと考えられた。

また、ⅢB層の調査では遺物が出土しなかったが、確認された柱穴状小ピットと炭化物集中は縄文草創期から早期の頃のものと考えられる。

上記をまとめると以下のように整理できる。

i　縄文早期　AB両地区で柱穴状小ピットが残され、B地区では炭化物集中が残された可能性がある

ii　縄文前期前半　B地区で盛土遺構、土坑、遺物集中が残される。

iii　縄文中期後半　AB両地区でTピットが築かれ、掘り上げ土も残される。B地区では盛土遺構の一部を壊してTピットが築かれる。また、中期末にかけて遺物集中が残される。

iv　縄文後期末から晩期　AB両地区で焼土、炭化物集中が残される。Ta-c降下の際に生じた可能性もある。

（２）縄文前期前半の盛土遺構

盛土遺構M-１はB地区の北東部で確認された。その範囲は調査区外南側に及ぶものと見られ、今回確認されたのはその一部分と思われる。ここでは下記のような特徴が観察された。

ⅰ　土器の出土がⅡa-２類に限定されたことから、遺構の時期も縄文前期前半に限定されること。

ⅱ　盛土を構成するのは再堆積層１層のみで、層厚は10cm以下のTa-d1、Ta-d2を含む混土からなる。焼土や炭化物などは少ない。

ⅲ　再堆積層には土器、石器、礫が数多く含まれ、中でも礫が最も多い。

ⅳ　一部は中期後半のTピット構築時に壊された形跡がある。

ⅴ　同じ調査区内にはⅡa-２類土器を含むまとまった遺物の出土がいくつかあり、そのうち最も数の多い遺物集中をM-２とした。したがって規模の小さな盛土遺構が存在する可能性もある。

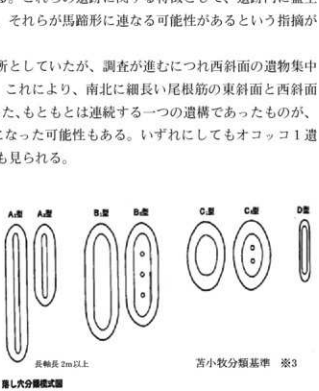
縄文前期前半の盛土遺構としては周辺では千歳市美々貝塚北遺跡、厚真町幌内５遺跡、オコッコ１遺跡、新ひだか町ショップ遺跡、静内町中野台地A遺跡などが挙げられる。また、苫小牧市美沢４遺跡、静川22遺跡、岩見沢市冷水遺跡にも貝塚など盛土遺構に相当する同時期の遺構が確認されており、その分布は石狩低地帯から胆振日高地域に広がる。これらの遺跡に関する特徴として、遺跡内に盛土遺構や貝塚などが２か所、またはそれ以上あり、それらが馬蹄形に連なる可能性があるという指摘がある（北埋350）。

ⅴに記したように調査当初は盛土遺構を１か所としていたが、調査が進むにつれ西斜面の遺物集中が盛土遺構に類するものと考えられた（M-２）。これにより、南北に細長い尾根筋の東斜面と西斜面の２か所に盛土遺構が築かれた可能性がある。また、もともとは連続する一つの遺構であったものが、中期後半にTピットが構築された結果、２か所になった可能性もある。いずれにしてもオコッコ１遺跡や美々貝塚北遺跡などと同様の傾向がここにも見られる。

（３）Tピットと覆土、掘り上げ土（図Ⅶ-１）

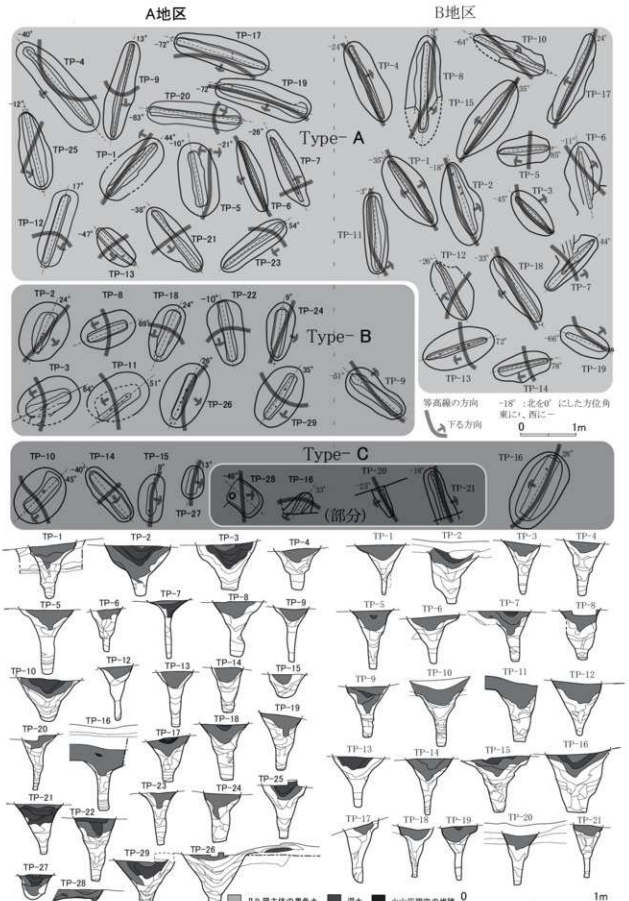
本調査で検出されたTピットについて形状の分類と土層断面に見られた覆土の状況を整理した。

Tピットの形態分類については、苫小牧市埋蔵文化財センターの分類（右図※３）に準じて行い、平面形がA類が溝状、B類が長楕円、C類が楕円形とした。今回確認されたTピットはA地区が29、Bが21基の計50基である。



分類の結果、A類が最も多い31基（A14、B17）、続くB類が10基（Ａ９、Ｂ１）、C類が最も少なく11基（Ａ４、Ｂ１）である。A類の中には長軸長が３ｍを超えるものが11基（Ａ６、Ｂ５）あり、最も長いもので3.6m（A　TP-４）を測るなど大型のものが目立った。また、A地区のTP-２、３、10、11、13、15、26、29、B地区のTP-２、13、16の底面には柱穴状の小ピットが見られた（苫小牧基準のB２、C２型）。Tピットの重複もA地区１か所（TP-３と11）。B地区１か所（TP-６と７）の２か所で見られた。A地区のものがB類同士、B地区がA類同士の重複であった。

短軸の断面形態にはY字形、V字形、U字形の三種が見られた。AB両地区ともにY字形が殆どで、V字形はA地区のTP-10、21、B地区のTP-12、U字形はA地区のTP-14、27、B地区のTP-16に見られた。いずれもC類相当の平面形態によるところが大きい。


A地区
B地区
Type- A
Type- B
Type- C
等高線の方向
下る方向
-18°：北を0°にした方位角
東に+、西に-
0
1m
(部分)
Ⅱ8層主体の黒色土
混土
火山灰限定の堆積

図Ⅶ-1　Tピット集成図

覆土の堆積状態については、各Tピットの覆土上層部分に注目した。崩落土や流入土による堆積が多い中、今回の調査では人為的と思われる痕跡が多く見られた。特にA地区のTP-17覆土上層には黄褐色ロームとTa-d2が分別された状態で確認され、土または火山灰の色が何らかの意味で意識的に埋められている可能性も考えられる。このように覆土上層に明瞭な混土または火山灰等が含まれるのはA地区で11基、B地区で8基の計19基見られた（図Ⅶ-2下半部）。この中にはⅡB層主体の黒色土中にあるものと崩落土や流入土が堆積した最上層に蓋をしたようなかたちの堆積も見られ、堆積の進み具合と人為的な堆積とに時間差があることもうかがえた。

さらに今回「掘り上げ土」とした遺構についても同様のことが見られた。伴う遺構を特定できないか複数の遺構のものと思われる掘り上げ土を対象としAB両地区で確認された。いずれも内容の異なる混土やローム、火山灰がブロックにまとまり、それらが意図的に分別された状態も確認できた。

当センターの調査事例では伊達市西関内3遺跡で確認されたTPを覆うように出土した「盛土」がこれに類する可能性がある。またTPからⅢb類の土器が出土したことから年代特定の根拠としても考えられる（北埋351）。

（4）ⅢB層の調査成果について

今回の調査では、AB両地区合わせて柱穴状小ピット100基、炭化物集中1か所を確認した。ⅢB層は上層のTa-d2と下層の黄褐色ロームとに挟まれ、縄文草創期から早期の間に形成されたものと考えられており、見つかったピットや炭化物集中はこの時期のものと思われる。出土した炭化物の年代測定結果（Ⅵ章-2）からも12180±40yrBP（試料No. 14）から8160±30yrBP（試料No. 12）の間にある。No. 14が縄文時代草創期の隆線文土器等の時期頃、No. 12が縄文時代早期中葉頃に相当する。

市内における同時期の出土例には有珠川2遺跡と有珠川5遺跡の調査があり、いずれもⅢB層から遺構、遺物が出土した。有珠川2遺跡は本遺跡の西約3. 7kmにあり、昭和53年に高速道路建設に伴い調査が行われた。遺構は土坑3基が確認され、遺物は縄文早期前半の土器、石器類も出土した（北海道1979）。特にTa-d2下から出土した土器は、苫小牧市内最古の土器の一つとされ、貝殻文や尖底を特徴とする「有珠川2式」が設定された。また、本遺跡の西約3. 8kmにある有珠川5遺跡では平成19年に調査が行われ、焼土跡4基、縄文早期前半の土器、石器類が確認された（苫小牧2008）。

他に縄文早期前半の土器が出土する遺跡は市内では美沢1遺跡、美沢東6遺跡、静川22遺跡があるがこれらはいずれもⅡB層下部からの出土とされる。

本遺跡でのⅢB層調査は、遺物は出土しなかったが、周辺の事例を見るに人為的な遺構の可能性が十分にあると考えられる。また、年代測定の結果については、ⅢB層の年代特定を検討するうえで有意義なものと思われる。

3　遺物について

（1）縄文前期前半の土器

本遺跡で最も多く出土したものである。当センターの分類基準でⅡa-2類としたもので、既知の土器型式では「静内中野式」「中野式」に相当する。盛土遺構や土坑、遺物集中などの遺構から出土した土器の大半を占めるが、破片資料のみで、口縁から底部までの全体を復元できたものはない。総点数は1, 244点で、口縁が175点、胴部が1, 064点、底部付近を含む底部片が5点と、底部が極端に少ない。これらの土器片については以下のような特徴が見られる」。

ⅰ　胎土に繊維、または燃糸を含んだ痕跡が見られる土器片が多い。

土器の表面にまで胎土の繊維痕、燃糸痕が露出した状態のものが多い。繊維は植物の茎を利用した

細い筋状が束になっているものと思われ、また撚紐は縄文原体で言うLのみが見られた。またこれらの土器の内面は丁寧なナデ調整により平滑なものが多い。

ⅱ　ⅰの土器の中には細分類において「表層剥離」としたものが含まれる。

「表層剥離」が見られた土器は斜行縄文の地文が残る部分と組み合わせになることが多く、特に口縁部の斜行縄文、胴上半部の「表層剥離」といった組み合わせが見られた。地文と「表層剥離」面との間に殆ど段差がないものがあること、表が縄文部分の内面は「表層剥離」、表が「表層剥離」部分の内面は縄文、またはナデ調整という表裏が逆転する傾向も見られた。これらは土器の製作手法、工程に由来するものと思われる。

ⅲ　素材そのものに滑らかな質感があり（「スベスベ」）、表面内面が黒色化、または薄い黒色の炭化物状の付着がある土器片がある。また中には比重の軽いものもある。胎土に中～大粒の礫を多く含み、礫は滑石または片麻岩と思われる小片が見られる。

ⅳ　器形は平縁の深鉢形が多いと推測される。底部は１点のみで尖底である。文様は粗い粒の太い斜行縄文が殆どである。

各土器片にはこれらの特徴のいくつかが見られ、これまでに「静内中野式」「中野式」について指摘されてきた特徴に通じている。

ⅰは「繊維土器」と言われる縄文前期の土器の特徴の一つで、ⅰⅱが相俟って表面がボロボロの一見異様ともいえるところがこの土器の最大の特徴である。また、胎土に含まれる撚紐の撚りがLということや、施文に用いたものと異なるという点も共通である。

ⅱは今回特に多く目立ったもので、当初はすべて胎土の焼成不良による剥落と見ていたが、観察により土器の表面または内面の一部に繊維状のものを巻き付けたまま焼成したようにも見え、通常の剥離、剥落（内部剥落）とは質の異なるものと思われた。「静内中野式」の特徴の一つに「型塗成形」の製法で作られた可能性が指摘されており（河野広道ほか1954　竹田1976）、繊維でつくられた籠状のものに貼り付けたかたちも想定される。

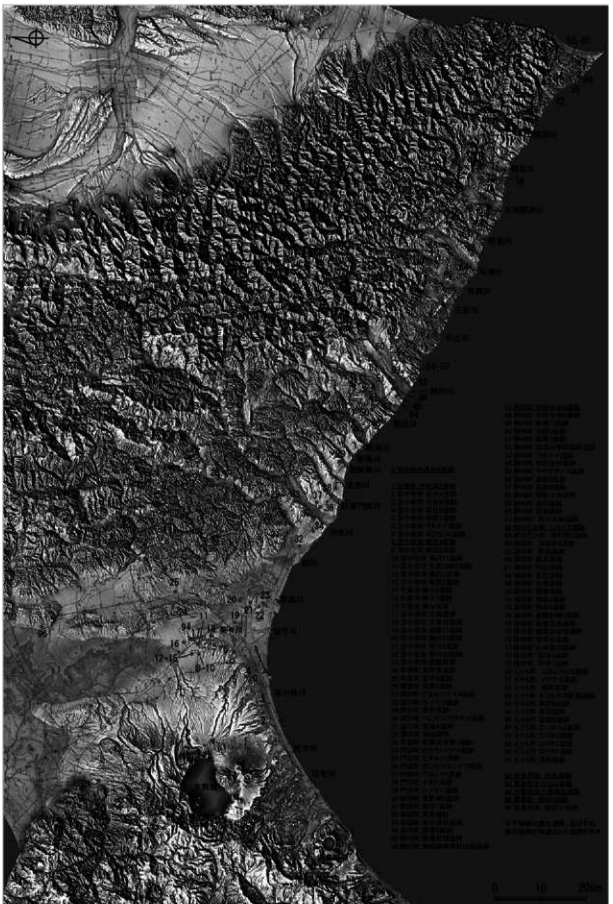
ⅲは胎土に混和材として滑石を混入した土器と同じ特徴が見られる（西脇2013）。スベスベした独特の質感は滑石の混入を一因とする「特殊胎土」（皆川1990）によるものと考えられ、前期の縄文尖底土器や道東北の後期土器などに見られる。その出土分布については滑石を産する神威古潭変成帯との関係も指摘されている。

ⅳは「静内中野式」土器の基本的な属性に係るものである。器形は砲弾形で平縁、尖底で厚手である。地文には太い斜行縄文や羽状縄文、撚糸文がある。本調査は少数の破片資料のみであるが、ほぼこの範疇に収まるものと思われる。

このような「静内中野式」が出土土器の大半を占める遺跡には、苫小牧市柏原17遺跡B地区、美沢５遺跡、美沢16遺跡、厚真町幌内５遺跡、オコッコ１遺跡、静内町中野台地A遺跡、新ひだか町ショップ遺跡、岩見沢市冷水遺跡、浦河町栄丘遺跡などが挙げられる。その分布は石狩低地帯の東縁から胆振日高の太平洋沿岸へと帯状に及ぶが（図Ⅶ-２）、この分布は先に掲げた縄文前期前半の盛土遺構の分布にも重なるところもあり、縄文海進の影響や背景となる日高山地のような資源環境との関わりを検討する必要がある。

（２）出土石器群の組成に見る特徴

縄文前期前半、上記のような「静内中野式」期の遺跡で出土する石器器種に偏りがあることはすでに多くの指摘がなされてきた。古くは浦河町栄丘遺跡（高橋・畑1976）で石鏃、石小刀（つまみ付ナイフ）、石錐が他の同時期の遺跡と比較して多いことが指摘されている。最近のオコッコ１遺跡の報



図Ⅶ-2　静内中野式土器出土遺跡分布図

※地形図はカシミール3D　スーパー地形セットにより作成したものである。

告（北埋356）では同時期の遺跡が１：たたき石が多いタイプ（オコッコ１遺跡、幌内５）、２：石鏃、石錐が多いタイプ（栄丘、美沢５）、３：石錘が多いタイプ（美沢４、ショップ、中野台地A）に分類されている。

本遺跡出土の定形石器の内比率が高いのは石鏃（約33%）、次につまみ付ナイフ（17%）、石斧（15%）、石錐（7.5%）、石錘（７%）、たたき石（６%）、スクレイパー（5.7%）の順である。石鏃が圧倒し、つまみ付ナイフと石斧が多く、石錐、石錘、たたき石がやや多いという傾向になる。オコッコ１遺跡の分類では２に相当するものと思われるが、その比率にはかなりの差があり、同様に考えることは難しい。栄丘、オコッコ１遺跡のいずれでも指摘されているように石器組成比は縄文前期前半または静内中野式に共通するというよりは、遺跡の性格、または資源環境の差によるところが大きいと思われる。その点について本遺跡の構成は狩猟、漁撈のいずれも可能な環境を背景にしていることを示唆しているものとも考えられる。

４　分析結果について（表Ⅵ-１、図Ⅵ-１）

分析については放射性炭素年代測定、炭化材樹種同定、動物遺存体（骨）の同定、黒曜石原産地分析を行った。各結果及びサンプル採取位置等については表Ⅵ-１、図Ⅵ-１にまとめた。

年代測定については、焼土及び炭化物集中を対象に行ったが、想定した縄文前期、中期からは大きく離れ、すべて後期から晩期にかけてという結果になった。該当する遺構には出土遺物がないため、そのまま当該期の遺構と判断することも可能である。

いずれにしても本遺跡の主要な時期である縄文前期前半、中期後半の年代を全く得ることができなかったことは、サンプルの選択方法などに問題があったものと思われ、反省点である。その一方でⅢB層調査、露頭のローム層出土の炭化物で得られた結果は想定に寄り添うものであった。

炭化材樹種同定については、年代測定同様に焼土、炭化物集中から得たものですべてコナラ属コナラ節のものであった。年代測定の結果に重ねるとTa-c降下直前、縄文後晩期の植生を反映したものと考えられる。ⅢB層調査では炭化物集中１か所からコナラ節とオニグルミが認められたことにより、縄文早期にこの２種の木材がこの場で利用された可能性が強いと考えられる。

動物遺存体（骨）同定についてはB地区土坑P-13出土のもののみを対象とした。ほぼすべてエゾシカのものと同定された。付近でシカの解体が行われた可能性もあり、その堆積状態から縄文前期前半と考えられる。

黒曜石原産地分析はAB両地区の石鏃とB地区の剥片集中（C-２）出土のサンプルで行った。本遺跡出土の黒曜石は肉眼観察上からも様々な種類がみられ、複数の産地が想定された。多い順に赤井川、白滝、上士幌産との結果は想定に沿うものとなった。剥片集中出土のサンプルは18,638点にも及ぶ黒曜石剥片から抽出したもので球顆を多く含むのが主な特徴である。これにより剥片の殆どが赤井川産である可能性が高いと考えられる。

註釈及び引用参考文献

註釈

※1　肥料、土壌改良材メーカー　東洋商事(株)（富山県）ホームページ　「土壌に関する知識」より引用

※2　農林水産省農林水産技術会議事務局監修 新版標準土色帳による

※3　苫小牧市調査の基準(大泉博嗣1987による)

引用・参考文献

【北海道教育委員会　発掘調査報告書】(道教委)

1975　北海道縦貫自動車道（苫小牧市植苗～千歳市平和）埋蔵文化財包蔵地群発掘調査報告書

1979　有珠川２・植苗３遺跡北海道縦貫自動車道建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書

1978　北海道教育委員会『美沢川流域の遺跡群Ⅱ』

【苫小牧市教育委員会・埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書】

1969　苫小牧市高丘遺跡発掘調査報告書

1984　タプコプ　北海道苫小牧市植苗地区国道36号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1985　ニナルカ　一般国道235号苫東基地関連国道切替工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1986　柏原24遺跡　苫小牧市柏原一般廃棄物最終処分場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1986　苫小牧東部工業地帯の遺跡群１　静川１遺跡、厚真町厚真１・２・８・10遺跡

1987　苫小牧東部工業地帯の遺跡群２　厚真町厚真７・共和遺跡・早来町遠浅１遺跡

1987　弁天貝塚Ⅰ　幕末期以降に於けるアイヌ貝塚の発掘調査報告書

1988　ショップ遺跡　三石町教育委員会

1988　弁天貝塚Ⅱ　幕末期以降に於けるアイヌ貝塚の発掘調査報告書

1989　柏原４遺跡

1989　弁天貝塚Ⅲ　幕末期以降に於けるアイヌ貝塚の発掘調査報告書

1990　高丘E遺跡　苫小牧市高丘地区におけるマンション建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1990　苫小牧東部工業地帯の遺跡群３　厚真町厚真３、12遺跡、苫小牧市静川８遺跡発掘調査報告書

1991　静川９遺跡　日高自動車道苫東工事区間静川第２跨道橋建設及び道道静川美沢線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

1992　静川37遺跡　道道上厚真苫小牧線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1992　苫小牧東部工業地帯の遺跡群４　厚真町厚真13遺跡・苫小牧市静川20・21遺跡・柏原16・19遺跡発掘調査報告書

1993　美沢11遺跡　道道新千歳空港道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1995　苫小牧東部工業地帯の遺跡群５　苫小牧市静川19・26遺跡・柏原18遺跡発掘調査報告書

1997　柏原５遺跡　一般国道235号日高自動車道苫東道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書１

1997　美沢10遺跡　道道新千歳空港線道路改良工事に伴う発掘調査報告書

1998　柏原27・ニナルカ・静川５・６遺跡　一般国道235号日高自動車道苫東道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書２

1998　美沢東遺跡群　道道静川美沢線道路改良工事に伴う美沢東４・５・６遺跡発掘調査報告書

2002　苫小牧東部工業地帯の遺跡群６　苫小牧市静川14・15・17遺跡発掘調査報告書

2002　苫小牧東部工業地帯の遺跡群７　苫小牧市静川18･23～25･29～35遺跡発掘調査報告書

2002　苫小牧東部工業地帯の遺跡群８　苫小牧市静川遺跡・柏原17遺跡発掘調査報告書

2002　苫小牧東部工業地帯の遺跡群９　苫小牧市

静川22遺跡発掘調査報告書
2002　苫小牧東部工業地帯の遺跡群10　苫小牧市静川４遺跡発掘調査報告書
2008　有珠川５遺跡　有珠川砂防えん堤建設事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書
2014　北海道苫小牧市市内遺跡発掘調査等事業報告書（柏原４　柏原８　柏原28～51）

【公益財団法人　財団法人北海道埋蔵文化財センター　発掘調査報告書】（道埋文または北埋）

1980　『フレペッ遺跡群』（美沢４、美沢５）
1981　北埋調報３：美沢川流域の遺跡群４（美々４・美々５・美々６・美々７・美沢１・美沢３）
1986　北埋調報35：美沢川流域の遺跡群10（美々３）
フレペッ遺跡群２（美沢５）　ペンケナイ川流域の遺跡群Ⅰ（美沢10, 11）
1989　北埋調報58　美沢川流域の遺跡群12（美沢３）
1990　北埋調報62　美沢川流域の遺跡群13（美々３・美々８・美沢３）
1994　北埋調報89：美沢川流域の遺跡群17（美沢３・美々８）
1995　北埋調報95ペンケナイ川流域の遺跡群Ⅲ　苫小牧市美沢15遺跡
1996　北埋調報101　フレペッ遺跡群３苫小牧市美沢16遺跡
1997　美々・美沢－新千歳空港の遺構と遺物－
2011　北埋調報276フレペツ遺跡群Ⅳ　苫小牧市美沢16遺跡（２）
2017　北埋調報345　厚真町上幌内４遺跡　上幌内５遺跡
2019　北埋調報351　伊達市西関内３遺跡
2019　北埋調報352　白老町ポロト３遺跡
2019　北埋調報356　厚真町オコッコ１遺跡（２）

【その他　発掘調査報告書】

1954　河野広道　藤原敏郎　藤本英夫『静内町先史時代遺跡調査報告』
1985　静内町教育委員会『静内町清水丘における考古学的調査－公営住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告－』静内町文化財調査報告

【論文　文献】

1965　河野広道　岩崎隆人　宇田川洋　本田栄作「加茂川遺跡　札幌・苫小牧低地帯における沖積世中頃の海進海退に関する問題点と試論」『北海道学芸大学紀要第一部B社会科学編16（２）』
1972　曾屋龍典「樽前火山の形成」『火山16』
1976　高橋正勝　畑宏明「浦河町栄丘遺跡出土の遺物－中野式土器群に伴う石器群－」『北海道考古学12輯』
1976　竹田輝雄「中野式土器ー胎土に含む撚糸繊維のX線透写の試みからー」『北海道考古学第12輯』
1987　大泉博嗣「第２節遺構の分類落とし穴」『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』
1990　皆川洋一「Ⅶ　成果と問題点　１　刺突文土器を含む特殊胎土を有する土器群について」『北埋調報71集』
1990　加藤邦雄「縄文尖底土器」『縄文文化の研究３』雄山閣
1992　町田洋　新井房夫編『火山灰アトラス日本列島とその周辺』東京大学出版会
2002　大泰司統「切りあうTピットー千歳市、苫小牧周辺におけるTピットの形態変遷－」『北海道考古学第38輯』
2010　国土地理院　『土地条件解説書「苫小牧地区」』
2010　古川竜太・中川光弘　『樽前火山地質図』
2012　『小学館の図鑑NEO　岩石・鉱物・化石』小学館
2013　西脇対名夫「北海道の滑石混和土器」『季刊考古学125号』雄山閣
2014　日本考古学協会2014年度伊達大会研究発表資料集　日本考古学協会2014年度伊達大会実行委員会

遺構名	付属遺構	報告書掲載		位置	形状	規模(m)					推定時期	特記
		挿図	写真図版			確認面		底面		最大深		
						長軸	短軸	長軸	短軸	階深		
A地区												
土坑												
P-1		Ⅳ-5	3-1.2	G3.4	円形	1.20	1.10	0.3	0.28	0.48	縄文時代	
P-2		Ⅳ-5	3-3.4	T.U12	楕円形	1.26	0.99	0.69	0.43	0.23	縄文早～晩期	
Tピット												
TP-1		Ⅳ-5	3-5.8	G5	長楕円形	2.71	1.27	2.6	0.18	1.23	縄文中期後半	
TP-2		Ⅳ-6	3-7.8	M.N8	楕円形	2.18	1.60	1.47	0.29	1.20	縄文中期後半	柱穴か所
	SP-1		4-1.2.3			0.04	0.04			0.10		
	SP-2					0.04	0.04			0.22		
	SP-3					0.03	0.03			0.07		
TP-3		Ⅳ-6	4-4.5.8	L.J5	楕円形	2.28	(1.56)	1.68	(0.27)	1.11	縄文中期後半	TP-11と重複
	SP-5					0.04	0.04			0.20		
TP-4		Ⅳ-7	4-9.10	L.M5.6	長楕円形(溝状)	4.02	1.18	3.8	0.24	1.02	縄文中期後半	
TP-5		Ⅳ-7	4-11.12	J8.9	楕円形(溝状)	2.63	1.43	1.93	0.19	1.58	縄文中期後半	
TP-6		Ⅳ-8	5-1.2	K4	長楕円形(溝状)	2.60	0.72	2.60	0.20	1.03	縄文中期後半	
TP-7		Ⅳ-8	5-3.4	G6	長楕円形(溝状)	2.96	0.83	2.24	0.09	1.43	縄文中期後半	
TP-8		Ⅳ-9	5-5.6	G4	楕円形	1.98	1.22	1.48	0.26	1.36	縄文中期後半	
TP-9		Ⅳ-9	5-7.8-1	G3	長楕円形(溝状)	3.54	0.98	3.36	0.12	1.26	縄文中期後半	
TP-10		Ⅳ-10	5-8.9-2	E3.4	楕円形(小判形)	2.08	1.62	1.54	0.32	1.00	縄文中期後半	
	SP-1				円形	0.03	0.03			0.18		
	SP-2				円形	0.03	0.03			0.17		
TP-11		Ⅳ-10	4-5.6.7	L.J5	楕円形(小判形)	(2.20)	(1.60)	1.4	0.16	1.12	縄文中期後半	TP-3と重複
	SP-1				円形	0.07	0.04			0.14		
	SP-2				円形	0.05	0.05			0.12		
	SP-3				円形	0.04	0.04			0.10		
	SP-4				円形	0.03	0.03			0.09		
	SP-6				円形	0.06	0.04			0.18		
TP-12		Ⅳ-11	6-4.5	C3	長楕円形(溝状)	2.80	0.90	2.7	0.22	1.30	縄文中期後半	
TP-13		Ⅳ-11	6-6.7	A2	楕円形	1.60	0.91	1.88	0.2	1.35	縄文中期後半	
	SP-1				円形	0.06	0.06			0.05		
TP-14		Ⅳ-11	7-1.2	A1	楕円形	2.30	0.86	2.1	0.44	1.10	縄文中期後半	
TP-15		Ⅳ-12	7-3.4	C1.2 D1.2	楕円形	1.74	0.88	1.18	0.34	0.56	縄文中期後半	
	SP-1					0.08	0.05			0.08		
TP-16		Ⅳ-12	7-5	U27	(長楕円形)	×	(0.80)	×	0.15	1.20	縄文中期後半	
TP-17		Ⅳ-13	7-6.7.8	T15.16	長楕円形(溝状)	3.40	1.07	3.27	0.26	1.08	縄文中期後半	
TP-18		Ⅳ-14	8-1.2.3	T16.17	長楕円形	2.03	1.07	1.93	0.32	1.37	縄文中期後半	
TP-19		Ⅳ-15	8-1.4.5	T16.U16	長楕円形	3.42	1.06	3.5	0.14	1.25	縄文中期後半	
TP-20		Ⅳ-12	9-1.2	T21.22	長楕円形(溝状)	3.32	0.84	3.45	0.14	1.32	縄文中期後半	
TP-21		Ⅳ-15	9-3.4	Q6~7	長楕円形	2.81	0.98	2.79	0.17	1.21	縄文中期後半	
TP-22		Ⅳ-16	9-5.6	L.M13	楕円形	2.35	1.22	2.14	0.24	1.54	縄文中期後半	
TP-23		Ⅳ-16	9-7.10-1	Q.R16	長楕円形	2.74	0.85	2.75	0.16	1.26	縄文中期後半	
TP-24		Ⅳ-14	10-2.3	Q13.14. R13	楕円形	2.06	1.00	1.78	0.32	1.18	縄文中期後半	
TP-25		Ⅳ-17	10-5.6	N~O11	長楕円形	2.79	1.09	3.09	0.21	1.19	縄文中期後半	
TP-26		Ⅳ-18・ 19	10-7.8.11~ 12	O~P11 O12	楕円形(小判形)	2.37	1.53	1.91	0.26	1.32	縄文中期後半	覆土上面土器出土
	SP-1					0.05	0.04			0.10		
	SP-2					0.05	0.04			0.12		
	SP-3					0.04	0.04			0.14		
	SP-4					0.06	0.06			0.18		
TP-27		Ⅳ-14	11-3.4	Q13.14P 14	楕円形	1.17	0.78	0.92	0.4	0.62	縄文中期後半	
TP-28		Ⅳ-19	11-5.6	P11~12	長楕円形	×	0.93	×	0.81	0.20	縄文中期後半	
TP-29		Ⅳ-20	11~7.8 12~1.2	S.T19.20	楕円形	2.34	1.48	1.8	0.22	1.22	縄文中期後半	
	SP-1					0.04	0.04			0.04		
	SP-2					0.06	0.04			0.12		
焼土												
F-1		Ⅳ-20	12-3	TU22	不整円形	2.08	1.52			0.10	縄文晩期前葉	年代測定 炭化材同定
F-2		Ⅳ-21	12-4	R5	不整三角形	0.36	0.35			0.04	縄文晩期前葉	年代測定
F-3		Ⅳ-21	12-6	U8	不整長楕円形	1.36	0.37			0.10	縄文晩期前葉	年代測定 炭化材同定
F-4		Ⅳ-21	12-7	U8	不整長楕円形	1.28	0.47			0.04	縄文晩期中葉	年代測定 炭化材同定
F-5		Ⅳ-21	12-5	U6	不整三角形	0.44	0.35			0.04	縄文後期後葉	年代測定 炭化材同定
F-6		Ⅳ-21	12-8	Q.R20	楕円形	0.34	0.20			0.07	縄文後期初頭	年代測定
F-7		Ⅳ-21	12-9	T23.24	不整長楕円形	1.20	0.17			0.04	縄文後～晩期	
溝状遺構												
D-1		Ⅳ-22	13-1～4	B4.C4.5. D5.6	溝状	8.20	0.56	8	0.42	0.08	縄文時代	
遺物集中												
C-1		Ⅳ-4	－	U27	不明	0.21	(0.20)			(0.05	縄文中期後半	黒曜石製剥片集中
掘り上げ土												

表Ⅶ-1 遺構一覧(A・B地区)

遺構名	付属遺構	報告書掲載		位置	形状	規模(m)				推定時期	特記
		挿図	写真図版			確認面		底面		最大深	
						長軸	短軸	長軸	短軸	層厚	
DU-1	①	Ⅳ-22	13~5.6	LM7.8	楕円形	3.00	1.50			0.18 縄文中期後半	Ta-d2主体 Tピットの掘り上げ土
	②	Ⅳ-22		K7.8・L7.8	楕円形	4.00	2.50			0.12 縄文中期後半	黄褐色ローム主体
DU-2	①	Ⅳ-23	14-1~4	N9~O9	不整楕円形	2.30	1.50			0.08 縄文中期後半	Ta-d2主体Tピットの掘り上げ土
	②	Ⅳ-23		N9~10	不整楕円形	1.20	0.60			0.08 縄文中期後半	黄褐色ローム主体
	③	Ⅳ-23		N9~10	不整楕円形	1.20	0.90			0.08 縄文中期後半	黄褐色ローム主体
	④	Ⅳ-23		O10	不整形	1.20	0.20			0.04 縄文中期後半	黄褐色ローム主体
	⑤	Ⅳ-23		O10	不整形	0.20	0.16			0.04 縄文中期後半	黄褐色ローム主体
	⑥	Ⅳ-23		O10	円形	0.12	0.08			0.04 縄文中期後半	黄褐色ローム主体
DU-3		Ⅳ-23	14-5.6	N13・14	不整楕円形	3.40	2.00			0.10 縄文中期後半	Tピットの掘り上げ土
DU-4	①	Ⅳ-24	14-7.8 15-1~4	Q11・R11・12	不整楕円形	(2.30)	(1.70)			0.08 縄文中期後半	
	②	Ⅳ-24		R12	不整形	1.22	1.10			0.16 縄文中期後半	
DU-5		Ⅳ-24	15-5.6	T19・20	不整楕円形	2.80	(1.20)			0.05 縄文中期後半	
DU-6		Ⅳ-24	15-7.8	U.V15	不明	2.10				0.10 縄文中期後半	
DU-7		Ⅳ-25	16-1	P16	楕円形	0.48	0.28			0.04 縄文中期後半	
DU-8		Ⅳ-25	16-3.4	S16	不整楕円形	2.28	1.60			0.08 縄文中期後半	
DU-9		Ⅳ-25	16-5.6	P8.9・Q8.9	不整楕円形	2.81	1.52			0.12 縄文中期後半	
DU-10		Ⅳ-25	16-7.8	R14	楕円形	2.00	1.20			0.08 縄文中期後半	
DU-11		Ⅳ-25	16-2	S16・17	楕円形	2.06	1.02			0.05 縄文中期後半	
炭化物集中											
CB-1		Ⅳ-26	17-1	K10	楕円形	1.00	0.54			0.06 縄文後期前葉	年代測定 炭化材同定
CB-2	①	Ⅳ-26	17-2	T20	不整形	0.34	0.40			縄文晩期初頭	年代測定 炭化材同定
	②	Ⅳ-26	17-2	〃	不整形	1.02	0.54			縄文晩期初頭	
CB-3		Ⅳ-26	17-3	S.T21	不整形	2.74	0.99			縄文後~晩期	
CB-4		Ⅳ-26	17-3	S19・20	不整形	0.69	0.68			縄文後~晩期	
CB-5	①	Ⅳ-26	17-4	T24.25	不整形	1.09	0.64			縄文後~晩期	
	②	Ⅳ-26	17-4	〃	不整形	0.96	0.65			縄文後~晩期	
CB-6		Ⅳ-26	17-4	S.T25.26	不整楕円形	0.81	(0.46)			縄文後~晩期	
CB-7	①	Ⅳ-21	17-6	U5	不整形	0.20	0.16			0.04 縄文後~晩期	
	②	Ⅳ-21	17-6	U5	不整形	0.32	0.16			0.04 縄文後~晩期	
CB-8		Ⅳ-26	17-7	U9	楕円形	0.66	0.40			縄文後~晩期	
亜円形土穴状ピット											
SP-1		Ⅳ-28	18-1.2	U7	円形	0.18	0.17			0.22 縄文早期	亜B期調査
SP-2		Ⅳ-28	18-1.2	U7	円形	0.14	0.13			0.13 縄文早期	亜B期調査
SP-3		Ⅳ-28	18-3	U7	円形	0.16	0.15			0.12 縄文早期	亜B期調査
SP-4		Ⅳ-28	18-4	U7	円形	0.14	0.14			0.17 縄文早期	亜B期調査
SP-5		Ⅳ-28	18-5.6.7	S7	円形	0.18	0.14			0.14 縄文早期	亜B期調査
SP-6		Ⅳ-28	18-5.6.7	S7	円形	0.17	0.16			0.16 縄文早期	亜B期調査
SP-7		Ⅳ-28	18-5.6.7	S7	円形	0.13	0.11			0.19 縄文早期	亜B期調査
SP-8		Ⅳ-28	18-5.6.7	S7	円形	0.12	0.12			0.11 縄文早期	亜B期調査
SP-9		Ⅳ-28	18-5.6.7	S7	円形	0.16	0.15			0.22 縄文早期	亜B期調査
SP-10		Ⅳ-28	18-5.6.7	S7	円形	0.10	0.10			0.08 縄文早期	亜B期調査
SP-11		Ⅳ-28	18-5.6.7	S7	円形	0.11	0.10			0.18 縄文早期	亜B期調査
SP-12		Ⅳ-28	18-5.6.7.8	S7	円形	0.09	0.08			0.14 縄文早期	亜B期調査
SP-13		Ⅳ-28	18-5.6.7.8	S7	円形	0.14	0.13			0.13 縄文早期	亜B期調査
SP-14		Ⅳ-28	18-5.6.7	S7	円形	0.08	0.07			0.13 縄文早期	亜B期調査
SP-15		Ⅳ-28	18-5.6.7	S7	円形	0.10	0.09			0.08 縄文早期	亜B期調査
SP-16		Ⅳ-28	18-5.6.7	S7	円形	0.16	0.12			0.16 縄文早期	亜B期調査
SP-17		Ⅳ-28	18-5.6.7	S7	円形	0.09	0.08			0.17 縄文早期	亜B期調査
SP-18		Ⅳ-29	19-1	M7	楕円形	0.10	0.10			0.23 縄文早期	亜B期調査
SP-19		Ⅳ-29	19-1.2	M7	円形	0.14	0.10			0.26 縄文早期	亜B期調査
SP-20		Ⅳ-29	19-1.2.3.4	M7	楕円形	0.11	0.08			0.12 縄文早期	亜B期調査
SP-21		Ⅳ-29	19-1.2.3.4	M7	円形	0.13	0.13			0.12 縄文早期	亜B期調査
SP-22		Ⅳ-29	19-1.3	M7	楕円形	0.14	0.12			0.22 縄文早期	亜B期調査
SP-23		Ⅳ-29	19-1	M7	楕円形	0.12	0.08			0.10 縄文早期	亜B期調査
SP-24		Ⅳ-29	19-1	M7	楕円形	0.20	0.14			0.14 縄文早期	亜B期調査
SP-25		Ⅳ-29	19-1	M7	楕円形	0.10	0.09			0.18 縄文早期	亜B期調査
SP-26		Ⅳ-29	19-1	M7	楕円形	0.11	0.10			0.14 縄文早期	亜B期調査
SP-27		Ⅳ-29	19-1	M7	楕円形	0.13	0.10			0.20 縄文早期	亜B期調査
SP-28		Ⅳ-29	19-1.4	M7	楕円形	0.18	0.11			0.16 縄文早期	亜B期調査
SP-29		Ⅳ-29	19-1	M7	円形	0.11	0.10			0.16 縄文早期	亜B期調査
SP-30		Ⅳ-29	19-1	M7	円形	0.12	0.11			0.14 縄文早期	亜B期調査
SP-31		Ⅳ-29	19-1	M7	円形	0.08	0.08			0.18 縄文早期	亜B期調査
SP-32		Ⅳ-29	19-1	M7	円形	0.10	0.07			0.20 縄文早期	亜B期調査
SP-33		Ⅳ-30	19-5.6	O7	円形	0.14	0.08			0.26 縄文早期	亜B期調査
SP-34		Ⅳ-30	19-5.6	O7	円形	0.15	0.10			0.12 縄文早期	亜B期調査
SP-35		Ⅳ-30	19-5	O7	楕円形	0.41	0.22			0.12 縄文早期	亜B期調査
SP-36		Ⅳ-30	19-5.7	O7	不整形	0.80	0.50			0.24 縄文早期	亜B期調査
SP-37		Ⅳ-30	19-5	O7	楕円形	0.28	0.18			0.16 縄文早期	亜B期調査
SP-38		Ⅳ-30	19-5.8	O7	円形	0.06	0.04			0.18 縄文早期	亜B期調査
SP-39		Ⅳ-30	19-5.8	O7	円形	0.14	0.14			0.24 縄文早期	亜B期調査

表Ⅶ-1 遺構一覧(A・B地区)

遺構名	付属遺構	報告書掲載		位置	形状	規模(m)					推定時期	特記
		挿図	写真図版			確認面		底面		最大深		
						長軸	短軸	長軸	短軸	層厚		
SP-40		Ⅳ-30	19-5	O7	楕円形	0.14	0.12			0.30	縄文早期	豆B期調査
SP-41		Ⅳ-30	20-1.2.3	I7	円形	0.18	0.17			0.30	縄文早期	豆B期調査
SP-42		Ⅳ-30	20-1.2	I7	円形	0.18	0.14			0.20	縄文早期	豆B期調査
SP-43		Ⅳ-30	20-1.2	I7	円形	0.11	0.08			0.23	縄文早期	豆B期調査
SP-44		Ⅳ-30	20-1.2.4	I7	円形	0.20	0.18			0.32	縄文早期	豆B期調査
SP-45		Ⅳ-30	20-1.2	I7	円形	0.12	0.10			0.12	縄文早期	豆B期調査
SP-46		Ⅳ-30	20-1.2	I7	円形	0.12	0.10			0.04	縄文早期	豆B期調査
SP-47		Ⅳ-29	20-5.6	G7	楕円形	0.34	0.19			0.14	縄文早期	豆B期調査
SP-48		Ⅳ-31	20-7	R20	楕円形	0.09	0.06			0.22	縄文早期	豆B期調査
SP-49		Ⅳ-31	20-7	R20	楕円形	0.10	0.09			0.18	縄文早期	豆B期調査
SP-50		Ⅳ-31	20-7	R20	楕円形	0.18	0.14			0.25	縄文早期	豆B期調査
SP-51		Ⅳ-31	20-7	R20	円形	0.17	0.16			0.12	縄文早期	豆B期調査
SP-52		Ⅳ-31	20-7	R20	楕円形	0.17	0.12			0.08	縄文早期	豆B期調査
SP-53		Ⅳ-31	20-7.8	R20	楕円形	0.14	0.12			0.18	縄文早期	豆B期調査
SP-54		Ⅳ-31	20-7	R20	楕円形	0.24	0.14			0.15	縄文早期	豆B期調査
SP-55		Ⅳ-31	20-7	R20	楕円形	0.16	0.16			0.18	縄文早期	豆B期調査
SP-56		Ⅳ-31	20-7	R20	楕円形	0.18	0.18			0.27	縄文早期	豆B期調査
SP-57		Ⅳ-31	20-7	R20	楕円形	0.12	0.10			0.20	縄文早期	豆B期調査
SP-58		Ⅳ-31	20-7	R20	円形	0.12	0.10			0.42	縄文早期	豆B期調査
SP-59		Ⅳ-31	20-7.21-1	R20	楕円形	0.13	0.10			0.26	縄文早期	豆B期調査
SP-60		Ⅳ-31	20-7	R20	楕円形	0.14	0.12			0.16	縄文早期	豆B期調査
SP-61		Ⅳ-31	20-7	R20	円形	0.12	0.12			0.36	縄文早期	豆B期調査
SP-62		Ⅳ-31	20-7	R20	楕円形	0.11	0.10			0.17	縄文早期	豆B期調査
SP-63		Ⅳ-31	20-7	R20	楕円形	0.12	0.09			0.20	縄文早期	豆B期調査
SP-64		Ⅳ-31	20-7	R20	楕円形	0.15	0.08			0.27	縄文早期	豆B期調査
SP-65		Ⅳ-31	20-7	R20	楕円形	0.14	0.10			0.15	縄文早期	豆B期調査
SP-66		Ⅳ-31	20-7	R20	楕円形	0.14	0.11			0.18	縄文早期	豆B期調査
SP-67		Ⅳ-31	20-7	R20	楕円形	0.10	0.06			0.19	縄文早期	豆B期調査
SP-68		Ⅳ-31	20-7	R20	円形	0.12	0.10			0.14	縄文早期	豆B期調査
SP-69		Ⅳ-31	20-7	R20	円形	0.12	0.10			0.11	縄文早期	豆B期調査
SP-70		Ⅳ-31	20-7.21-2	R20	円形	0.22	0.20			0.35	縄文早期	豆B期調査
SP-71		Ⅳ-31	20-7	R20	楕円形	0.09	0.09			0.19	縄文早期	豆B期調査
SP-72		Ⅳ-32	21-3.4.5	S22	円形	0.14	0.12			0.36	縄文早期	豆B期調査
SP-73		Ⅳ-32	21-3.4.6	S22	円形	0.16	0.14			0.37	縄文早期	豆B期調査
SP-74		Ⅳ-32	21-3.4	S22	円形	0.14	0.11			0.46	縄文早期	豆B期調査
SP-75		Ⅳ-32	21-3.4	S22	円形	0.16	0.12			0.18	縄文早期	豆B期調査
SP-76		Ⅳ-32	21-3.4.7	S22	円形	0.19	0.14			0.34	縄文早期	豆B期調査
SP-77		Ⅳ-32	21-3.4	S22	円形	0.13	0.13			0.36	縄文早期	豆B期調査
SP-78		Ⅳ-32	21-3.4	S22	円形	0.13	0.10			0.24	縄文早期	豆B期調査
SP-79		Ⅳ-32	21-3.4	S22	円形	0.15	0.14			0.30	縄文早期	豆B期調査
SP-80		Ⅳ-32	21-3.4	S22	円形	0.13	0.10			0.20	縄文早期	豆B期調査
SP-81		Ⅳ-32	21-3.4	S22	円形	0.11	0.09			0.17	縄文早期	豆B期調査
SP-82		Ⅳ-32	21-3.4	S22	楕円形	0.20	0.16			0.33	縄文早期	豆B期調査
SP-83		Ⅳ-32	21-3.4	S22	楕円形	0.26	0.14			0.14	縄文早期	豆B期調査
SP-84		Ⅳ-32	21-3.4	S22	円形	0.14	0.13			0.29	縄文早期	豆B期調査
SP-85		Ⅳ-32	21-3.4	S22	円形	0.14	0.13			0.23	縄文早期	豆B期調査
SP-86		Ⅳ-32	21-3.4	S22	円形	0.20	0.15			0.25	縄文早期	豆B期調査
SP-87		Ⅳ-32	21-3.4	S22	円形	0.12	0.10			0.20	縄文早期	豆B期調査
SP-88		Ⅳ-32	21-3.4	S22	円形	0.12	0.10			0.18	縄文早期	豆B期調査
SP-89		Ⅳ-32	21-3.4	S22	楕円形	0.22	0.12			0.23	縄文早期	豆B期調査
SP-90		Ⅳ-32	21-3.4	S22	楕円形	0.20	0.12			0.35	縄文早期	豆B期調査
SP-91		Ⅳ-32	21-3.4.8	S22	円形	0.20	0.20			0.39	縄文早期	豆B期調査
SP-92		Ⅳ-32	21-3.4	S22	円形	0.14	0.09			0.29	縄文早期	豆B期調査
SP-93		Ⅳ-32	21-3.4	S22	円形	0.12	0.10			0.08	縄文早期	豆B期調査
B地区												
盛土遺構												
M-1		Ⅴ-3.4	24.25.26	e42～44. f42～45. g42～45. h41～44. i41～43. j42・43区	楕円形	6.40	5.20			0.15	縄文前期前半	
M-2		Ⅴ-5	27	c36. d.e35.36.	円形	4.00	3.00			(0.20)	縄文前期前半	
土坑												
P-1		Ⅴ-6	28-1.2	g35.36	楕円形	1.52	1.12	1.2	0.72	0.66	縄文前期前半	
P-2		Ⅴ-7	28-3.4	g37.38	円形	(0.64)	0.56	(0.40)	0.4	0.45	縄文前期前期	
P-3		Ⅴ-6	28-5.6	i37	不整楕円形	0.72	0.53	0.26	0.22	0.40	縄文前期前半	
P-4		Ⅴ-6	28-7.8	h.i36	楕円形	1.54	1.07	1.36	0.94	0.59	縄文前期前半または中期後半	
P-5		Ⅴ-7	29-1.2	e34.35	方形	1.20	1.08	0.76	0.62	0.56	縄文前期前期半	
P-6		Ⅴ-7	29-3.4	e34.35	円形	1.24	1.12	0.95	0.92	0.60	縄文前期前期半	
P-7		Ⅴ-7	29-5.6	h36	楕円形	1.55	1.14	1.08	0.89	0.61	縄文前期前期半	
P-8		Ⅴ-8	29-7.8	i37	楕円形	1.20	1.07	0.16	0.1	0.48	縄文前期前半または中期後半	

表Ⅶ-1　遺構一覧(A・B地区)

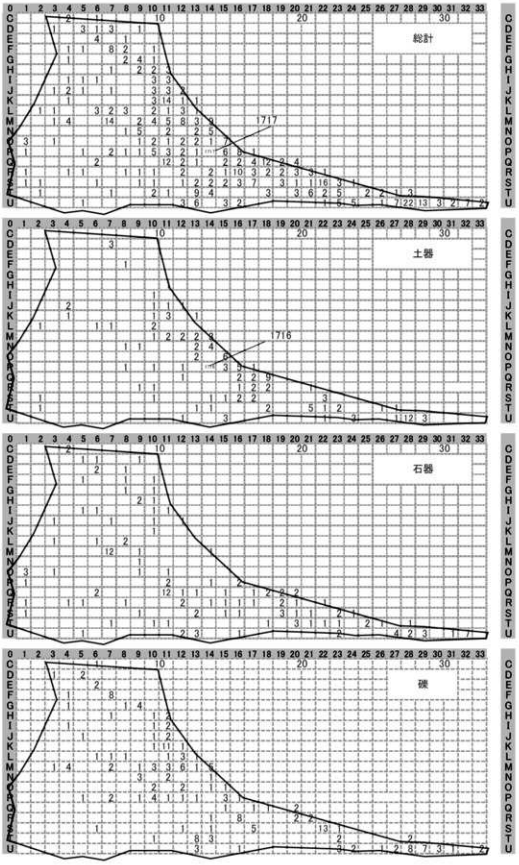
遺構名	付属遺構	報告書掲載		位置	形状	規模(m)					推定時期	特記
		挿図	写真図版			確認面		底面		最大深		
						長軸	短軸	長軸	短軸	階深		
P-9		V-8	30-1.2	j36.37	不整円形	1.12	1.04	0.88	0.8	0.32	縄文前期前半	
P-10		V-8	30-3.4.5.6	m.n35	長楕円形	2.64	1.24	2.26	0.88	0.45	縄文前期前半	
P-11		V-9	30-7.8	l36	円形	1.28	1.26	1.1	1.06	0.43	縄文前期前半	
P-12		V-9	31-1.2	s32.33.t33	円形	1.70	1.68	1.3	1.04	0.54	縄文前期前半	
P-13		V-9	31-3.4	d36	楕円形	0.50	0.22			0.16	縄文前期前半	
竪穴ピット												
TP-1		V-10	31-5.6	e38	長楕円形(溝状)	2.94	1.30	2.52	0.14	1.20	縄文中期後半	
TP-2		V-10	32-1～5	e.f41.42	長楕円形(溝状)	3.00	1.40	2.72	0.24	1.20	縄文中期後半	
	SP-1				円形	0.08	0.08			0.12	縄文中期後半	
	SP-2				円形	0.08	0.08			0.20	縄文中期後半	
	SP-3				円形	0.12	0.10			0.16	縄文中期後半	
TP-3		V-11	32-6.7	d39.40	楕円形(溝状)	1.98	0.97	1.8	0.13	1.26	縄文中期後半	
TP-4		V-11	33-1.2	d39	長楕円形(溝状)	3.02	1.08	3.02	0.18	1.32	縄文中期後半	
TP-5		V-12	33-3.4	j36.37	楕円形(溝状)	1.85	0.93	1.98	0.17	1.42	縄文中期後半	
TP-6		V-13	34-1.2	d.e40	楕円形(溝状)	2.38	1.30	2.04	0.15	1.16	縄文中期後半	
TP-7		V-13	34-3.4	e.39.40	長楕円形(溝状)	2.48	0.68	1.54	0.12	1.22	縄文中期後半	
TP-8		V-12	35-1.2	e.f39	長楕円形(溝状)	3.40	1.25	3.1	0.22	1.20	縄文中期後半	
TP-9		V-12	34-5.6	h42.43	円形	2.42	1.09	2.24	0.26	1.24	縄文中期後半	
TP-10		V-14	35-3.4	h42h.i43	長楕円形(溝状)	2.74	0.90	3.19	0.2	1.61	縄文中期後半	
TP-11		V-14	36-1.2	o44~45	長楕円形(溝状)	2.88	0.80	2.65	0.22	1.11	縄文中期後半	
TP-12		V-15	36-3.4	h.i39	楕円形(溝状)	2.31	1.19	2.2	0.11	1.25	縄文中期後半	
TP-13		V-15	36-5.6	n37.o36.37	楕円形	2.60	1.32	2.3	0.1	1.22	縄文中期後半	
	SP-1		37-1	o37	円形	0.08	0.06			0.06	縄文中期後半	
	SP-2		37-2	o37	円形	0.07	0.04			0.09	縄文中期後半	
	SP-3		37-3	o37	円形	0.05	0.04			0.04	縄文中期後半	
TP-14		V-16	37-4.5	l37	楕円形(溝状)	2.04	0.95	1.92	0.12	1.36	縄文中期後半	
TP-15		V-16	37-6.7	m36.37	長楕円形(溝状)	3.32	1.32	3.22	0.23	1.33	縄文中期後半	
TP-16		V-17	37-8.9	m37.38	長楕円形(短冊形)	2.90	1.60	2.22	0.52	1.43	縄文中期後半	
	SP-1		38-1		円形	0.05	0.05			0.14	縄文中期後半	
TP-17		V-17	38-2.3	o30	長楕円形(溝状)	3.44	0.91	3.18	0.2	1.36	縄文中期後半	
TP-18		V-18	38-4.5	o36.37.d37	長楕円形	2.73	0.85	2.96	0.17	1.16	縄文中期後半	
TP-19		V-18	39-1.2	g40.41.h40	楕円形	1.84	0.91	1.48	0.12	1.30	縄文中期後半	
TP-20		V-18	39-3	b38	(長楕円形)	(1.02)	0.46	(1.0)	0.17	1.18	縄文中期後半	
TP-21		V-19	39-4.5	b44~45	(長楕円形)	(1.80)	0.80	(1.60)	0.2	1.26	縄文中期後半	
焼土												
F-1		V-19	40-1.2	o35.36	不整形	1.24	0.70			0.10	縄文中期後葉～末葉	
遺物集中												
C-1		V-19	40-3	h.i37	不整楕円形	3.08	1.76				縄文前期前半または中期末葉	剥片集中1
C-2		V-20	40-3	h.i38	不整楕円形	2.00	1.20				縄文前期前半	剥片集中2
C-3		V-20	40-4	h.i37	円形	0.47	0.26				縄文前期前半	石器集中
C-4		V-20	40-5	j37	不整楕円形	0.64	0.44				縄文前期前半	礫集中
C-5		V-20	40-6	h37.38	不整形	4.68	2.72				縄文前期前半	土器集中
C-6		V-20	40-7	h.i38	円形	0.30	0.20				縄文中期末葉	石斧等集中
掘り上げ土												
DU-1		V-21	41-1	c.d37	不整楕円形	2.12	1.40			0.06	縄文中期後半	
DU-2		V-21	41-2	b40	楕円形	1.51	1.34			0.08	縄文中期後半	
DU-3		V-21	41-3	b43	不整形	2.82	1.58			0.12	縄文中期後半	
DU-4		V-22	41-4	e38	楕円形	2.78	1.56			0.05	縄文中期後半	
DU-5		V-22	41-4	e.f37.38	不整楕円形	3.03	1.05			0.08	縄文中期後半	
DU-6		V-19	41-5	h.i37	不整形	4.28	2.20			0.05	縄文中期後半	
炭化物集中												
CB-1		V-22	41-6	j35	不整形	0.40	0.30				縄文後～晩期	
CB-2		V-22	41-7	j38	不整形	0.72	0.12				縄文後～晩期	炭化材樹種同定
豆B層柱穴状ピット												
SP-1		V-23	42-1.2	j38.39	円形	(0.20)	0.20	0.5	0.5	0.50	縄文早期	豆B層調査
SP-2		V-23	42-4	f.g38	円形	0.16	(0.12)	0.05	0.04	0.36	縄文早期	豆B層調査
SP-3		V-23	42-5.6	d38.39	円形	0.16	(0.16)	0.08	(0.06)	0.48	縄文早期	豆B層調査
SP-4		V-23	42-7	h44	円形	0.21	0.20	0.08	0.05	0.42	縄文早期	豆B層調査
SP-5		V-23	42-8	h38	円形	0.17	0.16	0.04	0.04	0.46	縄文早期	豆B層調査
SP-6		V-24	43-1	g37	円形	0.26	0.24	0.07	0.04	0.50	縄文早期	豆B層調査
SP-7		V-24	43-2	g38	円形	0.20	(0.20)	0.12	0.08	0.38	縄文早期	豆B層調査
豆B層炭化物集中												
CB-1		V-24	43-3.4.5	g.h37.38	不整形	5.00	2.00				縄文早期	豆B層調査

表Ⅶ-1 遺構一覧(A・B地区)

遺構種別	遺構名	層位	土器 縄文前期中（Ⅲa-2類）	縄文中期後半（Ⅲb類）	横成粘土塊	土器計	石器 石鏃	石槍	石錐	つまみ付きナイフ	剥片石器	スクレイパー	石斧	Rフレイク	Uフレイク
A Tピット	TP-05	覆土													
	TP-16	覆土													
	TP-26	覆土上面		1		1									
遺物集中	C-1	ⅡB													
B 盛土遺構	M-1	M	137			137	9	1	6	8		4	12		
	M-2	M	247			247	44	2	11	10	1	5	3	5	7
土坑	P-04	覆土													
	P-05	覆土													1
	P-06	覆土								1					
	P-07	覆土													1
	P-09	覆土上面	19			19									
		覆土	3			3									
	P-10	覆土上面											1		
		覆土								1					1
	P-11	覆土上面											1	1	
		覆土													
	P-13	覆土					1								
Tピット	TP-01	覆土	1			1									
	TP-02	覆土													
	TP-05	覆土													
	TP-07	覆土													
	TP-09	覆土													
	TP-12	覆土2							1						
	TP-13	覆土1		22		22									
	TP-18	覆土													1
焼土	F-1	ⅡB		32		32									
遺物集中	C-1	ⅡB													
	C-2	ⅡB						1							
	C-3	ⅡB								4		3	3		
	C-4	ⅡB	1			1									
	C-5	ⅡB	160		2	162									
	C-6	Ⅰ(ⅡB)											6		

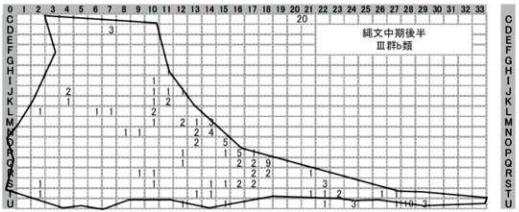
遺構種別	遺構名	層位	石器 原石	剥片	たたき石	すり石	石錘	砥石	台石石皿	加工痕のある礫	石器計	礫 礫	礫片	礫計	総計
A Tピット	TP-05	覆土										1		1	1
	TP-16	覆土										1		1	1
	TP-26	覆土上面													1
遺物集中	C-1	ⅡB		529							529				529
B 盛土遺構	M-1	M	1	89	9	1	3	2	4	1	150	142	502	644	931
	M-2	M		134	2	1	7	1	1		234	158	108	266	747
土坑	P-04	覆土						1			1				1
	P-05	覆土									1				1
	P-06	覆土									1				1
	P-07	覆土									1				1
	P-09	覆土上面										1		1	20
		覆土													3
	P-10	覆土上面		3				1			5	7	1	8	13
		覆土									2				2
	P-11	覆土上面									2				2
		覆土										1		1	1
	P-13	覆土									1		5	5	6
Tピット	TP-01	覆土													1
	TP-02	覆土											0	0	0
	TP-05	覆土										9	2	11	11
	TP-07	覆土		1							1				1
	TP-09	覆土										3	4	7	7
	TP-12	覆土2		9							10		1	1	11
	TP-13	覆土1											2	2	24
	TP-18	覆土									1				1
焼土	F-1	ⅡB										2		2	34
遺物集中	C-1	ⅡB		13160							13160				13160
	C-2	ⅡB		5478							5479	16	1	17	5496
	C-3	ⅡB									10				10
	C-4	ⅡB				1					1	12	33	45	47
	C-5	ⅡB										40	2	42	204
	C-6	Ⅰ(ⅡB)									6				6

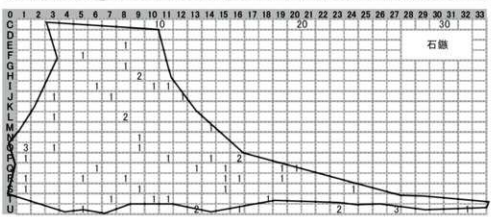
表Ⅶ-2　遺構出土遺物一覧（A・B地区）

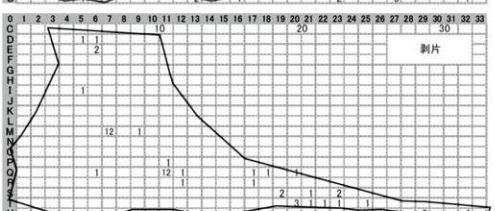


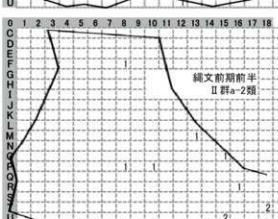
A地区

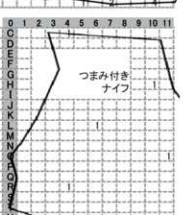
表Ⅶ-3　包含層グリッド別出土遺物一覧





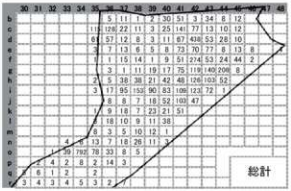


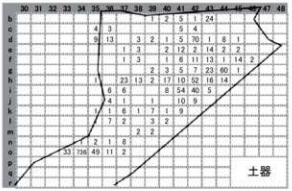


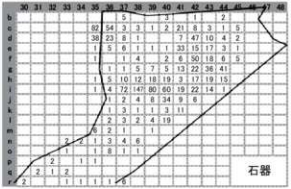


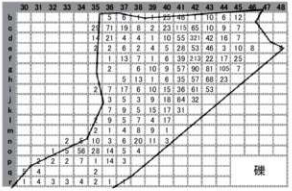
A地区

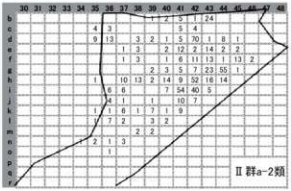
表Ⅶ-3 包含層グリッド別出土遺物一覧

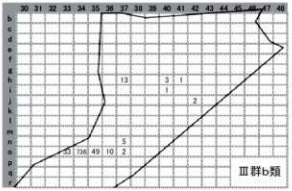


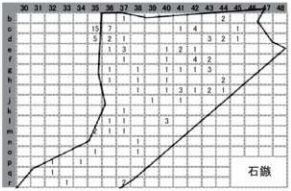


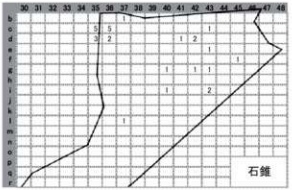






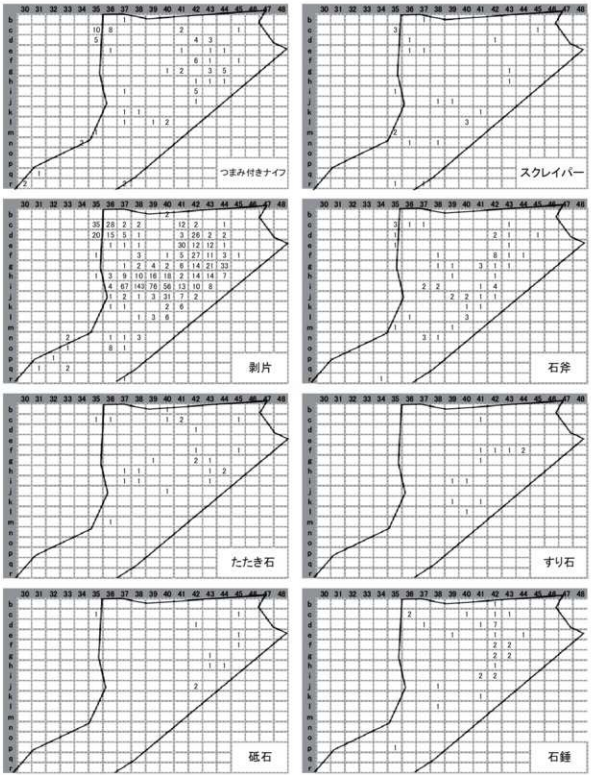






B地区

表Ⅶ-3 包含層グリッド別出土遺物一覧



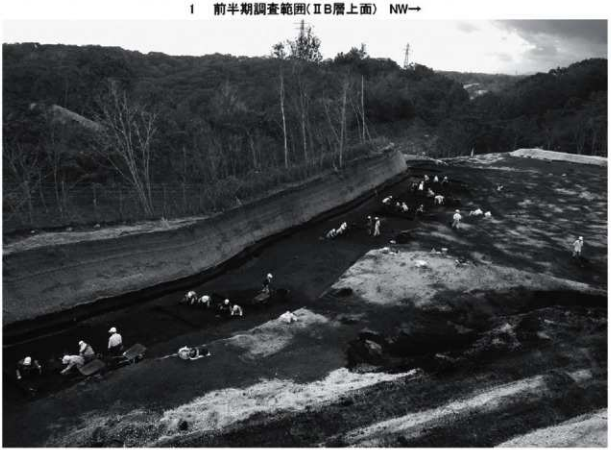
B地区

表Ⅶ-3 包含層グリッド別出土遺物一覧

写 真 図 版

図版1 A地区 調査区全景

1 前半期調査範囲(ⅡB層上面) NW→



2 後半期調査範囲(ⅡB層調査時) NE→

図版2 A地区基本土層

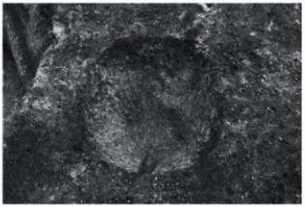
1 基本土層(N9) N→

2 基本土層(調査区外露頭) W→

3 8ライン(K・L・M) 土層断面 SW→

4 Oライン(1～3) 土層断面 NE→

1 P-1 土層断面 W→



2 P-1 E→

3 P-2 土層断面 SE→

4 P-2 NW→

5 TP-1 土層断面 SW→

6 TP-1 SW→

7 TP-2 土層断面 SW→

8 TP-2 W→

図版4 A地区 Tピット(2)

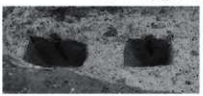
1 TP-2 SP-1 土層断面 E→

2 TP-2 SP-2 土層断面 SW→

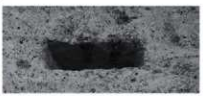
3 TP-2 SP-3 土層断面 NE→

4 TP-3 土層断面 W→

5 TP-3・11 W→



6 TP-11 SP-1・2 土層断面 NW→



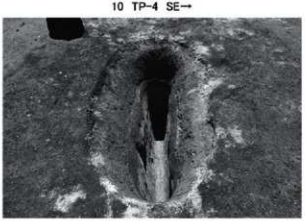
7 TP-11 SP-3・4 土層断面 NW→

8 TP-3 SP-5 土層断面 SE→

9 TP-4 土層断面 SE→

10 TP-4 SE→

11 TP-5 土層断面 S→



12 TP-5 N→

1 TP-6 土層断面 S→

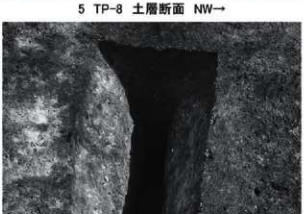
2 TP-6 S→

3 TP-7 土層断面 SW→

4 TP-7 SW→

5 TP-8 土層断面 NW→

6 TP-8 NW→



7 TP-9 土層断面 N→

8 TP-10 土層断面 E→

図版6 A地区 Tピット(4)

1 TP-9 NE→

2 TP-10 E→

3 TP-10 SP-1(左)・2(右) 土層断面 S→

4 TP-12 土層断面 S→

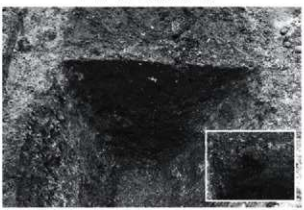
5 TP-12 NE→

6 TP-13 土層断面 S→

7 TP-13 S→

1 TP-14 土層断面 S→

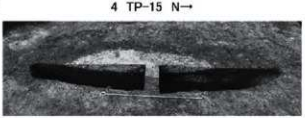
2 TP-14 S→



3 TP-15 土層断面 SP-1 土層断面 N→

4 TP-15 N→

5 TP-16 NE→

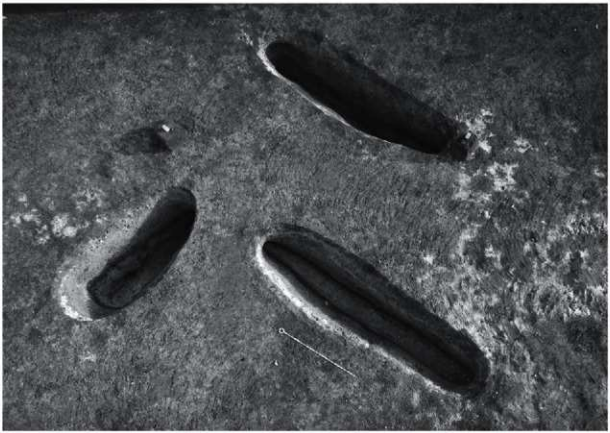


6 TP-17 土層断面(上部) SW→

7 TP-17 土層断面 SE→

8 TP-17 NW→

図版8 A地区 Tピット(6)



1 TP-17・18・19 N→

2 TP-18 土層断面 SW→

3 TP-18 SE→

4 TP-19 土層断面 NW→

5 TP-19 SW→

1 TP-20 土層断面 E→

2 TP-20 E→

3 TP-21 土層断面 SE→

4 TP-21 SE→

5 TP-22 土層断面 S→

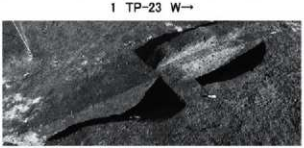
6 TP-22 N→

7 TP-23 土層断面 E→

図版10 A地区 TPピット(8)

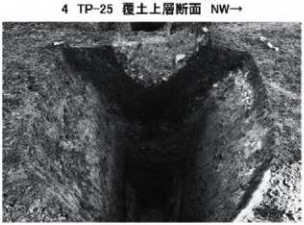
1 TP-23 W→

2 TP-24 土層断面 S→

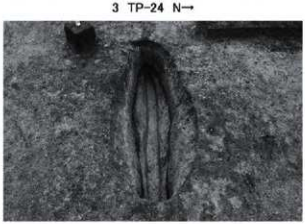


4 TP-25 覆土上層断面 NW→

3 TP-24 N→



5 TP-25 土層断面 S→



6 TP-25 S→

7 TP-26 土層断面 SW→

8 TP-26 SW→

1 TP-26 覆土上面遺物出土状況 S→

2 TP-26 SP-1～4(右から1・2・3・4) 土層断面 NW→

3 TP-27 土層断面 S→

4 TP-27 SE→

5 TP-28 土層断面 SW→

6 TP-26・28 SW→

7 TP-29 土層断面 N→

8 TP-29 S→

図版12 A地区 Tピット(10)・焼土

1 TP-29 P-1 土層断面 N→

2 TP-29 P-2 土層断面 S→

4 F-2 E→

3 F-1 S→

5 F-5 W→

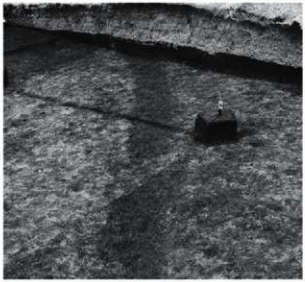
6 F-3 W→

7 F-4 W→

8 F-6 S→

9 F-7 S→

1 D-1(南側部分) SE→



2 D-1 調査区内確認 SE→

3 D-1(北側部分) N→

4 D-1 土層断面 N→

5 DU-1 W→

6 DU-1 土層断面 S→

図版14 A地区 掘り上げ土(2)

1 DU-2 W→

2 DU-2 土層断面1 W→

3 DU-2 土層断面2 E→

4 DU-2 土層断面3 E→

5 DU-3 SE→

6 DU-3 土層断面 W→

7 DU-4 S→

8 DU-4(1) S→

1 DU-4(1) 土層断面 S→

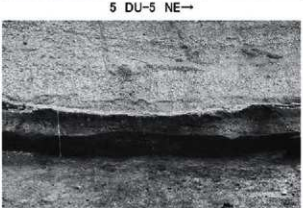
2 DU-4(2) SW→

3 DU-4(2) 土層断面 S→

4 DU-4 炭化材・石斧出土状況 SE→

5 DU-5 NE→

6 DU-5 土層断面 E→



7 DU-6 土層断面 N→

8 DU-6 土層断面詳細 N→

図版16 A地区 掘り上げ土(4)

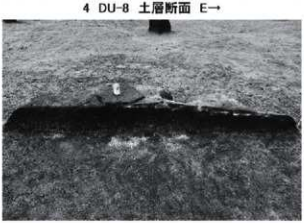
1 DU-7 S→

2 DU-11 S→

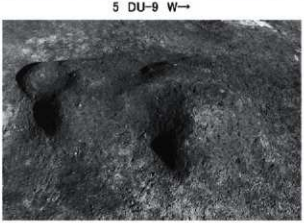
3 DU-8 S→

4 DU-8 土層断面 E→

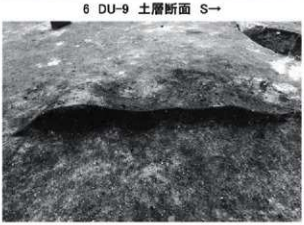
5 DU-9 W→



6 DU-9 土層断面 S→



7 DU-10 SW→



8 DU-10 土層断面 W→

1 CB-1 SE→

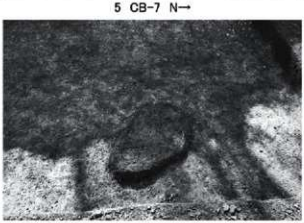
2 CB-2 S→

3 CB-3 S→

4 CB-5・6 S→

5 CB-7 N→

6 CB-7 炭化材2 W→



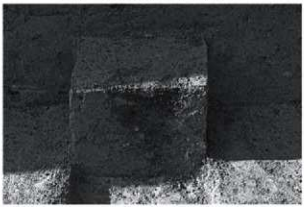
7 CB-8 N→

図版18 A地区 ⅢB層調査(1)

1 U7区 東壁 土層断面 W→

2 U7区 柱穴状小ピット 確認 N→

3 U7区 SP-1 土層断面 W→



4 U7区 SP-4 土層断面 W→

5 S7区 東壁 土層断面 W→

6 S7区 柱穴状小ピット 確認 W→

7 S7区 柱穴状小ピット 土層断面 W→

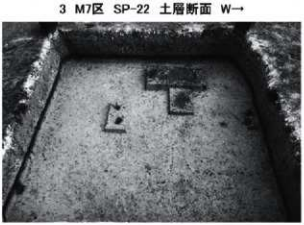
8 S7区 SP-12・13 W→

1 M7区 柱穴状小ピット 確認 S→

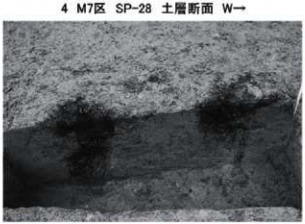
2 M7区 SP-19 土層断面 W→

3 M7区 SP-22 土層断面 W→

4 M7区 SP-28 土層断面 W→

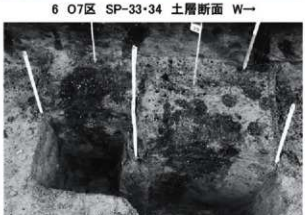


5 O7区 柱穴状小ピット 確認 W→



6 O7区 SP-33・34 土層断面 W→

7 O7区 SP-36 土層断面 W→



8 O7区 SP-38・39 土層断面 W→

図版20 A地区 ⅢB層調査(3)

1 I7区 東壁 W→

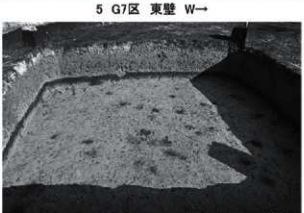
2 I7区 柱穴状小ピット 確認 W→

3 I7区 SP-41 土層断面 W→

4 I7区 SP-44 土層断面 W→

5 G7区 東壁 W→

6 G7区 SP-47 確認 N→



7 R20区 柱穴状小ピット 確認 N→

8 R20区 SP-53 W→

1 R20区 SP-59 W→

2 R20区 SP-70 W→

3 S22区 北壁 S→

4 S22区 柱穴状小ピット 確認 S→

5 S22区 SP-72 W→

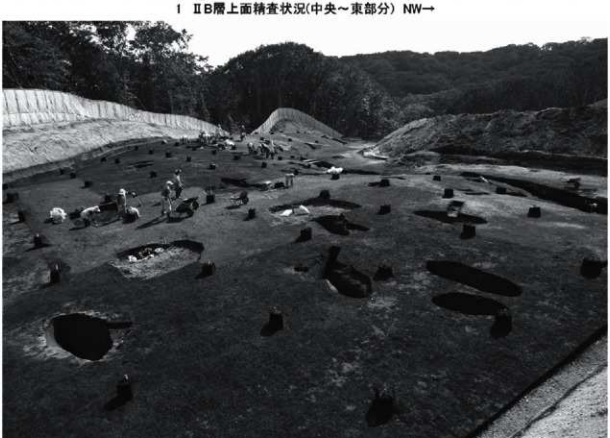
6 S22区 SP-73 W→

7 S22区 SP-76 W→

8 S22区 SP-91 W→

図版22 B地区 調査区全景

1 ⅡB層上面精査状況(中央～東部分) NW→



2 最終面精査状況(中央～西部分) NE→

図版23 B地区 土層断面

1 北側追加調査範囲(ⅡB層上面) SE→

2 北側追加調査範囲(西側部分) S→

3 北側追加調査範囲(西側斜面) SE→

4 39ライン 土層断面 W→

5 39ライン 土層断面 NW→

6 39ライン 土層断面 E→

7 Oライン 土層断面 E→

図版24 B地区 盛土遺構 M-1(1)

1 M-1 確認調査範囲 N→

2 M-1 遺物出土状況 N→

1 M-1 土層断面(南北方向) NW→

2 M-1 土層断面(東西方向 東側) NW→

3 M-1 土層断面(東西方向 西側) NW→

図版26 B地区 盛土遺構 M-1(3)

1 M-1 土層断面(中央部) NW→

2 M-1 土層断面(東西方向 サブトレンチ) NW→

3 M-1 土層断面(南北方向 42ライン) E→

4 M-1 遺物出土状況(中部) E→

5 M-1 遺物出土状況(中～下部) NE→

6 M-1 遺物出土状況(下部) E→

7 M-1 上層遺物出土状況 E→

8 M-1 上層土器出土状況 NE→

1 M-2 全景 SW→

2 M-2 遺物出土状況(上層) SW→

3 M-2 一括遺物出土状況(上層) SE→

4 M-2 土層断面 S→

図版28 B地区 土坑(1)

1 P-1 土層断面 E→

2 P-1 SW→

3 P-2 土層断面 N→

4 P-2 N→

5 P-3 土層断面 N→

6 P-3 N→

7 P-4 土層断面 W→

8 P-4 W→

1 P-5 土層断面 W→

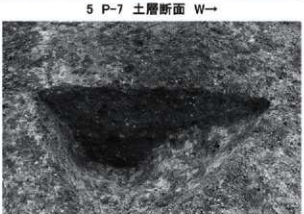
2 P-5 W→

3 P-6 土層断面 W→

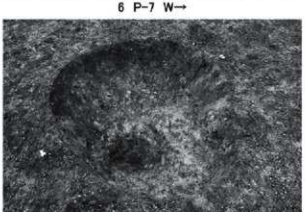
4 P-6 土層断面 W→

5 P-7 土層断面 W→

6 P-7 W→



7 P-8 土層断面 W→



8 P-8 W→

図版30 B地区 土坑(3)

1 P-9 土層断面 SW→

2 P-9 E→

3 P-10 土層断面 N→

4 P-10 N→

5 P-10 覆土上面遺物出土状況 SW→

6 P-10 覆土中遺物出土状況 NE→

7 P-11 土層断面 S→

8 P-11 W→

1 P-12 土層断面 E→

2 P-12 E→

3 P-13 N→

4 P-13(拡大) N→

5 TP-1 土層断面 SE→

6 TP-1 NW→

図版32 B地区 Tピット(2)

1 TP-2 土層断面 SW→

2 TP-2 S→

3 TP-2 SP-1 土層断面 S→

4 TP-2 SP-2 土層断面 S→

5 TP-2 SP-3 土層断面 S→

6 TP-3 土層断面 SE→

7 TP-3 NW→

1 TP-4 土層断面 SE→

2 TP-4 NW→

3 TP-5 土層断面 W→

4 TP-5 W→

図版34 B地区 Tピット(4)

1 TP-6 土層断面 N→

2 TP-6 N→

3 TP-7 土層断面 SW→

4 TP-7 SW→

5 TP-9 土層断面 N→

6 TP-9 N→

1 TP-8 土層断面 N→

2 TP-8 N→

3 TP-10 土層断面 N→

4 TP-10 N→

図版36 B地区 Tピット(6)

1 TP-11 土層断面 S→

2 TP-11 S→

3 TP-12 土層断面 N→

4 TP-12 N→

5 TP-13 土層断面 W→

6 TP-13 W→

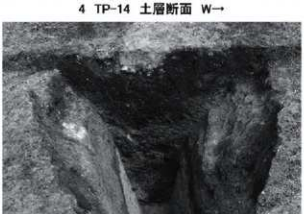
1 TP-13 SP-1 土層断面 SW→

2 TP-13 SP-2 土層断面 NE→

3 TP-13 SP-3 土層断面 NE→

4 TP-14 土層断面 W→

5 TP-14 W→



6 TP-15 土層断面 W→

7 TP-15 W→

8 TP-16 土層断面 W→

9 TP-16 W→

図版38 B地区 Tピット(8)

1 TP-16 SP-1 土層断面 S→

2 TP-17 土層断面 W→

3 TP-17 W→

4 TP-18 土層断面 S→

5 TP-18 SE→

1 TP-19 土層断面 N→

2 TP-19 N→

3 TP-20 S→

4 TP-21 土層断面 S→

5 TP-21 S→

図版40 B地区 焼土・遺物集中

1 F-1 S→

2 F-1 土層断面 W→

3 C-1(奥側)・2(手前) 出土状況 N→

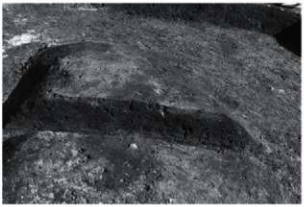
4 C-3 SW→

5 C-4 SE→

6 C-5 NE→

7 C-6 SW→

図版41 B地区 掘り上げ土・炭化物集中



1 DU-1 NW→

2 DU-2 S→

3 DU-3 S→

4 DU-4・5 SW→

5 DU-6 N→

6 CB-1 S→

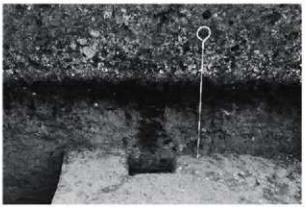
7 CB-2 E→

図版42 B地区 ⅢB層調査(1)

1 j38区 東壁 土層断面 W→

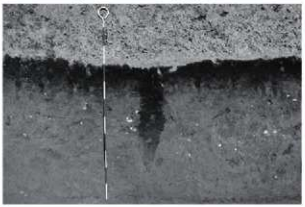
2 j38区 SP-1 土層断面 W→

3 f38区 東壁 土層断面 W→

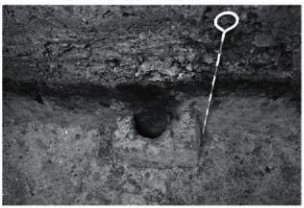


4 g38区 SP-2 土層断面 N→

5 d38区 東壁 土層断面 W→

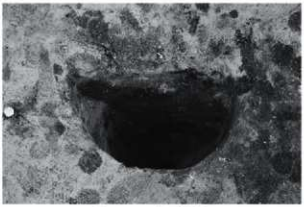


6 d38区 SP-3 W→



7 h44区 SP-4 土層断面 N→

8 h38区 SP-5 土層断面 SE→



1 h37区 SP-6 土層断面 SW→

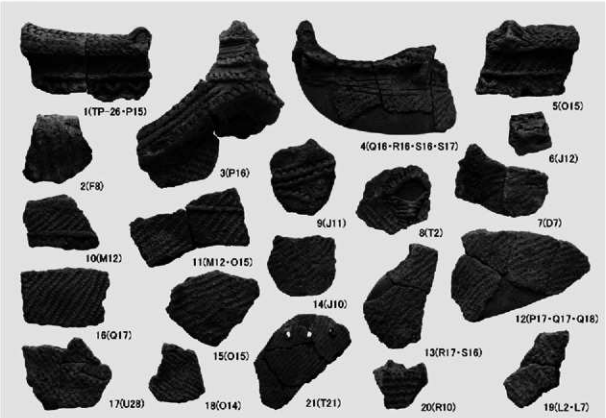
2 h37区 SP-7 土層断面 SW→

3 CB-1 炭化物出土状況 S→

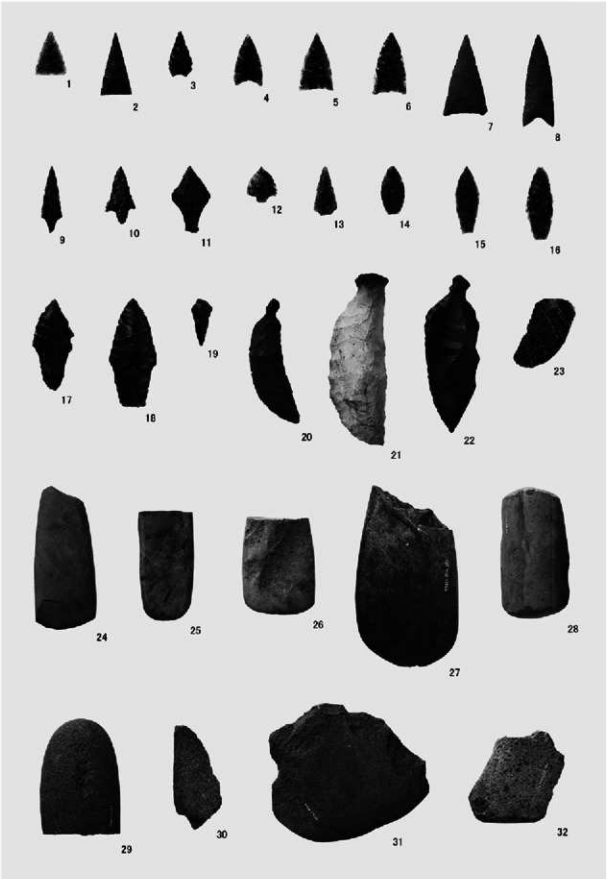
4 CB-1 集中部 炭化物出土状況 SE→

5 CB-1 炭化物出土状況(拡大) SE→

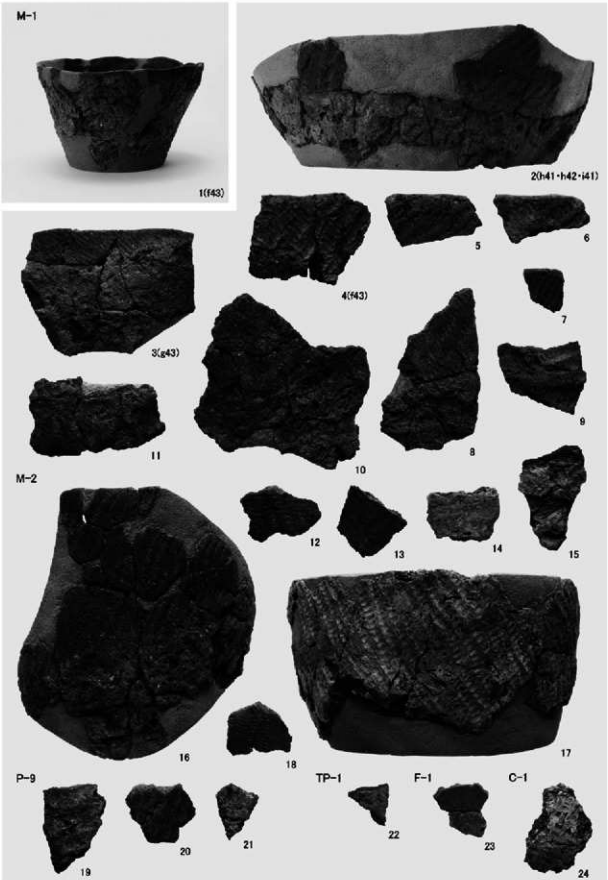
図版44



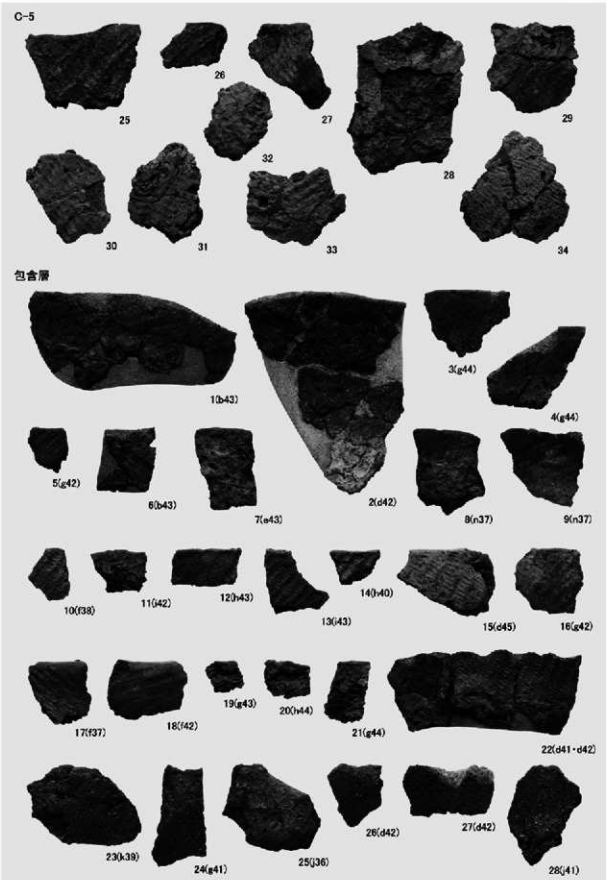
A地区　土器　遺構・包含層


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32

A地区 石器 包含層

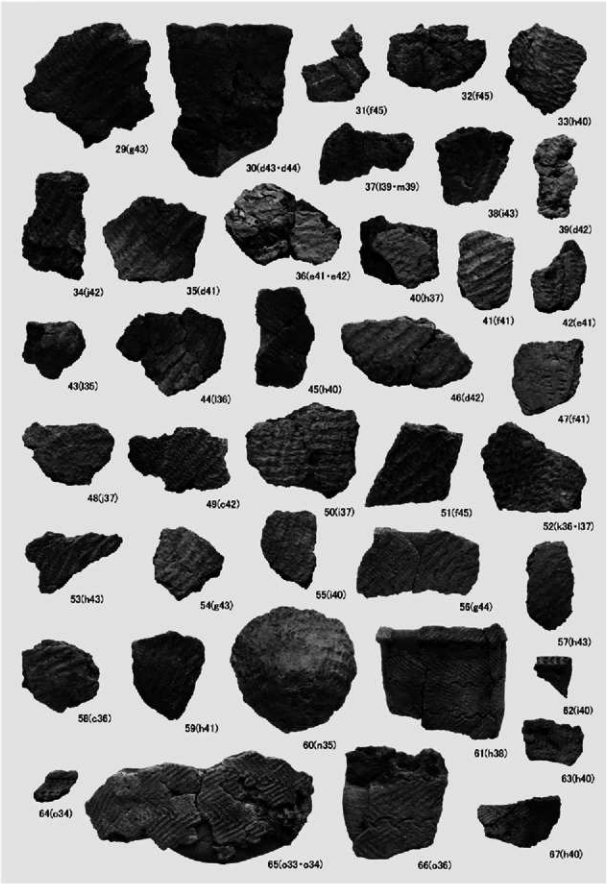

M-1
1(f43)
2(h41・h42・i41)
3(g43)
4(f43)
5
6
7
8
9
10
11
M-2
12
13
14
15
16
17
18
P-9
19
20
21
TP-1
22
F-1
23
C-1
24

B地区 土器(1) 遺構(1)

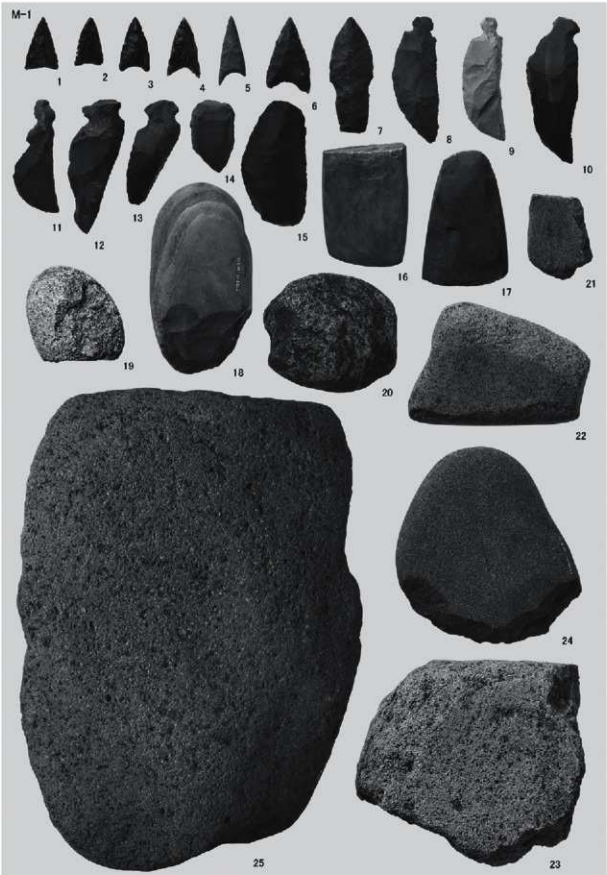


B地区 土器(2) 遺構(2) 包含層(1)

図版48

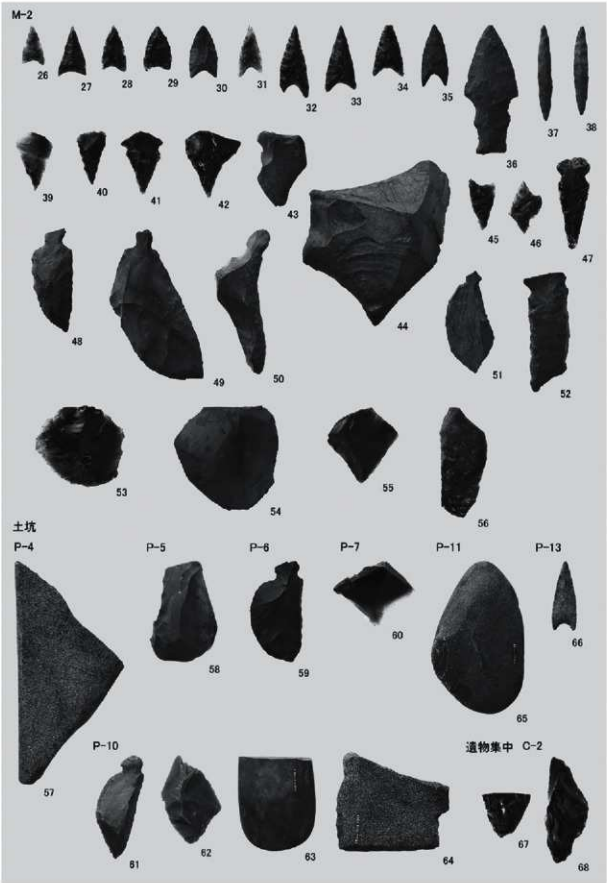


B地区　土器(3)　包含層(2)

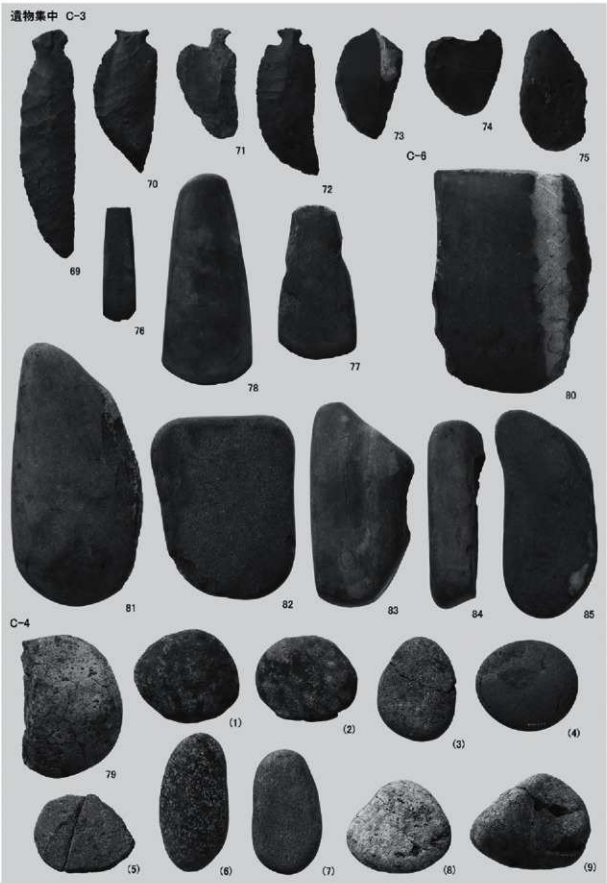


B地区　石器(1)　遺構(1)

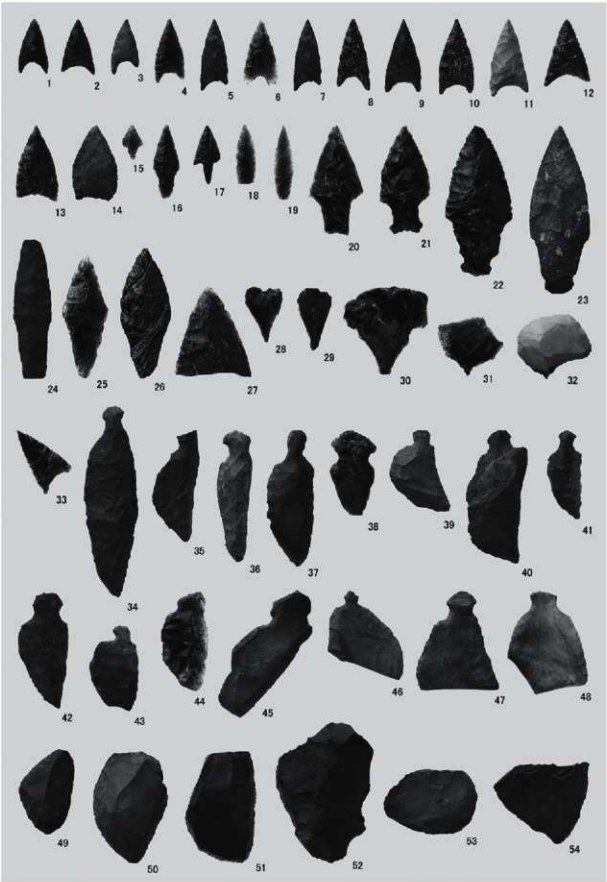
図版50



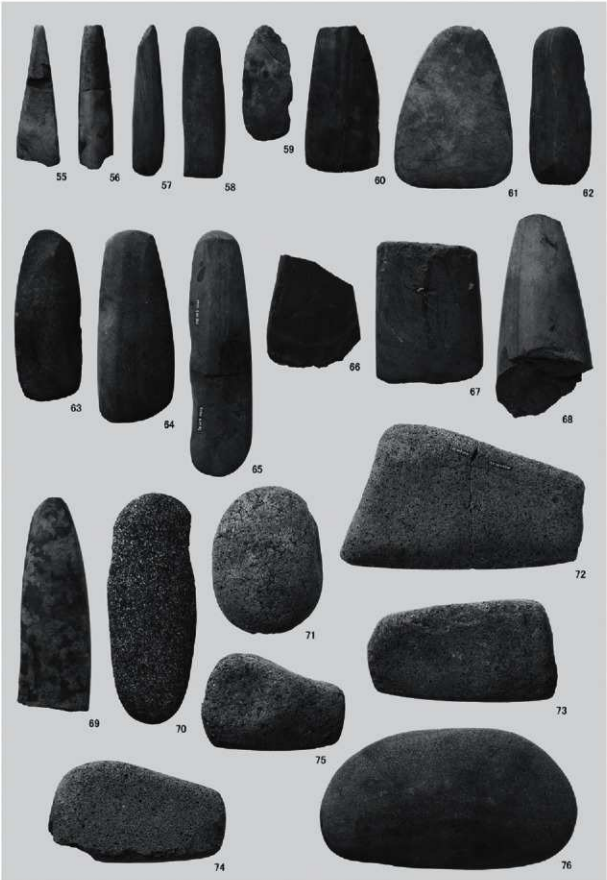
B地区 石器(2) 遺構(2)


遺物集中 C-3
69
70
71
72
73
74
75
C-6
76
77
78
80
81
82
83
84
85
C-4
79
(1)
(2)
(3)
(4)
(5)
(6)
(7)
(8)
(9)

B地区 石器(3) 遺構(3)

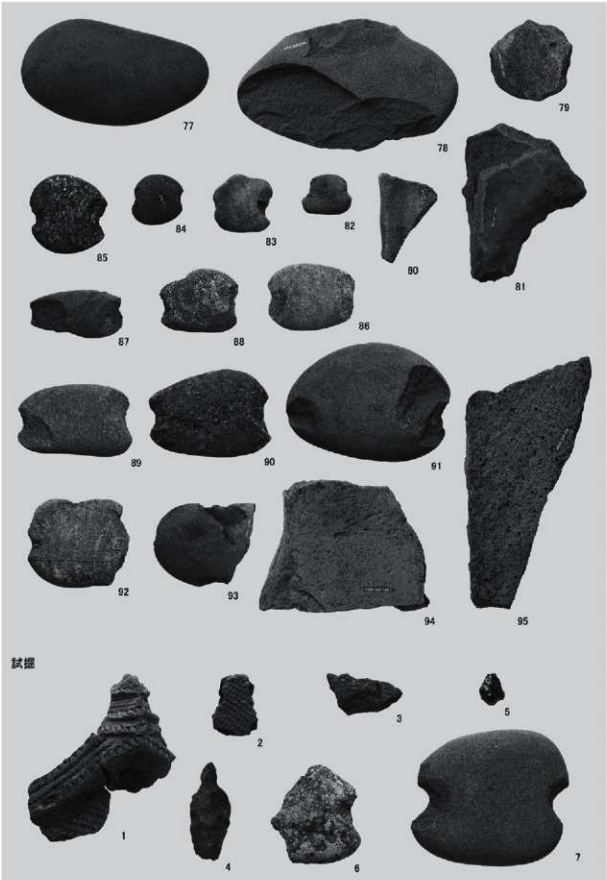

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54

B地区　石器(4)　包含層(1)



B地区　石器(5)　包含層(2)

図版54



B地区　石器(6)　包含層(3)

報 告 書 抄 録

ふ り が な	とまこまいし　たかおか8いせき　1
書　　名	苫小牧市高丘8遺跡(1)
副　書　名	苫小牧中央インター線（仮称）道路改良工事埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書（北埋調報）
シリーズ番号	第360集
編 著 者 名	藤井浩(編集)　皆川洋一　鈴木宏行　山中文雄
編 集 機 関	公益財団法人北海道埋蔵文化財センター
所　在　地	〒069-0832　北海道江別市西野幌685番地1　℡ 011-386-3231
発行年月日	西暦　2020年3月25日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（しょざいち）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
高丘8遺跡（たかおか）	北海道苫小牧市高丘（とまこまいしたかおか）41-1（A地区）、41-18（B地区）	01213	J-02-286	N42°39′54.21″ A地区基準杭（P10）	E141°35′28.27	20180605～20181120 （発掘調査）	6,417㎡（A地区4,272㎡ B地区2145㎡）	苫小牧中央インター線（仮称）道路改良工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高丘8遺跡	埋蔵文化財包蔵地	主に 縄文時代前期前半他に 中期後半から後期後期末から晩期初頭 縄文早期（Ⅲ B層調査）	盛土遺構2か所 土坑　15基 Tピット　50基 焼土　8か所 溝状遺構　1条 遺物集中　7か所 掘り上げ土　17か所 炭化物集中　10か所 （Ⅲ B層調査） 柱穴状小ピット100か所 炭化物集中　1か所	総点数　29,171点 縄文土器　4,000点：縄文前期前半（静内中野式）が主、中期後半、後期末も少数ある。 石器　21,104点：石鏃、石槍、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、鏃状石器、石斧、たたき石、すり石、扁平打製石器など、中でも石鏃、つまみ付ナイフ、石斧、石錘が多く出土 礫　4,067点：石器素材の可能性がある扁平楕円礫が比較的多い。石材は安山岩、砂岩、片麻岩などが目立つ	A, B両地区全体にTピットが分布、縄文時代中～後期は狩猟の場として利用される B地区に縄文前期の盛土遺構（一部）、土坑、遺物集中などが出土、当時の集落範囲の一部と考えられる A,B両地区で一部、Ⅲ B層の調査を行い、柱穴状小ピットと炭化物集中を確認した

要　　約

遺跡は苫小牧市内中央部の丘陵上に位置し、調査は遺跡内の道央自動車道を挟んだ2か所（A、B地区）で行った。

遺構はA,B両地区全体にTピットが分布し、B地区では縄文前期前半の盛土遺構（一部）、土坑、遺物集中などを確認した。

遺物は、土器が、縄文前期前半を主体とし、B地区を中心に出土した。次に縄文中期後半、縄文後期末の土器がA地区を中心に出土した。

石器はその殆どが遺物集中出土の黒曜石剥片である。定形的な石器には石鏃、石槍、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石斧、たたき石、すり石、石錘などがあり、特に石鏃、つまみ付ナイフ、石斧、石錘が多く見られた。

礫は安山岩や砂岩、片麻岩などがあり、石器の素材として持ち込まれたと思われる扁平楕円礫の出土が目立つ。

Ⅲ B層の調査で遺物の出土はなかったが、柱穴状小ピット100か所と炭化物集中を確認した。年代測定の結果などから縄文早期相当と考えられる。

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書　第360集

苫小牧市　高丘８遺跡(1)

―苫小牧中央インター線(仮称)道路改良工事
埋蔵文化財発掘調査報告書―

発行　令和２年（2020年）３月25日
編集　公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832　江別市西野幌685番地１
TEL（011)386-3231　　FAX（011)386-3238
http://www.domaibun.or.jp

印刷　三浦印刷株式会社
〒064-0809 札幌市中央区南９条西６丁目
TEL（011)511-6191　　FAX（011)512-6041